24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語学入門 210						
教員名	長谷川　宏						
科目№	125131100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
英語学の基礎を学ぶ。
英語という言語がもつ基本的な性質を、
音韻論(phonology)、形態論(morphology)、統語論(syntax)、意味論(semantics)、歴史言語学(historical linguistics)
等、
言語学の諸分野の知見に基づいて分析する。

〔到達目標〕
音韻論、形態論、統語論、意味論、歴史言語学等、
言語学の諸分野の基本となる概念・考え方を習得し、
それらの概念・考え方に基づいて
英語という言語がもつ特徴をどのように分析できるかを学び、
英語という言語がもつ普遍性と独自性について基本的な理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	言語というものについての基本的な考え方、授業の進め方等についての導入	英語と日本語はどのような点で異なるかを自分なりに考えてみる。	60 分
第２回	音韻論の基礎１	第 1 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第３回	音韻論の基礎２	第 2 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第４回	形態論の基礎１	第 3 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第５回	形態論の基礎２	第 4 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第６回	統語論の基礎１	第 5 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第７回	統語論の基礎２	第 6 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第８回	統語論の基礎３	第 7 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第９回	統語論の基礎４	第 8 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第１０回	意味論の基礎１	第 9 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第１１回	意味論の基礎２	第 10 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第１２回	英語史の基礎１	第 11 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第１３回	英語史の基礎２	第 12 回の授業内で必要に応じて指示する。	60 分
第１４回	テスト	学期中に学んだことを復習しておく。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。
毎回授業にきちんと出席することが必須。
テキストは特に定めない。
参考書などについては必要に応じて指示する。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況）30%
テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
得になし

〔参考書〕
授業内で必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語史A312						
教員名	田辺　春美						
科目№	125131220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
英語という言語がどのようにして発達してきたかを概観する． どの言語も時の流れの中で変化するが、英語が被った変化は目覚ましく、他のヨーロッパの言語には見られない方法で、疑問文や否定文、進行形を作る。語彙の多さも類を見ない。本講義では、印欧祖語から古英語、チョーサーの中英語、シェイクスピアの初期近代英語を経て現代英語へと時代が変遷するにつれて生じた、発音，スペリング，形態，文法，語彙の変化とそのメカニズムについて学ぶ．
　英語の歴史について学ぶことは現代英語をよりよく理解することにつながるので、選択科目ではあるが英語英米文学科の学生の多くに履修してほしい。

〔到達目標〕
DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。
（1）英語の始まりから現代英語までどのような変化があったか概略を理解する。
（2）標準英語がどのように成立したのか理解する。
（3）発音、語彙、形態、文法の変化はそれぞれ英語という言語の内的なメカニズムと文化的な事情により、個別に発達していることを理解する。
（4）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について考察を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の紹介 １、２章　英語史の概観ー古英語時代	【予習・復習】『ファンダメンタル英語史』第１章、第２章、配付資料を読み、内容を理解する。	60 分
第２回	３章　印欧祖語、グリムの法則	【予習】『ファンダメンタル英語史』第３章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第３回	４章　古英語の文献・特殊文字 古英語の写本紹介	【予習】『ファンダメンタル英語史』第４章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題に取り組む。	６０分
第４回	５章　古英語の豊富な語尾変化（1－1） 格変化、名詞の活用	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第５回	５章　古英語の豊富な語尾変化（1－2） 定冠詞、演習問題	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】練習問題、課題に取り組む。	６０分
第６回	５章　古英語の豊富な語尾変化（1－3） 人称代名詞、疑問詞、形容詞の語尾変化	【予習】『ファンダメンタル英語史』第５章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第７回	６章　ヴァイキングが英語に与えた影響	【予習】『ファンダメンタル英語史』第６章、配付資料を読み、内容を理解する。 【復習】課題、練習問題に取り組む。	６０分
第８回	７章、８章　古英語の豊富な語尾変化（２） 古英語の動詞の変化と法（仮定法と命令法）	【予習】『ファンダメンタル英語史』７、８章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第９回	９章　ノルマン人が英語に与えた影響ー語彙を中心にー	【予習】『ファンダメンタル英語史』９章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１０回	１０章　多義の回避--語順の変化	【予習】『ファンダメンタル英語史』１０章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１１回	１２章　分極の仮説--規則と例外 疑問文・否定文の do の発達	【予習】『ファンダメンタル英語史』１２章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１２回	１３章　綴りと発音の不一致 大母音推移	【予習】『ファンダメンタル英語史』１３章を読み、練習問題をやっておく。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１３回	標準英語の発達ージョンソンの辞書と規範文法	【予習】配布資料を読む。 【復習】配布資料を見直し、課題をやる。	６０分
第１４回	到達度確認試験実施	【復習】教科書や配布資料を見直し、復習する。	１２０分

〔授業の方法〕
教科書、配布プリントをもとにした講義と練習問題。
補助教材として、DVD 教材であるメルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』、BBC の『ストーリー　オブ　イングリッシュ』を視聴しながら、楽しく進めたい。

〔成績評価の方法〕

平常点と到達度確認試験による。授業への積極的参加、クイズ、コメントシートなどの平常点が６０%、到達度確認試験が４０%。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。次の点に着目し，その達成度により評価する。
（1）英語の始まりから現代英語までの歴史の概略を説明できる。
（2）標準英語がどのように成立したのか説明できる。
（3）英語の発音、語彙、形態、文法の変化のメカニズムを理解している。
（4）標準英語の発達を理解した上で、現代英語の特質について概要を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：英語学入門
関連科目：英文法、英語音声学、社会言語学

〔テキスト〕
児馬修　『ファンダメンタル英語史　改訂版』　ひつじ書房、1728 円、ISBN 4894768771

〔参考書〕
「購入の必要なし」
西光 義弘他『日英語対照による英語学概論　増補版』くろしお出版、1999 年、2750 円、　ISBN 978-4-87424-169-1 C3081
寺澤盾『英語の歴史』（中公新書）、中央公論社、780 円、ISBN 978-4-12-101971-4
堀田隆一『英語史で解きほぐす英語の誤解 --- 納得して英語を学ぶために』中央大学出版部、950 円、ISBN 978-4805727041
堀田隆一『英語の「なぜ？」に答えるはじめての英語史』研究社、2376 円、　ISBN 978-4-627-40168-9
唐澤一友『英語のルーツ』春風社、2000 円、ISBN 978-4-86110-283-7
宇賀治正朋『英語史』（現代の英語学シリーズ８），開拓社，3500 円，ISBN 4-7589-0218-6.
メルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』アーティストハウス，1800 円．ISBN 4-04-898174-9.
R. McCrum , W. Cran and R. MacNeil, The Story of English,　BBC Publications, ISBN 0-563-20620-9.
David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, Cambridge: CUP, ISBN 0-521-40179-8.
David Crystal, Evolving English: One Language, Many Voices, British Library, ISBN 978-0-7123-5098-3.
DVD メルヴィン・ブラッグ『英語の冒険』
DVD　『ストーリー　オブ　イングリッシュ』

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	English Around the World 314						
教員名	ジャマール　モーリス						
科目No.	125131240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
This course introduces students to the story of English and its role in today's world. We explore some of the core issues concerning English such as its history, its varieties and its status among native speakers. We will also consider political and social issues surrounding English such as its positive and negative impacts on other languages and cultures. By the end of the course, students will have a deeper, richer understanding of English around the world.

〔到達目標〕
In addition to content goals (see below), students will develop the following skills:
· Independent learning
· Discussion and argument-building skills
· Group and teamwork management
· Time management techniques
· Critical thinking development
The course will be taught in accordance with Seikei University's Diploma Policy goals, Nos. 1, 2, 3 and 4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Course overview	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第２回	. The Story of English (1) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第３回	. The Story of English (2) The history of the origins and spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第４回	English varieties: Comparison of grammatical and lexical differences between English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第５回	The Sounds of English: Comparison of phonological differences between the dominant English varieties.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第６回	Standard English (1)? An overview of the debate surrounding 'standard' English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第７回	Standard English (2)? Language and power; features that convey high and low status in English varieties	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第８回	Krachu's Model: English users around the world.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第９回	Linguistic Imperialism: The negative side/consequences of the spread of English.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１０回	Language Ownership: Who owns English? Who gets to say what's 'correct' and what's 'bad' English?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１１回	Cultural Politics and English as an International Language	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１２回	English and its contribution to Language Death.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１３回	Language and Identity: At the national, local and individual level.	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes
第１４回	The Future of English as the World's Language: Will /Should English continue to be the world's dominant language?	Students must complete homework assignments and review the day's lesson.	60 minutes

〔授業の方法〕
The class will comprise of a balance between teacher-led instruction and pair and group work discussions and debates.

〔成績評価の方法〕

・ Classwork: 50%
・ Homework: 25%
・ Reflection Sheet: 25%

〔成績評価の基準〕
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
Materials will be provided by the teacher

〔参考書〕
A reading list will be provided by the teacher.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕
Most of the time, teacher and students will use English.

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	対人関係の言語学 315						
教員名	ジャマール　モーリス						
科目No.	125131250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
The aim of this course is to help student have a deeper understanding how English is used in real life, in the real world, in real communication situations. The course takes you beyond simply vocabulary, grammar, structure and 'speaking skills'. It will give you a richer knowledge about HOW people communicate through the language choices they make and how you can make those choices. As well as English, this course will also give you a better understanding of how your own language, Japanese, works as well.

〔到達目標〕
By the end of the course, you will be able to understand:
1. the meaning and mechanics of social contexts.
2. Language and social roles.
3. how politeness works in English.
4. how politeness works in Japanese.
5. how language changes depending on cultural contexts.
The course will be taught in accordance with Seikei University's Diploma Policy goals, Nos. 1 and 4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Course introduction/meeting the teacher and other students.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第２回	What is communication 1?	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第３回	What is communication 2?	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第４回	Choosing the right words (1)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第５回	Choosing the right words (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第６回	Language and social context: who are you talking to? (1)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第７回	Language and social context: who are you talking to? (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第８回	How we organise conversation: The work os H.P. Grice	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第９回	How to be polite (1): Saying exactly what you mean.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１０回	How to be polite (1): Saying exactly what you mean. (2)	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１１回	Language and Culture: The work of Milton Bennett.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１２回	Pragmatic tools: implicature and entailment	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１３回	Pragmatics and the voice: pronunciation and intonation.	review class materials and do any homework assignments.	60 minutes
第１４回	Course Review/Test	course reflection sheet	60 minutes

〔授業の方法〕
There will be some teacher led classes but most of the time, students will work in pairs and small groups.

〔成績評価の方法〕

Classwork: 50%
Homework & Assignments: 25%
End of term test & Reflection sheet: 25%

〔成績評価の基準〕
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Diploma Policy Regulations, especially:
DP1-1
DP1-2
DP1-5

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
None.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the teacher. There is no set textbook.

〔参考書〕
A reading list will be provided at the beginning of the course.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
Questions are accepted immediately before and after class.
Office hours for full-time instructors are shown on the portal site.

〔特記事項〕
The class will be taught in English. However, there will be references to the Japanese language and some discussions will be conducted in both English and Japanese.

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語学研究基礎Ａ317						
教員名	八木橋　宏勇						
科目№	125131270	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

本講義は、「認知言語学」(cognitive linguistics)「社会言語学」(sociolinguistics)「語用論」(pragmatics) の観点から、現代英語学の基礎的事項を精確に理解し、様々な言語現象を分析的に捉えることができるようになることを目的としている。従来、音声学・音韻論・統語論・意味論など、言語の諸側面を個別に切り出し、長らく分業制を敷いて行われてきた言語学において、認知言語学・社会言語学・語用論は比較的新しい研究の枠組みであり、扱う事象は統合的かつ広範にわたる。授業はテキストに沿って進められるが、各章の理解や各自の関心を深められるよう、テキスト以外の資料も適宜参照しながら、講義とディスカッションを交えて行われる予定である。

なお、授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能)、DP1-2（教養の修得)、DP-3（課題の発見と解決)、DP1-4（表現力、発信力)、DP1-6（自発性、積極性）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。

① 開放系言語学的な英語学の主要なトピックを学び、身の回りの言語現象を学問的に捉えられるようにする。
② 自らの将来を切り拓くような意義のある研究に専心できるよう「言語現象を分析的に見る眼」を養成する。
③ 授業内のディスカッションを通して、相互に具体例を見つけ出し、分析し合い、的確に表現する経験を蓄積させることで、絶え間なく変容していく「英語の姿」について自ら考え続ける素地を涵養する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・予復習の仕方等を説明する。 ・「世界の英語状況」を把握する。	【予習】「はじめに」を熟読。	90
第２回	英語学の歴史と対照研究 ・2 つの英語学と開放系言語学の特徴を理解する。	【予習】第 1 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第３回	カテゴリー化 ・カテゴリー化と言語の関係性を理解する。	【予習】第 2 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第４回	事態把握 ・状況の捉え方と言語表現の関係性を理解する。	【予習】第 3 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第５回	メタファ・メトニミ・シネクドキ ・メタファー現象を理解する。	【予習】第 4 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第６回	文法化 ・現代英語の姿を史的に理解する。	【予習】第 5 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第７回	構文 ・意味を伝える言語形式を理解する。	【予習】第 6 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第８回	メンタルコーパス ・母語話者の頭の中にはどんな言語知識があるかを理解する。	【予習】第 7 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第９回	イメージスキーマと意味拡張 ・意味拡張の原理を理解する。	【予習】第 8 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１０回	バリエーション ・世界の諸英語について理解を深める。	【予習】第 9 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１１回	状況に応じた言語変種の選択 ・なぜ言葉を切り替えるのか、コードスイッチングについて理解する。	【予習】第 10 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１２回	ポライトネス ・face という概念を知り、positive / negative face の観点から分析できる言語現象について理解を深める。	【予習】第 11 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１３回	言語とコミュニケーション ・文化や思考を中心に、各言語には好まれる表現方法があることを理解する。	【予習】第 12 章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１４回	ふりかえり－開放系言語学と英語学－ ・開放系言語学の全体像を再度確認し、その論点を自らの研究に活かす工夫を学修する。	【予習】「おわりに」を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、英語や日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90

〔授業の方法〕

・主に講義形式で行われるが、毎回ディスカッション（グループワーク）や質疑応答を行う双方向のやり取りも実施する。したがって、予復習に加え、積極的な参加が求められる。
・各回のテーマや基本概念の知識・分析方法に関する理解を深めるため、予復習については、授業内で詳細に指示する。
・平常点として成績に組み込まれるレポートに関しては、認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックと各自の興味関心の接点に関する理解を測るテーマにする予定である。
・授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
・学期末試験は実施しない。
・平常点（授業・ディスカッションへの参加状況等 50%、宿題レポート等の提出 50%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な貢献をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
① 開放系言語学に基づく英語学の主要なトピックおよび基本概念を正しく理解し、身の回りの言語現象を分析的に捉えられているか。
② 言語と社会・認知の関係性を客観的に分析し、論理的に説明できるか。
③ ディスカッションに積極的に参加するとともに、他者の意見を踏まえ、自らの考えを適切に導くことができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に求めないが、学問を敬う心と、ことばに対する知的好奇心を持って取り組むことが重要である。

〔テキスト〕
『実例で学ぶ英語学入門』、多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇、朝倉書店、2,900 円（ISBN：978-4254510720）

〔参考書〕
『開放系言語学への招待―文化・認知・コミュニケーション―』、唐須教光編、慶應義塾大学出版会、2,640 円、ISBN：978-4-7664-1549-0「（必ずしも）購入の必要なし」

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング

24/2/9 18時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語史Ｂ412						
教員名	田辺　春美						
科目№	125131320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
<『カンタベリー物語』を読む>
後期中英語期を代表する詩である Geoffrey Chaucer の The Canterbury Tales は、英語英米文学科の学生なら誰でも知っている有名な詩人です。この物語は、千夜一夜物語のように巡礼者が順番に話をする枠組みを持ち、２４の物語群となっています。登場人物の中で、ジェンダー論への関心から最近大いに注目を浴びているのが、雄弁かつ人生の達人である女性、The Wife of Bath です。彼女が語る物語は、１４世紀とは思えない現代的な発想で女性の願望を高らかに歌います。物語を丁寧に読むことで、14世紀のロンドン方言の発音、語彙、文法に習熟し、英語がどのようにして現代英語へと発達したのか考察します。
中英語の原文でしかも14世紀と聞くと難しそうな印象があるかもしれませんが、意外に現代英語に通じるところもあります。前提知識がなくても学部生に簡単に読みこなせるレベルなので安心してとってください。

〔到達目標〕
DP1-1、1-3（専門分野の知識・技能）、DP2-2（教養の修得)を実現するため、以下を到達目標とする。
（1）中英語の文法、語彙、発音などの概略を理解する。
（2）中英語と現代英語の違いを知り、詩行分析できるようになる。
（3）The Wife of Bath 自身、Tale から当時の文化的な背景について考察を深め、ヨーロッパ中世の文化、特に女性の心性を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	中英語時代の紹介 Geoffrey Chauer とはどのような詩人か 『カンタベリー物語』の紹介 どのような物語があるか	シラバスを読む Chaucer はどのような作品を書いたか調べる	60 分
第２回	中英語の発音、語彙	配布資料を読む	60 分
第３回	中英語の文法、方言	配布資料を読む	60 分
第４回	General Prologue, Portrait of the Wife of Bath ll. 447-78	配布資料を読む	60 分
第５回	The Wife of Bath's Tale ll. 857-881	配布資料を読む	60 分
第６回	The Wife of Bath's Tale ll. 882-912	配布資料を読む	60 分
第７回	The Wife of Bath's Tale ll. 913-960	配布資料を読む	60 分
第８回	The Wife of Bath's Tale ll. 961-1004	配布資料を読む	60 分
第９回	The Wife of Bath's Tale . ll. 1005-1047	配布資料を読む	60 分
第１０回	The Wife of Bath's Tale ll. 1048-1103	配布資料を読む	60 分
第１１回	The Wife of Bath's Tale ll. 1104-1162	配布資料を読む	60 分
第１２回	The Wife of Bath's Tale ll. 1163-1212	配布資料を読む	60 分
第１３回	The Wife of Bath's Tale ll. 1213-1264	配布資料を読む	60 分
第１４回	まとめ 達成度確認試験	授業で扱ったところを復習する	120 分

〔授業の方法〕
授業は講義形式だが、受講者の人数によっては演習方式により行う。コースパワーを通して、授業中あるいは宿題として課題を出す。
「英語史 A312」でも中英語は学習するが、回数も少なくテキストを読むわけでないので、後期からの受講でも差し支えないように、ゆっくりと解説をする。

〔成績評価の方法〕
平常点（毎回の授業への参加、貢献と課題の達成度）５０％と授業最終回の到達度確認テスト５０％により、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語学入門
イギリス文学史

〔テキスト〕
「購入の必要なし」
初回に説明する。

〔参考書〕
授業中に紹介する

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ＩＣＴ活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英文法 414						
教員名	石井　透						
科目No.	125131340	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
生成文法に基づいて、英語の多種多様な構文を分析し、従来の学校 テーマ・概要 文法だけからではわからなかった、人間の言語がもつ複雑で興味深い特性、そしてその背後で作用しているさまざまな普遍的原理・人間の言語処理のしくみについて学びます。

〔到達目標〕
(1) 英語の各構文を分析してその性質を正確に理解し、自分でも使えるようにする。
(2) それらの構文の背後で作用している普遍的原理・脳の言語処理のしくみについて、深く理解し説明できるようにする。
以下のディプロマポリシーを到達目標とします。
DP1-1　英語英米文学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。
DP1-2　文化的他者とのコミュニケーションにおいて基礎的な技能となる英語力を修得している。また、そのために必要な言語・社会・文化・歴史・芸術・思想に関する専門的な知識の中から個人の関心に応じて必要なものを修得している。
DP1-5　第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説(innateness hypothesis)について学ぶ。	生成文法理論の基本的な考え方について、テキストの Chapter 1: What is Linguistics? (p. 5 – p. 7, l. 16; p. 8, l. 18 – p. 11)を復習する。	60 分
第２回	生成文法理論の背景について学ぶ。	生成文法理論の背景について、テキストの Chapter 5, Section 5.1: Some Background Concept (pp. 143-148))を復習する。	60 分
第３回	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について学ぶ。	英語の Yes/No 疑問文、及び助動詞と本動詞について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 148-156)を復習する。	60 分
第４回	主語の概念について学ぶ。	主語の概念について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 156-163)を復習する。	60 分
第５回	統語的構成素について学ぶ。	統語的構成素について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 163-168)を復習する。	60 分
第６回	統語的構成素テストについて学ぶ。	統語的構成素テストについて、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 168-173)を復習する。	60 分
第７回	構造的多義性と不連続な依存関係について考察し分析する。	構造的多義性と不連続な依存関係について、テキストの Chapter 5, Section 5.2: An Informal Theory of Syntax (pp. 174-179)を復習する。	60 分
第８回	句構造規則、回帰性、変換規則について理解する。	句構造規則、回帰性、変換規則について、テキストの Chapter 5, Section 5.3: A More Formal Account of Early Transformational Theory (pp. 187- 194))を復習する。	60 分
第９回	依存関係、特に Wh 疑問文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に Wh 疑問文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１０回	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特に受動文と繰り上げ文について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198)を復習する。	60 分
第１１回	依存関係、特にコントロール動詞について分析し、その特性を考察する。	依存関係、特にコントロール動詞についてテキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 194-198) More on Dependencies (Control Verbs) を復習する。	60 分
第１２回	照応形と束縛原理について学び分析する。	照応形と束縛原理について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 198-200), Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (pp. 493-494)を復習する。	60 分
第１３回	句構造規則と変換規則の発展ついて学ぶ。	句構造規則と変換規則の発展について、テキストの Chapter 5, Section 5.4: Special Topics (pp. 200-201), を復習する。	60 分
第１４回	原理とパラメータ理論について学ぶ。 小テスト	原理とパラメータ理論について、テキストの Chapter 11, Section 11.4 Special Topics (p. 492, pp. 424-426)を復習する。	60 分

〔授業の方法〕
テキストに沿って講義形式で行います。前の授業で学んだことを前提に次の授業が進んでいきますので、授業には毎回出席するようにして下さい。ある程度以上出席していないと成績評価の対象になりません。

〔成績評価の方法〕
学期末に「到達度確認小テスト」を行います。「到達度確認小テスト」70%、平常点(授業への参加状況)30%で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語学入門

〔テキスト〕
Akmajian, A. A. Farmer, L. Bickmore, R. Demers, R. Harnish (2017) Linguistics: An Introduction to Language and Communication (Seventh Edition), MIT Press. Chapter 1: What is Linguistics? (pp. 5-11), Chapter 5: Syntax: The Study of Sentence Structure, Chapter 11: Language Acquisition (pp. 492-496)、「購入の必要なし」

〔参考書〕
授業の際に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化入門 220						
教員名	小林　英里						
科目№	125132100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
近代ヨーロッパにおける「人・金・もの」の移動は、政治経済上の不均衡を生み出すとともに、「宗主国」と「植民地」、「富めるもの」と「貧者」、「社会の主流」と「社会的弱者」、そして「男」と「女」という、ヒエラルキーをともなう想像上の区分を創出してきたといえる。本講義では映画を題材に、文化研究の基本的な概念である「階級」「ジェンダー」「人種」を中心にして、また「他者」「マイノリティ」「アイデンティティ」「ディアスポラ」「ホロコースト」といった批評概念にも目配りをしながら、英語英米文学科のフォーカスのひとつ「文化とコンテクスト」の基本的視座を学ぶ。

〔到達目標〕
本学のディプロマポリシー【DP1】（専門分野の知識・技能）、【DP2】（教養の習得）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP4】（表現力、発信力）を実現するために、以下の３点を到達目標とする。
①文化研究および現代批評理論の基本的な概念を学ぶ。
②具体的な作品分析を通じて、現代社会の課題の発見と解決について考察する。
③授業を通じて、「取り残される」人のいない包摂的な社会の実現について考察する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：授業内容の説明――文化研究とは？	あらかじめシラバスに目を通し、授業内容を確認する。	60
第２回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』(本橋哲也、大修館書店、2006 年）序章	授業内容を確認する。	60
第３回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第２章（１）	授業内容を確認する。	60
第４回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第２章（２）	授業内容を確認する。	60
第５回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第２章（3）	授業内容を確認する。	60
第６回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第５章（1）	授業内容を確認する。	60
第７回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第５章（2）	授業内容を確認する。	60
第８回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第５章（3）	授業内容を確認する。	60
第９回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 13 章（1）	授業内容を確認する。	60
第１０回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 13 章（2）	授業内容を確認する。	60
第１１回	『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』第 13 章（3）	授業内容を確認する。	60
第１２回	「ディアスポラ」についての考察（1）	授業内容を確認する。	60
第１３回	「ディアスポラ」についての考察（2）	授業内容を確認する。	60
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60

〔授業の方法〕
講義形式。テキストを読んでから、実際に映画を視聴する。その後、授業で扱う単元や章がそれぞれ終わるときに、コースパワーを通じてレスポンス・ペーパーやレポートを提出する。

〔成績評価の方法〕

コースパワーを通じた各単元ことのレスポンス・シートおよびレポート（80%）、平常点（20%）で評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
世界史の近現代史（高校の教科書のレベルで可）の基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕
とくになし。コースパワーを通じて、教材を提示する。

〔参考書〕
購入の必要はないが、参考にして欲しい。
『映画で入門　カルチュラル・スタディーズ』　（本橋哲也著、大修館書店、2006 年） ISBN 4-469-213-1-2

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ICT 活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 321（精神分析）						
教員名	遠藤　不比人						
科目№	125132210	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
人間の発言はもちろん、様々な文化テクスト（小説や映画など）には「無意識」の領域があります。これは、発言をした本人、小説や映画を作った人でも自分では知ることができない心の領域です。しかしこの「無意識」が知らぬまに人の発言や作品を支配しています。これらを真に理解するためには、無意識へのアプローチが必要になります。そのための理論が精神分析です。この講義では、特に人間の「夢」がこの無意識によって紡がれている構造を学び、それを具体的な映画の分析に応用することを目指します。講義によって基礎知識を得た後で具体的な映像分析をする予定です。対象テクストにはジブリ映画などを考えています。

〔到達目標〕
精神分析という英語圏の文化研究における基礎的かつ領域横断的な教養を習得し（DP2-3）、国内外の映像テクスト（映画やアニメーションなど）に潜在する不可視の欲望や葛藤を理解することにより英語圏の文化研究の理論を実践的に作品の解釈に応用し（DP1-4）、卒業論文における文化研究のための基礎的な理論の習得とその実践的な応用をすることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	フロイトの精神分析とは何か？	シラバスを読みこの授業の意図を理解する。できれば精神分析についてネットなどで情報を得る。	６０分
第２回	フロイトの夢理論について１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第３回	フロイトの夢理論について２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第４回	空飛ぶ夢	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第５回	消去できない音	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第６回	重層的な時間構造	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第７回	夢における知	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第８回	エディプス的欲望と葛藤	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第９回	反復する欲望	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１０回	夢と転生	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１１回	夢と語り	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１２回	具体的な映像分析１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１３回	具体的な映像分析２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１４回	具体的な映像分析３	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分

〔授業の方法〕
指定したテクストの内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問、コメント（意見は反論）をする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、このタームの講義の締めくくりとして、受講者は習得した精神分析の夢に関する基礎理論を応用し、具体的な映像分析を自ら試みることを要求される。

〔成績評価の方法〕
平常点（６０%）、学期末の term paper（４０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
担当者が毎回 Powerpoint にして資料を提供する。

〔参考書〕
新宮一成『夢分析』（岩波新書）ISBN: 4-00-430653-1 を参考にする場合が多々あるので、各自で購入すると学習効果が増大することが期待できる（絶版なのでアマゾンなどで古本を購入することもできる）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティヴ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 322（コミュニケーション）						
教員名	小野　尚美						
科目№	125132220	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、授業の内容を理解していきます。講義の中で学生各自がコミュニケーション論の分野で興味を持った話題について調べ、学期末 presentation の機会を使って、理解を深めていきます。他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していきます。教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返り試験で知識のまとめを行います。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）及び DP４（表現力・発信力）を実現するために、以下を目指す。
1）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解することができる。
2）多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解することができる。
3）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価の方法について説明する。 授業：　「偏見・差別」について考える。	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第２回	「偏見・差別」について考える。Discussion	Chapter 6（偏見・差別）を読んでくる。	60 分
第３回	言語と文化について考える。Discussion	Chapter 1（言語と異文化間コミュニケーションを学ぶ理由）を読んでくる。	60 分
第４回	言語と文化について考える。Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第５回	言語と社会化の過程について考える。Discussion	Chapter 2（言語と社会化の過程）を読んでくる。	60 分
第６回	文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力について考える。　Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第７回	状況における言語、コミュニケーション、文化、力について考える。Discussion	Chapter 3（文脈における言語、コミュニケーション、文化、権力）を読んでくる。	60 分
第８回	非言語コミュニケーションについて考える。 Discussion	Chapter 4 を読んでくる。	60 分
第９回	非言語コミュニケーションについて考える。 Discussion	Chapter 4 を読んでくる。	60 分
第１０回	異文化における言語とアイデンティティについて考える。 Discussion	Chapter 6 を読んでくる。	60 分
第１１回	学期末 Presentation (1)	学期末 Presentation の準備をする。	60 分
第１２回	学期末 Presentation (2)	学期末 Presentation の準備をする。	90 分
第１３回	授業の振り返りテスト	振り返りテストの準備をする。	120 分
第１４回	授業の総括：授業全般を振り返り、学んだことについてまとめる。	授業のノートをよく読んでくる。	60 分

〔授業の方法〕
基本的には講義形式で行う。授業では、テクストを輪読しながら、授業の内容を理解していく。講義の中で学生各自が興味を持った話題について調べ、学期末 Presentation の機会を使って、理解を深めていく。他の学生の発表も注意深く聞きながら、あらゆる側面から異文化間コミュニケーションについて考察していく。教員の講義、他の学生の発表などを踏まえて、授業の振り返りテストで知識のまとめを行う。

〔成績評価の方法〕
授業参加（学期末 Presentation、ディスカッションへの積極的な参加、宿題など）50%、学期末振り返りテスト 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。①授業の内容（教員及び他の学生の発言も含む）を注意深く聞いて理解することができる。②説得力のある Presentation を Power Point を使って行うことができる。③異文化間コミュニケーションについての様々な問題について理解し、それらについて自分の意見を持つことができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
Jackson, Jane. (2020). Introducing Language and Intercultural Communication (2nd eds.). London: Routledge.
ISBN 978-1-138-48161-9

〔参考書〕
Masahiko, Minami. (2011). Telling Stories in Two Languages. Charlotte: Information Age Publishing, Inc.
直塚玲子. (1994). 『欧米人が沈黙するとき』 東京：大修館書店.
南雅彦. (2013). 『言語と文化』 東京：くろしお出版.
ヴァ―カス・マジョリード. (1987). 『非言語コミュニケーション』 東京：新潮選書.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 323（ジェンダー）						
教員名	小林　英里						
科目№	125132230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本授業では、ジェンダー論やフェミニズム批評を補助線にして、19 世紀のイギリス・ロマン派から 20 世紀後半にかけてのイギリス文学の作品を読む。ジェンダー非対称な社会のなかで、このことに敏感に反応した（男女を問わない）作家たちが、どのような文学上の戦略をとりながら、いかにして平等な社会実現へむけた試みをおこなったのかを考察していきたい。

〔到達目標〕
本学のディプロマポリシー【DP1-1】（専門分野の知識・技能）、【DP1-4】（専門分野の知識・技能）、【DP1-5】（専門分野の知識・技能）、【DP2-3】（教養の習得）、【DP2-4】（専門分野の知識・技能）、【DP3】（課題の発見と解決）、【DP4】（表現力、発信力）の実現のため、以下の事柄の修得を目標とする。
①イギリス文学の作品に精通する。
②批評理論（ジェンダー論、フェミニズム批評理論、ガイノクリティシズム）の基本概念を理解する。
③学術論文に必要な議論の仕方を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：フェミニズム批評、ジェンダー批評、ガイノクリティシズムとは何か?	あらかじめシラバスに目を通しておく。	60 分
第２回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ①	授業内容を確認する。	60 分
第３回	Mary Shelley, Frankenstein (1818) ②	授業内容を確認する。	60 分
第４回	Mary Shelley, Frankenstein (1818)③	授業内容を確認する。	60 分
第５回	Mary Shelley, Frankenstein (1818)④	授業内容を確認する。	60 分
第６回	Mary Shelley, Frankenstein (1818)⑤	授業内容を確認する。	60 分
第７回	Mid-term　Review	授業内容を確認する。	60 分
第８回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ①	授業内容を確認する。	60 分
第９回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ②	授業内容を確認する。	60 分
第１０回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ③	授業内容を確認する。	60 分
第１１回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ④	授業内容を確認する。	60 分
第１２回	Margaret Atwood, The Handmaid's Tale (1985) ⑤	授業内容を確認する。	60 分
第１３回	End-term Review	授業内容を確認する。	60 分
第１４回	総括	授業内容を確認する。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式。毎回、コースパワーを通じてレスポンス・シートを提出する。学期末はコースパワーを通じてレポートを提出する。

〔成績評価の方法〕

コースパワーを通じたレスポンス・シートおよび学期末レポート（80%）、平常点（20%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
近代以降のイギリスの歴史についての基本的知識があることが望ましい。

〔テキスト〕
特になし。（資料はコースパワーを通じて提示する。）

〔参考書〕
以下は、購入の必要はないが、参考にしてほしい。
メアリー・シェリー、『フランケンシュタイン』（光文社古典新訳文庫）
マーガレット・アトウッド、『侍女の物語』（早川書房）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ICT 活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 324（人種）						
教員名	権田　建二						
科目№	125132240	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史
19 世紀半ばまでアメリカ合衆国南部に存在していた奴隷制の歴史をアメリカ建国から廃止までたどると同時に、その影響として現代におけるレイシズムについて考えます。奴隷が書いた手記（slave narratives）や１９世紀半ばの文人たちの奴隷制に対する反応等の文学テクストを読むだけではなく，奴隷制を支持する南部知識人の擁護論や裁判の判決や新聞記事等の社会的・文化的言説を通して、また現代における人種問題について語ったテクストを通して、多角的に奴隷制とその影響を見ることになります。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
1）アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。
2）歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3）様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションー黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	黒人の歴史・アメリカの歴史	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	黒人に対する補償ー奴隷制という過去 新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	黒人に対する補償ー現代の貧困 合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	黒人と経済的格差ーGated Community	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	新世界における奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	合衆国における奴隷制の発展	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	合衆国憲法と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	独立革命と奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	トマス・ジェファソンと奴隷制	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	奴隷制廃止運動	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	奴隷州と自由州の対立	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	南北戦争とリンカーン	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１４回	まとめとセルフ・レヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕
講義形式による授業です。
毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布する予定です。
また、毎回授業中もしくは授業後にリアクション・ペーパーを書くことが課されます。
これも CoursePower を使って配布・回収します。

授業後にリアクション・ペーパーを書いて提出することが課せられた場合は、提出の期限は当該授業日の 23:59 までになります。

〔成績評価の方法〕
毎回のリアクション・ペーパー（80%）と学期末のセルフ・レビュー（20%）によって判断する。
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクション・ペーパーを提出しな

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

〔参考書〕
本田創造『アメリカ黒人の歴史』新版（岩波書店，新版 1994 年）
荒このみ『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫，2008 年）
ベンジャミン・クォールズ『アメリカ黒人の歴史』（明石書店，1994 年）
アイラ・バーリン『アメリカの奴隷制と黒人：五世代にわたる捕囚の歴史』（明石書店，2007 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化研究基礎A325						
教員名	小野　俊太郎						
科目№	125132250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
SF は Science Fiction や Speculative Fiction の略とみなされ、文学作品にとどまらず、広範囲な文化領域に影響を与えてきた。前半では、Sherryl Vint や David Seed の仕事を参照しながら、SF の歴史や扱われた主題に関する理解を深める。後半では『宇宙戦争』『華氏 451 度』『２００１年宇宙の旅』の３作品がどのような問題提起をしているのかを考える。

〔到達目標〕
DP1-（専門分野知識と理解）、DP3-（課題の発見と解決）、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の３点を目標とする。
①歴史的文化的な背景を踏まえて SF の影響を把握できるようになる。
②SF と関連する作品への応用や課題を発見できるようになる。
③文学や文化への SF の影響を理解した上で的確な分析レポートが書けるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに：SF 的想像力	内容の復習と資料のチェック	60 分
第２回	時間と空間を旅する	内容の復習と資料のチェック	60 分
第３回	「エイリアン」との遭遇	内容の復習と資料のチェック	60 分
第４回	時間・歴史・記憶	内容の復習と資料のチェック	６０分
第５回	科学と技術の変容	内容の復習と資料のチェック	60 分
第６回	ユートピアとディストピア	内容の復習と資料のチェック	60 分
第７回	Eco-fi と Psy-fi　課題レポート第１回	レポートのための復習とチェック	120 分
第８回	ウェルズ『宇宙戦争』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第９回	『宇宙戦争』と植民地主義	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１０回	ブラッドベリ『華氏 451 度』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１１回	『華氏 451 度』とメディア変容	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１２回	クラーク『２００１年宇宙の旅』	内容の復習と資料のチェック	60 分
第１３回	『２００１年』における進化と神学　課題レポート第２回	課題レポートのための復習	120 分
第１４回	全体のまとめと振り返り	内容の復習と資料のチェック	60 分

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義を中心とする。この授業は完全ペーパーレスで、配布資料および、そのリンク先の英文などを見るために、授業中にもパソコンやスマホが必要となる。講義などで示された内容を復習し、どのように分析をするかという技法を習得すること。課題レポートは内容を咀嚼した上で的確に分析ができているのかを評価する。

〔成績評価の方法〕
２回のレポート提出（70%）、小テストの提出（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。SF の歴史的文化的な背景を理解して、各作品を的確に分析できているかどうかが評価の対象となる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。連絡方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化研究基礎Ｂ326						
教員名	下村　美佳						
科目№	125132260	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本講義は、シェイクスピアの代表的作品に触れながら、その背景にある思想を学ぶことを目的とする。家父長制、
亡霊観、自然観、妖精観などを学び、それらが作品、主に女性登場人物の表象にどのようにあらわれているのかを
示していく。映像化されているものはできるだけそれを活用しながら、解釈のポイントを紹介する。

〔到達目標〕
DP2、DP3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①シェイクスピアに関する基礎的な知識を修得する。
②イギリス文学史全体の流れの中にシェイクスピアを位置づけ、その背景にある思想を理解した上でその特質や意義を説明できる。
③シェイクスピア作品の特質を理解し、自分の考えを述べることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 シェイクスピアについて、その概略を説明する。	（予習）　シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 （復習）　授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。	60
第２回	16 世紀のイギリス	（復習）　エリザベス朝について調べておき重要な用語は説明できるようにすること。	60
第３回	『じゃじゃ馬ならし』におけるキャタリーナ①	（予習）　シェイクスピアの初期作品について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第４回	『じゃじゃ馬ならし』におけるキャタリーナ②	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第５回	『リチャード三世』における女性登場人物たち	（予習）　シェイクスピアの歴史劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第６回	『リチャード三世』における亡霊	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第７回	『夏の夜の夢』における妖精①	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第８回	『夏の夜の夢』における妖精②	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第９回	シェイクスピア四大悲劇における亡霊	（予習）　シェイクスピアの四大悲劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第１０回	四大悲劇における女性登場人物①	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１１回	四大悲劇における女性登場人物②	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１２回	四大悲劇における女性登場人物③	（予習）　作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第１３回	前期授業のまとめ	（予習）　これまでの学習内容を確認する。	60
第１４回	到達度確認テスト これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテスト	（予習）　到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	120

〔授業の方法〕
講義形式で行う。各作品の学習後、小レポートを授業内で提出してもらう。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（６０%）、小レポート（４０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①シェイクスピアに関する基礎的な知識を身につけている。
②イギリス文学史の流れのなかにシェイクスピアを位置づけ、その背景にある思想を理解した上でその特質や意義を説明できる。
③シェイクスピア作品の特質や意義を理解し、さらに自分の意見を述べることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
必要に応じてプリントを配布する。

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 421（戦争）						
教員名	遠藤　不比人						
科目№	125132310	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
テーマとしての「戦争」を狭い意味で定義をするのではなく、人間が潜在的に持つ暴力性一般をも考察の対象にしながら、たとえばいま社会で問題となっている「いじめ」「差別」などについても扱いたい。人文系の学問において重要なことは、人間の負の側面から目をそらすことなく、それを批判的に分析し、その克服を最終的な目的とすることである。そのためにこの講義では、人種表象をめぐる理論、精神分析理論などの基礎を学び、それを具体的な映画などの映像テクストの分析に応用したい。そうすることによって、卒業論文における文化研究の基礎的知識も身につけることにする。この学期の締めくくりとして、具体的な映画の分析を実践する。いわゆる戦争映画だけでなく、上記の目的にかなった作品、たとえば、北米における人種問題を扱った映画なども扱う予定である。

〔到達目標〕
英語圏の文化研究の根幹をなす精神分析や人種表象あるいは他者表象をめぐる文化理論を習得することにより、この分野における領域横断的な知識を獲得し（DP2-3）、現在世界中で問題となっている戦争、人種差別、いじめなどという現象を理論的に解明するのと同時に、これらの理論的知識を援用して個別的に様々な文化テクスト（映像テクスト）を分析をする実践力を身につける（DP1-4）。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	講義の目標についての具体的な説明	シラバスを読み講義の目的について最低限度の理解をし、できればネットなどで問題の所在を確認する。	６０分
第２回	精神分析：死の欲動理論１（マゾヒズム、サディズム）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第３回	精神分析：死の欲動理論２（反復強迫）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第４回	精神分析：死の欲動理論３（暴力と享楽）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第５回	戦争と他者表象１（人種）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第６回	戦争と他者表象２（国民国家）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第７回	戦争と他者表象３（日本の場合）	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第８回	理論的知識の復習とそれを踏まえた質疑応答	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第９回	映像分析１	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１０回	映像分析２	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１１回	映像分析３	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１２回	映像分析４	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１３回	映像分析５	前回の講義内容を理解し次の段階を理解する準備をする。	９０分
第１４回	これまでの議論と分析の総括	前回までの講義内容を理解し最終的な総括ができるようにする。	１２０分

〔授業の方法〕
講義した諸理論の内容を理解するために、毎回 Powerpoint を使用し、その要点について 40 分程度の講義をする。それと同時に、双方向の授業を実現するために、残りの時間では受講生が講義を受けた内容についての質問、コメント（意見は反論）をする。講義担当者はそのそれぞれに丁寧に応答し、interactive な教育効果を目指す。また、このタームの後半では、受講者は習得した基礎理論を応用し、具体的な映像分析を自ら試みることを要求される。

〔成績評価の方法〕

平常点（６０%）、学期末の term paper（４０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
授業担当者が用意する。

〔参考書〕
適宜複数を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティヴ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 422（複言語・複文化主義）						
教員名	小野　尚美						
科目No.	125132320	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
言語と社会の関係についての基礎知識を身に付け、その知識を基に、日本の英語学習者が英語以外の複数の言語を学ぶ意義について考えていくことを目指します。Presentation を通して、学生の身の回りで起きている異文化のぶつかり合いが大きな問題に発展するのを避けるためにすべきこと、また社会全体で起きている異文化間の問題を解決する方法を模索していきます。そしてこの授業では、複数の言語を学ぶことの意義の理解に基づき、言葉と文化の多様性について考え、他者への寛容を養う異文化間教育について考えをまとめていきます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）及び DP2（教養の修得）を実現するために、以下を目指す。
1）多言語主義と複言語主義の違いについて理解する。
2）世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。
3）多様な文化背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解する。
4）英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。
5）複言語・複文化主義的発想に基づくとどのように言語習得についての考え方が変わるか考える。さらに
6）複言語・複文化主義的発想になると、世界の言葉と文化の多様性に対してどのような思想を持つようになるか考察する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：授業の方法と成績評価について説明する。 無文字社会について考える	多言語主義について事前に読んで基礎知識を付けてくる。	60 分
第２回	多言語主義とは何か（1） 台湾における日本語の役割と北京語の役割	台湾と日本の歴史について基礎的な内容を調べて来る。	90 分
第３回	多言語主義とは何か（2） アメリカの English Only Movement とは何か。	アメリカにおける英語使用についての歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第４回	多言語主義とは何か（3） アメリカの English Plus Movement とは何か。	アメリカにおける英語使用についての歴史に関する資料を読んでくる。	90 分
第５回	多言語主義とは何か（3） アメリカの言語事情について。	アメリカの言語事情について資料を読んでくる。	90 分
第６回	中間振り返り小テスト	中間振り返り小テストの準備をする。	90 分
第７回	第１回振り返り小テストの解説 ヨーロッパにおける言語政策（１） EU の試みについて	EU について資料を読んでくる。	90 分
第８回	欧州協議会とはどんな組織か。	欧州協議会について資料を読んでくる。	90 分
第９回	複言語主義・複文化主義とは何か Language learning and teaching Presentation（1）	配付テキスト Chapter 1 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１０回	複言語主義・複文化主義とは何か CEFR と CEFR-J Presentation（2）	配付テキスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１１回	複言語主義・複文化主義とは何か ヨーロッパの多言語主義から複言語主義への移行について考える。 Presentation （３）	配付テキスト Chapter 2 を読む。 Presentation の準備をする。	90 分
第１２回	複言語主義・複文化主義とは何か 複言語主義についての原書講読	配付テキスト Chapter 3 を読む。	90 分
第１３回	学期末振り返りテスト	学期末振り返りテストの準備をする。	90 分
第１４回	学期末振り返りテスト返却と解説 授業の総括	学期末振り返りテストの復習	60 分

〔授業の方法〕
講義と演習の形式をとる。教員は授業で扱う複言語主義・複文化主義の概念について講義を行う。学生は、授業で配付されるテクストの資料や他の参考文献を輪読し、自分の興味のある話題を選び、Presentation を行う。学生の Presentation に対し、意見交換を行いながら、授業の話題となっている複言語・複文化主義的発想に基づくと日本における言語教育はどのようになっていくか、日本の英語学習者は何を目指すことになるかについて 1 学期を通して各自考えをまとめる

ことが期待される。授業では、中間小テストとして振り返り小テストと、学期末には 1 学期の間に考えたことについて学期末振り返りテストで確認する。

〔成績評価の方法〕
授業参加（Presentation、中間振り返り小テスト、ディスカッションへの積極的参加、宿題など）：50%、学期末振り返りテスト：50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
1）複言語主義・複文化主義と多言語主義の概念の違いを理解しているか。
2）多様な文化が存在する中で異文化間コミュニケーションにどのような課題があるかについて考えているかどうか。
3）日本社会で、英語以外の複数の言語を学ぶ意義について自分で考えているかどうか。
4）いずれの振り返りテストにおいても、自分の考えを理路整然と説明できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
英語圏文化 322（コミュニケーション）を履修しておくことが望ましい。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
Council of Europe. (2001). Common European Framework of Reference fo Languages: Learning, Teaching, Assessment. Strasbourg::Cambridge University Press.
欧州評議会 言語政策局（山本冴里訳）. (2016)『言語の多様性から複言語教育へ ヨーロッパ言語教育政策策定ガイド』東京：」くろしお出版.
西山教行・細川英雄・大木充（編）. (2016). 『異文化間教育とは何か グローバル人材育成のために』東京：くろしお出版.
細川英雄・西山教行. (2010). 『複言語・複文化主義とは何か ヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』東京：くろしお出版.
三浦信孝（編）. (2006). 『多言語主義とは何か』東京：藤原書店.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 424（レイシズム）						
教員名	権田　建二						
科目№	125132340	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史
1865 年の奴隷制の廃止から 1960 年代までの、アフリカ系アメリカ人が、アメリカ市民としての権利の獲得を目指した歴史をたどる。1857 年合衆国最高裁は、「ドレッド・スコット判決」で、黒人は合衆国市民ではないと判断した。その後、奴隷制の存続を巡った南北戦争が終わり、議会による憲法の修正を経て、アフリカ系アメリカ人は、晴れて法的に合衆国市民となる。しかし、それは名ばかりで、19 世紀末から 20 世紀にかけて、黒人は法のもとで、白人社会から隔離され、白人と平等に扱われることはなかった。このような状況が大きく変わるのは、1954 年に合衆国最高裁が公立学校における人種の分離を違憲と定めた「ブラウン判決」によってだった。これ以降、アフリカ系アメリカ人たちは、自分たちの社会的権利の拡大を目指して積極的に運動していくことになった。
　この授業では、20 世紀半ばのアフリカ系アメリカ人による、公民権運動と呼ばれるこのような権利拡大のための運動を見ていき、アフリカ系アメリカ人の社会的地位がどのように変化したのかを確認したい。
1865 年の奴隷制の廃止から 1960 年代までの、アフリカ系アメリカ人が、合衆国市民としての権利の獲得を目指した歴史を学ぶことで、以下を達成することを目的とする。
1) 世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。
2) 文化の多様性及び異文化交流の意義について理解する。
3) 合衆国の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）のとりわけ、DP1-1, 1-2, 1-4、DP2（教養の修得）の DP2-1, 2-3 を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
1) アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。
2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。
3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	【復習】 今回分資料を再読。	60
第２回	イントロダクション一人権・公民権・レイシズム	【復習】 今回分資料を再読。	60
第３回	合衆国における黒人の存在	【復習】 今回分資料を再読。	60
第４回	奴隷制における黒人の地位(1787-1865)	【復習】 今回分資料を再読。	60
第５回	奴隷制の廃止とレコンストラクション まで（1865-1877）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第６回	レコンストラクションに対する反動（1873-1896）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第７回	「プレシー判決」と分離すれど平等の原則（1896）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第８回	ジム・クロウの時代（1880s-1940s）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第９回	19 世紀末から 20 世紀初頭の人種関係（1895-1922）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１０回	ブラウン判決への道（1899-1950）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１１回	「ブラウン判決」と人種の統合　（1954）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１２回	人種統合に対する反発（1950s-1960s）	【復習】 今回分資料を再読。	60
第１３回	公民権運動-エメット・ティルから 1964 年の公民権法まで	【復習】 今回分資料を再読。	60

第１４回	まとめ：セルフレヴュー	【予習】 セルフレヴューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60

〔授業の方法〕
講義形式による授業です。
毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。
プリントは CoursePower を使って配布する予定です。
また、毎回のリアクション・ペーパーも CoursePower を使って配布・回収する予定です。

〔成績評価の方法〕
毎回のリアクション・ペーパー（80%）と学期末のセルフ・レビュー（20%）によって判断する。
リアクション・ペーパーは単に授業の感想を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものです。
毎回特定の課題を出しますので、それについて授業で学んだことに基づいて説明をし、さらに自分の考えを述べることになります。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度を確認します。
授業に出席しないことには、リアクション・ペーパーは評価の対象になりません。
また、リアクション・ペーパーを提出しな

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

〔参考書〕
1. Williams, Juan. Eyes on the Prize: America’s Civil Rights Years, 1954-1965. Penguin, 2013.
2. Hampton, Henry, and Fayer, Steve, eds. Voices of Freedom: An Oral History of the Civil Rights Movement from the 1950s to through the 1980s. Bantam, 1991.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 425（児童文学）						
教員名	川端　有子						
科目№	125132350	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本科目では英語圏の児童文学を題材に、その歴史的背景、社会的意義、文化的位置づけを考察したうえで、今日的意義を問う。
本講義では、19 世紀の『不思議の国のアリス』から始め、20 世紀の『ナルニア国年代記』、21 世紀の『ハリー・ポッター』シリーズなどを取り上げ、児童文学の変遷と子ども観の変容、ジャンル的広がりと浸透を追う。英米文化の草の根となっている児童文学をその原点から知り、年代順に読み解くことで英語圏文学の一つの流れを考察する。

〔到達目標〕
この授業では児童文学を題材に
DP１－４　英語圏文学・文化の成り立ちを理解し、代表的作品に触れ、それらについて専門的見地から分析し理解することができる
DP２－３　階級・人種・ジェンダー・精神分析といった領域横断的な批評理論の基本的知識を身につけることで、複数のコンテクストを踏まえて思考・判断を行うことができる
ことを目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスと英米児童文学の前史	予習　シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習　配布プリントを読み直し、児童文学とは何かを理解する。	30 30
第２回	『不思議の国のアリス』を読み解く イギリスの古典ファンタジー	予習　『アリス』のあらすじを押さえておく 復習　『アリス』を授業内容に即して読み返す	30 30
第３回	『若草物語』を読み解く アメリカの古典リアリズム(少女編)	予習　『若草物語』のあらすじを押さえておく 復習　『若草物語』を授業内容に即して読み返す	30 30
第４回	『トム・ソーヤの冒険』を読み解く アメリカの古典リアリズム(少年編)	予習　『トム・ソーヤ』のあらすじを押さえておく 復習　『トム・ソーヤ』を授業内容に即して読み返す	30 30
第５回	『ピーター・パン』を読み解く エドワード朝、大人と子ども・女と男	予習　『ピーター・パン』のあらすじを押さえておく 復習　『ピーターパン』を授業内容に即して読み返す	30 30
第６回	『クマのプーさん』を読み解く ぬいぐるみと父と息子	予習　『プーさん』のあらすじを押さえておく 復習　『プーさん』を授業内容に即して読み返す	30 30
第７回	『風に乗ってきたメアリー・ポピンズ』を読み解く 乳母と魔法使い	予習　『メアリーポピンズ』のあらすじを押さえておく 復習　『メアリーポピンズ』を授業内容に即して読み返す	30 30
第８回	『ライオンと魔女』を読み解く ナルニア国年代記を読む	予習　『ライオンと魔女』のあらすじを押さえておく 復習　『ライオンと魔女』を授業内容に即して読み返す	30 30
第９回	『ホビットの冒険』を読み解く 指輪物語への序章	予習『ホビット』のあらすじを押さえておく 復習　『ホビット』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１０回	『トムは真夜中の庭で』を読み解く タイムファンタジーを知る	予習　『トムは真夜中の庭で』のあらすじを押さえておく 復習　『トムは真夜中の庭で』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１１回	『床下の小人足たち』を読み解く 魔力を持たない小人たちの行方	予習　『床下の小人たち』のあらすじを押さえておく 復習　『床下の小人たち』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１２回	『クローディアの秘密』アメリカのリアリズム小説から現代の子どもたちの心理を読む	予習　『クローディアの秘密』のあらすじを抑えておく 復習『クローディアの秘密』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１３回	『影との戦い』を読み解く アメリカのファンタジー「ゲド戦記」の世界	予習　『ゲド戦記』のあらすじを押さえておく 復習　『ゲド戦記』を授業内容に即して読み返す	30 30
第１４回	『ハリーポッター』シリーズを概観する	予習　『賢者の石』のあらすじを押さえておく 復習　『賢者の石』を授業内容に即して読み返す	30 30

〔授業の方法〕
授業はオンデマンドで行う。
各時間ごとに感想・コメント・質問等のリアクションをポータルサイトに書き込んでもらう。また課題レポートを課す。復習、予習に課した時間は目安であり、各自の速度に合わせて行うこと。
1　リアクションペーパー　毎回
2　課題レポート　指示した本を読みその内容について簡単にまとめ自分の見解を付す内容。

〔成績評価の方法〕

リアクションペーパーから見る授業参加度（４０%）　課題レポート（６０%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度から評価する。
1　英語圏児童文学の成り立ちを理解し、代表的作品を専門的見地から分析し理解することができているか
2　階級・人種・ジェンダー・精神分析といった理論から思考・判断を行えているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
扱う題材は邦訳があるので少なくともそれには授業前に目を通しておく。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『英語圏の児童文学　Ⅰ　物語ジャンルと歴史　改訂版』ミネルバ書房　　購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後にメールで受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏文化 426（英語教育）						
教員名	王　ウェイトン						
科目№	125132360	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
テーマ：第二言語習得論、学習ストラテジー、CEFR
概要：第二言語習得論に基づいた英語の学習法及び指導法に関する知識を学びます。学習ストラテジーについて基本的な考え方を理解します。外国語運用能力の指標として参照される CEFR の理念と内容を理解し、日本の英語教育での運用の在り方について考えます。

〔到達目標〕
第一・第二外国語習得論や語用論等、英語教育に必要な実践的知識や技能を修得している。(DP1-5)(DP2-1)
英語教育に関わる課題の本質を発見するために、社会調査等のデータを収集・分析することで、論理的な思考を行い適切な結論を導き出す能力を身に付けている。(DP3-4)
自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ明瞭に発信できる豊かな表現力を身に付けている。(DP4-1)
授業で他の受講生たちと協働して課題解決に取り組むことで協調性を身につけるとともに、他者との関わりのなかで自らの役割が認識できるようになる。(DP5-2)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエテーション（講義の内容、課題、評価方法、参考図書の紹介）	テキストを入手する。	90
第２回	第二言語習得理論の概要	第１回の Review sheet 第２回の予習課題	90
第３回	外国語教授法の変遷	第２回の Review sheet 第３回の予習課題	90
第４回	リスニングのプロセス、学習法、指導法	第３回の Review sheet 第４回の予習課題	90
第５回	スピーキングのプロセス、学習法、指導法	第４回の Review sheet 第５回の予習課題	90
第６回	リーディングのプロセス、学習法、指導法	第５回の Review sheet 第６回の予習課題	90
第７回	ライティングのプロセス、学習法、指導法	第６回の Review sheet 第７回の予習課題	90
第８回	文法・語彙知識習得のプロセス、学習法、指導法	第７回の Review sheet 第８回の予習課題	90
第９回	英語力の評価	第８回の Review sheet 第９回の予習課題	90
第１０回	学習ストラテジー(1)：自律した学習者とは	第９回の Review sheet 第１０回の予習課題	90
第１１回	学習ストラテジー(2)：ストラテジー指導と教材	第 10 回の Review sheet 第１１回の予習課題	90
第１２回	CEFR の理念と運用	第１１回の Review sheet 第１２回の予習課題	90
第１３回	学期末総合振り返りテスト	学期末総合振り返りテストの準備をする。	90
第１４回	学期末総合振り返りテストの返却と解説。	学期末総合振り返りテストの答えを確認する。	90

〔授業の方法〕
授業内容は、講義及び演習形式を組み合わせる。
毎回の事前課題に取組み、授業中ではグループ発表を行い、全体でディスカッションを行う。

〔成績評価の方法〕

総合評価（Review sheet 提出状況：40%、授業における取組状況：30%、学期末総合振り返りテスト：30%）

〔成績評価の基準〕
Review sheet・学期末総合振り返りテストでは、授業内容の理解度に基づいて評価する。
授業における取組状況では、授業での貢献度を評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
Marianne Celce-Murcia, Donna M. Brinton, and Marguerite Ann Snow. (2014). "Teaching English As a Second or Foreign Language (4th Ed.)" Oxford University Press.

〔参考書〕
Brown, H.D. (2014). ″Principles of Language Learning and Teaching.″ Pearson Education.
Lightbown, Patsy and Nina Spade. (2022). ″How Languages are Learned.″ Oxford University Press.
英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック（大学英語教育学会学習ストラテジー研究会）
中学校学習指導要領解説　外国語編（平成 29 年 7 月　文部科学省）
高等学校学習指導要領解説　外国語編（平成 30 年 3 月　文部科学省）
小学校学習指導要領解説　外国語編・外国語活動編（平成 29 年 7 月　文部科学省）
必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学入門 230						
教員名	塚田　雄一						
科目№	125133100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、イギリス文学・文化の入門として、イギリスの小説を取り上げます。特にどのように恋愛や結婚が描かれているかに着目して、テクストの分析を行います。
各時代の文学テクストをセクシュアリティ、ジェンダー、恋愛、結婚、家父長制、階級制度といった切り口から分析することで、19 世紀から現代にいたるまで、文学テクストが人々の恋愛や結婚に関する考え方をいかに反映し、また同時に文学テクストがいかにそれらを形作ってきたのかを考えます。
本講義では、以下の作家の小説を扱う予定です（各作家につき代表的な１作品、ただしキャサリン・マンスフィールドは２作品）。

Jane Austin（ジェイン・オースティン）
Charlotte Brontë（シャーロット・ブロンテ）
Emily Brontë （エミリー・ブロンテ）
Katherine Mansfield（キャサリン・マンスフィールド）
Virginia Woolf （ヴァージニア・ウルフ）
Doris Lessing （ドリス・レッシング）
Helen Fielding（ヘレン・フィールディング）
＊ 受講者の関心や理解度を考慮して、扱う作家・作品、扱う順番等に一部変更を加える可能性があります。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
・ イギリス文学史および各時代において鍵となる作家・作品について基礎的な知識を身につけること。
・ 各時代において文学テクストが社会やジェンダー観をはじめとした人々の認識といかに関わり合っていたかを自身の力で考えることができるようになること。
・ 文学テクストを自身の力で分析して論じることができるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	授業内容の復習	60 分
第２回	Jane Austin（ジェイン・オースティン）第１回	授業内容の復習	60 分
第３回	Jane Austin（ジェイン・オースティン）第２回	授業内容の復習	60 分
第４回	Charlotte Brontë（シャーロット・ブロンテ）第１回	授業内容の復習	60 分
第５回	Charlotte Brontë（シャーロット・ブロンテ）第２回	授業内容の復習	60 分
第６回	Emily Brontë （エミリー・ブロンテ）第１回	授業内容の復習	60 分
第７回	Emily Brontë （エミリー・ブロンテ）第２回	授業内容の復習	60 分
第８回	Katherine Mansfield（キャサリン・マンスフィールド）第１回	授業内容の復習	60 分
第９回	Katherine Mansfield（キャサリン・マンスフィールド）第２回	授業内容の復習	60 分
第１０回	Virginia Woolf （ヴァージニア・ウルフ）	授業内容の復習	60 分
第１１回	Doris Lessing （ドリス・レッシング）第１回	授業内容の復習	60 分
第１２回	Doris Lessing （ドリス・レッシング）第２回	授業内容の復習	60 分
第１３回	Helen Fielding（ヘレン・フィールディング）	授業内容の復習	60 分

第１４回	まとめ	これまでの授業内容の復習、期末論述課題の執筆に向けての準備	60 分

〔授業の方法〕
本授業は基本的には講義が中心となりますが、適宜コミュニケーション・ペーパーに記載された受講生の意見や質問に応答する双方向型の講義となります。各回の授業は次の手順で進めます。
１．作品の紹介
２．＜問い＞の提示
３．作品分析の実践
４．まとめ
コミュニケーション・ペーパーには、授業内で担当者が取り上げた問題や指定された事柄について自身の考えを記入することになります。このペーパーで授業への取り組みを評価します。コミュニケーション・ペーパーが出題された翌週の授業の冒頭、コミュニケーション・ペーパーに対して担当者が応答する時間を設けます。

〔成績評価の方法〕
・コミュニケーション・ペーパー課題　６５％
・期末論述課題　３５％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
テキストは指定しませんが、関心のある受講生は各作品の原書あるいは翻訳書を手にとることをおすすめします。

〔参考書〕
参考となる文献や映像資料等は随時授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
コミュニケーション・ペーパーの末尾に質問等を記述することが可能な自由記述欄を設けています。また、CoursePower を利用することも可能です。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカ文学史 331						
教員名	庄司　宏子						
科目No.	125133210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
アメリカ合衆国はどのような文学を生み出してきたのか。15 世紀の大航海時代ヨーロッパで想像された新世界〈アメリカ〉のイメージ、17 世紀初頭から 1776 年までのイギリス植民地時代、18 世紀末の独立戦争とアメリカ合衆国の建国期、19 世紀初頭から半ばの領土拡張時代（アンテベラム期）、1860 年代の南北戦争期まで、再建期から 20 世紀半ば、20 世紀後半から現代に至るまでのアメリカ文学史の流れを歴史と文化と関連させながら辿ります。ある国がどのような文学を生み出すかは、風土・地形・気候という自然環境的な要素、歴史・政治・経済などの社会的な要素が関わっています。授業では文学の中に刻印されたアメリカ的な理念や概念、アメリカ文学史に通底するテーマ、文学と国民国家の関わり等について講義します。また、移動、ダイアスポラ、記憶、歴史の語り直しというテーマやグローバリズムという国境を越えた人間や情報の繋がりを視野に、世界文学という視点からアメリカ文学を捉えてみたいと思います。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 6 点を到達目標とする。
・文学史とは、国民国家の歴史や文化と深く結びつきながら形成されることを理解する。
・文学に現れた時代の出来事を反映する要素、そこから生み出されるアメリカ的なテーマについて理解し知識を修得する。
・文学は、国民国家が提示する歴史や文化とは別の視点を提示しうる優れて批評的なメディアであることを理解する。
・アメリカ文学に触れながら、文学を歴史・社会・政治・文化と関連させながら読み解き、時代や社会をみる批評意識を養う。
・文学を通じて、異なる文化や他者の存在とその世界観への想像力を豊かにするとともに、自分で思考し批評する力を身につける。
・言語による世界の表象という観点から、歴史と文学、ファクトとフィクションについて考える力を育む。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：大航海時代、新大陸はどのようにイメージされたか――Jan van der Straet の絵にみる「ヨーロッパ」と「アメリカ」の出会いについて	シラバスを読み、アメリカ文学史 I の授業で何を学ぶのか、自分は何に関心があり何を学びたいのか、考えてください。グローバリズムは 15 世紀に始まる大航海時代の到来から始まったといってよい。人、物、情報が国境を越えて移動するとはどういうことか、そこから何が生まれるか考えてみましょう。	30 分
第２回	植民地時代のアメリカ(1)：William Bradford, Of Plymouth Plantation を中心に	大西洋の荒波を超えて新大陸アメリカにやって来たピューリタンたちの目の前に現れた風景はどのようなものだったのか、彼らはそれをどのように表現したのか想像してみましょう。その風景が現代のアメリカ人の原風景を形作っています。	60 分
第３回	植民地時代のアメリカ(2)：Captivity Narrative と Native Americans の表象, Mary Rowlandson, A Narrative of the Captivity and Restoration of Mrs. Mary Rowlandson を中心に	植民地時代のアメリカにおいて入植者と先住民インディアン部族との間でしばしば抗争が起こります。その一つが 1675 年に起こる King Philip's War です。戦いのなかで捕虜となった女性が記した体験記からインディアンはどのように描かれているか当時のピューリタン社会はどのようなものだったか、考えてみましょう。	60 分
第４回	植民地時代のアメリカ(3)：ピューリタニズムとセイレム魔女事件	1692 年にマサチューセッツのセイレムで起こった魔女事件はアメリカ史上最も悲惨な事件であり、さまざまな文学のインスピレーションを与えています。こうした事件が起こる背景について考えてみましょう。この事件の終息のあと、時代は近代の幕開けを迎えます。	60 分
第５回	建国期のアメリカ(1)アメリカとは何か―Crevecoeur, Letters from an American Farmer と Thomas Jefferson の"The Declaration of Independence"と Notes on the State of Virginia を中心に	17 世紀初頭に始まって約 200 年の植民地時代を経てアメリカはイギリスとの独立戦争の後、1783 年に独立を遂げます。Thomas Jefferson が中心になって起草された独立宣言文書や Notes on the State of Virginia からアメリカの精神・理念を辿ってみましょう。また建国初期に書かれたアメリカ人論も読みます。	60 分
第６回	建国期のアメリカ (2) Charles Brockden Brown と Washington Irving の文学	Charles Brockden Brown や Washington Irving がどのような小説を書いたのか、調べてみましょう。	60 分
第７回	西漸運動と Manifest Destiny：James Fenimore Cooper, The Last of the Mohicans と Alexis de Tocqueville, Democracy in America	アメリカの荒野を描くロマティシズムの文学 James Fenimore Cooper の The Last of the Mohicans について調べてみましょう。また 18 世紀末に独立し、19 世紀半ばにかけて大西洋と太平洋にまたがる大陸国家となっていくアメリカの領土拡大について調べてみましょう。	60 分
第８回	アメリカ・ルネサンスの文学(1)：トランセンデンタリズム―Ralph Waldo Emerson, Henry David Thoreau, Margaret Fuller	独立してから約半世紀を経てアメリカは初めて国民文学といえる作品を生み出すようになります。その中核となるのが Transcendentalism（超越主義）です。どのような思潮の運動か考えてみましょう。	60 分
第９回	アメリカ・ルネサンスの文学(2)：Edgar Allan Poe	Edgar Allan Poe の作品は恐怖に満ちたグロテスクなもの、軽妙なもの、理性的なもの、海洋冒険譚とさまざまあります。翻訳でよいので、何かひとつ Poe の短篇を読んでみましょう。	60 分
第１０回	アメリカ・ルネサンスの文学(3)：Nathaniel Hawthorne と Herman Melville	アメリカ文学史上最高傑作といってよい Nathaniel Hawthorne の The Scarlet Letter（『緋文字』）と Herman Melville の Moby-Dick（『白鯨』）を抜粋で読みます。どのような内容の作品か、調べてください。考えます。この作品の内容について調べてください。	60 分

第１１回	奴隷解放運動と奴隷体験記：Harriet Beecher Stowe, Uncle Tom's Cabin と Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass	19 世紀半ばのアメリカは、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれる独自の文学潮流を生み出す一方で、奴隷制度をめぐり北部の自由州と南部の奴隷州の対立が激化する時代でした。そのなかで奴隷制廃止を訴える文学が生まれます。Stowe, Uncle Tom's Cabin (『アンクル・トムの小屋』) と Douglass の Narrative of the Life of Frederick Douglass (『数奇なる奴隷の半生』) から当時の社会を考えます。この作品の内容について調べてください。	60 分
第１２回	再建時代から 20 世紀半ばのアメリカ文学：Nella Larsen, Langston Hughes, Richard Wright, F. Scott Fitzgerald, William Faulkner などの文学	Nella Larsen の Passing は 1920 年代に数多く描かれる「人種の境界を越える (passing)」というテーマを描いた文学の代表作です。passing というテーマと時代との関わり、21 世紀における passing の概念について考えます。併せて Hughes, Wright, Faulkner の文学も概説します。	60 分
第１３回	20 世紀後半から現代のアメリカ文学：Toni Morrison, Colson Whitehead を中心に	現代アメリカ文学を代表する Morrison および Morrison の次の世代のアフリカ系アメリカ人文学の代表者 Whitehead の文学について概説します。	60 分
第１４回	授業内テスト	この授業で配布した handout から、作家や作品、作品に現れる重要なテーマと時代との関係などを振り返り、授業内テストに備えてください。	100 分

〔授業の方法〕
講義形式。授業内容の理解の確認や思考を促すため時折クイズを実施します。クイズは随時実施予定で CoursePower から Forms で行います。受講者は毎回の授業に必ず PC を持参してください。授業で取り上げる作品は受講者の理解度や関心に応じて、多少変わるかもしれません。期末レポートは授業内容に添いながら受講生の個々の関心に対応し、思考する力を育むことができるようなテーマにします。

〔成績評価の方法〕
平常点で成績評価を行います。平常点とは、クイズ (授業内に随時数回程度実施します)、14 回目に実施する授業内テスト、学期末に CoursePower から提出してもらう課題レポート (2,000 字程度) です。レポートの課題は授業で提示します。
(1) クイズ･･･20%
(2) 授業内テスト･･･30%
(3) 学期末課題レポート･･･50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
教科書は使用しません。授業の handout は CoursePower から配布します。

〔参考書〕
Peter B. High, An Outline of American Literature (Pearson Japan, 1986): ISBN: 978-0582745025
Emory Elliott, ed., The Columbia Literary History of the United States (Columbia UP): ISBN: 0231058128
Emory Elliott, ed., The Columbia History of the American Novel (Columbia UP): ISBN: 0231073607
Walter Benn Michaels and Donald E. Pease, eds., The American Renaissance Reconsidered (Johns Hopkins UP): ISBN: 0801839378
Paul Giles, American World Literature: An Introduction (Wiley-Blackwell, 2019): ISBN: 978-1119431787
Winston Napier, African American Literary Theory (NYU Press, 2000): ISBN: 978-0814758106
F. O・マシーセン『アメリカン・ルネサンス――エマソンとホイットマンの時代の芸術と表現』 上巻・下巻 (ぎょうせい)
トニ・モリスン『白さと想像力――アメリカ文学の黒人像』 (朝日選書)
渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』［入門編］ (研究社)
大橋吉之輔『アメリカ文学史入門』 (英語・英米文学入門シリーズ) (研究社)
巽孝之『アメリカ文学史――駆動する物語の時空間』 (慶應義塾大学出版会)
諏訪部浩一他『アメリカ文学入門』 (三修社)
亀井俊介『アメリカ文化史入門――植民地時代から現代まで』 (昭和堂)
高野一良『アメリカン・フロンティアの原風景――西部劇・先住民・奴隷制・科学』 (風濤社)
風呂本惇子他『新たなるトニ・モリスン その小説世界を拓く』 (金星堂)
ヴァレリー・スミス『トニ・モリスン: 寓意と想像の文学』 (彩流社)
庄司宏子『アメリカスの文学的想像力』 (彩流社)

〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕
教員メールアドレスは CoursePower から周知します。

〔特記事項〕
特にありません。

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	イギリス文学史 332						
教員名	塚田　雄一						
科目№	125133220	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本科目では、イギリス文学史の基本的な知識を確認した上で、時代ごとに代表的な文学テクストをいくつか取り上げ、イギリス文学史という俯瞰的な地図の中に位置づけながら読み解く。その際に、各時代の文学テクストをさまざまな切り口（セクシュアリティ、ジェンダー、恋愛・結婚、家父長制、階級制度、病、戦争、ナショナリズム、ポストコロニアリズムなど）から分析することで、古英語時代から現代にいたるまで、文学テクストが社会、政治、人々の価値観をいかに反映し、また同時に文学テクストがいかにそれらを形作ってきたのかを考える。イギリス文学史の基本的な知識を習得するだけでなく、その基本的な知識を土台として、文学テクストを文化的および社会的な観点から読み解く方法を学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
・ イギリス文学史および各時代において鍵となる作家・作品について基礎的な知識を身につけること。
・ 各時代において文学テクストが社会、政治、ジェンダー観をはじめとした人々の認識といかに関わり合っていたかを自身の力で考えることができるようになること。
・ イギリス文学史の知識を土台として、文学テクストを自身の力で分析して論じることができるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・イギリス文学史を学ぶ意義 ・「文学史」とは何か？　など	授業内容の復習	60 分
第２回	古英語時代（5 世紀～12 世紀）	教科書（第１章）の予習、授業内容の復習	60 分
第３回	中英語時代（12 世紀～15 世紀）	教科書（第２章）の予習、授業内容の復習	60 分
第４回	近代英語時代（16 世紀～17 世紀）	教科書（第３章）の予習、授業内容の復習	60 分
第５回	近代英語時代（16 世紀～17 世紀）	教科書（第４章・第５章）の予習、授業内容の復習	60 分
第６回	オーガスタン時代（18 世紀）	教科書（第６章）の予習、授業内容の復習	60 分
第７回	近代小説の誕生・発展（18 世紀）	教科書（第７章）の予習、授業内容の復習	60 分
第８回	ロマン主義の時代（18 世紀～19 世紀）	教科書（第８章・第９章）の予習、授業内容の復習	60 分
第９回	ヴィクトリア朝時代・小説（19 世紀～20 世紀）	教科書（第１０章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１０回	ヴィクトリア朝時代・小説（19 世紀～20 世紀）	教科書（第１１章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１１回	ヴィクトリア朝時代・詩と散文（19 世紀～20 世紀）	教科書（第１２章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１２回	現代小説の発展（20 世紀）	教科書（第１３章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１３回	現代小説の発展（20 世紀）	教科書（第１４章）の予習、授業内容の復習	60 分
第１４回	第２次世界大戦以降の文学	教科書（第１５章）の予習、これまでの授業内容の復習、期末試験課題に向けての準備	60 分

〔授業の方法〕
本授業は講義科目である。
受講生は、各授業の前に、教科書の該当する章を読んだ上で参加する必要がある（予習必須）。
授業は、受講生がその回に扱う教科書の章を読んでいることを前提に進められる。授業では、教科書にまとめられた基礎的な知識を出発点として、教科書に掲載されていないテクストや映像資料なども用いながら、各時代の文学・文化への理解および関心を深めてもらう。
毎回、教科書および授業の内容をしっかり理解しているかを確認するための小課題（コミュニケーションペーパー）を課す。

基本的に、各回の授業は次の手順で進める。
1．その授業で扱う時代の文学・文化について概観する（教科書の内容を確認）
2．その授業で焦点を当てるテーマを提示する
3．具体的な作品をいくつか取り上げる
4．適宜、映像資料なども活用して、その時代の文学・文化への理解を深める
5．まとめ
コミュニケーション・ペーパーには、授業内で担当者が取り上げた問題や指定された事柄について自身の考えを記入する。このペーパーで授業への取り組みを評価する。コミュニケーション・ペーパーが出題された翌週の授業の冒頭、コミュニケーション・ペーパーに対して担当者が応答する時間を設ける。
＊ 受講者の理解度を考慮して、上記の授業計画に一部変更を加える可能性がある。

〔成績評価の方法〕
・毎回のコミュニケーション・ペーパー　　７０％
・期末試験課題　　３０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
白井義昭『読んで愉しむイギリス文学史入門』春風社、2013 年（ISBN 9784861103728）
その他、授業で参照する箇所については必要に応じて資料を配布するが、関心のある受講生は各作品の原書・翻訳書などを手にとることをおすすめする。

〔参考書〕
参考となる文献や映像資料等は随時授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
毎回のコミュニケーション・ペーパーの末尾に質問等を記述することが可能な自由記述欄を設けている。また、CoursePower の利用も可能。

〔特記事項〕

24/2/9 18時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	音楽芸術研究基礎 333						
教員名	大友　彩子						
科目No.	125133230	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
This is an introduction to musicology, particularly focussing on Western music. It looks at instrumentation, genres, history, analytical tools and the complicated relationship between music, culture and society. Students taking this course do not need to have formal training in music, but simply an interest in the area and a willingness to learn.

〔到達目標〕
Students who undertake this course will learn about the history of Western music, as well as how music connects with culture in social contexts. They will learn basic music theory and how to understand and write about harmony, melody and rhythm. They will also learn to recognize works by famous composers from different periods and understand what makes them so special.
The aims of this course are in accordance with DP2, DP3 and DP4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	What is musicology? An introduction to ways to study and consider music and culture.	Listening/analysis work	60 min
第２回	Medieval music and the church	Listening/analysis work	60 min
第３回	The Renaissance music and arts	Listening/analysis work	60 min
第４回	17th century music 1 music in protestant regions	Listening/analysis work	60 min
第５回	17th century music 2 music in catholic regions	Listening/analysis work	60 min
第６回	18th century music 1 music and politics	Listening/analysis work	60 min
第７回	18th century music 2 music and commerce	Listening/analysis work	60 min
第８回	19th century music instrumental music	Listening/analysis work	60 min
第９回	19th century music vocal music and theatre	Listening/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	20th century music music and modernism	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	20th century music Jazz	Listening/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	20th century opera and musical	Listening/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	20th and 21st century rock and pop music	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (listening test, essay writing)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕
The class will involve listening activities, group discussion and mini lectures.

〔成績評価の方法〕
Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕
A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	視覚芸術研究基礎A334（映画）						
教員名	生井　英考						
科目№	125133240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
「アメリカ映画のソーシャル・テクスト分析入門」
　文化を研究する際の有力な手段のひとつが「ソーシャル・テクスト分析」です。映画や文学、音楽などの表現物から出来事や事件、人物、さらには流行までふくめて、社会とコミュニケーションの相互作用を解読するための分析方法です。
　この授業ではソーシャル・テクスト分析の入門編をおこないます。アメリカ映画（劇映画・ドキュメンタリーとも）を主な素材にしますが、最初の段階ではそれ以外の素材も活用します。
　このクラスは「映画館で映画を観る」習慣を持たない人には不向きかもしれません。ことにスマホの配信動画で映画（のコンテンツ）を見るだけで十分という人にはお勧めしません。

〔到達目標〕
　ソーシャル・テクスト分析は社会的コミュニケーションについての理解を促すものです。大学生には必須のこの能力をしっかり身につけることが目標です。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに――クラスの紹介と授業運営、および講義の序章 01	事前に特別な準備は必要ありませんが、事後はコースパワーのリアペに必ず記入すること。質問、コメント、授業中に出された考察課題について。必須です。	60
第２回	ソーシャル・テクスト分析の序章 02。前回の履修生リアペを活用して履修生のレベルを検討します。	2 回目の授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第３回	ソーシャル・テクスト分析入門編その１	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第４回	ソーシャル・テクスト分析入門編その２	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第５回	ソーシャル・テクスト分析入門編その３	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第６回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その１	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第７回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その２	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第８回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その３	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第９回	履修生によるソーシャル・テクスト分析その４	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１０回	ソーシャル・テクスト分析発展編その１	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１１回	ソーシャル・テクスト分析発展編その２	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１２回	ソーシャル・テクスト分析発展編その３	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１３回	ソーシャル・テクスト分析発展編その４	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。	60
第１４回	まとめ	授業後のリアペは必須。〆切も厳守（遅延は認めません）。およびレポート作成の準備	120

〔授業の方法〕
　授業はソーシャル・テクストの紹介と、それについての履修生の考察のふたつをより合わせるかたちで進みます。前回の課題とそれについてのみなさんの考察が毎回組み合わさるかたちです。そのため、休んだりリアペを提出しなかったりするとたちまちついて来れなくなる可能性があります。
　また授業で映画作品を鑑賞する機会も設けます。作品によってはお昼休みの時間帯にずれこむ可能性があります。鑑賞の週は事前に告知しますので、遅刻は禁物。昼休みへの若干の延長にも備えてください（時間的にどうしても難しいという場合は、時間外の鑑賞を課題とします。図書館所蔵の視聴覚資料から選ぶようにしますが、レンタルなどの手段が必要になるかもしれません）
　リアペ（コースパワーに記入欄を設けます）は単なる感想ではなく、創造的な質問や問題提起、また授業で出された課題の考察を記入するものです。〆切は金

曜日の授業のあと、週末をまたいでの火曜日正午。つまり時間を置いてじっくり考えたものを記入することが求められます。毎回、短いレポートを出すのと同じと思ってください。

〔成績評価の方法〕
毎回の授業への参加（出席）は必須。コースパワー上でのリアペ、レポート課題などの成果を総合して評価します。授業中の発言は特に高い評価の対象となります。またリアペも必須。
授業への貢献（参加・発表・リアペ）――65%　課題レポート――35%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準 （学則第 39 条） に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
開講後、適宜指示します。

〔テキスト〕
教科書はありません。参考書にあげた 2 冊はどちらも大学図書館以外に、地域の図書館にも所蔵がありますので、これを読んでおかないと授業についてこれない（講義の内容が理解できない）可能性があります。授業ではほかに役立つ本を適宜紹介します。

〔参考書〕
ロバート・スクラー『アメリカ映画の文化史――映画がつくったアメリカ』上下（講談社学術文庫）　上下ともあいにく版元品切れですが、初版（『映画がつくったアメリカ』として草思社から出ました）をふくめ、大学図書館や地域の図書館には多く所蔵されています。また古本でも購入する価値おおいにあり。
エリック・バーナウ『ドキュメンタリー映画史 』（筑摩書房）5000 円を越える高価な本なので購入の必要はありませんが、図書館などで指定した部分を必ず読むこと。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の最後または終了後に受け付けます。その場で答えられるものはその場で、長くなる時は次回の冒頭で回答します。またコースパワーでの質問も受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング（の変形）

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	舞台芸術研究基礎 336						
教員名	日比野　啓						
科目№	125133260	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
アメリカン・ミュージカル研究入門：統合ミュージカル（integrated musicals）の最高傑作といわれる『ウエスト・サイド物語』West Side Story（1957 年舞台版初演）を題材として取り上げ、必要に応じてその映画版（1961、2021）や他のフィルム・ミュージカルを見ながら、アメリカン・ミュージカルとはどんなもので、研究対象としてどんな分析ができるのか、について講義します。1990 年代以降、音楽学、演劇学、映画学、ゲイ・スタディーズなどが相互乗り入れすることでミュージカル研究は合衆国で本格化しますが、本講義ではその最新の知見をふまえ、アメリカン・ミュージカル研究の多様な切り口を提示します。

〔到達目標〕
統合ミュージカル・アリモノ・トライアウト・白人化といったアメリカン・ミュージカルを演劇学の対象として研究するのに必要な基本概念を「身につける」＝ただ理解するのではなく、自分で使いこなせるようになる。これらの目標を達成することによって、DP2/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション（1）この講義で何を学ぶのか・『ウエスト・サイド物語』を参照項にする理由・「芝居見たまま」の意義	映画『ウエスト・サイド物語』（152 分）を見ておく。シラバスの内容に目を通す	180
第２回	レヴューと統合ミュージカル／授業内課題（１）提出	授業内課題（１）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第３回	真正性と贋物性（1）物語／授業内課題（２）提出	授業内課題（２）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第４回	意味と非意味（1）ナンバー／授業内課題（３）提出	授業内課題（３）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第５回	意味と非意味（2）ダンスミュージカル／授業内課題（４）提出	授業内課題（４）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』を見直す。	60
第６回	アメリカン・ミュージカル以外の世界各地の音楽劇／授業内課題（５）提出	授業内課題（５）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	180
第７回	到達度確認テスト 1：「『ウェスト・サイド物語』見たまま」	これまで学んできたことをもとに、映画『ウエスト・サイド物語』を再度通覧し、ミュージカルでは何を「見る」か、何を「聞く」かを考える。	60
第８回	作品外のインフラストラクチャー	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第９回	アメリカン・ミュージカル以外のアメリカ演劇／授業内課題（６）提出	授業内課題（６）提出準備。講義内容をよく復習する。	180
第１０回	セクシュアリティ：作品内、作り手、観客／授業内課題（７）提出	授業内課題（７）提出準備。講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１１回	エスニシティ：作品内、作り手、観客	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１２回	階級：作品内、作り手、観客／授業内課題（８）提出	授業内課題（８）講義準備。授業内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	180
第１３回	真正性と贋物性（2）音楽	講義内容をよく復習し、必要があれば映画『ウエスト・サイド物語』その他の作品を見直す。	60
第１４回	授業外課題（２）提出	これまで学んできたことを復習し、映画『ウエスト・サイド物語』を再度通覧する。	60

〔授業の方法〕
講義形式。

〔成績評価の方法〕
授業への積極的な参加（36%）：9 回実施する授業内課題の評価にもとづきます。
授業外課題（１）提出（24%）：映画『ウエスト・サイド物語』の任意の 15 分程度のシークエンスを上映し、そのシークエンスであなたが何を見たか、何を聞いたかを書いてもらいます（「見たまま」を書く要領です。「見たまま」については講義で説明します）。
授業外課題（２）提出（40%）：用語説明と記述問題です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
受講希望者は受講前にロバート・ワイズ監督の映画『ウエスト・サイド物語』（1961 年、152 分）を事前に（少なくとも）一度見ておいてください。

〔テキスト〕
テキストは使用しません。

〔参考書〕
日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）
その他、講義で随時指示。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ＩＣＴ活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術と文学研究基礎 337						
教員名	日比野　啓						
科目№	125133270	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
《アメリカン・ミュージカル研究》以下の二つの作品の映画版・記録音源と、その舞台版脚本を検討することで、ミュージカルについての基本概念をどのように作品分析で用いるか、学んでいきます。
<I>Rent</I>（1996）
<I>Cabaret</I>（1966）

〔到達目標〕
#1　代表的なアメリカン・ミュージカル作品二つについて、その成立の歴史、上演史、作品構造などを知る
#2　アメリカン・ミュージカルの特徴を知り、授業で扱った以外の作品を分析できるようになる
これらの目標を達成することによって、DP1/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	［映画鑑賞］イントロダクション：『レント ライヴ・オン・ブロードウェイ』Rent: Filmed Live on Broadway（2008 年・152 分）鑑賞	扱う作品について調べておく 翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を投稿する	60
第２回	［映画鑑賞］『レント ライヴ・オン・ブロードウェイ』（続き）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	100
第３回	［テキスト精読］Rent, Act One, Scenes 1-10（pp. 1-25）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する レポート（１）を Teams に提出する	80
第４回	［テキスト精読］Rent, Act One, Scenes 11-20（pp. 25-55）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第５回	［テキスト精読］Rent, Act One, Scenes 21-25（pp. 55-85）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第６回	［テキスト精読］Rent, Act Two, Scene 26-32（pp. 87-110）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第７回	［テキスト精読］Rent, Act Two, Scene 33-42（pp. 110-141）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する レポート（２）を Teams に提出する	120
第８回	［映画鑑賞］『キャバレー』Cabaret（1972 年、124 分）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第９回	［映画鑑賞］『キャバレー』（続き）、［テキスト精読］Cabaret, Act One, Scenes 1-3（pp. 491-499）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する レポート（３）を Teams に提出する	100
第１０回	［テキスト精読］Cabaret, Act One, Scenes 4-5（pp. 499-512）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第１１回	［テキスト精読］Cabaret, Act One, Scenes 6-9（pp. 512-524）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第１２回	［テキスト精読］Cabaret, Act One, Scenes 10-12（pp. 524-536）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第１３回	［テキスト精読］Cabaret, Act Two, Scenes 1-4（pp. 537-544）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する	80
第１４回	［テキスト精読］Cabaret, Act Two, Scenes 5-7（pp. 544-552）	翌週に扱う範囲のテクストを読み、質問・回答を Teams に投稿する レポート（４）を Teams に提出する	120

〔授業の方法〕
講義形式。
［テキスト精読］週は、Microsoft Teams の「投稿」機能を使い、該当範囲についての語学上および内容上の質問を投稿したり、他の人の質問に回答をしてください。自分の質問に自分で回答することも可能です。この質問・回答状況が成績の大半を決定します。講義では当日までに回答が得られてなかった質問に答え、また質問には挙がらなかったけれど該当箇所で重要な部分について解説を行います。

〔成績評価の方法〕
質問（2 点×1 回+6 点×11 回）：68 点
レポート（8 点×4 回）：32 点
期末試験は実施しません。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
Larson, Jonathan. Rent: The Complete Book and Lyrics of the Broadway Musical. Applause Theatre & Cinema Books, 2008. ISBN-13: 978-1557837370
Maslon, Laurence, editor. American Musicals: The Complete Books and Lyrics of Eight Broadway Classics 1950 -1969 (Library of America, 2014). ISBN-13: 978-1598532593［絶版なので、PDF ファイルを配布します］

〔参考書〕
日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』（青土社）ISBN-13 : 978-4791772612
その他、講義で随時指示。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学A431（インターテクスチュアリティ）						
教員名	庄司　宏子						
科目№	125133310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
現代アメリカ文学：Post-racial era から white backlash のなかで
1865 年の奴隷制度廃止以降、新たな奴隷制度といわれるジム・クロウ時代から現代のトランピズムに代表される白人ナショナリズムが顕在化するなかで、どのような文学が登場したか、小説、エッセイ、アート、映画、ドキュメンタリーなどを通じて概観します。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・英語文献を読み解く力を身につける。
・社会や文化、歴史を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識する。
・自らの視点で社会や文化的現象をさまざまな関係性において考察する力を獲得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の内容と方法について説明します。	シラバスを読み、授業の内容を把握すること。現代アメリカに関するニュースや情報を集め、自身の関心を育んでください。	30 分
第２回	アメリカ南部のプランテーション：奴隷制度と資本主義（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第３回	アメリカ南部のプランテーション：奴隷制度と資本主義（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第４回	南部からアメリカを考える（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第５回	南部からアメリカを考える（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第６回	再建時代と新たな奴隷制度の登場（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第７回	再建時代と新たな奴隷制度の登場（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第８回	1960 年代の市民権運動から現代の white backlash の時代（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第９回	1960 年代の市民権運動から現代の white backlash の時代（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１０回	1960 年代の市民権運動から現代の white backlash の時代（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について調べてくること。	60 分
第１１回	文学と社会の関わり（1）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１２回	文学と社会の関わり（2）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１３回	文学と社会の関わり（3）	配布したテクストを読み、授業内で提示した課題について考えてください。	60 分
第１４回	文学と社会の関わり（4）	授業内で提示した課題について考えてください。後期の授業で学んだことを振り返り、何を学んだか考えてください。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式。授業では、授業内容に関するクイズや小テストを随時行います。クイズや小テストには成績評価に関わるものがあります。受講者は毎回の授業で CoursePower や Forms にアクセスできる PC を持って来てください。

〔成績評価の方法〕
平常点で成績評価を行います。平常点として、授業内で随時行うクイズおよび小テスト数回程度（40%）、学期末の課題レポート（2,000 字程度で CoursePower から提出。60%）から総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
アメリカ文学史

〔テキスト〕
授業で用いるテクストは PDF ファイルを CoursePower から配布します。
Claudia Rankine, "The Condition of Black Life Is One of Mourning" (Jesmyn Ward, ed. The Fire This Time, Bloomsbury Publishing, 2016)
George Packer, "What Does the Working Class Really Want?" (The Atlantic, Jan. /Feb. 2024)
Elijah Anderson, Black in White Space (U of Chicago P, 2022)
J. D. Vance, Hillbilly Elegy: A Memoir of a Family and Culture in Crisis (Harper, 2016)
J・D・ヴァンス『ヒルビリー・エレジー：アメリカの繁栄から取り残された白人たち』（光文社、2022）
Angie Thomas, The Hate U Give (Walker Books Ltd, 2017)
アンジー・トーマス『ザ・ヘイト・ユー・ギヴ あなたがくれた憎しみ』（岩崎書店、2018）
取り上げる作品は変わるかもしれません。

〔参考書〕
参考書は適宜授業で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
教員メールアドレスは CoursePower で連絡します。

〔特記事項〕
特にありません。

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	英語圏芸術・文学B432（ボディ・アンド・マインド）						
教員名	塚田　雄一						
科目№	125133320	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
シェイクスピアの劇作品を通じて、「身体」について様々な観点から考察する。文化的な観点、政治的な観点、医学的な観点、ジェンダー的な観点など、劇作品に登場する「身体」について多角的に考察することで、各作品の面白さや複雑さへの理解を深める。また、シェイクスピアの劇作品に表れている「身体」に関する当時の社会通念を「身体」に関する現代の社会通念と比較しながら考えることで、「身体」という概念およびそれを構築する特定の時代や地域の社会・文化についての理解をそれぞれ深める。

本授業では、特に以下の四作品を詳しく取り上げる。
『ジュリアス・シーザー』
『リチャード三世』
『マクベス』
『ロミオとジュリエット』

各作品を扱う授業の冒頭に、その作品について「身体」にまつわる根源的な＜問い＞を一つ掲げ、それに応答する形で議論（ときには謎解き）を展開する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）を実現するため、次の３点を到達目標とする。
・ 演劇作品の分析に必要な手法と知識を習得して、演劇作品を批評的に考察することができるようになること。
・ シェイクスピア劇の考察を通じて、過去そして現在の社会や文化について深く考えることができるようになること。
・ グローバル社会の教養であるシェイクスピア劇に親しみ、それについての基礎的な知識を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・シェイクスピア入門講座	シェイクスピア作品についての基本的な知識を予習するとともに、『ジュリアス・シーザー』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第２回	『ジュリアス・シーザー』第１回	授業の内容を復習するとともに、『ジュリアス・シーザー』を読む。	60 分
第３回	『ジュリアス・シーザー』第２回	授業の内容を復習するとともに、『ジュリアス・シーザー』を読む。	60 分
第４回	『ジュリアス・シーザー』第３回	授業内容を復習するとともに、『リチャード三世』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第５回	『リチャード三世』第１回	授業内容を復習するとともに、『リチャード三世』を読む。	60 分
第６回	『リチャード三世』第２回	授業内容を復習するとともに、『リチャード三世』を読む。	60 分
第７回	『リチャード三世』第３回	授業内容を復習するとともに、『マクベス』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第８回	『マクベス』第１回	授業内容を復習するとともに、『マクベス』を読む。	60 分
第９回	『マクベス』第２回	授業内容を復習するとともに、『マクベス』を読む。	60 分
第１０回	『マクベス』第３回	授業内容を復習するとともに、『ロミオとジュリエット』の登場人物や劇の流れを把握しておく。	60 分
第１１回	『ロミオとジュリエット』第１回	授業内容を復習するとともに、『ロミオとジュリエット』を読む。	60 分
第１２回	『ロミオとジュリエット』第２回	授業内容を復習するとともに、『ロミオとジュリエット』を読む。	60 分
第１３回	『ロミオとジュリエット』第３回	授業内容を復習するとともに、期末論述課題の執筆に向けて準備をする。	60 分
第１４回	『ロミオとジュリエット』第４回 まとめ ・シェイクスピア劇から考える「身体」をめぐる問題について	授業内容を復習するとともに、期末論述課題の執筆に向けて準備をする。	60 分

〔授業の方法〕
本授業は基本的には講義が中心となるが、適宜コミュニケーション・ペーパーに記載された受講生の意見や質問に応答する双方向型の講義となる。各回の授業は次の手順で進める。
１．作品の紹介
２．＜問い＞の提示
３．作品分析の実践
４．まとめ（適宜コミュニケーション・ペーパー課題を提示する）
コミュニケーション・ペーパーには、授業内で担当者が取り上げた問題や指定された事柄について自身の考えを記入する。このペーパーで授業への取り組みを評価する。コミュニケーション・ペーパーが出題された翌週の授業の冒頭、コミュニケーション・ペーパーに対して担当者が応答する時間を設ける。

〔成績評価の方法〕
・毎回のコミュニケーションペーパー課題　　７０％
・期末論述課題　　３０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
イギリス文学史の基本的な知識を習得していることが望ましい。

〔テキスト〕
授業で参照する箇所については随時資料を配布するが、関心のある受講生は各作品の翻訳書を手にとることをおすすめする。

〔参考書〕
参考となる文献や映像資料等は随時授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
毎回のコミュニケーション・ペーパーの末尾に質問等を記述することが可能な自由記述欄を設けている。また、CoursePower を利用することも可能。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	宗教と芸術 435						
教員名	大友　彩子						
科目No.	125133350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
This course examines different forms of the arts including visual art, architecture, music, performing arts, literature and others within the context of the history of Christianity. It emphasizes the interrelation between these different genres in relation to a religious background which has been the foundation for the construction of a social context throughout Western history.

〔到達目標〕
Students who undertake this course will learn about the history of the arts and Western culture as related to Christianity, as well as how they can be connected with each other. They will learn basic critical approaches for analyzing arts within religious, political and social contexts. The aims of this course are in accordance with DP2, DP3 and D4.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	Analyzing critically? An introduction to ways to study and consider arts in religious contexts.	revisions/analysis work	60 min
第２回	The Ancient World and the Birth of Christianity	revisions/analysis work	60 min
第３回	Early- to Mid-Medieval Religion and Culture	revisions/analysis work	60 min
第４回	Late Medieval Religion and Culture	revisions/analysis work	60 min
第５回	The Reformation The division between Catholics and Protestants	revisions/analysis work	60 min
第６回	The Renaissance Humanism and Christianity	revisions/analysis work	60 min
第７回	The late 16th and Early 17th centuries Christianity and politics 1	revisions/analysis work	60 min
第８回	The 17th century Christianity and politics 2	revisions/analysis work	60 min
第９回	The 18th century The Enlightenment and Christianity	revisions/analysis work Start planning essay	60 min
第１０回	The 19th century Europe and modernity	revisions/analysis work Working on essay	60 min
第１１回	18th- and 19th-century America	revisions/analysis work Working on essay	60 min
第１２回	19th and 20th centuries Beyond the Western World	revisions/analysis work Finish final essay	60 min
第１３回	20th and 21st century Christianity and the arts in the modern world	Review for exam	60+ min
第１４回	Final Exam (short-answer and essay questions)	Self-review of materials and course	Own choice

〔授業の方法〕
The class will involve analysis of the arts and the historical context, group discussions and mini lectures.

〔成績評価の方法〕
Mini-tests and in class work 30 %
Essay 40%
Final exam 30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
There are no prerequisites for this course.

〔テキスト〕
Materials will be provided by the lecturer.

〔参考書〕
A list will be provided to students in class and via Course Power.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Questions are accepted immediately before and after class.
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	批評理論 436						
教員名	日比野　啓						
科目№	125133360	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
批評理論上重要な 4 つの主題について、それぞれ 3 週間にわたり概観します。
第一部：小説の快楽
第二部：何が「リアル」か
第三部：「内容」と「形式」は一致する？
第四部：小説とその外部

〔到達目標〕
批評理論とは、小説や詩・戯曲、そして広く芸術作品を鑑賞・創作する際に知っていると役に立つ、ものの考えかた・作品のとらえかたを抽象的な言葉でまとめたものですが、その内容はきわめて具体的かつ実践的なものです。講義ではアリストレス『詩学』から 20 世紀後半の構造主義（ロラン・バルト）やポスト構造主義（ジャック・デリダ）まで広範にわたる「理論」を概観しますが、それらについての単なる知識を得ることが目的ではありません。卒業論文などで文学作品を論じる際、どのようなことを書けばよいのかということを実践的に学ぶ機会だととらえてください。これまで無意識に培われてきた自分のものの見方を再検討し、あるいはそれを意識化・言語化できるようになることが最終的な目標です。
これらの目標を達成することによって、DP1/3/4 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：なぜ「文学理論」か？	予習：スティーヴン・ミルハウザー「アウグスト・エッシェンブルク」を読み始めてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第２回	小説とは何か：「語り」（narration）と「描写」（description）	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。2 作者の介入／3 サスペンス／5 書簡体小説／26 描写と語り 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第３回	「語り手」「視点」の諸問題	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。6 視点／7　ミステリー／34 信用できない語り手／46 メタフィクション 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第４回	「内面」の成立	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。9 意識の流れ／10 内的独白／14　人物紹介／25 表層にとどまる 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第５回	事実（facts）と虚構（fiction）、真理（truth）、本当らしさ（reality） 第 1 回小テスト	予習：ハーマン・メルヴィル『ビリー・バッド』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。1 書き出し／8 名前／15 驚き／40 動機づけ 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第６回	理想主義（idealism）およびさまざまな反リアリズム	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。24 マジック・リアリズム／31 寓話／33 偶然／38 シュルレアリスム 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第７回	ミメーシス（mimesis）／表象（representation）とその批判	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。18 天気／22 実験小説／30 象徴性／42 言外の意味 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。 ミッドターム・ペーパーの提出準備を始めてください。	100
第８回	文体と声 第 2 回小テスト	予習：J・D・サリンジャー『キャッチャー・イン・ザ・ライ』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。4 ティーンエイジ・スカース／20 凝った文章／27 複数の声で語る／47 怪奇 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第９回	レトリックとアイロニー	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。11 異化／19 反復／23 コミック・ノベル／39 アイロニー 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１０回	時間と構造	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。36 章分け、その他／43 題名／48 物語構造／50 結末 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１１回	社会・経済 第 3 回小テスト	予習：ヘンリー・ジェイムズ、『ねじの回転』を読み始めてください。 『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。12 場の	100

		感覚／13 リスト／35 異国性／44 思想 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	
第１２回	テクノロジーとメディア	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。16 時間の移動／29 未来を想像する／37 電話／41 持続感 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１３回	伝統 第 4 回小テスト	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。17 テクストの中の読者／21 間テクスト性／28 過去の感覚／45 ノンフィクション小説 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	100
第１４回	到達度確認テスト	予習：講義内容をよく復習してテストに備えてください。	100

〔授業の方法〕
講義形式。レジュメを毎回配布。

〔成績評価の方法〕
小テスト（8 点×4 回）：一つのテーマが終了した翌週に小テスト（12 分）を行います。
小テストは二つのセクションに分かれます。キーワードについて簡単な説明を求めるものと、講義のなかでもっとも印象に残った内容について記すものです。
ミッドタームペーパー：24 点
「語り」と「描写」の違い、多様な「語り手」「視点」や、様々な「内面」の描写など、それまで学んだことをもとに、「自分が今日大学に来るまでのこと」を小説にして書いてもらいます。「朝起きて家を出るまで」「家を出てから大学の門をくぐるまで」「大学の門

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。批評理論の基本概念を理解し、作品を読むにあたって適用できるかに着目して、その達成度を評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
ロッジ、デイヴィッド。『小説の技巧』。柴田元幸・斎藤兆史訳、白水社、1997 年。ISBN-13: 978-4560046340
サリンジャー、J・D。『キャッチャー・イン・ザ・ライ』。村上春樹訳、白水社、2006 年。ISBN-13: 978-4560090008
メルヴィル、ハーマン。『ビリー・バッド』。 飯野友幸訳、光文社古典新訳文庫、2012 年。ISBN-13: 978-4334752637
ジェイムズ、ヘンリー。『ねじの回転』。小川高義訳、新潮文庫、2017 年。ISBN-13: 978-4102041031
ミルハウザー、スティーヴン。『イン・ザ・ペニー・アーケード』。柴田元幸訳、1998 年。ISBN-13: 978-4560071236

〔参考書〕
多数。初回授業時に詳細なリストを配布。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本文学研究の基礎						
教員名	浜田　雄介						
科目№	125211700	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
大学において日本文学を研究することの意味と、その方法を学ぶ。

〔到達目標〕
日本文学研究のさまざまな視点や方法を理解し、研究の楽しみを見出す基礎力を身につける。
「ＤＰ１－３を中心として、ＤＰ１【専門分野の知識・技能】、ＤＰ２【教養の修得】、ＤＰ３【課題の発見と解決】、ＤＰ４【表現力、発信力】」に関わる力を養うことが目標である。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読み、講義に対するイメージを作っておく。	60
第２回	日本文学研究の歴史について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第３回	本文と書誌について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第４回	語り手と視点について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第５回	ストーリーとプロットについて	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第６回	言語と虚構性について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第７回	文体について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第８回	作者と作家について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第９回	メディアと読書行為について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１０回	時代背景について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１１回	批評理論について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１２回	資料の収集について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１３回	論文の書き方について	当該テーマについて自分なりの考察をまとめて講義に臨む。	60
第１４回	反省会	半期で学んだことを振り返り、今後の研究のデザインを考える。	60

〔授業の方法〕
各テーマについての講義を中心とするが、必要に応じてディスカッションやディベートを取り入れる。またほぼ毎回、課題やリアクションメールを集め、翌週にフィードバックする。
「授業の計画・内容」に記したテーマは基本の枠組みであり、講義の展開および受講者の関心に応じて順序や時間数を変更することがある。

〔成績評価の方法〕
授業時発表の課題などリアクションメール 75%、授業内の発言など平常点 25%の割合で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は必要ないが、文学作品やそれをめぐる論考を普段から読んでいれば、理解が深まるであろう。

〔テキスト〕
必要に応じ講義時に配布またはコースパワーに掲示する。

〔参考書〕
講義中に随時指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
何かあればリアクションメールに書き添えてほしい。オフィスアワーはポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語研究の基礎						
教員名	岡部　嘉幸						
科目№	125211800	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
言語の研究には、言語に様々な側面があるのに対応して様々な研究分野が存在します。この授業では、音の側面から言語を扱う「音声学」「音韻論」、文字の側面から言語を扱う「文字論」、意味とそれを表す単位の側面から言語を扱う「意味論・語彙論」という側面から現代日本語の構造を理解し、日本語研究のための基礎知識を身に着けます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）実現のために、以下の３点を到達目標とします。
①日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関する基礎知識を習得できるようになる（→DP１）
②日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を用いて現代日本語の構造を理解できるようになる（→DP3）
③日本語の音声・音韻、文字、意味・語彙に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に文章で説明できるようになる（→DP4）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 音声・音韻①：音声・単音	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第２回	音声・音韻①：音声・単音（つづき） 音声・音韻②：音韻・音素	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第３回	音声・音韻③：音節・モーラ	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第４回	音声・音韻④：アクセント	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第５回	小テスト① 小テスト①解説	第１回～第４回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第６回	文字①：文字の性格・漢字	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第７回	文字②：仮名・ローマ字・補助符号	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第８回	意味・語彙①：意味・意味の体系	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第９回	意味・語彙②：意味の諸相・意味の拡張	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	小テスト② 小テスト②解説	第６回～第９回の授業内容を復習し、理解した上で、小テストに臨む。	90
第１１回	意味・語彙③：語構成	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	意味・語彙④：ことばの位相	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	授業の振り返りと補足	これまでの授業全体の内容について振り返り、理解が不足している点を明らかにしておく。	90
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第１回～第 12 回までの授業内容を復習し、その内容を理解しておく。	120

〔授業の方法〕
講義形式で行います。各回の授業後（ただし第５回、第 10 回、第 14 回は除く）に course power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
また、第５回と第 10 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は、
・第５回小テスト：第１回～第４回の授業内容
・第 10 回小テスト：第６回～第９回の授業内容
となります。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか

・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。
また、第 14 回に授業内容全体の理解度の確認のための授業内テストを行います。テストの範囲は、
・第 1 回～第 12 回の授業内容すべて（小テストの範囲も含む）です。
テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。

〔成績評価の方法〕
・小テスト（第 5 回、第 10 回）の成績 30%
・第 14 回の授業内容の確認のための授業内テストの成績 50%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況） 20%
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語法						
教員名	岡部　嘉幸						
科目№	125211850	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
「文法」とは「文」を「文」として成り立たせる規則のことです。この授業では、現代日本語の文法を、主に、日本語の文を構成する要素（素材）にはどのような性質のものがあるかという観点から概観し、普段私たちが使用している日本語という言語の特性をより深く理解することを目指します。日本語の文を構成する要素には単語と文節とがありますが、第 2 回から 12 回までは単語の種類分けである「品詞」について、第 13 回は文節の種類分けである「文の成分」のうち、特に重要な「主語」についてその基礎的事項を学習します。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力・発信力）実現のために、以下の３点を到達目標とします。
①現代日本語の文法に関する基礎知識を習得できるようになる（→DP１）
②現代日本語の文法に関して習得した基礎知識を用いて日本語を分析できるようになる（→DP3）
③日本語の文法に関して習得した基礎知識を他者にわかりやすく、論理的に説明できるようになる（→DP4）

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 導入：文法とは・文法上の単位	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第２回	日本語の品詞分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第３回	動詞・動詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第４回	形容詞・形容詞の分類	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第５回	形容動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第６回	小テスト① 小テスト①解説	第 2 回～第 5 回の授業内容を復習し、ノートにまとめておく。	90
第７回	名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第８回	助動詞①：助動詞とは・時間的意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第９回	助動詞②：非現実的な意味に関わる助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１０回	助動詞③：主語の特別な立場を表わす助動詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	90
第１１回	助詞①：格助詞・副助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１２回	助詞②：接続助詞・終助詞	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１３回	主語	授業資料にあらかじめ目を通しておく。 course power の小課題に取り組み、授業内容の復習を行う。	60
第１４回	授業のまとめ 授業内容の理解度の確認	第 2 回～第 13 回までの授業内容について復習して、ノートにまとめておく。	90

〔授業の方法〕
講義形式で行います。各回の授業後（ただし第 6 回は除く）に course power で小課題を出すので、指定された期限までに必ず小課題に解答してください。
第 6 回に授業内容の理解度を確認する小テストを行います。テスト範囲は第 2 回～第 5 回の授業内容です。小テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。
また、第 14 回に授業内容の理解度を確認する授業内テストを行います。試験範囲は、第 2 回～第 13 回の授業内容すべて（小テストでの範囲も含みます）です。

テストは基本的に筆記形式（一部記号選択問題・穴埋問題も含む） で行います。評価の観点は、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点です。

〔成績評価の方法〕
・小テスト（第 6 回）の成績 20%
・授業内容の理解度確認のための授業内テスト（第 14 回）の成績 60%
・平常点（授業への参加状況や小課題の達成状況） 20%
により総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
評価にあたっては、
・授業内容を十分に理解しているか
・理解した内容を他者にわかりやすく論理的に文章化できているか
の 2 点を重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし。毎回授業プリントを配布します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典日本文学史Ａ						
教員名	吉田　幹生						
科目№	125231100	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
古典日本文学の展開を、具体的な作品に即しながら講義する。今年度は、韻文作品を対象とする。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①古典日本文学（韻文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できる。
②個別の作品についても、自分の力でそれを鑑賞し、史的に位置づけることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	古代歌謡	大学図書館にある概説書などを利用して、古代歌謡の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第２回	『万葉集』の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、『万葉集』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第３回	柿本人麻呂	大学図書館にある概説書などを利用して、柿本人麻呂の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第４回	『古今和歌集』の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、古今和歌集の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第５回	紀貫之	大学図書館にある概説書などを利用して、紀貫之の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第６回	平安和歌の展開	大学図書館にある概説書などを利用して、平安和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第７回	『新古今和歌集』の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、『新古今和歌集』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第８回	藤原定家	大学図書館にある概説書などを利用して、藤原定家の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第９回	中世和歌の展開	大学図書館にある概説書などを利用して、中世和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１０回	近世和歌の展開	大学図書館にある概説書などを利用して、近世和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１１回	連歌の成立と展開	大学図書館にある概説書などを利用して、連歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１２回	近世俳諧	大学図書館にある概説書などを利用して、近世俳諧の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１３回	松尾芭蕉	大学図書館にある概説書などを利用して、松尾芭蕉の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１４回	日本漢詩の世界	大学図書館にある概説書などを利用して、日本漢詩の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60

〔授業の方法〕
講義形式による。
授業中に課す課題や、レポート課題あるいは学期末試験については、授業内容についてだけではなく、一般的な入門書や概説書に載っている内容についても理解していることが求められる。そのため、基本事項を中心に、自分自身で知識を身に着けるという習慣を身につけてほしい。

〔成績評価の方法〕
授業中に課す課題（４０％）及びレポート課題あるいは学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典日本文学（韻文作品）について、基本的な知識が身についているか。
②古典日本文学（韻文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できるか。
③古典日本文学の具体的な作品について、自分の力でそれを解釈することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ないが、中学校レベルの日本史の知識や文学作品の名前は既に知っているものとして話をする。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
初めて日本の古典文学を学ぶ人向けの入門書などはその都度紹介する。
なお、研究書などより高度な「参考書」を知りたい人は、直接質問してほしい。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学史Ａ						
教員名	浜田　雄介						
科目№	125231120	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
主として明治維新以降、大正中期までの日本文学を概説する。およそ時代の流れに沿って、それぞれの時代の人々が何を表現しようとしたのかを考えるとともに、その表現をめぐる問題意識が前後の時代にどのように展開したかをたどることで、今日の視点から文学的遺産を活性化できたらと願う。

〔到達目標〕
文学史科目であり、DP1-1、DP1-3 にあたる近現代日本文学史をめぐる基礎知識を得ることを到達目標とする。
ただし、そもそも文学史とは、それを語る視座からその都度再構築されるものであって、つまり DP3-1、DP3-2、DP3-3 にあたる能力を身につけることこそが文学史を楽しむ上で必須のものである。そして文学と文学ならざるものを分けたり関係を考えたりすることもまた必須の知的作業であり、結果的に DP2-1 にあたるセンスが身につくことも期待したい。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 文学史についての概説	これまでの読書体験（特に近代日本の文学作品）を振り返っておく。	１０分
第２回	戯作と口承芸術	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第３回	政治小説の展開	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第４回	近代小説の始動	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第５回	新聞と文学	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第６回	詩歌の近代	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第７回	日清日露戦争と文学	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第８回	自然主義の革命	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第９回	耽美派の反近代	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１０回	同人雑誌の運動	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１１回	私小説と大衆文学	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１２回	演劇・映画の新潮流	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１３回	震災以降、昭和への展開	指定した資料や作品に目を通しておく。	９０分
第１４回	授業内試験	半期の授業を振り返り、自らの問題意識を育てておく。	９０分

〔授業の方法〕
半期の講義全体としては、およそ時代順に文学史を学ぶが、設定したテーマにそって前後の時代についても考察する。個別の授業に関しては、授業時間のおよそ半分を、事前に指定した作品または資料をめぐるディスカッションとし、およそ半分を教員の講義に充てる予定である。授業が参加者全員のものである以上、この時間配分や順序、スタイルは必要に応じて変化するが、大きな変更に関してはその都度確認をとる。

〔成績評価の方法〕
授業中の発言、リアクションメールなどを 50%、最終回の授業内試験を 50%という目安で評価する。授業中に手を挙げる勇気を高く評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文学作品を読んでいればいるほど、授業を自分のものとして楽しめるであろう。
科目の性格上、あらゆる文学関連科目のほかに歴史関係の科目も参考になろう。

〔テキスト〕
資料は随時コースパワーに掲示、または配布する。

〔参考書〕
安藤宏『日本近代小説史　新装版』　中公選書 110　　1700 円＋税　　ISBN978-4-12-110110-5

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業時またはメールで受け付ける。オフィスアワーはポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の歴史Ａ						
教員名	久保田　篤						
科目№	125232100	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
日本語が大きな変化を遂げてきたことは古典文学作品などを読むと分かりますが、時代・時期により少しずつ異なる様相を呈することも長年の研究の結果、明らかになっています。現代日本語について考える場合でも、過去の時代の日本語に関する知識が必要になることが多いので、日本語の歴史についてなるべく詳しく学んでもらいたいと思います。
授業では、日本語の歴史を古代語と近代語とに大きく二分した場合の、古代語から近代語への変化について、文法上の変化を中心に、どのような変化が生じたのか、変化はなぜ起こったと考えられるか等の点を中心に、詳しく解説します。なお、授業の進捗によって、内容や順序を一部変更する場合があります。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。
②古代語と近代語に関する詳細な知識を身につける。
③日本語史資料から近代語化事象に関わる用例を収集し、的確に解釈・分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の説明 古代語・近代語について ・主要近代語化概観	日本語史に関する知識を確認しておく。 課題を復習する。	60
第２回	終止・連体形の合一化（１） ・連体形終止の増加	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第３回	終止・連体形の合一化（２） ・終止形の消滅 二段活用の一段化	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第４回	活用の種類の減少 格助詞の体系の整備（１） ・主格助詞「が」の成立①	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第５回	格助詞の体系の整備（２） ・主格助詞「が」の成立② ・論理的傾向 接続語の増加	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第６回	助動詞の減少・改新（１） ・過去・完了の助動詞 ・断定の助動詞	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第７回	助動詞の減少・改新（２） ・推量の助動詞 ・分析的傾向	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第８回	係結びの衰退（１） ・ゾ・ナム・ヤ・カの場合	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第９回	係結びの衰退（２） ・コソの場合	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１０回	形容詞カリ活用の衰退	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	90
第１１回	待遇表現の変化 ・丁寧語・丁重語の成立 ・聞手待遇の発達	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１２回	条件表現の変遷 和漢の混淆	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１３回	話し言葉と書き言葉の乖離 近代語化諸事象の関係	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	120
第１４回	到達度確認課題レポートの執筆・提出	前期学修内容を確認しておく。 レポートを作成する。	120

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進めますが、知識の確認のために、毎回課題を提示し、事項の説明をしたり用例採集を行ったりしてもらいます。

〔成績評価の方法〕

到達度確認のための課題レポート（60%）、課題への取り組みなど授業参加状況（40%）による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を説明できる。
②古代語と近代語の違い、及び奈良時代の日本語に関する詳細な知識を習得している。
③日本語資料から的確な用例を採集できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の歴史Ｂ						
教員名	久保田　篤						
科目№	125232110	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
平安時代の日本語については、一部は古典文法としてよく知られていがますが、文法以外の平安時代語の実態や、上代および中世以降の各時代の日本語に関する知識を有する人は少ないと思われます。現代語について考える場合でも、過去の時代の日本語に関する知識が必要になることが多いので、日本語の歴史について詳しく学ぶことは大事なことです。
授業では、各時代の日本語の概要・特徴を解説します。日本語史資料を見てもらったり、課題を提示して授業中に考えてもらったりして、知識を深めることも試みます。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合があります。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・理解）、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①日本語の歴史に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。
②上代・中古・中世・近世の日本語に関する専門的な知識を身につける。
③日本語史資料から各時代の特徴に関わる用例を収集し、的確に解釈・分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	上代の日本語資料 ・金石文 ・上代文献資料	日本語史に関する知識を確認しておく。 課題を復習する。	60
第２回	上代の文字 ・漢字用法の分類 ・万葉仮名の分類	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第３回	奈良時代語の音韻 ・上代特殊仮名遣の甲類・乙類 ・語音法則など	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第４回	奈良時代語の文法（１） ・活用の種類 ・ク語法 ・ミ語法	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第５回	奈良時代語の文法（２） ・上代語特有の助動詞 奈良時代の語彙	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第６回	平安時代語の資料 ・和文資料・訓点資料 ・古辞書	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第７回	平安時代語の文字 ・平仮名・片仮名の成立 平安時代語の語彙 ・和文語と漢文訓読語	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第８回	平安時代語の音韻 ・ハ行転呼音 ・音便の発生	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第９回	院政・鎌倉時代の日本語 室町時代語の資料 ・抄物、狂言 ・外国資料	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１０回	室町時代語の音韻 室町時代語の語彙	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１１回	室町時代語の敬語 ・丁寧語の発達 江戸時代初期の日本語	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１２回	江戸時代前期の日本語 ・資料 ・音韻、文字 ・語法、敬語	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	60
第１３回	江戸時代後期の日本語 ・資料 ・音韻、文字 ・語法、待遇表現	授業資料を見ておく。 課題を復習する。	120
第１４回	到達度確認課題レポートの執筆・提出	これまでの学修内容を確認する。 レポートを作成する。	120

〔授業の方法〕

授業は講義を中心に進めますが、毎回課題を提示し、事項の説明や用例の採集等を行ってもらいます。

〔成績評価の方法〕
到達度確認課題レポート（60%）、課題への取り組みなど授業参加状況（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①日本語の歴史や日本語史資料に関する基礎的な事項について説明できる。
②上代・中古・中世・近世の日本語に関する専門的な知識を習得している。
③資料から用例を収集し、的確な解釈・説明ができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義Ａ						
教員名	屋名池　誠						
科目№	125232120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
日本語の文字・表記
日本語の文字・表記は、世界的に見て、もっとも複雑な部類に属すといえる。多様性に富んだ日本語の実態を検討してゆくことを通して、人類の言語における文字の位置・役割という本質的な問題を考える手がかりを得ることをめざす。
引き続いて後期の日本語学講義Ｂを履修することが望ましい。

〔到達目標〕
１．日本語の実例を通して、文字・表記の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。
２．日常の生活で遭遇する、文字・表記をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	日本語の文字・表記は英語のそれに比べ、どういう点が複雑なのか、考えておく。	60 分
第２回	文字とは何か・文字とその周辺の記号	文字と絵、絵記号などのちがいについて考えておく。	60 分
第３回	文字の存在意義	文字がなければ我々の社会はどうなってしまうのか、考えておく。	60 分
第４回	文字の機能	日常生活のどういう場面で、どのように文字は使われているのか、観察しておく。	60 分
第５回	文字と文字言語	文字であらわされる言語と、音声で伝えられる言語はどこが違うのか、考えておく。	60 分
第６回	文字のかたち（１）	日本語の文字のかたちを日本語を知らない外国人に教えるにはどうしたらよいか、考えておく。	60 分
第７回	文字のかたち（２）	授業で学んだことを、即日、日常生活で検証する。	60 分
第８回	文字と言語との対応（１）	英語を漢字で書くことはなぜできないのか、考えておく。	60 分
第９回	文字と言語との対応（２）	授業で学んだことを、即日、日常生活で検証する。	60 分
第１０回	文字と言語との対応（３）	授業で学んだことを、他の言語の表記などについて検証してみる。	60 分
第１１回	表記規則（１）	内閣告示「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）や参考書類に眼を通しておく。	60 分
第１２回	表記規則（２）	内閣告示「現代仮名遣い」「送り仮名の付け方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）や参考書類に目を通しておく。	60 分
第１３回	表記規則（３）	授業で学んだことを、即日、日常生活で検証する。	60 分
第１４回	平面図形としての文字	文字がでたらめに並んでいたり、一列に並ぶのではなく平面上に散在していたらどういうことがおきるのか、考えておく。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式でおこなう。

〔成績評価の方法〕
定期試験ないしレポート（９０％）、平常点（１０％）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。
引き続いて日本語学講義 B を履修することが望ましい。

〔テキスト〕
使用しない。

〔参考書〕
樺島忠夫『日本の文字』（岩波新書）
樺島忠夫編『事典日本の文字』（大修館書店）
屋名池誠『横書き登場』（岩波新書）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義Ｂ						
教員名	屋名池　誠						
科目№	125232130	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
日本語の文字・表記
日本語の文字・表記は、世界的に見て、もっとも複雑な部類に属すといえる。多様性に富んだ日本語の実態を検討してゆくことを通して、人類の言語における文字の位置・役割という本質的な問題を考える手がかりを得ることをめざす。
前期の日本語学講義 A を踏まえた内容なので日本語学講義 A から引き続いて履修することが望ましい。

〔到達目標〕
１．日本語の実例を通して、文字・表記の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。
２．日常の生活で遭遇する、文字・表記をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	漢字の書体	「甲骨文字」「篆書」などについて、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第２回	漢字の字体（１）	「漢字の字体」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第３回	漢字の字体（２）	「部首」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第４回	漢字の読み―音	「音読み」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第５回	漢字の読み―訓	「訓読み」について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第６回	音の読み分け、音訓の読み分け	われわれはなぜ漢字を一瞬で音と訓に読み分けられるのか、考えておく。	60 分
第７回	ひらがな・カタカナの成立	「ひらがな」「カタカナ」の歴史について、参考書などで一応の知識を得ておく。	60 分
第８回	ひらがな・カタカナの字体	同上。	60 分
第９回	前近代通行の仮名表記	新事実を扱うので、予習よりも復習をしっかりすること。	60 分
第１０回	かなづかい	現在の仮名の書き方と、古文などで用いる旧仮名遣い（歴史的仮名遣い）はどう違うのか、観察しておく。 内閣告示「現代仮名遣い」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）に目を通しておく。	60 分
第１１回	漢字・ひらがな・カタカナ混用システム（１）	内閣告示「送り仮名の付け方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）に目を通しておく。	60 分
第１２回	漢字・ひらがな・カタカナ混用システム（２）	漢字やカタカナを使わず、ひらがなばかりで表記することになったらどういうことが起きるか、考えておく。	60 分
第１３回	ローマ字専用システム	内閣告示「ローマ字のつづり方」（辞書の付録などに収録。文部科学省のサイトでも閲覧できる）に目を通しておく。	60 分
第１４回	日本語の文字の二次元的展開	「縦書き」「横書き」について、参考書などで知識を整理しておく。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式でおこなう。

〔成績評価の方法〕
定期試験ないしレポート（９０%）、平常点（１０%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特別な知識は必要としない。
日本語学講義 A と一連の内容なので、日本語学講義 A から引き続いて履修することが望ましい。

〔テキスト〕
使用しない。

〔参考書〕
樺島忠夫『日本の文字』（岩波新書）
樺島忠夫編『事典日本の文字』（大修館書店）
林史典編『朝倉日本語講座 2 文字・書記』（朝倉書店）
笹原宏之『日本の漢字』（岩波新書）
笹原宏之『訓読みのはなし』（角川ソフィア文庫）
築島裕『歴史的仮名遣い』（中公新書）
今野真二『振仮名の歴史』（集英社新書）
屋名池誠『横書き登場』（岩波新書）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語学講義C						
教員名	木村　一						
科目№	125232140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
日常，辞書をネットをはじめ頼りにしているにもかかわらず，その実態にはあまり関心がはらわれることがない。そこで，日本語の辞書について考えてみることとする。
辞書は古代から現代にかけてあらわされ，その種類もきわめて豊富である。古代から現代の辞書の定義，分類，歴史や特徴といった概説的な面に留意しながら，辞書の広く深い世界を実感していきたい。
あわせて，諸種の辞書を日本語文献資料として扱い，各時代の日本語の様相を確認し，また変遷を明らかにする。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）を実現するため，次の３点を到達目標とする。
①日本語学的見解から，辞書の位置づけ・特徴を説明できる。
②日本語学的事象について，辞書を適切に利用して説明できる。
③様々な資料を用いることで，諸事象を日本語学的に整理，調査，考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	辞書の定義と分類	辞書とは何かを考えておく。	60
第２回	日本における辞書の歴史	変遷について調べておく。	90
第３回	古代の辞書	漢字の受容について考えておく。	90
第４回	中世の辞書	分類について調べておく。	90
第５回	近世の辞書	諸方面への展開を整理しておく。	90
第６回	節用集	種類について整理しておく。	90
第７回	唐話辞書	当時の時代背景を確認しておく。	90
第８回	蘭和和蘭辞書	蘭学について調べておく。	90
第９回	近代の辞書	近代的な辞書の特徴を整理しておく。	90
第１０回	英華華英字典	日本語への影響を調べておく。	90
第１１回	英和和英辞書	誰に向けられたものなのかを確認しておく。	90
第１２回	漢語辞書・漢和辞書	どのような場面で使用しているのかを考えておく。	90
第１３回	国語辞書	日常使用している辞書をあらためて考え直しておく。	90
第１４回	まとめ	各回を振り返り，到達度の確認のテストを行う。	90

〔授業の方法〕
講義形式で，各題材を扱いながら，関連資料の利用方法などの説明を行う。なお，必要に応じて，プリントなどの資料を配布して，受講者による調査・作業・報告も行う予定である。

〔成績評価の方法〕

授業内試験（70%），平常点（30%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し，その到達度により評価する。
①日本の辞書に関する専門的な知識を身につけ，その内容を的確に説明できる。
②各回を十分に理解し，内容を分かりやすく説明できる。
③様々な資料から必要な情報を読み取り，活用することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
『図説 日本の辞書 100 冊』（沖森卓也編，武蔵野書院） 2,500 円（税抜） ISBN コード 978-4-8386-0660-3

〔参考書〕
『日本の辞書の歩み』（辞書協会編，辞書協会）
『図説日本の洋学』（惣郷正明，築地書館）
※ 購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。メールアドレスは，講義時に伝える。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文学作品をどう読むか						
教員名	康　潤伊						
科目№	125233100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

〔到達目標〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義A						
教員名	中嶋　真也						
科目№	125233110	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本講義のテーマは、『万葉集』読解です。
日本現存最古の歌集『万葉集』を読み進めていきます。現在から 1000 年以上も前、漢字のみで書かれ、まったく別世界の作品のように思えてしまうかもしれませんが、読み解いてみると現代の我々にも通ずるところが少なくないことに気づかされます。
本講義では、『万葉集』巻第八を取り上げます。この巻は、春夏秋冬の季節を軸に、それぞれ「雑歌」「相聞」とに分類されています。各部立の代表的な歌を取り上げ、それらを精読して、古代の人々の季節観や恋愛事情などを把握していくことを目的とします。

〔到達目標〕
①DP1-1（専門分野の知識・技能）を実現するために、『万葉集』に関する基礎知識を習得する。
②DP3-3（課題の発見と解決）を実現するために、『万葉集』の歌を自分の力で読み解けるようになる。
③DP1-3（専門分野の知識・技能）を実現するために、古代文学史を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 『万葉集』概要	『万葉集』や『古今和歌集』に関して、本などから理解を深めましょう。	60
第２回	春雑歌を読む①	1 回目の授業を復習し、人物などの理解が的確か確認しましょう。	60
第３回	春雑歌を読む②	2 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第４回	春相聞を読む	3 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第５回	夏雑歌を読む	4 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第６回	夏相聞を読む	5 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第７回	秋雑歌を読む①	6 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第８回	秋雑歌を読む②	7 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第９回	秋相聞を読む①	8 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１０回	秋相聞を読む②	9 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１１回	冬雑歌を読む	10 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１２回	冬相聞を読む	11 回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１３回	『万葉集』巻第八のまとめ	１２回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第１４回	到達度確認テスト	到達しえていなかった箇所を学びなおしましょう。	60

〔授業の方法〕
・主に講義形式で行いますが、適宜ワークシートなど利用して、自ら思考してもらいます。
・毎回の授業のふりかえりを、授業後課題として、e－ラーニングを活用して行います。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 70%、平常点（課題の提出状況や授業への参加状況）30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・取り上げた古代文学作品の基礎知識を習得しているか。
・取り上げた古代文学作品の読解は正確か。
・講義内容を理解し、自分自身のことばで、的確に記述できているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特になし。
プリントを適宜配布します。

〔参考書〕
必要に応じて、授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義B						
教員名	桜井　宏徳						
科目№	125233120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
＊紀貫之の和歌を読む＊
平安時代を代表する歌人の一人であり、初の勅撰和歌集『古今和歌集』の編纂を主導し、その「仮名序」を執筆したほか、同じく初の日記文学である『土佐日記』を著すなど、仮名文学の事実上の創始者として、日本の文学・文化史上に大きな足跡を残した紀貫之の和歌を読んでゆく授業です。主に『古今和歌集』『貫之集』『土佐日記』の和歌を扱います。
貫之の和歌を分析・鑑賞することを通じて、その後長く古典和歌の規範となった『古今和歌集』時代の和歌のさまざまな表現と発想の特色を明らかにすることをめざします。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の 2 点を到達目標とします。
① 紀貫之の作品を通じて、『古今和歌集』時代の和歌について理解を深める。
② 古典和歌の基礎知識を身につけ、各自で和歌を鑑賞できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／紀貫之概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第２回	歌人としての始発	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第３回	新たな和歌表現の模索	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第４回	『古今和歌集』前夜	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第５回	『古今和歌集』の春の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第６回	『古今和歌集』の秋・冬の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第７回	『古今和歌集』の恋の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第８回	『古今和歌集』の離別・羇旅・哀傷・雑の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第９回	『貫之集』の屏風歌（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１０回	『貫之集』の屏風歌（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１１回	『貫之集』の恋・雑の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１２回	『土佐日記』の船旅の歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１３回	『土佐日記』の哀傷歌	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１４回	『貫之集』に見る晩年の歌風と辞世の歌／レポート課題提示	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行います。毎回プリントを配布し（スクリーンに PDF ファイルも映写します）、それに沿って講義を進めます。また、必要に応じて画像・写真などの視覚資料も適宜提示します。
レポートはすべての授業回を対象とし、紀貫之や古典和歌についての基礎知識が身についているかどうかを確認する内容とします。

〔成績評価の方法〕

レポート（80%）と授業参加度（20%：リアクションペーパー等）によって評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に予備知識は必要ありませんが、他の平安文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

〔参考書〕
高田祐彦 訳注『新版 古今和歌集　現代語訳付き』〈角川ソフィア文庫〉（角川学芸出版、2009 年）
木村正中 校注『土佐日記　貫之集』〈新潮日本古典集成〉（新潮社、1988 年）
いずれも購入の必要はありません。その他、授業時に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。また、メールでも受け付けます（メールアドレスは初回の授業時に公開します）。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義C						
教員名	吉野　瑞恵						
科目№	125233130	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
『源氏物語』に描かれた執着の恋
　この講義では、『源氏物語』に描かれた恋に身を滅ぼす二人の登場人物を取り上げ、この物語が人間の執着の問題をどのように扱おうとしていたのかについて考える。さらに、『源氏物語』以降の文学作品に、執着の問題がどう継承されていくのかについても見ていきたい。
　具体的には、光源氏に対する執着のあまり、生霊となって正妻の葵の上を取り殺してしまう六条御息所をめぐる物語と、光源氏が四十歳になってから迎えた若く高貴な妻・女三の宮に恋をして身を滅ぼす柏木をめぐる物語を取り上げる。
　さらに、鎌倉時代に書かれた宮廷女性の自伝『とはずがたり』において、柏木の恋がどのように継承されているのか考察する。

〔到達目標〕
① 文学作品の読解を通して、作品を深く理解する力を身に付ける。
② 『源氏物語』の特質について考察を深める。
③ 平安時代の社会や文化に関する知識を身に付ける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『源氏物語』概説 ・物語の概要を解説する。	『源氏物語』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	光源氏、 六条御息所のもとに通う（「夕顔」巻）	『源氏物語』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。	60
第４回	六条御息所、生霊になる（「葵」巻）	これまでの『源氏物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第５回	六条御息所、伊勢に下る（「賢木」巻）	これまでの『源氏物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第６回	柏木、女三宮を垣間見する（「若菜上」巻）	これまでの『源氏物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第７回	柏木、女三宮と密通する（「若菜下」巻）	これまでの『源氏物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第８回	柏木、執着を残して死去する（「柏木」巻）	これまでの『源氏物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第９回	『源氏物語』は執着の問題をどのように扱っているのか	これまでの『源氏物語』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１０回	『とはずがたり』概説	『とはずがたり』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。	60
第１１回	二条と有明の月の恋	『とはずがたり』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。	60
第１２回	有明の月の起請文	これまでの『とはずがたり』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１３回	有明の月の死	これまでの『とはずがたり』の流れを確認し、授業後は、配布した資料を熟読する。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕
・ 授業は講義を中心に進める。授業中には毎回リアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
・ 到達度テストは、授業全体の内容について理解度を確認するものである。
・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの内容）40%、到達度確認テスト 60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った作品の特徴について説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
古文を読むことができる基礎的な知識。

〔テキスト〕
以下のテキストをコピーして配布する。
『源氏物語』１～６（阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男　校注・訳）　小学館新編日本古典文学全集
『建礼門院右京大夫集　とはずがたり』(久保田淳　校注・訳）小学館新編日本古典文学全集
購入の必要なし

〔参考書〕
参考文献については授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古代日本文学講義D						
教員名	吉野　瑞恵						
科目№	125233140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
『源氏物語』に登場する中流貴族女性たち
　平安時代の物語は、中流貴族女性たちによって生み出されたと考えられるにもかかわらず、上流貴族の社会を舞台にしており、中流貴族たちが前面に出てくることはない。光源氏の恋の相手となるのも、藤壺や紫の上、六条御息所など、多くは上流貴族の女性たちである。そのような中で、上流貴族ではないものの、独自な存在感を持った女性たちが登場する。中流貴族の後妻となった空蝉や、受領の娘として育った明石の君などである。その他にも上流貴族に仕える女房たちの多くは中流貴族の出身で、彼女たちは物語の中で目立たないものの欠かせない存在でもある。
　この講義では、これらの女性たちがどのように描かれているのか考えてみたい。具体的には次のような問題について考察する予定である
　　①　上流貴族男性は中流貴族女性をどのように見ていたのか。平安時代の身分意識の特色。
　　②　物語は身分違いの恋をどのように語ろうとしているのか。

〔到達目標〕
以下の２点を到達目標とする。
①平安時代の文化や社会に関する深い知識を身に付ける。
②『源氏物語』をはじめとする平安時代の物語を原文で読解し、深く理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60
第２回	『源氏物語』概説 ・物語の舞台に着目しながら、『源氏物語』の概略について説明する。	『源氏物語』についての文学史的な知識をあらかじめ確認し、配布資料を熟読する。	60
第３回	中の品の女（帚木巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、帚木巻の該当箇所を熟読する。	60
第４回	光源氏と空蝉との契り（帚木巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、帚木巻の該当箇所を熟読する。	60
第５回	空蝉の複雑な心中（帚木巻・空蝉巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、帚木巻・空蝉巻の該当箇所を熟読する。	60
第６回	謎の女性・夕顔（夕顔巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、夕顔巻の該当箇所を熟読する。	60
第７回	光源氏と明石の君との出会い（明石巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、明石巻の該当箇所を熟読する。	60
第８回	明石の君出産（澪標巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、澪標巻の該当箇所を熟読する。	60
第９回	明石の君上京（松風巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、松風巻の該当箇所を熟読する。	60
第１０回	明石の姫君、紫の上の養女となる（薄雲巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、薄雲巻の該当箇所を熟読する。	60
第１１回	夕霧の恋人・藤典侍（少女巻・藤裏葉巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、少女巻・藤裏葉巻の該当箇所を熟読する。	60
第１２回	浮舟の母・中将の君（宿木巻・東屋巻）	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、宿木巻・東屋巻の該当箇所を熟読する。	60
第１３回	『源氏物語』の召人たち	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布資料を熟読する。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの授業の資料を整理し、半年の授業内容を総合的に理解する。	120

〔授業の方法〕
・ 授業は講義を中心に進める。授業後にリアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
・　授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。
＊授業で扱う場面は、シラバスと異なる可能性があります。

〔成績評価の方法〕
毎回のリアクションペーパー（４０％）、到達度確認テスト（６０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。
・授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
『源氏物語』に関する基礎的な知識。

〔テキスト〕
以下のテキストの一部をコピーして配布します。購入の必要はありません。
阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男『源氏物語①～⑥』小学館新編日本古典文学全集。

〔参考書〕
授業中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義Ａ						
教員名	清水　由美子						
科目№	125233150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

治承・寿永の内乱を描いた『平家物語』は一般にも広く読まれ、中学・高校でも必ず取り上げられる古典文学の代表的な作品である。武家社会へと移り変わる時代の、宗教・文化・社会といった実態を知るための重要な資料でもある一方、文体、作品の構想、テーマというあらゆる点で一定の達成が認められ、実際に起きた出来事を文学に昇華させることの意味を考えさせてくれる文学作品でもある。また、平安時代以前の神話や物語文学、和歌の影響を受けて成立し、室町時代以降の能、歌舞伎といった演劇や、近現代における文学やアニメやゲームにまで影響を与えており、さらには、教育の現場でも取り上げられ続けて、日本の社会の歴史とも深く関わっている作品であり、国文学を学ぶ者にとって必読の作品であると言える。

本講義では、そうした『平家物語』について、基礎的な知識、研究の動向などを紹介しつつ、「運命」というキーワードに着目することで『平家物語』の主題に迫ってゆく。

基本的には講義形式であるが、受講者の質問や意見、感想をできるだけ取り上げ、それに沿った授業内容にしたい。

〔到達目標〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の４点を到達目標とする。

1、『平家物語』の本文を正しく読解できるようになる。
2、『平家物語』を中心とした、中世文学および軍記文学への知識を深める。
3、軍記作品に触れることで、戦争と文学の関わりや、戦争を描くことの意義などについての思索を深める。
4、他の学生の意見に触れることで、知識を広めるともに、様々な考え方に対する理解力を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業ガイダンス　中世という時代 ・授業の進め方、予習、復習についての説明 ・中世という時代区分について、中世に起きた主な出来事武士との関わりなどの説明。	シラバスに目を通しておく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第２回	中世の社会・文学の特徴 ・中世の社会の特徴を、前後の時代との比較を通じて浮かび上がらせる。 ・そうした社会が育んだ文学の流れや特徴について解説する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第３回	武士の成長と軍記文学の展開 ・中世を中心とした、主に武士による軍事衝突とそれらを描く軍記文学作品について説明する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第４回	日本の軍記文学の特徴――勝者を描くか、敗者を描くか。 ・前回説明した日本の軍記文学の特徴を比較文学の観点から見ていく。また、そうした特徴が顕著な部分を、いくつかの軍記文学で読んでいく。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第５回	『平家物語』について①　成立と作者、諸本分類と語りの関係 ・『平家物語』が、いつ、誰の手によって成立したのかという点についての定説を紹介し、また、語りとも大きく関わって展開していった諸本の実態や分類について解説する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第６回	『平家物語』について②　全体の構成と前半の内容、冒頭「祇園精舎」の意味 ・『平家物語』の全体の構成を押さえた上で、前半のあらすじを紹介する。 ・著名な「祇園精舎」の章段を丁寧に読み、作品全体のテーマとの関わりを考える。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第７回	『平家物語』について③　後半の内容と二つの終わり方が示すことについて ・『平家物語』の後半のあらすじを紹介し、「灌頂巻」の持つ意義を考察する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第８回	『平家物語』について④　周縁諸作品との関係――『建礼門院右京大夫集』『吾妻鏡』『愚管抄』 ・『平家物語』に近接した時代に書かれた諸作品について紹介し、それとの関わりを考察する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第９回	『平家物語』が語る運命①　重盛の場合　その１ ・2022 年のアニメ作品でも、運命を見通せる人物として登場した平重盛の『平家物語』での描かれ方を読む。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第１０回	『平家物語』が語る運命②　重盛の場合　その２ ・重盛の造型の理由や、後世での重盛に対する評価について考察する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第１１回	『平家物語』が語る運命③　知盛の場合　その１ ・能や歌舞伎で、平家の滅びを象徴する人物となっていった平知盛についての史実と物語での描かれ方を紹介する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第１２回	『平家物語』が語る運命④　知盛の場合　その２ ・知盛の造型の持つ意味や重盛との共通点などについて考察する。	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分

第１３回	『平家物語』が語る運命⑤　「夢」が告げる運命 ・平家の運命を左右した、冥の世界の存在とは？	指示に従って資料などに目を通してく。 授業後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問、意見、感想をまとめたレポートを提出する。	60 分
第１４回	補足・総括・習熟度確認	レジュメを整理し、半期の内容について復習しておく。	60 分

〔授業の方法〕
・授業は原則として講義形式で進める。受講者は教員の指示に従い、資料に目を通しすなどの準備をしたうえで、疑問点などを整理して出席すること。
・授業後は、コースパワーのレポート機能を通して、質問・意見・感想を書き込む。教員が必ず返答を書き込むので、それを確認して理解を深めること。なお、受講者のコメントの一部は、次回のレジュメに掲載して他の受講者に公開し、共有することで理解を深め、知識を広げることを目指す。
・受講者の希望や問題意識、また、進捗状況によっては内容を変更することもあり得る。

〔成績評価の方法〕
予習復習の内容や毎回のコメントの内容などの平常点（50%）、習熟度確認試験の内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義Ｂ						
教員名	清水　由美子						
科目№	125233160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

治承・寿永の内乱を描いた『平家物語』は一般にも広く読まれ、中学・高校でも必ず取り上げられる古典文学の代表的な作品である。武家社会へと移り変わる時代の、宗教・文化・社会といった実態を知るための重要な資料でもある一方、文体、作品の構想、テーマというあらゆる点で一定の達成が認められ、実際に起きた出来事を文学に昇華させることの意味を考えさせてくれる文学作品でもある。また、平安時代以前の神話や物語文学、和歌の影響を受けて成立し、室町時代以降の能、歌舞伎といった演劇や、近現代における文学やアニメやゲームにまで影響を与えており、さらには、教育の現場でも取り上げられ続けて、日本の社会の歴史とも深く関わっている作品であり、国文学を学ぶ者にとって必読の作品であると言える。

本講義では、多角的な視点から作品にアプローチすることで『平家物語』についての理解を深めることを目的とし、宗教、死生観、武士、人と人の関係といった観点から『平家物語』の真髄に迫りたい。基本的には講義形式であるが、受講者の質問や意見、感想をできるだけ取り上げ、それに沿った授業内容にしたい。

〔到達目標〕

DP1(専門分野の知識・技能)、DP2(教養の習得)、DP３（課題の発見と解決)、DP4(表現力、発信力)、DP5(多様な人々との協働)、DP6（自発性、積極性）を達成するため、以下の４点を到達目標とする。

1、『平家物語』の本文を正しく読解できるようになる。
2、『平家物語』を中心とした、中世文学および軍記文学への知識を深める。
3、軍記作品に触れることで、戦争と文学の関わりや、戦争を描くことの意義などについての思索を深める。
4、他の学生の意見に触れることで、知識を広めるとともに、様々な考え方に対する理解力を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業ガイダンス　・『平家物語』概説 ・授業の進め方、予習、復習についての説明 ・後期の授業を理解するために必要な『平家物語』についての基本的な事項を説明す　　る。	シラバスを読んでおく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第２回	『平家物語』が語る宗教と信仰①　重衡を救済したもの ・『平家物語』に色濃く表れる仏教思想の中でも、南都焼討の罪に苦しむ男を救済した人物は？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第３回	『平家物語』が語る宗教と信仰②　八幡神の力 ・中世において人びとの信仰を集めた八幡神の『平家物語』での語られ方は？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第４回	『平家物語』が語る宗教と信仰③　失われた宝剣の行方 ・『平家物語』は、壇ノ浦での草薙剣の喪失をどう説明するのか？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第５回	『平家物語』が語る宗教と信仰④　建礼門院の語る六道の背景にあるもの ・一人生き残ってしまった建礼門院徳子の六道語りの持つ意味は？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第６回	『平家物語』が語る武士の生と死①　源頼政の場合 ・恵まれた余生を捨ててまで以仁王と挙兵した頼政についてどう語るのか？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第７回	『平家物語』が語る武士の生と死②　斎藤実盛の場合 ・義仲との戦いで故郷に錦を飾った実盛の生き様をどう考えるか？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第８回	『平家物語』が語る武士の生と死③　熊谷直実の場合 ・熊谷直実が武士を捨てて出家した本当の理由は？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第９回	『平家物語』が語る武士の生と死④　平教経の場合 ・平家一門随一の勇士の真実は？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第１０回	『平家物語』が語る人と人の絆①　父と子 ・『平家物語』が語る父と子の絆の持つ意味を、梶原景時、平宗盛父子の場合から考える。	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第１１回	『平家物語』が語る人と人の絆②　乳母子と主君 ・中古、中世特有の乳母子と主君の関係を『平家物語』はどう描くか？	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第１２回	『平家物語』が語る人と人の絆③　夫と妻 ・死を目の前にした夫婦の物語を読む。	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分

第１３回	『平家物語』が語る人と人の絆④　主君と家臣 ・命を懸けて主君を守った家臣の物語を考える。	指示に従って資料を読むなどの準備をしておく。 授業終了後は、コースパワーのレポート機能を通じて、授業についての質問・意見・感想をまとめたレポートを作成し提出する。	60 分
第１４回	補足・総括・習熟度確認	レジュメの整理をしておく。 半期の授業内容を復習しておく。	60 分

〔授業の方法〕
・授業は原則として講義形式で進める。受講者は教員の指示に従い、資料に目を通しすなどの準備をしたうえで、疑問点などを整理して出席すること。
・授業後は、コースパワーのレポート機能を通して、質問・意見・感想を書き込む。教員が必ず返答を書き込むので、それを確認して理解を深めること。なお、受講者のコメントの一部は、次回のレジュメに掲載して他の受講者に公開し、共有することで理解を深め、知識を広げることを目指す。
・受講者の希望や問題意識、また、進捗状況によっては内容を変更することもあり得る。

〔成績評価の方法〕
予習復習の内容や各回のレポートの内容などの平常点（50%）、習熟度確認試験の内容（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義C						
教員名	齋藤　真麻理						
科目№	125233170	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
室町時代から江戸時代にかけて流行した室町物語（御伽草子）の中から、破天荒な乳母が活躍する滑稽な『乳母の草紙』を取り上げる。本文を丁寧に読みながら、当時の女性に期待された教養のありよう、作品中に見られる『源氏物語』や女流日記文学の影響など、先行の古典文学との交流を読み解く。さらには作品内容に関係する絵巻や絵本、屏風などの絵画表象にも目を向けて、作品が内包する教養とその文学圏域、日本文学史上に占める位置を検討し、室町文化の特質を考える。

〔到達目標〕
①室町物語の研究手法や現在の研究水準を把握し、室町文化の基礎知識を身につける。
②物語世界とその文化的背景について、多様な観点から課題を設定し、レポートを書くことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション―室町物語の誕生―	文学史に関する書籍から、中世文学史を確認しておく。室町物語の基礎知識について配付資料を復習。	60 分
第２回	物語絵のかたち―絵巻・絵本・屏風―	絵巻や屏風など、物語が描き伝えられた「形態」に関する基礎知識、国内外で公開されているデジタル画像の検索や活用方法、マナーを学ぶ（予習・復習）	60 分
第３回	『乳母の草紙』ガイダンス	本作の成立に大きく影響した女流日記文学の歴史について学ぶ（予習・復習）	60 分
第４回	『乳母の草紙』を読む（1）―左大臣家の姫君教育―	登場人物たちの性格描写について、興味を持った点を抜き出しておく。その根拠となった学芸や時代性を学ぶ（予習・復習）	60 分
第５回	『乳母の草紙』を読む（2）―左大臣家の乳母たち―	作中の乳母たちのキャラクター設定について、興味を持った点を抜き出しておく。背景にある教養世界について学ぶ（予習・復習）	60 分
第６回	『乳母の草紙』を読む（3）―女房詞について―	作品中に駆使されている女房詞について学ぶ（予習・復習）	60 分
第７回	『乳母の草紙』を読む（4）―『源氏物語』と室町物語―	登場人物の人名や会話の内容などから、『源氏物語』の影響を読み解く（予習・復習）	60 分
第８回	『乳母の草紙』を読む（5）―女性と九九―	作中に引用された九九。その歴史について学ぶ（予習・復習）	60 分
第９回	『乳母の草紙』を読む（6）―管弦をめぐる表象―	古典文学において、身分ある女性はどのような楽器を演奏しているか調べておく。管弦の表象について学ぶ（予習・復習）	60 分
第１０回	『乳母の草紙』を読む（7）―乳母たちの手紙―	作品後半の乳母たちの手紙を読んでおく。女性と手紙文の歴史を学ぶ（予習・復習）	60 分
第１１回	『乳母の草紙』を読む―小括―	『乳母の草紙』の教養世界と物語の構成手法を整理する（予習・復習）	60 分
第１２回	女訓書の世界	古典文学史上、女訓書と呼ばれるジャンル・作品について学ぶ（予習・復習）	60 分
第１３回	風変わりな姫君たち―「虫めづる姫君」とその周辺―	女訓書の教訓と、『堤中納言物語』に収録される「虫めづる姫君」の物語世界とを比較検討する（予習・復習）	60 分
第１４回	まとめ	室町物語の特質や女性の教養世界について考える。	60 分

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。毎回、授業内容に関する質問や感想、考察などのコメントの提出を求め、次回の授業の冒頭で注目されるコメントを紹介し、説明や補足を行う。
・『乳母の草紙』の本文は、教材として第２回講義の際にプリントを配布する。
・国内外に所蔵される室町物語の絵巻など、デジタル公開されているカラー画像を活用する。

〔成績評価の方法〕
平常点（講義への参加状況、コメントの提出状況など）50%、課題レポート 50%により、総合的に評価する。
成

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
①『乳母の草紙』（新日本古典文学大系『室町物語集』下、岩波書店、1992 年）をプリントしたものを教科書として配布する。
②毎回、関連する説明プリントを配布する。

〔参考書〕
『乳母の草紙』（新日本古典文学大系『室町物語集』下、岩波書店、1992 年）、『お伽草子事典』（東京堂出版、2002 年）など。購入の必要なし。そのほか、適宜、授業中に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用／アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	中世日本文学講義D						
教員名	石澤　一志						
科目№	125233180	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
鴨長明の作品『無名抄』を講読する。
鴨長明といえば『方丈記』があまりに有名であるが、
本講義では、歌人としての鴨長明の、重要な作品である
『無名抄』を中心に、繙いてゆく。
鴨長明という人物とその交流圏、
長明が生きた時代相についての知識を確認しながら、
その内容を吟味する。
時代の大きな転換点と、
その大きな流れの中を生きた人物の証言を基に、
当時の人々の息吹が感じられるところまで、深めたい。

〔到達目標〕
1,「鴨長明」という人物についての理解を深める
2,「鴨長明が生きた時代」についての理解を深める
3,「鴨長明が活躍した時代」と「その前後の和歌の歴史」についての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	鴨長明とその人生とその作品	高校までの教科書・便覧などを見返してくる（予習）／講義内容の振り返り	60
第２回	『無名抄』講読（1）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第３回	『無名抄』講読（2）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第４回	『無名抄』講読（3）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第５回	『無名抄』講読（4）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第６回	『無名抄』講読（5）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第７回	『無名抄』講読（6）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第８回	『無名抄』講読（7）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第９回	『無名抄』講読（8）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１０回	『無名抄』講読（9）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１１回	『無名抄』講読（10）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１２回	『無名抄』講読（11）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１３回	『無名抄』講読（12）	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60
第１４回	『無名抄』講読（13）　まとめ	テキスト翻読／講義内容の振り返り	60

〔授業の方法〕

テキストに従って内容を吟味、講読してゆく。
内容の解釈やその作者について、
享受の様相と後代的な影響に関する知識などを織り交ぜ、考えてゆく。
適宜、その確認のための小テストを行う。
講義内容に関する、感想・レポートの提出を求めることがある。
試験・レポートについては、CoursePower　を通じて周知する。

〔成績評価の方法〕
リアクションペーパー（受講態度確認）50%
学期末試験・レポート 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校までの、文学史関係の教科書を読み返してくること。
また、日本史に関する知識が必要となるので、
中学・高校の教科書などを見返してくることが望ましい。
浅見和彦先生（本学名誉教授）の講義を受けたことがある方には、
内容的な連続性がある。
そうでない方々は、「浅見和彦」先生の業績を、ぜひご参観いただきたい。

〔テキスト〕
『無名抄』（久保田淳　訳注、角川ソフィア文庫・KADOKAWA）　を使用する。
必ず、購入・持参のこと。

〔参考書〕
参考図書については、
浅見和彦先生の御著書を是非。
それ以外については、
講義内で、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイト（CoursePower）で周知する。
質問などは、授業終了後に教室で受け付けます。
または、メール（　s20036@cc.seikei.ac.jp　）で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義A						
教員名	永田　英理						
科目№	125233190	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
芭蕉の紀行文を読む
芭蕉は生涯に五つの紀行文を残している。よく知られている『奥の細道』のほかには、『野ざらし紀行』、『かしまの記』、『笈の小文』、『更科紀行』がある。これらの紀行文は、芭蕉が生涯をかけて何度も推敲を重ねたものばかりで、すべて生前には刊行されていない。そのなかには、画巻（絵巻物）のスタイルで仕立てられたものや、現存するテキストに問題があるもの、芭蕉がまだ推敲途中であったとみられる作品もある。少なくとも、現代の私たちが考えている「旅行記」や「旅の記録」のようなものとはずいぶん異質なものであるということがわかる。
芭蕉にとっての「旅」の意味、そしてそれを「五・七・五」の発句と文章で綴ることの意味などについて、この講義を通して考えてみたい。
芭蕉の紀行文すべてについて詳しく読むことはとうていできないので、各作品の主な部分を少しずつ読んで紹介するようなかたちになるが、なかでも『奥の細道』にはとくに多くの時間を費やす予定である。
「五・七・五」の句と文章の組み合わせによって自らの旅を記す、という創作様式をめぐる、芭蕉のさまざまな試みについても考えてゆきたい。

〔到達目標〕
DP1-1・1-3、DP3-1～3 を実現するため、以下の点を到達目標とする。
・近世文学を読むうえで必要な基礎知識および、近世文化についての専門的な知識を修得する。
・短詩型文学である「発句（俳句）」を分析するうえで必要なさまざまな知識について学び、
その詩としての独自性について理解する。
・一連の学習を通して、芭蕉にとっての「紀行文」とはどのようなものだったのかを考える。また、それぞれの紀行文の特徴を比較しながら、作品を読み解いてゆく力を身につける。
・これまでの先行研究で問題とされてきた点について的確にとらえ、そこから自分自身の「読み」を展開してゆけるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	芭蕉とはどんな人物か	予習：芭蕉についての知識の確認 復習：授業時の学習資料の振り返り	60
第２回	芭蕉の紀行文について	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：芭蕉の紀行文観について理解する	60
第３回	『野ざらし紀行』を読む①冒頭	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『野ざらし紀行』の成立について把握する	60
第４回	『野ざらし紀行』を読む②旅の折り返し	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：：『野ざらし紀行』の内容について理解する	60
第５回	『かしまの記』を読む	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	80
第６回	『笈の小文』を読む①冒頭部	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『笈の小文』の成立について把握する	60
第７回	『笈の小文』を読む②須磨・明石	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『笈の小文』の内容について理解する	60
第８回	『更科紀行』を読む	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	80
第９回	『奥の細道』を読む①成立	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『奥の細道』の成立について把握する	60
第１０回	『奥の細道』を読む②旅立ち	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『奥の細道』の内容について理解する	60
第１１回	『奥の細道』を読む③白河の関	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『奥の細道』の内容について理解する	60
第１２回	『奥の細道』を読む④平泉	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：小課題に取り組む	80
第１３回	『奥の細道』を読む⑤北陸路	予習：配付資料を事前に読んでおく 復習：『奥の細道』の内容について把握する	60
第１４回	『奥の細道』まとめ 芭蕉にとっての「紀行文」とは	レポート提出に備える	120

〔授業の方法〕
毎回講義形式で行う。授業計画、小課題の提出時期・回数は、進行状況に応じて多少変更する可能性がある。
授業資料は毎回授業時にプリントで配布するが、授業時間前に Course Power にも保存しておく。小課題の提出、期末レポート提出などは、すべて Course Power を通して行う。
受講者には、宿題として何度か小課題を出すので、意欲的に取り組んでもらいたい。

〔成績評価の方法〕
期末レポート（45%）、何度か出す小課題（45%）、平常点（授業への参加状況など　10%）。
以上の総合評価による。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
小課題については、出題するテーマによって評価基準は異なるものの、主には、
講義での話をふまえたうえで論理的な分析がなされているか、面白い発想が見られるか、考察内容がよく練られたものであるか、自らの考えについて具体的に書かれているか、などの観点から評価を行う。
期末レポートについても同様だが、新たに自分で調査した結果、独自性のある考察が導き出されているレポートを特に評価する。また、レポートとしての形式が整っていることも条件とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
芭蕉や芭蕉の紀行文について初めて学ぶ学生のことも考慮し、基本的な解説を行ったうえで講義を進めるので、必要な予備知識などについてはとくに不要。ただし、課題に対して自ら意欲的に取り組む学生の受講を歓迎する。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
新編日本古典文学全集『松尾芭蕉集②』（小学館）、上野洋三『芭蕉、旅へ』（岩波新書）、尾形仂『野ざらし紀行評釈』（角川叢書）、嶺原退蔵・尾形仂校注『新版おくのほそ道』（角川ソフィア文庫）などがあるが、購入の必要なし。そのほかにも適宜、授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
基本的にはメール（授業時およびポータルサイトで知らせる）か、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義B						
教員名	牧　藍子						
科目№	125233200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
和歌・連歌の流れを継承しつつ、俗語をいとわず卑近な日常を詠むことのできた俳諧は、江戸時代を通じて、庶民から大名にいたるまで非常に多くの人々に親しまれた。俳諧は、複数人が集まって交互に句を連ねる連句形式を原則とする座の文芸であるが、発句・俳文・雑俳・俳画など、さまざまな形で楽しまれた。本授業では、近世の人々がどのように俳諧を楽しんだかという点に重点をおきながら、近世における俳諧の流れを概観し、近世社会における庶民文芸のありようを学ぶ。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・さまざまな俳諧作品に触れ、近世俳諧史の展開を知る。
・俳諧の文芸性や、その庶民文芸としての面白さを味わう。
・俳諧の受容の背景にある、近世の文化や社会に関する知見を広げる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス　連歌から俳諧へ	シラバスを読んでおく。 配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第２回	貞門俳諧	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第３回	談林俳諧	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第４回	芭蕉の俳諧①	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第５回	芭蕉の俳諧②	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第６回	芭蕉没後の蕉風俳諧①都市系俳諧	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第７回	芭蕉没後の蕉風俳諧②地方系俳諧	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第８回	芭蕉没後の蕉風俳諧③地方系俳諧	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第９回	享保期の俳諧①	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１０回	享保期の俳諧②	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１１回	俳諧と雑俳	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１２回	安永・天明期の俳諧①	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１３回	安永・天明期の俳諧②	配布資料を読み直し、理解を深める。	60
第１４回	文化・文政期の俳諧	配布資料を読み直し、理解を深める。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行い、リアクションペーパーを提出してもらう。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況・小テスト・リアクションペーパー等）40%、課題レポート 60%による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・さまざまな俳諧作品に触れ、近世俳諧史の展開を理解できたか。
・俳諧の文芸性や、その庶民文芸としての面白さを味わえたか。
・俳諧の受容の背景にある、近世の文化や社会に関する知見を広げられたか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
資料を配布する。

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義C						
教員名	丸井　貴史						
科目№	125233210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
江戸時代を代表する小説である『雨月物語』における、〈男〉と〈女〉のありようについて講義する。『雨月物語』に収められる作品のうち、男女の関係が描かれるのは「浅茅が宿」「吉備津の釜」「蛇性の婬」の三作であるが、それぞれの作品において男と女はどのように造型されているのか、また、そこにはどのような類似性と差異性があるのか、などといった問題について、作品本文の精読を通して理解を深めるとともに、近世小説の読み解き方の基礎を身につけることを目指す。

〔到達目標〕
（1）作品と作家に関する基礎的な知識を身につけることができる。(DP1)
（2）作品の本文を丁寧に読解する態度と方法を身につけることができる。(DP1)
（3）作品について自ら問いを立て、分析することができる。(DP3)
（4）自らの意見や解釈を論理的に説明することができる。(DP4)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	上田秋成と『雨月物語』	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第２回	吉備津の釜（1）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第３回	吉備津の釜（2）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第４回	吉備津の釜（3）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第５回	蛇性の婬（1）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第６回	蛇性の婬（2）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第７回	蛇性の婬（3）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第８回	蛇性の婬（4）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第９回	浅茅が宿（1）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１０回	浅茅が宿（2）	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１１回	（浅茅が宿（3）	講義内容を復習するとともに、映画「雨月物語」について調べる。	60 分
第１２回	映画「雨月物語」(1)	講義内容を復習し、映画に関する自分の考えをまとめておく。	60 分
第１３回	映画「雨月物語」(2)	講義内容を復習し、映画に関する自分の考えをまとめておく。	60 分
第１４回	まとめ	授業全体を通して、自分が考えたことを整理する。	60 分

〔授業の方法〕
講義を中心に行い、毎回の授業後にコメントの提出を課す。また、講義で取り上げる作品を事前に読み、感想を提出することを求める場合がある。
レポートは、講義で取り上げた作品について自ら問いを立て、論じるものである。問題設定の妥当性や論理の整合性などを総合的に評価する。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）：30%
レポート：70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『改訂 雨月物語 現代語訳つき』、鵜月洋、角川ソフィア文庫、990 円、ISBN-13: 978-4044011024

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近世日本文学講義D						
教員名	丸井　貴史						
科目№	125233220	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
近世の初期から中期を代表する小説を複数取り上げ、読解する。小説を読み解くためには、それがいかなる方法を用いて創作されたかということや、どのような典拠が用いられているかということを検討し、そのうえで、自ら問いを立てることが必要になる。本講義では、いくつかの具体的な作品に即して、精読するための方法を提示する。それによって作品の読みをどこまで深めることができるか、受講者とともに考えたい。なお、第 11〜13 回の『雨月物語』については、前期開講の「近世日本文学講義 C」とは異なる作品を取り上げる。

〔到達目標〕
（1）作品と作家に関する基礎的な知識を身につけることができる。(DP1)
（2）作品の本文を丁寧に読解する態度と方法を身につけることができる。(DP1)
（3）作品について自ら問いを立て、分析することができる。(DP3)
（4）自らの意見や解釈を論理的に説明することができる。(DP4)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	近世小説史概説	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第２回	井原西鶴『男色大鑑』	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第３回	井原西鶴『万の文反古』	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第４回	井原西鶴『好色五人女』(1)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第５回	井原西鶴『好色五人女』(2)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第６回	井原西鶴『好色五人女』(3)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第７回	都賀庭鐘『英草紙』(1)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第８回	都賀庭鐘『英草紙』(2)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第９回	都賀庭鐘『英草紙』(3)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１０回	都賀庭鐘『英草紙』(4)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１１回	上田秋成『雨月物語』(1)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１２回	上田秋成『雨月物語』(2)	講義内容を復習するとともに、次回の授業で取り上げる作品を読み、自分の考えをまとめておく。	60 分
第１３回	上田秋成『雨月物語』(3)	講義内容を復習する。	60 分
第１４回	まとめ	授業全体を通して、自分が考えたことを整理する。	60 分

〔授業の方法〕
講義を中心に行い、毎回の授業後にコメントの提出を課す。また、講義で取り上げる作品を事前に読み、感想を提出することを求める場合がある。
レポートは、講義で取り上げた作品について自ら問いを立て、論じるものである。問題設定の妥当性や論理の整合性などを総合的に評価する。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）：30%
レポート：70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義A						
教員名	康　潤伊						
科目№	125233230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

〔到達目標〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			

〔授業の方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
〔テキスト〕
〔参考書〕
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義B						
教員名	多田　蔵人						
科目№	125233240	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
【日本近代文学にみる「引用」と「文体」】
日本近代小説のすぐれた作品を取りあつかい、「引用」がどのように機能してきたのかを歴史的に探る。近代の日本文学は、江戸以前の文章様式と、西洋からやってきた文章様式との葛藤のただなかで展開した。作家たちが執筆にあたって参考にした文書（「典拠」）を調べ、手紙や歌、歴史書、演劇などなどが「引用」されてゆく過程を探求することで、日本語文学の成立過程を具体的に知る。

〔到達目標〕
・近代文学の代表的な作家と作品について、基礎的な知識を得る。
・近代文学の執筆方法について、「引用」を軸として知識を得る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』――引用の見本帳	夏目漱石について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第２回	森鴎外『舞姫』――手紙の引用	森鴎外について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第３回	矢野龍渓『経国美談』――演説の引用	矢野龍渓について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第４回	樋口一葉『にごりえ』――歌の引用	樋口一葉について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第５回	国木田独歩の文学――文例集の引用	国木田独歩について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第６回	泉鏡花の文学――「絵」の引用	泉鏡花について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第７回	芥川龍之介『開化の殺人』――歴史資料の引用	芥川龍之介について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第８回	永井荷風『雨瀟瀟』――映画の引用	永井荷風について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第９回	谷崎潤一郎『盲目物語』――歴史物語の引用	谷崎潤一郎について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１０回	小林秀雄『実朝』――和歌の引用	小林秀雄について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１１回	島尾敏雄『出孤島記』――戦争文学の引用	島尾敏雄について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１２回	大江健三郎『万延元年のフットボール』――郷土史の引用	大江健三郎について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１３回	村上春樹『羊をめぐる冒険』――アメリカ表象の引用	村上春樹について、大まかな伝記的事項や代表作を知る。	60 分
第１４回	現代小説における「引用」	現代小説の代表作について、引用方法を確認する（復習）	60 分

〔授業の方法〕
・毎回、特定の文学作品を取りあげて、そこに引用されたジャンルについて紹介し、作品がそれをどう引用し新しいメッセージに作りかえたのかを講義する。草稿や本の形式などにも言及し、作品の調べかたについても説明する。
・毎回、リアクションペーパーを配布する。
・課題レポートでは、近代文学作品を取りあげ、「引用」をどのように読むか、調べた上で書く。授業で紹介した作品でも、それ以外の作品でも可。授業で紹介した本の調べかたや読みかたを踏まえることができているか、そのうえで独自の読みかたを展開できているかどうかを評価する。

〔成績評価の方法〕

レポート 50%、平常点（毎時の参加状況や課題の提出状況）50%。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。毎回資料を配付する。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義C						
教員名	山路　敦史						
科目№	125233250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
①村上春樹『若い読者のための短編小説案内』をサブテキスト、そこで取り上げられた第三の新人の諸作品をテキストとして、講義形式で授業を進める。
②第三の新人の教科書的な理解を踏まえつつ、具体的に作品を読み解くことを通じて、作品それぞれから見出せる批評性に目を凝らす。
③小市民的で日常的な狭い範囲を描いたと批判的に捉えられることがあった第三の新人の作品を読み解くことで、私たちの〈日常〉を問い直すことを目指す。

〔到達目標〕
①第三の新人の作品を読むことを通じて、文学を分析的に読解する方法を獲得する。
②村上春樹の論を参照することを通じて、自説と他説の違いを意識し、独自性のある論述の方法を習得する。
③第三の新人について独自の評価を示すことで、自分なりの文学史を構想できるようになる。
④批評的な眼差しを獲得し、授業外での文学やそれ以外にも独自の思考が展開できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	第三の新人について	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	吉行淳之介「水の畔り」①	予習：教科書と「水の畔り」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第３回	吉行淳之介「水の畔り」②	予習：教科書と「水の畔り」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第４回	小島信夫「馬」①	予習：教科書と「馬」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第５回	小島信夫「馬」②	予習：教科書と「馬」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第６回	安岡章太郎「ガラスの靴」①	予習：教科書と「ガラスの靴」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第７回	安岡章太郎「ガラスの靴」②	予習：教科書と「ガラスの靴」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第８回	庄野潤三「静物」①	予習：教科書と「静物」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第９回	庄野潤三「静物」②	予習：教科書と「静物」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１０回	丸谷才一「樹影譚」①	予習：教科書と「樹影譚」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１１回	丸谷才一「樹影譚」②	予習：教科書と「樹影譚」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１２回	長谷川四郎「阿久正の話」①	予習：教科書と「阿久正の話」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１３回	長谷川四郎「阿久正の話」②	予習：教科書と「阿久正の話」を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの授業内容を自分なりにまとめておく 復習：第三の新人評価を考える	60 分

〔授業の方法〕
①第三の新人の作品一つひとつを、2 週かけて読んでいく講義形式。作品本文を精読するほか、村上春樹の論を参照し、批判的に検証する。
②毎回、リアクションペーパーを配布し、授業終盤に記述・提出してもらう。提出されたリアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる。
③レポート（4,000 字以上）では、第三の新人作品を 1 つ取り上げて分析した成果を論述する。授業内容の単なる整理や暗記ではなく、受講者それぞれが村上春樹ほかの先行論と対決し、独自で説得力のある論述ができているかどうかを評価基準とする。

〔成績評価の方法〕

レポート（4,000 字以上）50%、平常点（毎時の参加状況や課題の提出状況）50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
教科書：村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫、682 円、978-4167502072）
※第三の新人の諸作品については、配布する。

〔参考書〕
授業内で、適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	近現代日本文学講義D						
教員名	山路　敦史						
科目№	125233260	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
坂口安吾は、いわゆる純文学という領域に留まらず、探偵小説や歴史小説、評論風のエッセイや紀行文などジャンル横断的な文学活動を行った。この授業では、こうした多彩な安吾の実践のなかからいくつかの小説と評論を取り上げ、純文学／娯楽という線引きの自明性を疑いながら、個々の作品を分析的に読み、そこに宿る批評性に目を凝らしたい。適宜、ほかの作家・作品も取り上げることで、授業内容を単純に安吾の作家性といったものに還元せずに、受講者それぞれの批評的なまなざしを汎用性あるものに育むことを目指す。

〔到達目標〕
①坂口安吾の作品を読むことを通じて、文学を分析的に読解する方法を獲得する。
②複数の作家・作品を併せて読むことを通じて、作者のオリジナリティにのみ還元できないテクスト（引用の織物）の問題を意識できるようになる。
③受講者それぞれが批評的なまなざしを獲得し、身の回りの物事の見方を増やす。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	作品とテクスト	予習：シラバスを読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第２回	〈作者〉と〈読者〉	予習：前回の配布資料を読み直しておく 復習：配布資料を読み直しておく	30 分
第３回	「木枯の酒倉から」と国木田独歩「武蔵野」①	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第４回	「木枯の酒倉から」と国木田独歩「武蔵野」②	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第５回	「風博士」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第６回	村上春樹「象の消滅」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第７回	「ラムネ氏のこと」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第８回	「日本文化私観」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第９回	「不連続殺人事件」①	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１０回	「不連続殺人事件」②	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１１回	「アンゴウ」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１２回	「影のない犯人」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１３回	佐藤友哉「333 のテッペン」	予習：指定作品を読んでおく 復習：配布資料を読み直しておく	60 分
第１４回	まとめ	予習：これまでの授業内容をふりかえっておく 復習：授業で得られた成果を授業外で活用する	60 分

〔授業の方法〕
①毎回授業資料を配布して、講義形式で各回に指定した作品について講義を行う。
②毎回、リアクションペーパーを配布し、授業内で記述・提出してもらう。リアクションペーパーは「出席」確認を兼ねる。
③レポート（4,000 字以上）では、授業で取り上げた安吾作品を選び、論述する。（授業で教員が示した解釈とは異なる）独自の分析を論述すること。

〔成績評価の方法〕
レポート（4,000 字以上）50%、平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
教科書：坂口安吾『不連続殺人事件』（新潮文庫、572 円、978-4101024035）
※教科書以外の作品については授業内で指示する。

〔参考書〕
授業内で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文学Ａ						
教員名	有光　隆司						
科目№	125234100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
前期はテキスト（『比較文学への誘い』）に従って、第一章「比較文学の原点」、第二章「文学研究の歩みと比較文学（その一）」、第三章「文学研究の歩みと比較文学（その二）」、第四章「文体分析と作品解釈」、第五章「伝記的事実と作品解釈」、第六章「短篇小説の特徴」を扱う。具体的には芥川龍之介、上田敏、尾崎紅葉等を引き合いに、比較文学の諸相について学習する。

〔到達目標〕
自国の文学、文化と異国のそれを比較検討するという方法論を学習することを通して、論理性、論証性、独創性を養い、さらには異国文学、文化の尊重、他者性に対する理解をも深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	１．比較文学の原点 1	テキスト第 1 章を読んでくること。 「比較文学」という呼称について調べてくること。 第 1 回の復習をすること。	90 分
第２回	１．比較文学の原点 2	芥川龍之介『蜘蛛の糸』を読んでくること。 第 2 回の復習をすること。	90 分
第３回	１．比較文学の原点 3	ポール・ケーラス『カルマ』、トルストイ『カルマ』、ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』について調べること。 第 3 回の復習をすること。	90 分
第４回	２．文学研究の歩みと比較文学 1	「文学」について調べること。 第 4 回の復習をすること。	90 分
第５回	２．文学研究の歩みと比較文学 290	「古典主義文学」について調べること。 第 5 回の復習をすること。	90 分
第６回	２．文学研究の歩みと比較文学 3	「ロマン主義文学」について調べること。 第 6 回の復習をすること。	90 分
第７回	３．文体研究と作品解釈 1	上田敏『海潮音』について調べること。 第 7 回の復習をすること。	90 分
第８回	３．文体研究と作品解釈 2	カール・ブッセについて調べること。 第 8 回の復習をすること。	90 分
第９回	３．文体研究と作品解釈 3	「リズム」と「韻律」について調べること。 第 9 回の復習をすること。	90 分
第１０回	４．伝記的事実と作品解釈 1	松尾芭蕉『野ざらし紀行』について調べること。 第 10 回の復習をすること。	90 分
第１１回	４．伝記的事実と作品解釈 2	幸田露伴『白芥子句考』について調べること。 第 11 回の復習をすること。	90 分
第１２回	４．伝記的事実と作品解釈 3	「伝記」について調べること。 第 12 回の復習をすること。	90 分
第１３回	５．短編小説をめぐって 1	「短篇小説」の起源について調べること。 第 13 回の復習をすること。	90 分
第１４回	５．短編小説をめぐって 2	ボッカチオ『デカメロン』について調べること。 第 14 回の復習をすること。	90 分

〔授業の方法〕
各章、原則として２回完結型形式で講義する。受講生は毎回その日の授業内容について感想、意見、質問等をリアクションペーパーに書き提出する。

〔成績評価の方法〕
毎回提出のリアクションペーパー（30%）及び学期末に 1 回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
比較文学 B (関連科目)

〔テキスト〕
『比較文学への誘い――東西文学十六章――』（新田義之著、大学教育出版）

〔参考書〕
『講座比較文学』全８巻（芳賀徹他編、東京大学出版）（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文学Ｂ						
教員名	有光　隆司						
科目№	125234110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
後期はテキスト(『比較文学への誘い』)に従って、第七章「メールヒェンとお伽話」、第八章「お伽話から童話へ」、第九章「枠物語の系譜」、第十章「文学研究法のいろいろ〈その一〉」、第十一章「文学研究法のいろいろ〈その二〉」、第十二章「日本の説話」、第十三章「叙事詩とバラード」、第十四章「抒情的なものについて」、第十五章「悲劇的なものについて」、第十六章「比較文学から比較文化へ」を扱う。その内とくに第七章では巌谷小波とグリム、第八章では浜田広介とアンデルセン、第九章ではアラビアンナイト、第十二章ではラフカディオ・ハーンと夏目漱石、第十五章ではソフォクレスと国木田独歩について比較検討する。

〔到達目標〕
自国の文学、文化と異国のそれとを比較検討するという方法論を学習することを通して、論理性、論証性、独創性を養い、さらには異国文学、文化の尊重、他者性に対する理解をも深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	1. メールヒェンとお伽噺 1	「メールヒェン」という用語について調べてくること。 第 1 回の復習をすること。	90 分
第２回	1. メールヒェンとお伽噺 2	巌谷小波について文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 2 回の復習をすること。	90 分
第３回	2. お伽噺から童話へ 1	浜田広介につい文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 3 回の復習をすること。	90 分
第４回	2. お伽噺から童話へ 2	アンデルセンについて文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 4 回の復習をすること。	90 分
第５回	3. 枠物語の系譜 1	「枠物語」という用語について調べてくること。 第 5 回の復習をすること。	90 分
第６回	3. 枠物語の系譜 2	『千夜一夜物語』の一編を読んでくること。 第 6 回の復習をすること。	90 分
第７回	4. 文学研究方法をめぐって 1	「作品論」と「作家論」のちがいについて自分なりに考えてくること。 第 7 回の復習をすること。	90 分
第８回	4. 文学研究方法をめぐって 2	「民俗学」「社会学」という用語について調べてくること。 第 8 回の復習をすること。	90 分
第９回	5. 日本の説話 1	「昔話」と「伝説」のちがいについて、自分なりに考えてくること。 第 9 回の復習をすること。	90 分
第１０回	5. 日本の説話 2	ハーン　『怪談』の一編を読んでくること。 第 10 回の復習をすること。	90 分
第１１回	6. 叙事詩とバラード	「叙事詩」という用語について調べてくること。 第 11 回の復習をすること。	90 分
第１２回	7. 抒情的なものについて	「抒情詩」という用語について調べてくること。 第 12 回の復習をすること。	90 分
第１３回	8. 悲劇的なものについて	ソポクレスについて文学事典、人名事典等で調べてくること。 第 13 回の復習をすること。	90 分
第１４回	9. 比較文学から比較文化へ	「文学」と「文化」のちがいについて、自分なりに考えてくること。 第 14 回の復習をすること。	90 分

〔授業の方法〕
原則として 2 回完結形式で講義する。受講生は毎回その日の授業内容について感想、意見、質問等をリアクションペーパーに書き提出する。

〔成績評価の方法〕
毎回のリアクション(30%)及び学期末に 1 回課せられるレポート(70%)等により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
比較文学 A(関連科目)

〔テキスト〕
『比較文学への誘い――東西文学十六章――』（新田義之著、大学教育出版）

〔参考書〕
『講座比較文学』全８巻（芳賀徹他編、東京大学出版）（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	漢文基礎						
教員名	山口　旬						
科目№	125234120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
基本的な漢文をテキストに漢文訓読の基礎を語学的側面・文学的側面の両面から学ぶ。漢文訓読法の基礎を初歩から学びながら、江戸の代表的文人の著作と、それに影響を与えた中国の漢詩文を文芸作品として読解していく。江戸時代の漢詩作品を中心として取り上げる。

〔到達目標〕
漢文の基本的な訓読法を修得する。また、具体的な漢詩文の文芸としての特色と読解法を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	漢文とは何か／江戸漢詩概説	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第２回	訓読とは何か／漢詩形式入門	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第３回	漢字の読み方（1）字体／漢詩読解入門	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第４回	漢字の読み方（2）音と訓、再読文字と置き字／漢詩　近代との接点１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第５回	漢文の文型（1）主語述語目的語。／漢詩　近代との接点２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第６回	漢文の文型（2）修飾被修飾、並列。／江戸漢詩　格調派	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第７回	返り点の原則。送り仮名（１）／江戸漢詩　清新派	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第８回	送り仮名（２）／江戸漢詩の諸相　江馬細香１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第９回	漢詩特有の訓読／江戸漢詩の諸相　江馬細香２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１０回	漢詩の訓読練習（１）／江戸漢詩の諸相　菊池五山１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１１回	漢詩の訓読練習（２）／江戸漢詩の諸相　菊池五山２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１２回	漢詩の読解練習（１）／江戸漢詩の諸相　大窪詩佛１	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１３回	漢詩の読解練習（２）／江戸漢詩の諸相　大窪詩佛２	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60
第１４回	漢詩形式のまとめ／江戸漢詩まとめ	【復習】授業資料と自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問を書き出す。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式で進め、毎時間前半は訓読基礎、後半は詩文入門を扱う。途中に練習・考察の時間を設ける。

〔成績評価の方法〕
毎回の小レポート４２％、レポート中間提出８％、学期末のレポート５０％の割合で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
授業資料を配布する。

〔参考書〕
『漢文訓読入門』（古田島洋介・湯城吉信、明治書院）、『江戸漢詩選 上・下』（揖斐高編訳、岩波文庫）、高等学校で使用した『国語便覧』等。購入の必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の前後、また随時Ｅメールで受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	漢文学A						
教員名	伊藤　文生						
科目№	125234180	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
・漢文学について学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。
・『論語』（前半）をひととおり読んでみる。テキストとして『傍訓論語』を用い、訓点にしたがって通読する。
・『千字文』（前半）の一字一字について字義を確認しつつ、関連する資料に目を配り、なるべく多くの文献に触れることによって、漢文学の一端を知る。

〔到達目標〕
・友人に教えたくなるような、また、子孫に伝えたくなるような面白くかつ有意義な漢文学の名作や名句を一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の進め方について説明する。 『傍訓論語』（８～12）および『千字文』（001～008）を読む。	シラバスに見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	『論語』朱熹集註序説（13～18）および『千字文』（009～048）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	『論語』学而第一（20～25）および『千字文』（049～088）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	『論語』為政第二（25～30）および『千字文』（089～128）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	『論語』八佾第三（31～37）および『千字文』（129～168）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	『論語』里仁第四（38～43）および『千字文』（169～208）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	『論語』公冶長第五（43～48）および『千字文』（209～248）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	『論語』公冶長第五雍也第六（49～54）および『千字文』（249～288）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	『論語』雍也第六（55～60）および『千字文』（289～328）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	『論語』述而第七（60～65）および『千字文』（329～368）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	『論語』述而第七泰伯第八（66～71）および『千字文』（369～408）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

第１２回	『論語』泰伯第八子罕第九（71～76）および『千字文』(409～448）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１３回	『論語』子罕第九（77～83）および『千字文』(449～488）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	『論語』郷党第十（83～90）および『千字文』(489～500）を読む。 ・まとめとして、資料を再点検し、質問に答える。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕
注釈ほか関連する資料を参照しつつ、『論語』および『千字文』を読む。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。

〔成績評価の方法〕
授業に対するコメント 50%、課題レポート 30%、小テスト 20%とし、授業態度を総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。
中国語に関する知識は求めない。

〔テキスト〕
資料プリントを配付する。

〔参考書〕
・岩波文庫『千字文』、小川環樹・木田章義注解、岩波書店、1,320 円、ISBN-13：978-4003322017
・『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、3,080 円、ISBN-13：978-4385137551
その他は授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	漢文学Ｂ						
教員名	伊藤　文生						
科目№	125234190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
・漢文学について学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。
・『論語』（後半）をひととおり読んでみる。テキストとして『傍訓論語』を用い、訓点にしたがって通読する。
・『千字文』（後半）の一字一字について字義を確認しつつ、関連する資料に目を配り、なるべく多くの文献に触れることによって、漢文学の一端を知る。

〔到達目標〕
・友人に教えたくなるような、また、子孫に伝えたくなるような面白くかつ有意義な漢文学の名作や名句を一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の進め方について説明する。 『論語』先進第十一（92～99）および『千字文』(489～498）を読む。	シラバスに見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べておく。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第２回	『論語』先進第十一顔淵第十二（99～106）および『千字文』(499～538）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第３回	『論語』顔淵第十二（106～112）および『千字文』(539～578）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第４回	『論語』子路第十三（112～118）および『千字文』(579～618）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第５回	『論語』子路第十三憲問第十四（118～124）および『千字文』(619～658）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第６回	『論語』憲問第十四（124～130）および『千字文』(659～698）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第７回	『論語』憲問第十四（130～136）および『千字文』(699～738）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第８回	『論語』衛霊公第十五（136～142）および『千字文』(739～778）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第９回	『論語』衛霊公第十五季氏第十六（142～148）および『千字文』(779～818）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１０回	『論語』季氏第十六（148～153）および『千字文』(819～858）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１１回	『論語』陽貨第十七（154～160）および『千字文』(859～898）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

第１２回	『論語』陽貨第十七微子第十八（160～166）および『千字文』（899～938）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１３回	『論語』微子第十八子張第十九（166～176）および『千字文』（939～978）を読む。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第１４回	『論語』子張第十九堯曰第二十（176～182）および『千字文』（979～1000）を読む。 ・まとめとして、資料を再点検し、質問に答える。	配付資料に見える未知の漢字・語句について、漢和辞典等を使って調べる。また、授業時に紹介する参考文献を自発的に読む。	毎週 90 分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。

〔授業の方法〕
注釈ほか関連する資料を参照しつつ、『論語』および『千字文』を読む。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。

〔成績評価の方法〕
授業に対するコメント 50%、課題レポート 30%、小テスト 20%とし、授業態度を総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。
中国語に関する知識は特に求めない。

〔テキスト〕
資料プリントを配付する。

〔参考書〕
・岩波文庫『千字文』、小川環樹・木田章義注解、岩波書店、1,320 円、ISBN-13：978-4003322017
・『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、3,080 円、ISBN-13：978-4385137551
その他は授業時に紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本美術史A						
教員名	齊藤　全人						
科目№	125235120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。
授業では各回テーマを設けて、そのテーマに絞った日本美術の流れを講義します。つまり毎回、角度を変えながら日本美術史をたどることとなり、多角的な視点で日本美術をとらえることができるようになります。
担当者が美術館学芸員として勤務する経験を活かし、作品の図版を豊富に紹介しながら、日本美術の歴史とともに作品を見る喜びを学習してもらいます。日本美術史 A では、主に絵画を取り扱います。

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明する。 ・日本美術史について、対象とする時代など、概略を説明する。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	マンガからたどる日本美術 ・日本が世界に誇るマンガ。そのマンガ表現のルーツが、日本美術の絵巻や屏風、浮世絵にあることを学ぶ。 ・日本美術が現代までつながっていることを理解する。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第３回	画面形式でたどる日本美術 ・絵巻、掛幅、屏風、障壁画という画面形式が絵画表現や技法と密接に結びついていることを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第４回	絵巻でたどる日本美術１ ・平安時代の絵巻を中心に、物語と絵画が組み合わさった絵巻の名品について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第５回	絵巻でたどる日本美術２ ・近世から近代にかけて、絵巻の表現がどのように展開したのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第６回	流派でたどる日本美術 ・狩野派、土佐派、円山派、琳派といった各流派の特徴と代表的絵師について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第７回	やまと絵でたどる日本美術 ・中国絵画（唐絵）に対して日本独自の絵画として誕生したやまと絵の特徴と歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第８回	水墨画でたどる日本美術１ ・中国絵画から強い影響を受けた水墨画の発展の歴史を鎌倉、室町時代を中心に学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第９回	水墨画でたどる日本美術２ ・日本の水墨画が江戸時代以降どのように発展したのかについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１０回	仏画でたどる日本美術 ・寺院で用いる宗教画として描かれた仏画の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１１回	文人画でたどる日本美術 ・文人画（南画）の特徴と代表的絵師、近代以降の流れについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１２回	浮世絵でたどる日本美術 ・江戸時代に爆発的に流行した浮世絵の特徴と代表的絵師、近代以降の流れについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１３回	近代でたどる日本美術 ・明治維新後、西洋の文化が流れ込む中で日本美術がどのように変化したのかについて学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60

第１４回	到達度確認テスト ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのテスト	【予習】到達度確認テストへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕
パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。授業では複数回アンケートや小テストを行い、最終授業で到達度確認テストを行います。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（70%）、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕
・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕
図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本美術史Ｂ						
教員名	齊藤　全人						
科目№	125235130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
日本美術の歴史を学ぶことは、日本人の芸術観のルーツを知ることにつながります。古代、中世、近世、近代、それぞれの時代に生まれた名画・名宝・名品を個別に「点」としてみるのではなく、その作品が生まれた過程、そして後の時代に与えた影響など、大きな視点で作品と作品のつながりをたどることで、点と点がつながって「線」となり日本美術をひとつの流れで理解することができるようになります。
授業では各回テーマを設けて、そのテーマに絞った日本美術の流れを講義します。つまり毎回、角度を変えながら日本美術史をたどることとなり、多角的な視点で日本美術をとらえることができるようになります。
担当者が美術館学芸員として勤務する経験を活かし、作品の図版を豊富に紹介しながら、日本美術の歴史とともに作品を見る喜びを学習してもらいます。日本美術史Ｂでは、絵画のほかに仏像、工芸、建築などの様々なジャンルを取り扱います。

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）、2-1（教養の修得）を実現するため、日本美術史の流れを理解し、授業で取り上げた作品について説明できるようになることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容、進め方を説明する。 ・日本美術史について、対象とする時代など、概略を説明する。	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	30
第２回	仏像彫刻でたどる日本美術 ・仏教伝来とともに始まった日本の仏像彫刻が、飛鳥、奈良、平安、鎌倉時代とどのように変化したのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第３回	やきものでたどる日本美術 ・大陸から伝わった作陶技術をもとに日本独自の形に発展した陶磁器の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第４回	漆でたどる日本美術 ・蒔絵、漆工を用いた工芸、建築、また漆絵と呼ばれる絵画から、日本美術の特徴でもある漆について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第５回	奇想でたどる日本美術 ・江戸時代に数多く登場した個性派絵師。また絵画に限らず工芸や建築にも見られる前衛的でエネルギッシュな表現。奇想というキーワードで日本美術を通覧する。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第６回	黄金でたどる日本美術 ・金色を効果的に表現の中に取り入れた絵画、黄金で荘厳した寺院、金の障壁画で威光を演出した城、金蒔絵の工芸、「黄金」「かざり」というキーワードで日本美術の特徴を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第７回	女性でたどる日本美術 ・日本の文学や絵巻の文化が宮廷の女性たちの中で形成されたことなどを踏まえ、女性というキーワードで日本美術を読み解く。絵師として活躍した女性についても学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第８回	異文化でたどる日本美術 ・日本は国外の異文化を取り入れることで大きな変化を遂げてきた。異文化が流入した変革のタイミングに着目して、それが日本美術史の中でどのような意味があったのかを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第９回	受容者でたどる日本美術 ・日本美術は作家が自己表現として生み出したものではなく、常に受容者がいる中でその求めるところに応じて制作されてきた。天皇、公家、武家、寺社、財界人などによって支えられてきた歴史について学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１０回	風景画でたどる日本美術 ・中国山水画の影響で日本で描かれた山水図。理想郷としての山水図。和歌の歌枕とかかわりの深い名所絵。現実には成しえない視点で描く鳥観図。実際の景色を写し出そうとする真景図など、風景を描くという行為の変遷を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１１回	肖像画でたどる日本美術 ・天皇や公家を描く似絵、高僧を絵画化し、または彫像とした頂像など実在の人物を絵画や彫刻で表してきた歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１２回	書跡でたどる日本美術 ・中国の書家を手本とした三蹟、国風文化の中で登場した三筆などの能書家を中心に、書跡の歴史を学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60
第１３回	建築でたどる日本美術 ・仏教伝来とともに始まった日本の寺院建築、貴族の寝殿造、武家の書院造、また近世以降の城郭建築など、日本の美意識の形成とも深く関わる建築の流れを学ぶ。	【予習】テキスト・参考文献で、左記の授業内容に関連する作品に目を通しておく。 【復習】授業で取り上げた作品について説明できるようにする。	60

第１４回	到達度確認テスト ・ここまでの講義内容についての理解を確認するためのテスト	【予習】到達度確認テストへ向けて、これまでの講義内容を確認する。	60

〔授業の方法〕
パワーポイントで作品の画像を見ながらの講義形式。適宜、資料を配布します。授業では複数回アンケートや小テストを行い、最終授業で到達度確認テストを行います。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（70%）、平常点（授業への参加状況や小テスト・アンケートの提出状況）（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・日本美術史の基礎知識を習得したか。
・作品について自分の言葉で説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学卒業程度の日本史の基礎知識が必要となります。
その他に、なるべく美術館・博物館で実際に美術作品を見てください。

〔テキスト〕
・『増補新装 カラー版 日本美術史』辻惟雄監修、美術出版社、1900 円＋税、ISBN978-4568400656
・『教養の日本美術史』古田亮監修、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN978-4623085156
予習、復習用として挙げるが、図書館等で閲覧できれば購入の必要なし。

〔参考書〕
図書館に所蔵されている各出版社の日本美術全集
その他、授業時に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本民俗学A						
教員名	山崎　祐子						
科目№	125235140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
民俗学の分野のうち、衣食住、通過儀礼の基礎を学んだうえで、、民間信仰、口承文芸などを取り上げる。それらを異界という概念で読み解き、私たちの祖先が、生命をどのように考えていたのかをさぐる。すでに行われなくなった民俗ばかりではなく、現代の身近な事象も取り上げる。資料は、民俗調査報告書、日本の昔話や伝説などを幅広く用いる。日常生活に溶け込んでいる当たり前だと思っていること、少し不思議だと思われることを民俗学の視点で読み解く。民俗は、道具や家屋のような有形民俗と、芸能や技術のような無形民俗に分けられる。ここでは、民俗信仰という心の問題を有形、無形の両面から考察し、私たちの祖先が伝えたいメッセージを読み取る。

〔到達目標〕
基本的な民俗学の考え方を学び、学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。民俗、昔話についての概説を行う。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第２回	衣食住（民家） 民家における晴と褻の空間認識を考察する。民家を例に共同体のあり方を学び、身体尺の考え方、間取り図の読み方の基礎を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第３回	衣食住（自給自足の暮らし方） 映像を視聴し、水田のなかった山村の暮らし方を学ぶ。いわゆるスローフードや食の伝統につい考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第４回	衣食住（食生活） 各地の事例を紹介し、「日本の主食は米」という常識について考察しする。スシを例に発酵食品と主食の関係を学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第５回	特論（遠野物語） 柳田国男の「遠野物語」を山という異界、当時の女性の立場という視点で読む。合わせて、異界、境界について学ぶ。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第６回	通過儀礼（出産と産育） 大正末年から昭和初年にかけての出産の記録を読み、通過儀礼の意味を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第７回	通過儀礼（葬送と供養） 各地の死後供養の事例を視聴する。海と山の信仰（他界観）を学び、「祖霊」について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第８回	民間信仰（祈願と呪い） 呪い、占い、祈願の各地の事例を学び、現代の不安と民俗について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第９回	口承文芸（概説） 諺、謎々、昔話について学んだうえで、昔話と異界の関わりを考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１０回	異界をのぞく（幽霊と妖怪） 柳田國男の「妖怪談義」を読み、柳田の民間信仰や妖怪についての考え方を学ぶ。また、「夜」について日本の昔話ではどのように表現しているかを考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１１回	異異界をのぞく（伝説） 「番町皿屋敷」「累ヶ淵」を江戸という都市開発の視点で読む。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１２回	異界をのぞく（都市伝説） 学校の怪談や都市伝説を資料として、現代の不安について考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１３回	異界をのぞく（狐の伝承） 「狐の窓」の伝承や多摩ニュータウンの狐話を例に、狐に関わる伝承を考察する。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テストと解説。重要語彙の復習。	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。民俗を実感として理解できるよう、民具や雑穀、信仰用具などの実物にも教室で触れてもらう。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト（配布プリントと自筆ノートの持ち込み可 70 パーセント、平常点 30 パーセントとし、総合的に評価をする。リアクションペーパーは学期中に 2～3 階の予定。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に専門知識を必要とはしていない。

〔テキスト〕
使用しない。毎回、資料のプリントを配布する。プリントは、授業で配布するものと同じものをポータルサイトに掲載する。

〔参考書〕
配布資料に記載するほか、適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の前後で対応する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本民俗学B						
教員名	山崎　祐子						
科目№	125235150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
民俗学の分野のうち、年中行事、祭礼、民俗芸能を取り上げ、一年の暮らしのリズムがどのように組み立てられていたのかを考察する。

〔到達目標〕
太陰太陽暦の仕組みを理解し、年中行事や祭礼に関する民俗学の理論を理解する。民俗芸能の基本的な学術語彙を理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 　授業の進め方、参考文献や『日本民俗大辞典』の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。太陰太陽暦と季節感の考え方の基礎を解説する。	重要語句の復習をする。	60 分
第２回	太陰太陽暦の構造 自然暦の考え方、太陰太陽暦の仕組み、近世の大小暦の基礎知識を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第３回	年中行事１ 年の区切りの考え方を学ぶ。来訪神が登場する各地の伝説や昔話を資料とし、正月について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第４回	年中行事２ 正月・小正月の具体的な行事、豪雪地帯の冬の生活について映像資料を視聴し、年神を迎える意味や予祝儀礼について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第５回	年中行事３ 織姫・彦星ではない日本各地の七夕の民俗の事例を学び、七夕と盆行事について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第６回	年中行事４ 年中行事の構造を学ぶ。端午の節供を例に、地方の年中行事にまつわる口承文芸や贈答の習俗について考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第７回	民俗芸能１ 民俗芸能の基本事項を概説し、続けて備中神楽をの映像を視聴する。仮設の舞台の構造や装置、依代について考察する。	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第８回	民俗芸能２ 奥三河の花祭の映像を視聴し、民俗芸能を支える伝承母体について考察する。	重要語句の復習をする。中間課題をまとめる。	60 分
第９回	民俗芸能３ 西浦田楽の映像を視聴し、民俗芸能の重要な学術語彙を復習する。	重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。	60 分
第１０回	祭礼１ 子どもがが中心になって行う祭礼を教育と民俗という視点で考察する。	重要語句の復習をする。	60 分
第１１回	祭礼２ 祭礼の中で行われる成人の儀礼を擬死再生の視点で考察する	重要語句の復習をする。	60 分
第１２回	年中行事６ 『東都歳事記』などを資料として、各地の事例と比較しつつ江戸の正月について学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１３回	民俗行事の変化 東日本大震災の復興を無形民俗文化財の面から考察する。災害や開発によって、景観や自然が変わることが無形民俗文化財にどのような影響をあたえたかについて学ぶ。また、年中行事や祭礼の変化、商品化についての考え方を学ぶ。	重要語句の復習をする。	60 分
第１４回	まとめ 到達度確認テストと解説を行う。	重要語句の復習をする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で行う。第４回、７～１１回の授業では、40 分程度の映像を視聴し、重要事項を解説する形式で行う。
学期の途中、中間課題を課す。これは、第 7 回から 9 回の映像を視聴してまとめるものを予定している。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 60 パーセント、平常点（学期の途中に提出する課題 1 回を含む）40 パーセントとし、総合的に評価をする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
テキストは使用しないが、毎回、プリントを配布する。配布するプリントと同じものをポータルサイトに掲載する。

〔参考書〕
プリントに記載する。必要に応じて授業時に指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後に教室で対応する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の文学と思想						
教員名	桜井　宏徳						
科目№	125235160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
＊慈円『拾玉集』『愚管抄』を読む＊
　平安時代末期の藤原摂関家に生まれ、鎌倉時代初期の仏教界・文学界に君臨した慈円（1155～1225）の家集『拾玉集』と史論『愚管抄』を読み解くことを通じて、中世初頭の“知の巨人”と称してよい慈円の文学と思想の全体像に迫ります。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するために、以下の 2 点を到達目標とします。
① 慈円の『拾玉集』と『愚管抄』の読解を通じて、その文学と思想について理解を深める。
② 中世の和歌文学と歴史思想について、基礎的な知識を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／慈円概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第２回	『拾玉集』概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第３回	『拾玉集』を読む（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第４回	『拾玉集』を読む（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第５回	『拾玉集』を読む（三）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第６回	『拾玉集』を読む（四）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第７回	『拾玉集』を読む（五）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第８回	『愚管抄』概説	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第９回	『愚管抄』を読む（一）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１０回	『愚管抄』を読む（二）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１１回	『愚管抄』を読む（三）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１２回	『愚管抄』を読む（四）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１３回	『愚管抄』を読む（五）	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60
第１４回	『愚管抄』を読む（六）／レポート課題提示	［復習］配布されたプリントを熟読し、授業内容を確実に理解しておく。	60

〔授業の方法〕
　講義形式で行います。毎回プリントを配布し（スクリーンに PDF ファイルも映写します）、それに沿って講義を進めます。また、必要に応じて画像・写真などの視覚資料も適宜提示します。
　レポートはすべての授業回を対象とし、慈円や中世の和歌文学および歴史思想についての基礎知識が身についているかどうかを確認する内容とします。

〔成績評価の方法〕
　レポート（80%）と授業参加度（20%：リアクションペーパー等）によって評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に予備知識は必要ありませんが、他の中世文学・和歌文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特定の教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

〔参考書〕
石川一・山本一 著『拾玉集』（上）（下）〈和歌文学大系 58・59〉（明治書院、2008・2011 年）
岡見正雄・赤松俊秀 校注『愚管抄』〈日本古典文学大系 86〉（岩波書店、1967 年）
いずれも購入の必要はありません。その他、授業時に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。また、メールでも受け付けます（メールアドレスは初回の授業時に公開します）。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本演劇史						
教員名	牧　藍子						
科目№	125235170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
古典芸能として現代まで伝承・上演され、現代の演劇や文化にも大きな影響を与えている能・狂言・人形浄瑠璃（文楽）・歌舞伎について、その歴史的展開と芸能としての特色を考察するとともに、現代における舞台鑑賞の視点を身につける。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
・諸芸能の成立と展開について概要を説明できる。
・諸芸能の特色と享受の様相について、時代的背景と合わせて理解する。
・舞台鑑賞に必要な基本的知識を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読んでおく。 配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	30
第２回	能①　能の歴史１	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第３回	能②　能の歴史２	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第４回	能③　能の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第５回	狂言①　狂言の歴史	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第６回	狂言②　狂言の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第７回	能・狂言　鑑賞	指定の課題を行う。	60
第８回	人形浄瑠璃①　人形浄瑠璃の歴史	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第９回	人形浄瑠璃②　人形浄瑠璃の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１０回	人形浄瑠璃③　鑑賞	指定の課題を行う。	60
第１１回	歌舞伎①　歌舞伎の歴史１	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１２回	歌舞伎②　歌舞伎の歴史２	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１３回	歌舞伎③　歌舞伎の舞台と表現	配布資料や参考書・関連作品等を読み、理解を深める。	60
第１４回	歌舞伎③　鑑賞	指定の課題を行う。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行い、リアクションペーパーを提出してもらう。
作品鑑賞の回には課題レポートを課す（全 3 回）。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況・リアクションペーパー等）30%、課題レポート 70%による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・諸芸能の成立と展開について概要を説明できるか。
・諸芸能の特色と享受の様相について、時代的背景と合わせて理解しているか。
・舞台鑑賞に必要な基本的知識を身につけられたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
資料を配布する。

〔参考書〕
授業内で紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	物語と絵画						
教員名	木谷　眞理子						
科目№	125235180	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
テーマ：源氏物語と源氏絵
源氏物語を読み、その絵画化作品（源氏絵）を見ながら、物語技法および絵画化の工夫について考えます。
具体的には、各回のテーマにかかわる場面を取り上げ、原文を丁寧に読み、その絵画化作品を見ていきます。

〔到達目標〕
ＤＰ１【専門分野の知識・技能】、ＤＰ２【教養の修得】、ＤＰ４【表現力、発信力】を実現するため、次の３点を到達目標とします。
①源氏物語と源氏絵にかんする基本的な知識を有している。
②源氏物語に用いられている物語技法について、具体例を挙げて説明することができる。
③源氏物語を絵画で表現するためのさまざまな工夫について、具体例を挙げて説明することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 源氏物語の基本	指定された課題を行う。	60
第２回	源氏絵の基本	指定された課題を行う。	60
第３回	服飾①	指定された課題を行う。	60
第４回	服飾②	指定された課題を行う。	60
第５回	牛車①	指定された課題を行う。	60
第６回	牛車②	指定された課題を行う。	60
第７回	垣間見①	指定された課題を行う。	60
第８回	垣間見②	指定された課題を行う。	60
第９回	国宝源氏物語絵巻の基本	指定された課題を行う。	60
第１０回	国宝源氏物語絵巻――源氏と女三の宮	指定された課題を行う。	60
第１１回	国宝源氏物語絵巻――源氏と不義の子	指定された課題を行う。	60
第１２回	国宝源氏物語絵巻――夕霧	指定された課題を行う。	60
第１３回	国宝源氏物語絵巻――源氏と柏木	指定された課題を行う。	60
第１４回	顔貌表現	指定された課題を行う。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきますが、毎回、課題を出します。

〔成績評価の方法〕
授業時の課題を 50%、学期末に提出するレポート（CoursePower から提出）を 50%、の割合で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①源氏物語と源氏絵にかんする基本的な知識を有しているか。
②源氏物語に用いられている物語技法について、具体例を挙げて説明することができるか。
③源氏物語を絵画で表現するためのさまざまな工夫について、具体例を挙げて説明することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
プリントを配布しますので、購入の必要はありません。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	貴族社会の暮らしと文学						
教員名	吉田　幹生						
科目№	125235190	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
平安時代の貴族の暮らしについて、毎回１つのテーマを決めたうえで、具体的な文学作品を例に講義する。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）を実現するために、次の２点を到達目標とする。
①平安時代の貴族の暮らしについて、その具体的な特徴が説明できる。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	平安京	大学図書館にある概説書などを利用して、平安京の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第２回	大内裏	大学図書館にある概説書などを利用して、大内裏の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第３回	貴族の住まい	大学図書館にある概説書などを利用して、寝殿造の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第４回	貴族の服装（女性の装束）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の装束の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第５回	貴族の服装（男性の装束）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の装束の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第６回	政治のしくみ	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の政治制度の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第７回	後宮のしくみ	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の後宮の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第８回	貴族の人生（誕生・結婚）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の通過儀礼の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第９回	貴族の人生（算賀・葬送）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の通過儀礼の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１０回	年中行事	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の年中行事の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１１回	貴族の信仰（仏教）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の仏教の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１２回	貴族の信仰（新道・陰陽道）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の神道や陰陽道の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１３回	貴族の生活（音楽・芸能）	大学図書館にある概説書などを利用して、平安時代の音楽や芸能の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第１４回	まとめ	これまでの授業をふりかえり、それぞれのテーマのポイントについて整理する。	60

〔授業の方法〕
講義形式による。
授業中に課す課題や、レポート課題あるいは学期末試験については、授業内容についてだけではなく、一般的な入門書や概説書に載っている内容についても理解していることが求められる。そのため、基本事項を中心に、自分自身で知識を得るという習慣を身につけてほしい。

〔成績評価の方法〕
授業中に課す課題（４０％）及びレポート課題あるいは学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
評価にあたっては、次の点に着目し、その達成度により評価する。
①平安時代の貴族の暮らしについて、基本的な知識が身についているか。
②平安時代の文学作品に描かれた貴族の暮らしについて、具体的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ない。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
入門書などはその都度紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語表現の特質（近現代日本語の表現）						
教員名	木村　一						
科目№	125236120	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
日本語の表現の特質を考える上で，近現代に焦点をあててみることとする。特に，近代から現代にかけて何を引継ぎ，また引き継がなかったのかを考えたい。このことは，私たちが日常生活を送る上で，どのようなことばを選択し，その上で使用するのかといったことにとても深く関わっている。
そこで，歴史的視点を持ちつつ，また社会とのかかわりに留意しながら，日常用いることばについて，敬語，方言，集団や年齢といった異なり，また日本語の習得，さらには制度や条約などとの関りから多面的に調べ，考えることとしたい。あわせて関連資料との比較検討を行う機会ともしたい。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能），４（表現力・発信力）を実現するため，次の３点を到達目標とする。
①近現代日本語に関する高度な知識を学び，日本語の専門的な分析を行うことができる。
②難易度の高い課題への対応能力を身につけ、それらを活用した表現ができる。
③様々な資料を用いることで，諸事象を日本語学的に整理，調査，考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	近現代日本語を考える	どのような時代差が生じているのか整理しておく。	60
第２回	近代の資料を読む①	現代とどのような変化があるのかを確認しておく。	90
第３回	近代の資料を読む②	変化の理由を考えておく。	90
第４回	待遇表現の変遷	なぜ敬語を使用するのかを考えておく。	90
第５回	敬語の種類と使い分け	使い分けの際の理由や意識の変化を考えておく。	90
第６回	注意すべき敬語	誤りと思われる敬語の実例を探しておく。	90
第７回	方言を考える	歴史的に地域による異なりがどのような影響を与えているのかを考えておく。	90
第８回	方言の分類	どのような分類が考えられるかを調べておく。	90
第９回	集団によることばの使い分け	集団内と集団外の相違について考えておく。	90
第１０回	年齢によることばの使い分け	世代による違いがなぜ生じるのかを考えておく。	90
第１１回	広告におけることば	効果的な広告のことばの実例を探しておく。	90
第１２回	新語・流行語と，ことば遊び	身の回りの実例を探しておく。	90
第１３回	外国語から外来語への変化	外来語について調べておく。	90
第１４回	まとめ	各回を振り返り，到達度の確認のテストを行う。	90

〔授業の方法〕
各題材を扱いながら，関連資料の利用方法などの説明を行う。なお，必要に応じて，プリントなどの資料を配布して，受講者による調査・作業・報告も行う予定である。
授業の前半では講義を行い，後半では課題を解いて学修状況を把握する。

〔成績評価の方法〕

授業内試験（60%），課題への取り組み等の授業への積極的な参加（40%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し，その到達度により評価する。
①近現代日本語に関する専門的な知識を身につけ，その内容を的確に説明できる。
②各課題を十分に理解し，各回の内容を分かりやすく説明できる。
③様々な資料から必要な情報を読み取り，活用することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。プリント配布。

〔参考書〕
『シリーズ〈日本語の語彙〉』1～8　（朝倉書店）
※ 購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。メールアドレスは，講義時に伝える。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際関係論入門						
教員名	川村　陶子						
科目№	125331100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、国際関係研究（国際関係論、International Relations）とよばれる学問分野についての概説をおこなう。国境を越えるさまざまな現象を把握し理解するための基礎概念や思考枠組みを、実際のニュースや国際問題を取り上げながら解説する。
国際関係研究は、その名が示すように、「国家から成る世界」を前提として 20 世紀に確立した新しい学問である。その一方で、研究対象たる現実の世界が大きく変化していく中、学問的意義や有効性がつねに問い直される状況にある。講義では、学問研究と現実世界の相互関係を重視し、社会・世界を研究することのおもしろさを受講者に伝えられればと考えている。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。
①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深めること。
②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになること。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、現実の国際情勢や研究の動向、受講者の構成や反応などにより、修正することがある。） イントロダクション 講師の問題関心と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係の現象や研究に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	国際社会をとらえる基礎概念（１） 国際社会という「場」の特徴を整理し、それを構成する主体の多様性についても理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際社会をとらえる基礎概念（２） 国際社会のベースとなる主権・国民国家体制について、その形成過程を解説し、矛盾を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	国際関係をとらえる基礎概念（３） パワーの概念について解説し、その諸側面を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	国際社会のとらえかた（１） リアリズムの考え方について解説し、勢力均衡、安全保障のディレンマといった鍵概念への理解を深める。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	国際社会のとらえかた（２） リベラリズムと相互依存論の考え方を解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	国際社会のとらえかた（３） 国際関係に対する「南」からの視点について解説するとともに、グローバル化の概念にも議論を広げる。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	国際関係のマネジメント（１） 主権国家間関係の運営である外交の基本原則について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	国際関係のマネジメント（２） 一国の立場からみた対外政策について、その形成過程や主要な研究上のテーマを概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	国際関係のマネジメント（３） 外交の発展と変容について、国際関係の歴史的展開とからめながら考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	国際関係の制度化（１） 国家間の利害を調整し、国際協力を推進する仕組みとしての国際制度・国際組織について概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	国際関係の制度化（２） 前回に引き続き、国際関係をより確実なものとする仕組みについて概説する。国家間協力よりも一歩進んだ取り組みとしての地域統合にも目を向ける。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

第１３回	国際関係研究の拡大 今日の国際社会の現状、新たな動向を整理するとともに、そうした展開をふまえた国際関係研究の広がりを確認する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１４回	まとめ 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修を総括し、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連して行った自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（CoursePower で提出）30%をめやすに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その達成度により評価する。
①国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深める。
②現代の国際関係、国際社会の歴史的変化を、自分なりに分析し考察できるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
世界史や政治経済、倫理等の基礎知識があると、授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず、自主的な学修を推奨する。
関連科目：平和学入門、国際文化論、国際政治経済学等

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
滝田賢治・大芝亮・都留康子編『国際関係学（第３版補訂版）』有信堂、2023 年。
村田晃司ほか編『国際政治学をつかむ』（新版）、有斐閣、2015 年。
ほか、開講時および授業中に随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	平和学入門						
教員名	墓田　桂						
科目№	125331110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
【平和と安全はどのように維持できるか　−安全保障の多面的考察】
「平和」とはどのような状態を指すのだろう？誰が、どのように維持しているのだろう？混沌とした国際情勢にあって、「国際の平和と安全」を維持する目的で作られた国連は今でも有効だろうか？
この授業では、伝統的な安全保障論に則りつつ、平和と安全保障にかかわる学説や政策論議を多面的に考察する。
より具体的には、同盟に代表される軍事的手段や外交に加え、国連や人道援助組織を含めたアクターの活動をとりあげる。平和と安全保障の個別の課題（イシュー）を検証しながら、分断と対立に特徴づけられる世界の実相を読み解く。
なお、担当教員は外務省（専門調査員、外務事務官）および法務省（難民審査参与員）での実務経験を有する。保秘義務に反しない範囲で、実務経験に基づく知見を授業内で共有する機会を設けたい。
（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。）

〔到達目標〕
DP1【専門分野の知識・技能】、DP2【教養の修得】、DP3【課題の発見と解決】を実現し、特に DP1-1「国際関係研究の基本的な諸概念や理論枠組みを把握し、それらを用いて世界情勢の主要問題を分析することができる」ようにするため、下記を到達目標とする。
・国際関係を巨視的な観点で考えることができる。
・現代世界が直面する諸問題を理解できる。
・国際平和と安全保障における課題を自ら発見することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ―この授業で学ぶこと	授業に関連する事項を予習する。	90
第２回	変動する国際環境 ―VUCA の時代	授業に関連する事項を予習する。	90
第３回	世界をどう捉えるか ―アクターとアプローチ	授業に関連する事項を予習する。	90
第４回	脅威の認識	授業に関連する事項を予習する。	90
第５回	さまざまな戦争の形	授業に関連する事項を予習する。	90
第６回	安全保障の方法論	授業に関連する事項を予習する。	90
第７回	国連を通じた平和の実現とその限界	授業に関連する事項を予習する。	90
第８回	集団防衛を通じた平和と安全―NATO と日米安保	授業に関連する事項を予習する。	90
第９回	平和構築の取り組み	授業に関連する事項を予習する。	90
第１０回	平和構築と移行期正義	授業に関連する事項を予習する。	90
第１１回	武力紛争と人々の保護	授業に関連する事項を予習する。	90
第１２回	インド太平洋時代の平和と繁栄 ―世界と日本	授業に関連する事項を予習する。	90
第１３回	到達度確認テスト	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	※到達度試験の準備学修は、個人の判断に委ねる。
第１４回	まとめ	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

〔授業の方法〕

講義形式を基本とする。なお、上記の授業計画は変更することもある。

〔成績評価の方法〕
平常点（20%）、到達度確認テスト（80%）を組み合わせた総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目はなし。（※予備知識がなくとも、国際情勢への関心があれば授業についていくことは可能です。）

〔テキスト〕
特に指定しない。

〔参考書〕
授業中に配布するレジュメの中で提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化論						
教員名	川村　陶子						
科目№	125331120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、「国際関係における文化」をめぐるさまざまなトピックを扱う。その際に、文化という概念の歴史的変遷や、その多義的な意味内容にとくに注意を払う。各トピックに関する主要な研究動向と、現実世界の歴史的展開や今日の状況、国際関係と私たち自身とのつながりを、バランスよく学修することを目指したい。
授業の前半では、国際関係を分析する「枠組み」としての文化、後半では、国際関係を媒介する「要素」としての文化に焦点を当てる。全体を通して、「国家（政府）間だけではない国際関係」や、「いわゆる政治や経済とは異なった領域の国際関係」に注目することになるであろう。授業全体を通して、そうした「文化の国際関係」が、「国家（政府）間の国際関係」や「政治や経済とよばれる領域の国際関係」と密接に関連しており、ときにはそれらを規定し動かす力をもっていることを意識できるようになればと考えている。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整・変更する可能性がある。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP６（自発性、積極性）を実現するため、次のことを到達目標とする。
①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむこと。
②国際関係を、国家間の関係や狭い意味での政治・安全保障に限定せず、より幅広く身近なものとして考えられるようになること。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。受講者の構成や関心などによって、講義の構成や進度を調整する可能性もある。） イントロダクション 講師の問題意識と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係や文化に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	文化の概念 研究の基本概念である「文化」について、その意味の広がりや概念の歴史的形成・発展を理解する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	国際関係の研究史と文化の視点 国際関係研究の発展史を概説し、「文化の視点」が必要とされる背景を明らかにする。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	文化からみる国際関係（１）　国民国家と文化 国際関係の基本的単位主体ある国民国家が「文化的まとまり」であることを解説し、国民文化という「あたりまえ」の裏にある問題性について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	文化からみる国際関係（２）　文化と「西洋近代」 国際関係研究のもとになっている欧米や西洋の考え方と、それとは違う考え方との関係、西洋と非西洋の関係について考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	文化からみる国際関係（３）文化的境界に沿った対立・衝突 20 世紀後半以降、文化相対主義的な考え方が国際関係の現実や研究に及ぼしたインパクトを、批判的に考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	文化からみる国際関係（４）グローバル化の中の偏見と憎悪 ポスト冷戦、とりわけ「9・11」後の世界において、「対立と憎悪の負のスパイラル」が生じている状況を概説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	文化からみる国際関係（５）　負のスパイラルを乗り越えるために 文化的境界線に沿った対立・衝突を乗り越え、多様な人びとが共生するための方策を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（１）国際関係の文化的運営 「国際関係が異文化間関係であるならば、文化的手段を用いて国際関係を形づくることができる」という考え方を紹介し、文化を資源・媒介とした国際関係の運営のさまざまなパターンを解説する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（２）国際関係の文化的運営の歴史的展開・１ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「帝国主義の時代」までの時期を扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（３）　国際関係の文化的運営の歴史・２ 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「世界大戦の時代」から「冷戦の時代」にかけてを扱う。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・１ ポスト冷戦期、21 世紀における国際文化関係運営の新しい発想	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60

	やトレンドを紹介する。	レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	
第１３回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（４）　グローバル化時代の国際文化関係運営・２ 前回に引き続きポスト冷戦期、21 世紀の国際文化関係運営の新しい発想やトレンドを紹介する。また、そうした新しい動きがもたらす可能性と問題性を考察する。	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握する。授業のノートを復習し、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１４回	まとめ 今日の世界において、文化でみる国際関係、文化でつくる／文化がつくる国際関係がどのように展開しつつあるか、その現状と展望を整理する。 一学期間の授業を総括する。	一学期間の学修をふり返り、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連しておこなった自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説する。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）70%、レポート（学期末に CoursePower で提出）30%をめどに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを概観し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむ。
②国際関係を、幅広く身近なものとして考えられるようになる。
③自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
受講者は、報道や身の回りの事象に目配りするなどして、現代世界の動向につねに注意を払うことが求められる。
講義は現代史の知識を前提とした内容になる。高校での関連科目選択の有無にかかわらず、自主的な学修を行うことが望ましい。
本講義は、米国を中心に発展してきた国際関係論（International Relations、国際政治学）を批判的に乗り越える立場から組み立てられている。国際政治学の基礎的知識がなくても理解できるように講義しているが、意欲のある受講者は「参考書」欄に挙げた図書等の概説書を用いて自習す

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
講義内容に直接関連する文献やネットの情報は、授業中に適宜紹介する。
以下の文献の第 1 章は、本講義の一部と内容が重複する。理解を深めたい受講者には一読を推奨する。
川村陶子『〈文化外交〉の逆説をこえて−ドイツ対外文化政策の形成』名古屋大学出版会、2024 年春刊行予定。
下記は一般的な国際関係論（国際政治学）の概説書である。本講義とは内容を異にするが、多角的に学習したい受講者には参考とすることを奨めたい（「必要な予備知識」欄を参照）。
滝田賢治・大芝亮・都留康子編『国際関係学（第三版補訂版）』有信堂、2023 年。
ジョゼフ・S. ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ（田中明彦・村田晃司訳）『国際紛争−−理論と歴史 原書第 10 版』有斐閣、2017 年。
村田晃司ほか『国際政治学をつかむ』（新版）有斐閣、2015 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際政治経済学						
教員名	須田　祐子						
科目№	125331130	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義は、国際政治学のアプローチからグローバリゼーション、とくにその経済的側面に対する理解を深めることを目的とする。コースの前半では、国境を越えるモノ、サービス、情報、カネ（資本）、人の移動によって進展するグローバリゼーションのさまざまな様相を概観する。後半では、グローバリゼーションへの政策的対応を「規制」という切り口から検討し、どのような規制がグローバルおよびナショナルなレベルで作成、実施されているのかを具体例を挙げて論じる。グローバリゼーションと呼ばれる事象が現代の政治、経済、社会にどのような影響をもたらしているのかを探ることが講義全体の大きなテーマである。

〔到達目標〕
政治と経済の相互作用について国際的文脈から学び、グローバリゼーション時代に世界が直面するさまざまな問題について考察できるようになるとともに、国際政治経済を律する取り決めが国内に（しかも意外に身近なところに）どのような影響を及ぼしているのか説明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	グローバリゼーションとは？ 「グローバリゼーション」という言葉が何を意味するのかを説明する。また「国際化」など関連する概念も合わせて説明する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第２回	モノの移動 国際貿易を律するグローバルな枠組みであるＧＡＴＴと世界貿易機関（ＷＴＯ）の歴史的展開と現在の課題について解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第３回	ＴＲＩＰＳと医薬品アクセス問題 貿易関連知的財産権（ＴＲＩＰＳ）協定について学ぶ。医薬品アクセス問題を取り上げる。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第４回	サービスの移動 サービス貿易一般協定（ＧＡＴＳ）について通信分野と放送分野に焦点をあてて解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第５回	情報の移動 デジタルデバイド（情報格差）やインターネット資源の管理など情報通信をめぐる政治と経済の問題を概観する。 到達度確認テスト（１）	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第６回	人の移動 ＧＡＴＳと「人の移動」、ＦＴＡ・ＥＰＡによる労働力移動の自由化について解説する。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第７回	インターネットで変わった？ インターネット時代の著作権保護、プライバシー保護、児童ポルノ規制について、国際的取り決めがどのように発展してきたのかを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第８回	グローバルな不法経済 麻薬と資金洗浄への対策を事例として、国際的取り決めがどのように国内規制に影響を及ぼすのかを見る。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第９回	オゾン層破壊と気候変動 オゾン層と地球温暖化に関する国際的枠組みを比較しながら地球環境問題に対する国際的取組みについて考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１０回	有害物質の管理 有害物質のグローバルな規制について有害廃棄物の越境移動に関するバーゼル条約と水銀に関する水俣条約などを例として考える。 到達度確認テスト（２）	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１１回	遺伝子組み換え作物 生物多様性条約カルタヘナ議定書とコーデックスガイドラインを対比させて、貿易と環境の交錯するところでの国際規制の難しさを考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１２回	認証と資源管理 森林管理協議会（ＦＳＣ）と海洋管理協議会（ＭＳＣ）の認証制度について学ぶ。またキンバリープロセスについて学ぶ。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１３回	宇宙開発 宇宙開発の歴史を振り返り、最近の動向と現在、大きな問題となっている宇宙ごみ（スペースデブリ）について考える。	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60
第１４回	たばことアルコール たばこ規制枠組み条約の事例から国際的規制の国内への影響について考える。 到達度確認テスト（３）	授業前に CoursePower で配布した資料を読む。授業後は講義の内容を振り返りレジュメにある用語を説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕
授業は対面で実施する。毎回 CoursePower でレジュメと資料を配布する。毎回、授業の最後に CoursePower 上で授業内課題に取り組む。授業内課題では、講義の内容をどの程度理解しているのかを評価する。その他に３回の到達度確認テストによっても評価する。

〔成績評価の方法〕
授業内課題（70%）
到達度確認テスト（30%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。授業内課題と到達度確認テストでは、授業で取り上げたさまざまな問題について基本的理解ができているかどうか、またそれらの問題の背景と経緯を的確に説明できるかどうかを評価の基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際協力論						
教員名	堀江　正伸						
科目№	125331140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
今日、グローバル化が益々進展するなか、さまざまな問題も国境を越え他国、そして国際社会全体に影響をおよぼす。例えば、2020 年より流行した感染症の広がり、ウィルスとの戦いを見れば明らかであろう。また、2022 年のロシアによるウクライナ侵攻は、私たちの生活に欠かせないエネルギーや食料等にも影響を与え、さらに避難民に対する支援、避難民の受け入れにも含めて、日本の外交上の問題ともなる。そうした問題の解決には国際協力が欠かせない。しかし、一口に「国際協力」と言っても、さまざまな方法があり、そこに携わるアクターも多い。また、国際協力が行われている分野も、経済、社会、平和構築等と多岐にわたる。本講義においては、国際協力が何故必要なのか、また国際協力はどのように行われているか、どのようなアクターにより行われているのかなど国際協力の基本的なメカニズムについて知識を提供することを目的としている。

〔到達目標〕
①国際協力はどのような問題に対して行われ、またその原因は何かについて一端を理解している。
②各種国際協力の概略を理解している。
③国際協力に関わるアクターについて知識を持っている。
④国際協力の障害となりうることを考えられる思考力を養う。
⑤上記のような知識を活かして、様々な国際問題について自分なりの意見を形成できる。
⑥将来、国際協力の分野で活躍したいと考える学生は、希望具体化のさらなる検討に欠かせない国際協力の基本的枠組みを理解している。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス　授業の概要と進め方 何故国際協力は必要なのか? 国際協力を必要とする諸問題にはどのようなものかを考えてみる。	シラバスの確認 私たちの生活と国際社会はどのような繋がりがあるか考えておく。	15
第２回	経済開発 日本が受けまた提供してきた支援には、大型のインフラ整備や産業の活発化に欠かせない施設の建設がある。それらの効果や問題点について議論する。	事前に配布する資料の講読。	60
第３回	社会開発 貧困対策、教育、健康維持のためのサービスといった直接的に人々が受益する支援について考察する。	事前に配布する資料の講読。	60
第４回	人間開発、人間の安全保障 1990 年代後半より日本の支援政策の主流となっている人間の安全保障という考え方について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第５回	人道支援 災害や紛争の被害者への直接的支援である人道支援の理念や国際社会はどのように人道支援を行っているかを概観する。	事前に配布する資料の講読。	60
第６回	難民・強制移動と国際協力 国際的な難民保護体制がどのように生まれて進化していったのか、それでもなお保護体制から漏れる人々はどのように支援していけばよいのかを検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第７回	平和構築 東西冷戦の終結とともに国内紛争が頻発し、平和構築の重要性が増した。平和構築の変遷、目指していること、また他の支援との関連性について一考する。	事前に配布する資料の講読。	60
第８回	現在の国際協力の目標としての SDGs 国際協力を必要とする最近の問題や、2030 年までの国際社会の目標である SDGs がどのように生まれたのかを、ここまでの復習を織り交ぜながらレビューする。	事前に配布する資料の講読。	60
第９回	ODA、二国間支援 国際協力に掛かる費用は誰が提供し、また主に外交政策として行われる二国間支援について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第１０回	多国間支援 国際連合や世界銀行といった多くの国々が出資して行われる多国間支援について検討する。	事前に配布する資料の講読。	60
第１１回	NGO や企業の役割 近年活発化している、NGO や企業といった国家を基盤としない機関の国際協力を検討する。	レポートに関する調査と執筆	60
第１２回	国際協力の現場 実際に行われていた紛争や自然災害の被害者対する支援や貧困軽減のためのプログラムなどを、現場で起こる問題を中心に考察する。 レポート提出『最も関心のある国際社会の問題と国際協力』	レポートに関する調査と執筆	60
第１３回	国際協力シミュレーション 紛争地での支援を想定し、役割を決めて支援策の立案、他の支援機関との交渉を行ってみる。	事前に配布する資料で、シミュレーション現場の状況を理解する。	60

第１４回	レビュークイズ 全体の復習 レポート発表	授業全体に関してノートなどを用いて復習。	60

〔授業の方法〕
対面を基本とするが、１回の授業の中で２回から３回のディスカッションの時間を設ける。また国際協力シミュレーションやレポートに関するプレゼンテーションを予定している。

〔成績評価の方法〕
総合評価
内訳: レビュークイズ 30%、毎回の講義に関する自身の意見や授業への貢献 30%、レポート 40%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『国際協力－その新しい潮流（第３版）』、下村恭民他編、有斐閣選書、2,200 円、ISBN: 978-4-641-28138-7
『国際協力論を学ぶ人のために』、内海 成治編、世界思想社、3,080 円、ISBN: 978-4-790-71674-7
『新しい国際協力論（改訂版）』、山田満編、明石書店、2,600 円、ISBN: 978-4-750-34761-5
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際関係論特講Ａ						
教員名	山本　哲史						
科目№	125331150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

■安全保障系の時事問題に即した世界の動体把握

この授業では、現在の世界がどのように動いているのかを各種ニュースや時事に基づき把握することを試みます。主に安全保障を想定していますが、この問題に限らず世界の動きは互いに連動している相互依存系の複雑系システムとして見ることができますので、テーマを限ることはせず、関連性を求めて思考の範囲や深さを広げていくことに努めます。

■自分で考える意識

知識には、他者が生み出したものと、自分で経験や思考を経て生み出したものという分類があります。この授業では前者を意識しながら、特に後者に力を入れた取り組みを行います。具体的には、各種の論点を教員から示し、そのある程度の思考枠組や議論の分類などを紹介した上で、参加者各人は何を考えるのか、それを相互参照して意見を述べ合い、さらに知識の精度を高めるための方法を獲得することを練習したいと考えています。

〔到達目標〕

■自分で考える力の獲得

知識には、他者が生み出したものと、自分で経験や思考を経て生み出したものという分類があります。前者は各種の書籍や講義などを通じて獲得するものですが、後者には訓練が必要となります。これからの時代は各人が自分の意見を自ら構築し、それを他者と比較対象、交換するなかから、さらに深めてゆく力が必要とされるという意味で、自分で考える力を培っておく必要があります。

■論点に対する意見と、論点の開拓

安全保障に関する主要なトピックを教員から提示し、その考え方などを踏まえた上で、参加学生各人はなんらかの自分の意見を形成できるようになることを目指します。さらにその意見を他者と交換し、集団としての意思決定や知識自体の精査と普及を練習します。具体的には、授業の中で教員から話を振るので、これに適宜答える形で応答力や思考力を鍛えます（ソクラテス・メソッド）。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	安全保障の時事問題の収集。何か一つ自分が気になるテーマについて調べたり考えたりしてきてください。	60 分
第２回	現代の安全保障論 米中関係 日米同盟 インド太平洋	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第３回	日本と戦争　① 日清・日露 日中戦争初期	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第４回	日本と戦争　② 日中戦争中期 太平洋戦争	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第５回	現代の戦争　① ウクライナ	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第６回	現代の戦争　② アフガニスタン	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第７回	現代の戦争　③ 認知戦 サイバー戦	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第８回	政治と戦争　① なぜ戦争は始まってしまうのか 誤解の歴史 ゲーム理論	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第９回	政治と戦争　② 戦争を終了させるために政治は何をすべきか 日中戦争 真珠湾攻撃	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第１０回	戦略論　① 不定性との戦い アンドリュー・マーシャル	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第１１回	戦略論　② 世界戦略と地域覇権	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第１２回	戦略論　③ モザイク戦 意思決定	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分
第１３回	戦略論　④ 一般抑止 緊急抑止	テーマについて興味のあるところを調べたり考えたりしてきてください。形式的である必要はありません。発言を求めることがあります。	60 分

第１４回	まとめ	これまでの内容を全体像を意識しながら思い返してみてください。	60 分

〔授業の方法〕
■教員からの講義
国際関係論の観点から時事の話題をニュース等から抽出し、日常会話風に教員から学生に示す。
理論の応用という視座を意識し、学生には理論の本質を伝えることに着意した講義内容とする。
■学生からの議論
上を受けて、学生には授業内で適宜対話を求める。日常会話風に進める予定であるので、学生を緊張させないよう心がける。
■リアクションペーパー（随時）
上を受けて、授業後に調べたり整理したりして作成する課題の提出を求めることがある。学生に過度な負担になるようなことはせず、思考を促すことに着意する。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や質疑への応答内容）70%
小課題（リアクション・ペーパーの提出: 授業内で適宜指示する）30%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目は国際政治学、国際関係論。ただし特別な予備知識として必要とするものではない。

〔テキスト〕
購入の必要なし。

〔参考書〕
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	平和学特講A						
教員名	光辻　克馬						
科目№	125331170	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本講義は、受講生のみなさんが戦争や紛争についての理解を深めることをめざします。平和を獲得し維持するためには、戦争や紛争を制御し管理することが必要となります。しかし、戦争や紛争は複雑で制御困難な性質を持っており、まずはその性質をよく理解することが必要となります。さまざまな観点から戦争や紛争をまなび、平和を維持・獲得に資するための知恵を獲得しましょう。

〔到達目標〕
本講義において、受講者は戦争や紛争についてさまざまな視点から考える能力を獲得します。その視点には、国際関係論（国際政治学）、歴史学、政治学、統計学、地域研究、数理モデル、ゲーム理論などが含まれます。紛争のさまざまな側面を理解することで、それを制御し管理する能力を向上させることができます。受講者は、いずれの分野についても、前提知識を必要とはしません。しかし、自分の知らない新たな学問分野や知識について、前向きに学ぶ姿勢が要求されます。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	無政府な社会における平和＝ これまでの歴史のなかで人類が形成してきた国際秩序の特徴を学び、同時に現在の国際社会の特徴を学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第２回	国家主権でみる世界＝ 現在の国際社会の秩序理念（国家主権）が、どのように紛争を管理し平和を維持する仕組みであるのかを、歴史的な視点から学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第３回	権力政治でみる世界＝ 国際社会における国家間の権力関係が、どのように紛争を管理し平和を維持してきたのを、歴史的視点から学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第４回	国民統合でみる世界＝ 国民国家の形成によって、戦争や紛争の性質に生じた性格の変化を学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第５回	民族紛争と虐殺＝ 民族紛争が生じる構図を理解し、それによって生じる結果と、紛争を管理するための国際社会の試みについて学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第６回	現実主義者と理想主義者（と社会構成主義者）＝ 国際政治を考えるうえで、国際関係論の主要な流派について、それぞれの特徴を学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第７回	対立と協調とその構図（１）＝ 紛争主体間の対立と協調について、初歩的なゲーム理論をもちいて整理する方法を学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第８回	対立と協調とその構図（２）＝ 紛争主体間の対立と協調について、初歩的なゲーム理論をもちいて整理する方法を学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第９回	社会的ジレンマと国際紛争＝ 社会的ジレンマのある状況において、どうやって協力関係を生成・維持していくのかについて学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第１０回	戦争規模の法則性と核戦争＝ 戦争の規模にひそむ法則性とその意味について学び、将来想定される核戦争の性質についても学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第１１回	イデオロギーと戦争＝ 国際社会における民主主義観の変遷とそれが現在の国際社会における紛争に与える影響について学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第１２回	危機状況＝ 危機状況における紛争主体の意思決定の特徴について学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第１３回	テロリズムと破綻国家＝ テロリズムが生じる構図を理解し、その温床となっている破綻国家について学びます。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分
第１４回	まとめ＝ 講義全体のまとめを行います。	授業後、講義内容をふまえた課題（講義課題）を提出していただきます。	６０分

〔授業の方法〕
授業は講義形式で行います。可能で有用と講師が判断した範囲で動画も利用しますが、教室に出席して受講することが求められます。受講人数などを考慮して参加形式の授業を部分的にとりいれる予定です。講義各回で簡単な課題（講義課題）を出します。講義課題にもとづいて成績の評価をします。

〔成績評価の方法〕

成績評価は、各回の講義課題（評価割合１００％）に基づいて行います。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
（1）講義をしっかり受講している
（2）講義内容をしっかり把握している
（3）講義内容を平易に正確に説明できる

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特にありません。

〔参考書〕
『国際関係論講義』、山影進、東京大学出版会、３０８０円（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバル・イシューズ						
教員名	木村　友彦						
科目№	125331190	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
現在の国際社会は、ヨーロッパに歴史的な起源を持つ「主権国家体制」として一先ず特徴づけられますが、平和、開発、人権・人道、環境問題をはじめとして一国単位ではなく国際社会全体が関心を持ち取り組むべき問題も山積しています。また国境を越える経済活動も日常的になっています。こうしたグローバル・イシューズにより適切に対応するために、国家は国際連合をはじめとする国際機構を設立することに合意し、設立された国際機構は加盟国に加えて、市民社会や企業などとも時に協力して、その目的実現を目指すようになっています。この授業では、こうした国際機構の役割の検討を通して、グローバル・イシューズへの理解を深めていきたいと思います。

〔到達目標〕
グローバル・イシューズ並びに国際機構の役割に理解を深める。こうした学習を通して、DP1 や DP３に掲げられた到達目標を達成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 国際機構の歴史①	シラバスを読む。	60
第２回	国際機構の歴史②	テキストの第１章を読む。	60
第３回	組織としての国際機構／国際公務員	テキストの第２、３章を読む。	60
第４回	国際機構の財政／意思決定	テキストの第４、５章を読む。	60
第５回	安全保障・軍縮	テキストの第６章を読む。	60
第６回	人権・人道	テキストの第７章を読む。	60
第７回	到達度確認テスト（中間）と復習	これまでの授業内容を見直し、テストに備える。	120
第８回	経済・貿易・通貨・開発／運輸・通信	テキストの第８、１１章を読む。	60
第９回	文化・知的協力	テキストの第９章を読む。	60
第１０回	環境	テキストの第１０章を読む。	60
第１１回	保健衛生	テキストの第１２章を読む。	60
第１２回	紛争解決	テキストの第１３章を読む。	60
第１３回	国際機構のパートナー／国際機構と日本	テキストの第１４章、終章を読む。	60
第１４回	到達度確認テスト（期末）と復習	これまでの授業内容を見直し、テストに備える。	120

〔授業の方法〕
基本的には下記のテキスト『入門　国際機構』に基づいた講義形式を予定していますが、上記の授業計画には変更も考えられます。毎回レジュメを配布する予定にしています。授業では国連をはじめとする国際機構が関わる時事問題にも積極的に触れたいと思います。2 回実施する予定の到達度確認テストでは基本的な事柄の理解を重視します。

〔成績評価の方法〕
平常点（25%）と授業内に行う２回の到達度確認テスト（75%）を基本にすることを考えています。また任意提出のレポート課題を出し、評価に加えることも考えています。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
横田洋三 (監修)『入門 国際機構』(法律文化社、 2016 年)

〔参考書〕
植木安弘『国際連合 ： その役割と機能』（日本評論社、2018 年）
山田哲也『国際機構論入門 第 2 版』（東京大学出版会、2023 年）
野林健, 納家政嗣編『聞き書　緒方貞子回顧録』（岩波書店、 2020 年）
筒井清輝『人権と国家: 理念の力と国際政治の現実』（岩波書店、2022 年）
（他の文献は授業内で挙げていきたいと思います。）
国連の活動に関しては、国際連合広報センター（https://www.unic.or.jp/）のホームページの活用を考えています。
国連をはじめとする国際機関、外務省、NGO などの活動に関心があり自ら情報を収集したい方は、国連フォーラム（http://www.unforum.org/）のメーリングリストへの登録も有益かもしれません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学入門Ⅰ						
教員名	細谷　広美						
科目№	125332100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本授業はこれから文化人類学を学ぶうえでの入門の位置づけにあります。
文化人類学は「文化とは何か？」「人間とは何か？」ということを、フィールドワークを通じて”実践的”に考える学問です。グローバル化が進展する一方で、文化、宗教、歴史的背景などの違いからくる衝突、葛藤が生まれています。それ故、異文化を知ることは、今日ますます重要になっています。しかし、異文化を知る、理解するということはそもそもどのようなことでしょうか？カルチャーショックという言葉がありますが、これは私たちが生まれ育った文化というレンズを通して他者や世界をみてきているなかで、異なる文化に出会ったときに起こります。文化人類学は、自分にとってのあたりまえや常識、価値観が、「他者」にとってはあたりまえではないことを知ることからはじまります。本授業では、文化人類学においてフィールドワークという方法論がどのように生まれたのか、異文化理解とはどのようなことを意味するのか、また、人種や民族など文化人類学が扱ってきた重要なトピックをみていきます。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２(教養の修得)、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
１．文化人類学における文化の意味を学ぶ。
２．文化人類学の重要な方法論であるフィールドワークがどのように生まれたかということを知るとともに、文化人類学におけるフィールドワークが異文化理解とどのように関わるかを学ぶ。
３．異文化理解について考察を深める。
４．「文化」「人種」「民族」への理解を深める。
５．世界の多様性、文化の多様性を知る。
６．レジリエンスを高める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入 文化人類学の学問的対象とは？ 文化とは？ 文化はなぜ複数形なのか？	文化人類学の入門書等を読んでおく。 異文化理解について考えておく。 シラバスを読んでおく。	60 分
第２回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（１） マリノフスキーとトロブリアンド諸島	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第３回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（２） 参与観察	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第４回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（３） 自文化中心主義と文化相対主義	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第５回	他者との遭遇 大航海時代、進化論と人種主義 人種とは？	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第６回	映画	映画の背景について調べておく	60 分
第７回	人種とは？（２） フランツ・ファノンと人種 植民地主義の内面化 ポストコロニアル状況への視点	事前にファノンの文献、配布資料を読んでおく。講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第８回	人種とは？（３） 先住民と国民国家 ラテンアメリカと人種	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第９回	民族とは？（１） エスニック・グループ、エスニシティ、民族境界 国民国家と民族（ベネディクト・アンダーソン） 「日本人」とは誰か？	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１０回	民族とは？(２) 映画	映画の背景について調べておく。	60 分
第１１回	民族とは？（３） 映画	映画の背景について調べておく。	60 分
第１２回	人類学の多様な射程	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１３回	グローバル化の中の人類学	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分

第１４回	到達度確認テスト	到達度確認テストに向けて、これまでの授業の復習をする。	180 分

〔授業の方法〕
講義形式です。少人数でのグループディスカッションを含みます。理解を深めるために映像資料を用いたり、映画をみる回もあります。

〔成績評価の方法〕
評価は平常点によります。授業への参加状況、リアクションペーパーの提出等３０％、到達度確認テスト７０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
１．文化人類学の基本的考え方を学んだ。
２．文化人類学の重要な方法論であるフィールドワークがどのように生まれたかを知るとともに、フィールドワークの基本的方法論を学んだ。
３．異文化理解、異文化コミュニケーションについて理解を深めた。
４．グローバル化と文化の関係について学んだ。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識はありません。
基礎力をつけ、これから学ぶ専門性につなげるために、文化人類学関係の開講授業をできるだけ履修して下さい。詳細は初回授業で説明します。
自らの疑問を大事にして下さい。
後期開講の「文化人類学入門Ⅱ」と連続しています。

〔テキスト〕
特になし。
文化人類学の入門書、授業内で紹介する文献を各自で適宜読んで下さい。

〔参考書〕
『文化人類学の思考方法』　松井圭一郎他編　世界思想社
『はじめて学ぶ文化人類学』岸上伸啓編　ミネルバ書房
『人類学のコモンセンス―文化人類学入門』浜本 満，浜本 まり子編 学術図書出版社
その他授業の中で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業内、及び授業終了後に教室で受け付けます。
また、コースパワーを通じて提出するリアクションペーパーに書き込んでもよいです。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ICT 活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学入門Ⅱ						
教員名	細谷　広美						
科目№	125332110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本授業は文化人類学を学ぶうえでの入門の位置づけにあり、文化人類学入門Ⅰからの継続授業です。文化人類学入門Ⅰでは文化人類学研究においてなぜフィールドワークが重要なのか、そのような方法論が生まれた背景を含めて学習しました。
文化人類学入門Ⅱでは、南米アンデスを中心に文化人類学研究の具体的な現場をみていくことを通じて、文化人類学の方法論と思考方法についての理解を深めます。授業では（1）アンデスの先住民宗教（2）戦争や紛争からの社会の回復と歴史・記憶の関係、という2つのトピックをフィールドワークの現場の話を交えつつ扱います。最後に文化人類学で扱われている最新のトピックをいくつか紹介し、文化人類学の学問的広がりをみていきます。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２(教養の修得)、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
①文化人類学の方法論、思考方法への理解を深める。
②フィールドワークについての理解を深める。
③異文化理解についての考察を深める。
④世界の多様性、文化の多様性を知る。
⑤ＳＤＧｓと先住民の関係について学ぶ
⑥記憶、歴史、グローバルヒストリーについて学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学とは？	文化人類学入門Ⅰの復習をしておく。	60 分
第２回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第３回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民宗教 「みえる神」と「みえない神」	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第４回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民宗教と巡礼	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第５回	フィールドワークの現場 アンデスの先住民宗教と気候変動、開発、SDGｓ	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第６回	フィールドワークの現場 紛争と先住民、平和構築	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第７回	映画 ディスカッション	映画の背景について調べる。	60 分
第８回	歴史と記憶 移行期正義、真実委員会、記憶の博物館	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第９回	歴史と記憶 映画「アイヒマン・ショー」 （イスラエルでおこなわれたナチの戦犯を裁く裁判の TV 報道を扱った映画）	映画の背景について調べる。	60 分
第１０回	歴史と記憶 国民国家の歴史、ポスト記憶、グローバルヒストリー	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１１回	映画「真珠のボタン」 ディスカッション	映画の背景について調べる。	60 分
第１２回	文化人類学の最新トピック ジェンダー、ボディイメージ、医療、観光、科学技術等	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１３回	文化人類学の最新トピック アート、新自由主義、気候変動、背住民、人権等	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60 分
第１４回	到達度確認テスト	到達度確認テストに向けて、これまでの授業の復習をする。	180 分

〔授業の方法〕

講義形式です。少人数でのグループディスカッションを含みます。理解を深めるために映像資料を用いたり、映画をみる回もあります。シラバスは多少流動的になる可能性があります。

〔成績評価の方法〕
評価は平常点によります。授業への参加状況、リアクションペーパーの提出等 30%、到達度確認テスト 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
1．文化人類学の基本的考え方を学んだ。
2．文化人類学のフィールドワークへの理解を深めた。
3．世界の多様性、文化の多様性について理解を深めた。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
前期開講の「文化人類学入門Ⅰ」からの継続です。
文化人類学の入門書を読んでいる等、文化人類学の基礎知識がある場合は、この限りではありません。
必要な予備知識はありませんが、文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。
また、文化人類学関係の開講授業をできるだけ履修すると、基礎力がつくとともに関連性が明確になり理解が深まります。自らの疑問を大事にして下さい。

〔テキスト〕
特になし。
授業内で紹介する文献を各自で適宜読んで下さい。

〔参考書〕
『旋回する人類学』松井圭一郎　講談社
『文化人類学の思考方法』　松井圭一郎他編　世界思想社
『はじめて学ぶ文化人類学』岸上伸啓編　ミネルバ書房
『詳論 文化人類学：基本と最新のトピックを深く学ぶ』桑山敬己・ 綾部真雄編　ミネルバ書房
『文化人類学のエッセンス―世界をみる／変える』春日直樹・竹沢尚一郎 編　有斐閣
『人類学のコモンセンス―文化人類学入門』浜本 満，浜本 まり子編 学術図書出版社
その他授業の中で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業内、及び授業終了後に教室で受け付けます。
また、コースパワーを通じて提出するリアクションペーパーに書き込んでもよいです。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
ICT 活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	民族文化論						
教員名	嶺崎　寛子						
科目№	125332120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
異文化を理解するための、文化人類学の入門講座です。文化人類学とは、フィールドワークという調査法を通じて、人間と文化を探求する学問です。文化人類学の視点から世界を見るとどう見えるか、この授業で体験してみてください。他者を知ることで自分を知り、異文化を知って自文化を問い直すことで、新たに見えてくるものがきっとあります。知らないうちに内面化している「アタリマエ」を問い直すための視座を培い、それを実際に使ってみましょう。授業では受講者数によりますが、可能ならばグループディスカッションを積極的に行います。文化人類学がどのように生まれ展開してきたかも、テーマに沿って学びます。五感をフル回転させて、学ぶ楽しさを味わってください。

〔到達目標〕
DP２（教養の修得）およびDP４（表現力、発信力）を身につけるため以下の４点を到達目標とする。
・　文化人類学の学説史的な展開や、ものの見方について基礎的な知識を養う。
・　自分の価値観や「当たり前」を相対化できる視点を育む。
・　異文化に対する敬意と好奇心を持ち、自分化と異文化を知的に往還する態度を培う。
・　ほぼ毎回行うグループ・ディスカッションを通じてコミュニケーション力／対話力を養成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学とは何か	予習：シラバスを読んで授業のテーマや目標を把握すること。 復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第２回	環境と人間	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第３回	ことばから考える・１	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第４回	ことばから考える・２	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第５回	異文化へのまなざし	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第６回	マイクロ・アグレッションと交差性	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第７回	世界の食文化	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第８回	家族・親族規模と家の間取りの関係	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第９回	世界各地の結婚と親族関係	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１０回	世界各地の葬送文化	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１１回	贈与が紡ぐつながり	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１２回	文化人類学と開発	復習：レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備える。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１３回	到達度確認テスト	復習：参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分
第１４回	世界の民族衣装・民族舞踊 到達度確認テストの講評	復習：到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分についてレジュメや資料を読み直して確認する。参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めます。ほぼ毎回、グループ・ディスカッションがあります。積極的に他の受講生とコミュニケーションを取ってください。グループディスカッションについては、受講生の人数が非常に多い場合には、教育効果を鑑み、他の代替的方法を取ることがありえます。また、授業はいわばライブなので、受講生の要望や必要に応じて臨機応変に進めます。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（70%）および平常点（授業でのディスカッションおよび授業への参画度（15%）、コメントシート等の提出状況（15%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
到達目標に達しているかどうかを重視します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目は特になし。文化人類学系の関連科目を並行して取ることが望ましいです。
予備知識は要りませんが、提示された参考文献などを自発的に読む積極性を求めます。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。
石川栄吉・大林太良・佐々木高明他編、1994『文化人類学事典』弘文堂などの辞典類が大学図書館のどこにあるかは把握しておき、適宜参照してください。購入の必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	フィールドワーク論						
教員名	嶺崎　寛子						
科目№	125332130	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
文化人類学の背骨にあたるのが、フィールドワークという調査方法です。文化人類学者とは、世界中どこであっても、調査地に赴き、長期間そこに住み、自分の目で見、自分の耳で聞いて、動態的な文化を体感することを通じて研究する研究者のことです。感性を磨き、できるだけ良い目と耳を持ってフィールドに居着き、フィールドワークからできるだけ多くのことを感知し、それを第三者にわかるように言語化することが、その仕事です。その文化を内面化していない人の「異人の目」は、フィールドワークを豊かにします。
この授業は、フィールドワークの方法を学び、調査する力と書く力、両方を鍛える実践的な授業です。フィールド調査を行う方法を具体的に教示し、各自で実際にフィールド調査を行い、調査にもとづいてレポートを提出していただきます。全員での一日フィールドワークも行います。
社会学など隣接分野で調査を予定している他学科の学生も歓迎します。

〔到達目標〕
DP1-4（文化人類学の基本的な理念、概念、および方法論として重要なフィールドワークの手法を習得し、自ら課題発見をして異文化理解と異文化間コミュニケーションに応用することができる）を身につけるため、以下を到達目標とします。
・　文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めます。
・　実際にフィールドワークを行う際に必要となる技法を身につけます。
・　異文化理解に必要となる知見を深化し、グローバルな社会への柔軟な適応力を培います。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスおよびレポートについての説明	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第２回	FW という方法論とその困難を考える	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第３回	フィールド選定の方法、グループ分けとグループディスカッション	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第４回	一日フィールドワーク場所のグループワークによるプレゼン	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第５回	調査・謝礼・インフォーマントとの距離感を考える	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第６回	調査されるという迷惑	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 ＊フィールドを選定し、フィールド予定地調査票に記入し、提出する。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第７回	「FW は教えられない」？	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第８回	個別事例の検討１　日本での FW	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第９回	調査許可やビザの取得、フィールド必携の道具類	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60
第１０回	一日フィールドワーク	日程調整をし、調査の準備をする。調査所用時間は３～５時間程度、場所等は受講生の投票により決定。	60
第１１回	一日フィールドワークによる休講	小レポートの準備をする。	60
第１２回	質的調査と量的調査 小レポート提出	レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験と次の授業に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60

第１３回	参与観察とは何か	自分の FW に必要な事前準備を各自で行う。	60
第１４回	まとめ―文化人類学が照射するもの	到達度確認テストの講評を確認し、誤答部分につきレジュメや資料を読み直すこと。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式で行います。必要に応じて映像資料などの視聴覚教材を用います。
グループディスカッションも毎回ではありませんが、取り入れます。参加者同士で積極的にコミュニケーションを取ってください。
授業後にウェブを通じて授業コメントを提出してもらうことがあります。
冬休みを使って実際にフィールド調査を各自で行い、結果をレポートにして提出してもらいます。各自でフィールドを設定して個々人で調査を行います。また別に、全員参加で日程を合わせて一日フィールドワークを行います。一日フィールドワークの調査地は、グループワークでプレゼンをしてもらい、多数決で決定します。
調査先に迷惑をかけないための基本的な作法を身に着けたのちにフィールドに出ていただきます。調査先で失礼のないように、授業はきちんと受講してください。

〔成績評価の方法〕
授業参画 30%、レポート 70%。実際に自分で調査地を選定し、調査を行い、レポートにまとめるという作業が重要です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めた。
異文化理解に必要となる知見を深化させることができた。
グローバルな社会への柔軟な適応力を培った。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
学科の専門科目として様々な文化人類学関係の科目が開講されているので、あわせて受講すると理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
適宜授業内で示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
質問を歓迎します。質問や相談がある方は、授業内で開示するメールアドレスに適宜メールをください。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学特講Ⅰ						
教員名	嶺崎　寛子						
科目№	125332140	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
中東地域におけるジェンダーについて、文化人類学を中心に、学際的に学ぶ。
中東地域のイスラームやムスリム研究において、ジェンダーは関心の高い分野であったし、現在もそうである。そこには歴史的に形成されたジェンダー・オリエンタリズム（ジェンダー化されたオリエンタリズム）の影響がある。歴史的・社会的文脈を明らかにしながら、中東地域のジェンダー秩序やそれがいかにミクロなレベルで作用するかについて、具体例を示しつつ論じ、受講生と共に考える。
ジェンダーは学際的な学問なので、授業では文化人類学にとどまらず、理論としてのジェンダー研究にも必要に応じて触れる。教員の専門分野に最も近い講義であり、熱意とやる気十分な学生であれば、専門的な学問に触れる良い機会となるでしょう。

〔到達目標〕
文化人類学的な思考方法を身につけ、それを各自の問題関心に応じて応用できるようになる。文化人類学における学際的な研究分野の研究手法を身につける。
DP２（教養の修得）およびDP４（表現力、発信力）を身につけるため以下の４点を到達目標とする。
・　文化人類学的なものの見方について基礎的な知識を養う。
・　自分の価値観や「当たり前」を相対化できる視点を育む。
・　異文化に対する敬意と好奇心を持ち、自分化と異文化を知的に往還する態度を培う。
・　グループ・ディスカッションを通じてコミュニケーション力／対話力を養成する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスを読み、授業の概要を理解する。	100 分
第２回	ジェンダー・オリエンタリズムと文化進化論―ヴェールとハーレム	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第３回	中東研究と宗教学と文化人類学とジェンダー研究の「気まずい」関係	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第４回	FGM の「語られ方」	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第５回	イスラエルの対外政策とジェンダー	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第６回	ムスリムとして暮らす―年中行事や儀礼	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第７回	エジプトのジェンダー状況をファトワーから読む１	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第８回	エジプトのジェンダー状況をファトワーから読む２	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第９回	名誉と暴力を考える―理論	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第１０回	名誉と暴力を考える―事例	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第１１回	植民地経験・近代とイスラームーアフマディーヤを事例に	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第１２回	国際移動とジェンダー	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第１３回	到達度確認テスト	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分
第１４回	全体のまとめ	配布物を読み返し、疑問点があれば参考資料等にあたり、質問を準備してくる。	100 分

〔授業の方法〕
講義形式で行います。
人数にもよりますが、双方向の授業、アクティブラーニングの推進の一環として、毎回、時間内に討議の時間を設けるか、リアクションペーパーを提出していただきます。

「座っていればいい」授業ではありません。そこは覚悟のうえで受講してください。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テストを 13 回に行う。授業参画（リアクションペーパーの内容、議論への参加）30%、到達度確認テスト 70%。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化人類学系の科目を複数、すでに履修していることを前提として授業を行います。
ただしこれは、履修していない人を排除することを意味しません。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業内で適宜提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化人類学特講Ⅱ						
教員名	石田　慎一郎						
科目№	125332150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、文化人類学の考え方と方法を学ぶ。
講義全体を貫く関心は、文化人類学の４つの方法的特徴、（１）文化相対主義（人類文化の多様性に対する寛容な理解）、現場主義（フィールドワークをつうじた実証研究）、全体論的アプローチ（文化・社会における部分と全体との関係を深く理解する）、比較（比較を通じた人類の多様性と普遍性の探求）を、具体的な研究事例を通じて理解することである。
第１回から第８回までは、家族内の人間関係をめぐる身近な（現代日本の）諸問題を、文化人類学的視点から批判的に思考し、文化相対主義の考え方と比較研究の実践例を学ぶ。第９回から第 14 回は、担当教員が実施しているケニア中央高地における文化人類学調査を参考に研究方法（フィールドワークならびに全体論的アプローチ）の具体例を学びつつ、ふたたび文化相対主義の意義と課題を考察する。

〔到達目標〕
文化人類学の考え方と方法を学ぶ。上記「テーマ・概要」の学習を通じて、「文化」「社会」をキーワードに現代社会を理解するうえでの批判的的視点を身につけることを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文化人類学への誘い：４つのアプローチ 文化人類学は、研究対象ではなく研究アプローチにおいてユニークな学問である。第１回講義では、文化相対主義・現場主義・全体論的アプローチ・比較の４つのアプローチについて概説することで、文化人類学の特徴を概説する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第２回	呼びかけのことばに現れる〈私たち〉の文化 文化人類学は、人間の社会的営み、私たちの日常生活のあらゆる側面を研究対象とするため研究テーマは多様である。だが、家族親族論についてとくに多大な研究蓄積をもっており、本講義でも前半はもっぱら家族親族論に相当するテーマを中心にとりあげる。それは家族がくらしと人間関係の基本となるため、人類学的に考えるうえで適した題材をとくに多く含むためでもある。第２回講義では、家族内におけるよびかけの言葉（親族呼称）を題材に、受講生をまじえた疑似フィールドワーク的実験を実施し、家族の	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第３回	親と子（１）「母性愛」再考 第３回講義のテーマは「母性愛」である。ここでは、現代日本の「赤ちゃんポスト」、江戸時代の捨て子を題材に、これらを「母性愛」の対極にある営みととらえるのではない視点を提示し、受講生とともに議論する。「母性愛」を絶対善とする語り口に対して、文化相対主義的視点からの批判的考察は可能か。第３回講義ではこのような問いが重要である。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第４回	親と子（２）「生みの親」　「育ての親」再考 第 4 回講義でのキーワードならびに論点は、「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致に対する文化的理解である。これは文化人類学の家族親族研究において古くて新しいテーマであり、かつ現代日本において新しいかたちでの問いとして各方面において注目されている。ここでの具体的事例は、代理出産をはじめとする生殖医療技術である。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第５回	結婚と家族：東アフリカの「女性婚」「幽霊婚」から考える 第５回講義は、前回講義の内容と同一のテーマを東アフリカの民族誌事例から発展的に議論するものである。すなわち「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致の問題を、東アフリカのヌアー、グシイはそれぞれ固有の問題で解決してきた。その具体的な事例として「女性婚」「幽霊婚」を議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第６回	男と女：『サモアの思春期』と文化相対主義 思春期特有の心理的葛藤は、人間が避けることのできない普遍的な現象であるのか。第６回講義では、少年少女が思春期特有の心理的葛藤を経験せずに大人になることのできる社会について論じたマーガレット・ミードの民族誌とそれに対する根本的批判を紹介し、人間存在に対する自然科学的説明にたいする文化的説明を指向してきた文化人類学の思想史的背景について概説する。ここでは、ミードの議論を一方的に退けるのではなく、これまでの講義で考察した家族親族論の視点からあらためてその意義について考	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第７回	前半の総括、授業内レポートへのコメント 前半の授業であつかったテーマについてあらためて総括し、授業内レポートを執筆する。また、授業内レポートの内容について担当教員がコメントをおこなう。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第８回	文化相対主義の再定位 これまでの講義では、文化相対主義的態度の重要性、普遍主義に対する強力な批判としての可能性を強調してきた。だが、文化相対主義的態度を突き詰めた先に絶対的相対主義として現	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60

	れる可能性（危険性）にも目をむけていく必要がある。第８回講義では、相対主義と普遍主義との相互補完関係を、浜本満、井上達夫、ロバート・レッドフィールド等の議論をふまえて考察する。		
第９回	文化と自由 第９回講義は、ウィル・キムリッカ等の議論の紹介からはじめて、文化と自由をテーマに議論をおこなう。文化人類学は、個人の自由を束縛する存在としてではなく、補強する存在として文化を語ることはいかにして可能か。こうした問題意識を中心に議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１０回	人類学的方法としての民族誌（１） これまでの講義をふまえたうえで、ここからは担当教員がケニア中央高地ですすめている文化人類学研究の事例を手がかりに、人類学的実践としての民族誌の具体的内容と、民族誌をふまえたうえでの比較研究の可能性を議論する。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１１回	人類学的方法としての民族誌（２）オルタナティブ・ジャスティス 第１１回講義は、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ地方におけるムーマ（無罪宣誓）を題材に、いわゆる神判的紛争処理・犯罪解決の合理性について、比較分析的視点で議論をおこなう。ここでの比較対象は日本中世の鉄火起請等である。イゲンベのムーマでは、被告側が呪物を飲み込む等のうえで無罪宣誓をおこない、それに対して原告側は呪物の効果を待ち続けなければならない。裁判人は原告と被告のどちらが正しいかをその場で結論することはしない。そうした紛争処理・犯罪解決の合理	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１２回	人類学的方法としての民族誌（３）嗜好品と文化 第１２回講義では、東アフリカやアラビア半島で地域固有の嗜好品として古くから利用されてきたカート（ミラー）を題材に、嗜好品をめぐる文化と政治について議論する。アメリカをはじめ一部の国ではカートは違法ドラッグとして禁止されており、ケニア産カートの輸出先となっているイギリス等においても根強い禁止論がある。カートをめぐる麻薬化の語り口に対する批判的視点をふまえたうえで、第１１回講義では、映画『おいしいコーヒーの真実』においてのエチオピア農民のコーヒー栽培からカート栽	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１３回	人類学的方法としての民族誌（４）無文字社会の歴史意識 第１３回講義では、分節リネージ体系を特徴とするニューギニア高地エンガ社会ならびにケニア西部高地グシイ社会との比較のなかで、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ社会における年齢組体系特有の時間世界・歴史意識について考察する。イゲンベ社会は、祖先の個人名を記憶しない社会でありながら、民族全体の歴史を記憶する社会でもある点で、そして円環的な時間的世界を持つ点で、上記２つの社会とは異なっている。本講義では、もうひとつの比較軸を小馬徹の比較分析的論考に求める。	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第１４回	後半の総括、到達度確認テスト 後半の授業であつかったテーマについてあらためて総括する。 授業後半に、到達度確認テストを実施する。	【復習】これまでの授業内容を復習し、到達度確認テストにおいて十分に解答できなかった箇所を確認する。	120

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーまたは授業内レポートをもちいて受講生との双方向性を高めるよう工夫する。また、映像教材を用いる。

〔成績評価の方法〕
授業内での筆記・提出をもとめるリアクションペーパーまたは授業内レポート（50%）と到達度確認テスト（50%）を基本として総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
各回レジメ（A４両面印刷１枚）を配付する。

〔参考書〕
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバル化の人類学						
教員名	綾部　真雄						
科目№	125332160	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

グローバル化の流れの中で急速に変貌する現代タイ社会の諸相を捉えるための一つの試みとして、タイを舞台とする映像作品（エンターテインメント系映画）を視聴し、それぞれの作品で表象されるタイの「かたち」とその文脈を文化人類学的な観点から捕捉する。

タイにおいてもコンテンツ産業のグローバル化の波は急激に進んでいる。タイで制作された映画がアジア全域でヒットし、日本初の「やおい」文化がタイで BL（ボーイズラブ）コンテンツとして発展を遂げて日本に逆輸入され、さらには、香港の著名な映画監督がタイでメガホンを取って世界的な映画祭で賞を受賞するといったことが常態化しつつある。

具体的には、以下の作品を可能な範囲で視聴する予定である（進行によって変更する可能性あり）。

①『バッドジーニアス』(2017) ＜天才女子高生と試験不正阻止＞
②『2gether』(2022) ＜BL:ボーイズラブ＞
③『ナンナーク』(2001) ＜人と幽霊との情愛＞
④『プアン』(2023) ＜国際移動・友情・恋愛＞

〔到達目標〕

・現代タイ社会を、表層的にではなく深い次元で理解する。
・映像作品のなかで表象された様々な事柄を文脈を踏まえて正確に捕捉する。
・文化人類学的な文化表象理解の方法を学ぶ。
・視聴した映像に関するリアクションペーパーの執筆とその講評を通じて、抽象的なイメージを具体的なレトリックに落とし込む方法を学ぶ。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	グローバル化のなかのタイ	指定文献の事前講読	45 分
第２回	メディア表象と現代タイ社会	指定文献の事前講読	45 分
第３回	映像視聴①：ネオリベラル化のなかのタイ（事前解説＋映像）	指定文献の事前講読	45 分
第４回	映像視聴①：ネオリベラル化のなかのタイ（映像＋事後解説）	視聴映像の整理	30 分
第５回	リアクションペーパー①の講評＋文献解題	リアクションペーパーの執筆	60 分
第６回	映像視聴②：タイにおけるジェンダー観（事前解説＋映像）	指定文献の事前講読	45 分
第７回	映像視聴②：タイにおけるジェンダー観（映像＋事後解説）	視聴映像の整理	30 分
第８回	リアクションペーパー②の講評＋文献解題	リアクションペーパーの執筆	60 分
第９回	映像視聴③：タイにおける霊魂観（事前解説＋映像）	指定文献の事前講読	45 分
第１０回	.映像視聴③：タイにおける霊魂観（映像＋事後解説）	視聴映像の整理	30 分
第１１回	リアクションペーパー③の講評＋文献解題	リアクションペーパーの執筆	60 分
第１２回	映像視聴④：タイ人の国際移動・友情・恋愛観	指定文献の事前講読	45 分
第１３回	映像視聴④：タイ人の国際移動・友情・恋愛観	視聴映像の整理	30 分
第１４回	リアクションペーパー④の講評／再論・グローバル化のなかのタイ	リアクションペーパーの整理	60 分

〔授業の方法〕

座学的な講義と映像視聴を組み合わせたかたちで授業を進める。最初の 2 回で導入的講義を行ったのち、3 回目以降は映像視聴（4 つの作品の視聴を予定）を行う。映像視聴に先立って関連する文献を受講者が事前学習として講読した後、事前解説を踏まえて映像を視聴し、その後受講者が当該作品に関するリアクションペーパーを執筆する。一つの作品を見終わった後には、優秀なリアクションペーパーの内容を匿名で受講者と共有し、その講評を講義中に行う。

〔成績評価の方法〕
授業への参加状況およびリアクションペーパーの提出状況：40%
学期末レポート：60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化人類学入門Ⅰおよび文化人類学入門Ⅱを事前に履修していることが望ましいが、必須ではない。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
石井米雄『タイ仏教入門』（めこん）、1991 年
綾部真雄『タイを知るための 72 章』（明石書店）、2014 年
津村文彦『東北タイにおける精霊と呪術師の人類学』（めこん）、2015 年
信田敏宏・綾部真雄他編『東南アジア文化事典』（丸善書店）、2019 年
『ユリイカ』54 巻 4 号（特集：アピチャッポン・ウィーラセタクン）、2022 年
『年報タイ研究』23 号（特集：「タイ BL」を検証する）、2023 年

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代人類学						
教員名	細谷　広美						
科目№	125332170	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本授業は、先住民をテーマとします。現在先住民人口は５億人弱となっており、世界人口の約 6,2%を占めます。他方で、2007 年に「先住民族の権利に関する宣言」をした国際連合では、先住民について明確な定義をしていません。先住民とはどのような人々なのでしょうか？
カナダやオーストリアでは、同化政策に基づく先住民の子供たちの寄宿学校で起こったことに対して、正式な謝罪がおこなわれました。日本でも、2019 年にアイヌ新法が成立し、アイヌの人びとが日本の先住民族であることが明記されました。先住民の人びとは脱植民地化、開発、新自由主義、気候変動、生物多様性など、グローバルな課題との関係においても声をあげています。また、先住民言語による映画やヒップ・ホップ音楽も生まれています。授業では具体的なイメージを持ち理解を深めるために映画をみながら学んでいきます。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２(教養の修得)、ＤＰ３（課題の発見と解決）を達成するために、以下を到達目標とする。
①先住民とはどのような人々かということについて理解を深める。
②グローバル・イシューと先住民の関係について理解を深める。
③多様な文化、多様な価値観の存在に気づき、文化人類学の思考法を獲得する。
④世界を別の角度からみる柔軟な発想をもつ。
⑤文献を読む力、情報を収集し分析する力、論理的思考を鍛える。
⑥メディアリテラシーを鍛える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入部 国際連合と先住民、先住民の定義	授業内容を復習する	60 分
第２回	先住民を扱った映画 映画の背景の説明	映画の背景について調べる	60 分
第３回	先住民を扱った映画 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第４回	先住民とは誰か？ 先住民と植民地主義、セトラーコロニアリズム	授業内容を復習する	60 分
第５回	先住民を扱った映画 映画の背景の説明	映画の背景について調べる	60 分
第６回	先住民を扱った映画 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第７回	紛争と先住民	授業内容を復習する	60 分
第８回	先住民を扱った映画	映画の背景について調べる	60 分
第９回	先住民を扱った映画 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第１０回	先住民と気候変動、開発	授業内容を復習する	60 分
第１１回	先住民を扱った映画 映画の解説 映画をもとにグループディスカッション	映画の背景について調べる リアクションペーパーの作成	60 分
第１２回	グローバル化と先住民	授業内容を復習する。	60 分
第１３回	グループ発表とディスカッション	グループ発表の準備をする	90 分
第１４回	グループ発表とディスカッション	グループ発表の準備をする	90 分

〔授業の方法〕

授業は講義と映画、グループディスカッションによって進めていきます。授業で扱う各映画の上映時間等でシラバス内容が変動します。授業の最後の２回は、グループごとにテーマを決めて先住民について調べ考察しグループ発表をおこないます。担当教員がペルー映画祭にかかわってきていることから、あまりみる機会がないペルー映画も扱います。

〔成績評価の方法〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
授業の参加（ディスカッションへの参加、グループ発表、リアクションペーパー）30%
最終課題レポート 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
文化人類学の基本的考え方、方法論を身に着けた。
自ら課題を発見し、探求する基礎力をつけた。
先住民に関する知識と理解を深めた。
メディアリテラシーが高まった。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化人類学の入門書等を読んで基礎知識をつけておいて下さい。
「文化人類学入門Ⅰ」「文化人類学入門Ⅱ」をはじめとする、文化人類学関係の講義科目、演習科目をできるだけ多く履修して基礎力をつけておいて下さい。
語学力があると得られる知識の幅、できることが広がります。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『人類文化の現在:人類学研究』 内堀 基光・山本真鳥編 （放送大学大学院教材)放送大学教育振興会 2016 年
『文化人類学の思考法』松村圭一、中川理、石井美保編 世界思想社 2019 年
『人類学のコモンセンス 文化人類学入門』浜本満他 学術図書出版社 1994 年
『はじめて学ぶ文化人類学:人物・古典・名著からの誘い』岸上伸啓編 ミネルヴァ書房 2018 年
『先住民からみる現代世界: わたしたちの〈あたりまえ〉に挑む』深山直子他編 昭和堂 2018 年
『リターンズ――二十一世紀に先住民になること』ジェイズム・クリフォード みすず書房 2020 年
『ゴールデンカムイ』集英社
その他、授業のなかで適宜紹介していきます

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業中、もしくは授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング
情報リテラシー教育科目
ＩＣＴ教育科目

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	歴史学入門						
教員名	松浦　義弘						
科目№	125333000	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】歴史学とはどういう学問かを具体的な歴史叙述を通して考える。
【概要】歴史学とは何か、という問いに対する回答は、これまでもさまざまなかたちでなされてきた。この授業では、「歴史学とは何か」を抽象的に論じるのではなく、明治以後、とくに第二次世界大戦以後の日本における歴史叙述を具体的にたどりながら、歴史の意味について考えてゆくつもりである。

〔到達目標〕
ＤＰ1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の２点を目標とする。
①歴史学とはどういう学問であるのかを、そのキーワードを含めて理解する。
②日本の歴史学の歴史をより広い文脈のなかで理解することを通して歴史学という学問の意味を考える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	歴史学とは何か	前回の添付資料の復習	60
第３回	日本における近代歴史学の誕生	前回の添付資料の復習	60
第４回	近代天皇制とマルクス主義の導入	前回の添付資料の復習	60
第５回	日本資本主義論争と皇国史観(1)	前回の添付資料の復習	60
第６回	日本資本主義論争と皇国史観(2)	前回の添付資料の復習	60
第７回	「戦後歴史学」の誕生	前回の添付資料の復習	60
第８回	運動としての「戦後歴史学」	前回の添付資料の復習	60
第９回	「戦後歴史学」の歴史叙述（1）：日本古代史	前回の添付資料の復習	60
第１０回	「戦後歴史学」の歴史叙述（2）：日本近代史	前回の添付資料の復習	60
第１１回	「戦後歴史学」の歴史叙述（2）：東洋史	前回の添付資料の復習	60
第１２回	「戦後歴史学」の歴史叙述（3）：西洋史	前回の添付資料の復習	60
第１３回	「戦後歴史学」以後の歴史学	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	再論：歴史学の意味とは何か	これまでの添付資料の復習	60

〔授業の方法〕
授業は、基本的に講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
授業への参加情況（30%）、課題レポートあるいは期末試験（70%）を中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
E・H・カー『歴史とは何か』岩波新書
喜安朗ほか『立ちすくむ歴史』せりか書房
リン・ハント『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。なお、オンライン授業に関する情報は、コースパワーに掲載する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文化研究Ａ						
教員名	増田　都希						
科目№	125333010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
◇マナーブックから読む 18 世紀フランス◇
16 世紀から 18 世紀のフランスで流行した本の一つに「マナーブック」がある。挨拶をする、身なりや言葉遣いに注意するなど、「マナーブック」に書かれることは古今東西さほどの違いはないように思われるかもしれない。だが、人びとがいかなる社会を目指すかが時代・地域によって大きく異なる以上、社会を律するための法の一つである「マナー」も異なり、また大きく変化する。
17、18 世紀のフランスは、身分制の不平等社会からすべての人間の法の下での平等を宣言した 1789 年フランス革命へと、政治的、経済的、文化的に大きく揺れながら近代化の道を進んだ時代であり、著名な思想家のなかでマナーを論じなかった者はいないと言ってよいほど、マナーについて闊達な議論が交わされた時代であった。そのような時代において、誰が、何を求めてマナーブックを読んだのか、マナーの何が問題だったのか。マナーブックが流行した時代背景を探りながら、近世フランス社会を読み解いてゆく。

〔到達目標〕
・「マナー」を歴史学的に捉えるとは何かを簡潔に説明できる。
・マナーブックを通じて見られる 16〜18 世紀フランス（ヨーロッパ）の政治的、社会的変化を理解し、端的に説明できる。
・18 世紀フランスにおけるマナーをめぐる議論の主要な論点を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、評価、予習・復習の仕方などについて ・「マナー」とは何か	「マナー」の定義を調べること	60 分
第２回	マナーを歴史学的に捉えるとは？	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60
第３回	16〜18 世紀のヨーロッパとフランス	「宗教改革」「ルネサンス」「主権国家」「活版印刷術」の意味を確認	60 分
第４回	17, 18 世紀フランスのマナーブック ：マナーとコレージュ教育	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60 分
第５回	17, 18 世紀フランスのマナーブック ：マナーとキリスト教	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60 分
第６回	17, 18 世紀フランスのマナーブック ：マナーと立身出世	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60 分
第７回	ここまでの小括 中間レポートの説明	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60 分
第８回	マナーブックと政治 ：振る舞いの文明化と絶対王政の成立	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60
第９回	中間レポート講評	中間レポートをよく見直し、期末試験の論述方法を確認してください	60
第１０回	マナー論争（その１）： マナーは誰のもの？ Civilité と politesse の緊張関係	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60
第１１回	マナー論争（その２）： マナーと身分制社会	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60
第１２回	マナー論争（その３）： マナーと徳 「マナー」という嘘を正当化してよいのか？	前回講義のレジュメを読み直し、復習	60
第１３回	「読書の歴史」と「マナーブック」	図書館で現代日本の「マナーブック」を数冊ななめ読みし、対象読者、構成、内容等を調べる	60
第１４回	到達度確認テスト	講義のレジュメと中間レポートの講評を読み直し、論述式試験の解答法を確認する	120

〔授業の方法〕
授業は講義を中心に進める。
講義の最後に与えるテーマについて、リアクション・ペーパーを提出すること。
なお、各リアクション・ペーパーおよび期末試験の狙いは下記「成績評価の基準」に挙げた目標と同じ。

〔成績評価の方法〕
平常点（出席、各テーマの最後に行うリアクション・ペーパー）４割、期末試験４割、中間レポート２割
で総合的に評価する。
なお、中間レポートの未提出、期末試験の未受験の者は、成績評価の対象外とする。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に注目し、その達成度によって評価する。
・「マナー」を歴史学的に捉えるとは何かを簡潔に説明できる。
・マナーブックを通じて見られる 16～18 世紀フランス（ヨーロッパ）の政治的、社会的変化を理解し、端的に説明できる。
・18 世紀フランスにおけるマナーをめぐる議論の主要な論点を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校で学ぶ世界史程度のフランス史の知識を必要とする。

〔テキスト〕
特になし
プリントを配布する

〔参考書〕
・ロジェ・シャルチエ「差異の創出と文化モデルの普及」in 『読書と読者』長谷川輝夫・宮下志朗訳、みすず書房、1994 年。
・ジャン・スタロバンスキー「civilisation という語」 in 『病のうちなる治療薬』法政大学出版、1993 年。
・ノルベルト・エリアス『文明化の過程』法政大学出版局､1977 年。
・植村邦彦『市民社会とは何かー基本概念の系譜』（平凡社新書）、2010 年。
・A, ド・クルタン著、増田都希訳『クルタンの礼儀作法書』作品社、2017 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	比較文化研究Ｂ						
教員名	寺本　敬子						
科目№	125333020	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この授業は「グローバル・ヒストリーとしてのジャポニスム」をテーマとします。19 世紀後半のヨーロッパにおいて日本の文化や芸術が注目されることで誕生した「ジャポニスム Japonisme」という現象に焦点を当て、この時代に日本とヨーロッパやアメリカの諸国の間でいかなる交流が広がったのか、各国の政治・経済・文化・社会等、その背景を見ながら多角的に検討します。さらに「Japan Expo」等、21 世紀型の「文化」の伝播・交流のあり方と 19 世紀のそれとを比較することで、「文化」の越境の仕方を複眼的に捉える分析力を養うことを目標とします。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、DP1（専門分野の知識・技能）の「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・ 文化を多角的に理解する」ことを実現するために、本授業のテーマに基づき下記の点を到達目標とします。
19 世紀後半のヨーロッパでは、開国した日本の情報や物品が、とりわけ万国博覧会への日本参加を通じて広く伝わり、政治・外交上のみならず文化的にも国際的に認知されるようになります。各国に広がった「ジャポニスム」および交流関係について多角的に検討し、新たな文化現象が形成されるときにどのような文脈があるのか、あるいはそこにどのような摩擦があるのか、これらの問いを明らかすること、そしてこうした問いについての社会史的なアプローチ（外交史・経済史・文化史を含む）の意義を理解することが本講義の目標です。
到達目標は、(1)19 世紀後半にヨーロッパやアメリカで「ジャポニスム」が誕生した歴史的背景を、政治・経済・文化・社会等から多角的に理解し、 (2)異文化コミュニケーションのあり方について、歴史的な沿革・諸問題を理解することです。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：ジャポニスムとは何か。	【予習】シラバスを読む。 【復習】 授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第２回	ジャポニスムの前史(1)日本の情報、18 世紀のシノワズリとジャポネズリ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第３回	ジャポニスムの前史(2)万国博覧会：科学技術、消費社会、異文化の発見	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第４回	フランス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第５回	フランス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第６回	フランス(3)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第７回	イギリス(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第８回	イギリス(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第９回	アメリカ(1)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１０回	アメリカ(2)	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１１回	ドイツ	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１２回	その他の諸国	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１３回	日本：ジャポニスムの里帰り	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１４回	ジャポニスムの現在	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業の内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。
この授業では、(1)コメントシートと(2)期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕
成績評価は、(1)コメントシート（40%）と(2)期末レポート（60%）の合計による相対評価となります。
・(1)コメントシートでは、①授業内容の要旨（400 字程度）と②質問・コメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。また授業時に、コメントシートの内容について教員からフィードバックします。
・(2)期末レポートでは、 ①講義内容を正確に理解していること、 ②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、 ③自己の見解を具体的・論理的に展

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。 (1)講義内容を正確に理解していること、 (2)参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3)自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、高校で学んだ世界史の知識に加え、ヨーロッパ近代史の概説書を読んでおくことを推奨します。なお、毎回の授業の中で参考文献を紹介しますので、適宜参照し、授業内容の理解を深めるように心がけて下さい。本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化A						
教員名	日尾野　裕一						
科目№	125333030	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、海とイギリスとの関係に焦点を当て、近世から近代にかけてのヨーロッパ勢力の拡大とその影響について経済、社会、科学、文化などの多様な面から検討します。また、比較史の観点からフランスやオランダ、スペインなどの他のヨーロッパ諸国についても補助的に言及します。
海を媒介としたイギリスの活動は貿易、人の移動、資源の調査と確保、科学技術の振興と進展、異文化との衝突や受容といった多くの事象と関わることになりました。それらは近代という世界が形成される上で不可欠な要素となるとともに、現代の世界にも大きな影響を及ぼし続けています。本授業では様々なテーマから海とイギリスとの関係を検討することで、近代世界とグローバル化について再考することを目指します。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、特に DP1-2「日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している」ことと DP1―3「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる」能力の獲得を目指すために、本授業の範囲に基づき以下の 3 点を主要な到達目標とします。
・近世・近代のイギリス帝国の歴史を海という視点から検討することによって、海域史についての基本的な知識を得ること。
・国家や帝国の拡大は現代に至るまでの社会、経済、文化、科学といった広範な領域に影響を与えたことを理解すること。
・イギリスと他の国や地域との状況を合わせて学び、検討することで、比較史やグローバルヒストリーの視点を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：海洋帝国としてのイギリス	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	茶から見るイギリスと海	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	イギリスと奴隷貿易	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	奴隷貿易・奴隷制廃止運動とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	東インド会社とアジアでの活動	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	世界周航	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	海に出る人々：船乗りと水兵	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	海賊とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	科学と海軍	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	ヨーロッパ水域での経済活動	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	海洋帝国と植物園	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	毛皮貿易とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	漁業とイギリス帝国	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１４回	ジェンダーの視点から見た海洋国家イギリス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で実施します。スライド等で授業を進める上での資料を提示するとともに、適宜学生に講義資料を配布します。
この授業では毎回のコメントシートの提出と学期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕
学期末レポート（70%）とコメントシート（30%）で評価を行います。
・学期末レポートでは、①授業を通じて受講生自身の問題関心が形成できているか、②問題関心をもとに受講生が各々の課題に対して主体的にリサーチし、その成果を論理的にレポート内で表現できているか、この 2 点を重視し評価します。具体的な課題内容は第 10 回の授業でアナウンスします。
・コメントシートでは、①授業内容で特に興味深かった内容、②質問・コメント等の自由記述、この 2 点を毎回書いてもらいます。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、近世・近代の世界史を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にある近世・近代史の概説書を読むことや、他の「ヨーロッパの歴史と文化」の授業など関連する授業の履修することもお勧めします。また、授業が取り扱う空間はヨーロッパに限定されませんので、南北アメリカ大陸、アジア、アフリカ、オセアニアなどの歴史と文化にも関心を持っていると良いです。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
金澤周作編『海のイギリス史』昭和堂、2013 年。「購入の必要はありません」
他にも授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化B						
教員名	日尾野　裕一						
科目№	125333040	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、近代以降のイギリス帝国について多様な地域における帝国統治や経済的進出、帝国としての関わりに焦点を当て、その影響を政治、経済、社会、文化、人の移動、国際関係などの多様な面から検討します。
イギリスが帝国として拡大していく 19 世紀、その帝国が最大版図となるとともに解体していく 20 世紀。この二つの世紀におけるイギリス帝国の実態を検討することを通じて、イギリスによる帝国支配の多様性と重層性、そして現代社会にまで至るその影響の大きさについて理解を深めることを目指します。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、特に DP1-2「日本を含む世界における歴史的事象についての認識と解釈、現代世界の動きの理解と諸課題への対処、異文化理解の実践に関する基本的な知識・技能を身に付け、個人の関心テーマに応じた形でさらに専門的に修得している」ことと DP1―3「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・文化を多角的に理解することができる」能力の獲得を目指すために、本授業の範囲に基づき以下の 3 点を主要な到達目標とします。
・近現代のイギリス帝国の歴史について多様な地域との関わりという観点からその基本的な知識を得ること。
・帝国の拡大とその解体は現代に至るまでの政治、社会、経済、文化、人の移動、国際関係といった広範な領域に影響を与えたことを理解すること。
・イギリス帝国と各地域の関係に焦点を当てる中で、世界史的な視座から歴史を理解する知見を獲得すること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：イギリス帝国とは何か	【予習】シラバスを読んでおく 【復習】授業内容を整理する。	60
第２回	イギリス大西洋帝国とアメリカ先住民	【予習・復習】前回の授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第３回	イギリスとカナダ（1）	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第４回	イギリスとカナダ（2）	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第５回	イギリスとインド	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第６回	イギリスと南アジア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第７回	イギリスとオーストラリア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第８回	イギリスと南アフリカ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第９回	イギリスと西アフリカ	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１０回	イギリスと東・東南アジア	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１１回	イギリスと南米	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１２回	イギリスとパレスチナ問題	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１３回	イギリス帝国と移民	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60
第１４回	コモンウェルス	【予習・復習】前回までの授業内容との関わりに留意しながら今回の授業内容を整理する。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式で実施します。スライド等で授業を進める上での資料を提示するとともに、適宜学生に講義資料を配布します。
この授業では毎回のコメントシートの提出と学期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕

学期末レポート（70%）とコメントシート（30%）で評価を行います。
・学期末レポートでは、①授業を通じて受講生自身の問題関心が形成できているか、②問題関心をもとに受講生が各々の課題に対して主体的にリサーチし、その成果を論理的にレポート内で表現できているか、この 2 点を重視し評価します。具体的な課題内容は第 10 回の授業でアナウンスします。
・コメントシートでは、①授業内容で特に興味深かった内容、②質問・コメント等の自由記述、この 2 点を毎回書いてもらいます。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、近現代の世界史を挙げます。ただし、高校までの知識ではカバーできない内容も多く含みますので、図書館にある近現代史の概説書を読むことや、他の「ヨーロッパの歴史と文化」の授業など関連する授業の履修することもお勧めします。また、授業が取り扱う空間はヨーロッパに限定されませんので、南北アメリカ大陸、アジア、アフリカ、オセアニアなどの歴史と文化にも関心を持っていると良いです。

〔テキスト〕
特に指定しません。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。また、コメントシート等で質問があった場合にも対応します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化C						
教員名	寺本　敬子						
科目№	125333050	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、19 世紀にヨーロッパで誕生した「万国博覧会」の歴史に焦点を当て、近代におけるヨーロッパの歴史と文化の特質を政治、経済、文化、社会の側面から多角的に検討します。万博は、1851 年にイギリスの首都ロンドンで初めて開催されました。当初は、イギリス（ロンドン）とフランス（パリ）において交互に開催されましたが、特に 1870 年代から他のヨーロッパ諸国や北アメリカの都市に広がっていきます。こうした地域的な広がりに加え、万博の性格もまた時代とともに変化を遂げてきました。当初は、1851 年ロンドン万博の正式名称が「すべての国々の産業製品の大博覧会」であったように、最先端の技術および製品の展示が中心でしたが、次第に植民地の展示が拡大するなど、帝国主義的性格が強まり、国威発揚の場となっていく面があります。近年の万博は、自然や食など環境問題がテーマに挙げられるなど、人類の共通課題に向けた取り組みがなされ、継続的に開催されています。本授業は、19 世紀に開催された主要な万博を時系列に沿って検討し、近代におけるヨーロッパの社会と文化の特質および変容を明らかにすることを目指します。

〔到達目標〕
本学の Diploma Policy に基づき、主に DP1（専門分野の知識・技能）の「日本を含む世界における歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史・ 文化を多角的に理解する」ことを実現するために、本授業のテーマに基づき下記の点を到達目標とします。
(1)近代において万博が果たした役割を理解すること、 (2)万博というひとつの事象から、近代のヨーロッパの特質および変容を明らかにする多角的アプローチ（政治、経済、文化、社会など）を身につけること、以上の 2 点を主な目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス：万国博覧会とは何か。	【予習】シラバスを読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第２回	1851 年ロンドン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第３回	1855 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第４回	1862 年ロンドン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第５回	1867 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第６回	1873 年ウィーン万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第７回	1876 年フィラデルフィア万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第８回	1878 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第９回	1889 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１０回	1893 年シカゴ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１１回	1897 年ブリュッセル万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１２回	1900 年パリ万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１３回	1928 年国際博覧会条約の締結	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60
第１４回	20 世紀以降の万博	【予習】授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）や参考文献を読む。 【復習】授業内容を整理し、参考文献等で理解を深める。	60

〔授業の方法〕
基本的に講義方式で行い、パワーポイント等で図版・写真・映像資料を用います。課題のテキストは適宜、印刷あるいはポータル・Web Class 上で配布します。この授業では、(1)コメントシートと(2)期末レポートを課します。

〔成績評価の方法〕

成績評価は、(1)コメントシート（40%）と(2)期末レポート（60%）の合計による相対評価となります。
・(1)コメントシートでは、①授業内容の要旨（400 字程度）と②質問・コメントを求めます。提出されたコメントシートの内容は、授業への取り組みの度合いを判定する材料とします。また授業時に、コメントシートの内容について教員からフィードバックします。
・(2)期末レポートでは、①講義内容を正確に理解していること、②参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、③自己の見解を具体的・論理的に展開して

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
本授業では、以下の項目を重視して評価を行います。 (1)講義内容を正確に理解していること、(2)参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること、(3)自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識として、高校で学んだ世界史の知識に加え、ヨーロッパ近代史の概説書を読んでおくことを推奨します。なお、毎回の授業の中で参考文献を紹介しますので、適宜参照し、授業内容の理解を深めるように心がけて下さい。本授業は、国際文化学科の「地域文化・歴史」および「国際関係研究」の領域、他学科における広い意味での歴史(社会史・文化史・政治史・経済史等)に関わる科目と関連します。具体的な関連科目としては、アメリカの歴史と文化、アジア・アフリカの歴史と文化、日本の歴史と文化などが挙げられます。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
参考文献は、毎回の授業のなかで紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパの歴史と文化D						
教員名	松浦　義弘						
科目№	125333060	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】アンシャン=レジームからフランス革命、そしてナポレオン帝政への政治の変遷を世論から考える。
【概要】フランスは、ブルボン朝の絶対王政から立憲君主政、共和政、そしてナポレオン帝政へと、わずか数十年のあいだにめまぐるしい政体の変化を経験した。この講義では、この政体の変化を象徴する著名人（ルイ 14 世、ルイ 16 世、マリ＝アントワネット、ロベスピエール、ナポレオンなど）の言動とその社会的受容、とくに世論に焦点を当てて、アンシャン・レジームからフランス革命、さらにナポレオン期にかけてのフランスの歴史を概観する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 3 点を目標とする。
①アンシャン=レジームとフランス革命、そしてナポレオン期についての知見を深める。
②より大きな歴史的文脈のなかでフランス革命を理解する。
③ルイ 14 世、ルイ 16 世、マリ＝アントワネット、ロベスピエール、ナポレオンなど、著名な歴史的人物の言動とその社会的評価＝世論を通して、アンシャン・レジームからナポレオン期にかけての時代を概観する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入	シラバスを読んでおく。	60
第２回	大西洋世界における世論の誕生	前回の添付資料の復習	60
第３回	ルイ 14 世の絶対王政とその後の世論の変化	前回の添付資料の復習	60
第４回	革命前のルイ 16 世･マリ＝アントワネットと世論（1）	前回の添付資料の復習	60
第５回	革命前のルイ 16 世･マリ＝アントワネットと世論（2）	前回の添付資料の復習	60
第６回	フランス革命におけるルイ 16 世と世論（1）：転換点としてのヴァレンヌ逃亡	前回の添付資料の復習	60
第７回	フランス革命におけるルイ 16 世と世論（2）：ヴァレンヌ逃亡の帰結	前回の添付資料の復習	60
第８回	革命家ロベスピエールの誕生	前回の添付資料の復習	60
第９回	権力掌握に向けて闘うロベスピエール	前回の添付資料の復習	60
第１０回	弁論家ロベスピエールと世論	これまでの添付資料の復習	60
第１１回	権力の座についたロベスピエールと恐怖政治	前回の添付資料の復習	60
第１２回	ナポレオンの登場と世論	前回の添付資料の復習	60
第１３回	ナポレオン帝政と世論	これまでの添付資料の復習	120
第１４回	全体のまとめ	これまでの添付資料の復習	60

〔授業の方法〕
授業は、講義形式でおこなうが、必要に応じて適宜質疑応答の時間を設ける。授業の進行状況などによって、授業内容を大きく変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

授業への参加状況（３０%）、レポートないしは試験（70%））などを中心に総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
柴田三千雄『フランス革命』岩波現代文庫
山崎耕一『フランス革命』刀水書房
上垣豊『ナポレオン：英雄か独裁者か』山川出版社
松浦義弘『フランス革命の社会史』山川出版社
松浦義弘『ロベスピエール：世論を支配した革命家』山川出版社
ピーター･マクフィー『ロベスピエール』白水社
ティモシー･タケット『王の逃亡：フランス革命を変えた夏』白水社
アントワーヌ・リルティ『セレブの誕生』名古屋大学出版会
これ以外の参考書については、授業開始後に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカの歴史と文化A						
教員名	中野　由美子						
科目№	125333070	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュースや映画などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。
本講義では、主に 20 世紀半ば以降のアメリカ合衆国の社会史・文化史に関する基本的なテーマについて探求することを課題とする。具体的には、戦争と大衆、経済的繁栄と大衆消費社会の出現と変容、娯楽産業の興隆と変容などのテーマについて、アメリカ国内における人種・エスニシティ問題に即して検討する。さらに、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。

〔到達目標〕
DP1-1、DP1-3 を達成するために、以下の３点を到達目標とする。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得する。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解し、説明できる。
③社会の諸問題を理解するために必要な一次史料・二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	アメリカ合衆国の歴史と文化　―社会史的アプローチ ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	６０
第２回	戦争とマイノリティ ・マイノリティの戦争体験について史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第３回	第二次世界大戦とマイノリティ（その１） ・主にアフリカ系アメリカ人の戦争体験について史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第４回	第二次世界大戦とマイノリティ（その２） ・主に先住民の戦争体験について史料の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第５回	第二次世界大戦とマイノリティ（その３） ・主に日系アメリカ人の戦争体験についてドキュメンタリー映像の分析を行う。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第６回	戦争とマイノリティ　小括 ・講義の後半では、前回までの講義内容に関する小テストを実施する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第７回	大衆消費社会の発展 ・戦間期の娯楽産業の発展について、音楽と「人種」の観点から探求する。。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第８回	大衆消費社会の変容 ・戦間期の娯楽産業の発展について、音楽と「人種」の観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第９回	20 世紀の「人種」問題（その１） ・人種の隔離から統合への動きについて、チームスポーツの観点から探求する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１０回	20 世紀の「人種」問題（その２） ・公民権運動の拡大について、映像史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１１回	20 世紀の「人種」問題（その３） ・公民権運動後のアメリカ社会における「人種」に関して、複数の映像史料を比較しながら検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１３回	テストのレヴューとディスカッション ・グループワークあるいはペアワークによるレヴューを行う。 ・リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１４回	全体のまとめ 配布資料に基づき、講義全体の論点を整理する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。ほぼ毎回、コースパワーを使ってリアクションペーパーの提出を求める。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布の際には、主にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスして確認をすること。（紙媒体でのみ配布可能な資料等については、後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）また、小テスト・到達度確認テストは、コースパワーで解答を提出する形で実施するため、ノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔成績評価の方法〕

授業中に出す課題（授業時間内に提出していただくリアクションペーパーなど）＝平常点（55%程度）、小テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。課題への積極的・独創的な貢献に対しては、10%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①20 世紀のアメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティなど）について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目は、後期の「アメリカの歴史と文化 B」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

〔テキスト〕
有賀夏紀『アメリカの 20 世紀（下）1945 年～2000 年』中公新書、2002 年。
ISBN: 4-12-101665-3
※(下)（＝下巻）のみ使用する。
※※「購入の必要なし」。ただし、アメリカ史に関する基礎知識がない場合は購入することを強く推奨します。

〔参考書〕
アメリカ学会訳編『原典アメリカ史−社会史史料集』岩波書店、2006 年。
有賀夏紀、油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣アルマ、2003 年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014 年。
西田慎、梅崎透編『グローバル・ヒストリーとしての「1968 年」』ミネルヴァ書房、2015 年。
その他、講義中に適宜紹介する。（上記の参考書は、購入の必要はありません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカの歴史と文化Ｂ						
教員名	中野　由美子						
科目№	125333080	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュースや映画などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。
本講義では、アメリカ合衆国の社会史・文化史に関する以下の２つのテーマについて探求することを課題とする。講義の前半では、アメリカ先住民の視点からみたアメリカ合衆国史の再検討と題して、アメリカ先住民の歴史と文化に関する主要なトピックを取り上げる。次に、講義の後半では、卒業論文のテーマとしても常に一定の関心を集めているアメリカの娯楽産業（映画産業など）の事例に即して、人種、エスニシティ、ジェンダーに関するトピックを取り上げる。さらに、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。

〔到達目標〕
DP1-1、DP1-3 を達成するために、以下の３点を到達目標とする。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得する。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティ、ジェンダー、ポストコロニアリズムなど）について理解し、説明できる。
③アメリカ社会の諸問題を理解するために必要な一次史料・二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	南北アメリカ史と先住民 ・歴史における視点・視角とはなにかを学修する。 ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。	配布資料をよく読んでおくこと。	６０
第２回	もう一つのコロニアル・ヒストリー（その１） ・現在のアメリカ合衆国東部の植民地時代の歴史と先住民について、史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第３回	もう一つのコロニアル・ヒストリー（その２） ・現在のアメリカ合衆国南西部の植民地時代の歴史と先住民について、史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第４回	もう一つのアメリカン・ヒストリー ・現在のアメリカ合衆国南西部の植民地時代の遺産と先住民について、映像史料に基づき検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第５回	ポストコロニアリズムと先住民（その１） ・ポストコロニアリズムの観点から、今日の先住民社会が直面する諸問題を検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第６回	ポストコロニアリズムと先住民（その２） ・ポストコロニアリズムの観点から、今日の先住民社会が直面する諸問題を検討する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第７回	アメリカ史における先住民　小括 ・これまでの講義内容に関する小テストを実施する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第８回	娯楽産業の興隆―20 世紀前半 ・娯楽産業の興隆と人種・エスニシティ・ジェンダーとの関連を考察する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第９回	娯楽産業の興隆―20 世紀後半 ・娯楽産業の興隆と人種・エスニシティ・ジェンダーとの関連を考察する。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１０回	娯楽産業の変容―1960 年代～1970 年代 ・娯楽産業における人種・エスニシティ・ジェンダーに関する問題を取り上げる。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１１回	娯楽産業の変容―1980 年代以降 ・娯楽産業における人種・エスニシティ・ジェンダーに関する問題を取り上げる。	配布資料の指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１３回	到達度確認テストのレヴュー ・グループワークあるいはペアワークによるレヴューを行う。 ・リアクションペーパーの作成・提出を行う。	配布資料をよく読んでおくこと。	60
第１４回	全体のまとめ 配布資料に基づき、講義全体の論点を整理する。	配布資料をよく読んでおくこと。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。ほぼ毎回、コースパワーを使ってリアクションペーパーの提出を求める。他の受講生の迷惑になるので、遅刻は厳禁。また、レジュメや史資料の配布の際には、主にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスして確認をすること。（紙媒体でのみ配布可能な史資料については、後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）また、小テスト・到達度確認テストは、コースパワーで解答を提出する形で実施する

ため、ノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔成績評価の方法〕
授業中に出す課題（授業時間内に提出していただくリアクションペーパーなど）＝平常点（55%程度）、小テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。課題への積極的・独創的な貢献に対しては、10%を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①アメリカ社会史・文化史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②多民族・多文化社会の諸相を理解するうえで不可欠な概念（たとえば、人種、エスニシティ、ジェンダー、ポストコロニアリズムなど）について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目は、後期の「アメリカの歴史と文化 B」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

〔テキスト〕
特になし。史資料やレジュメを適宜配布します。

〔参考書〕
阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014 年。
荒木和華子、福本・圭介編『帝国のヴェール―人種・ジェンダー・ポストコロニアリズムから解く世界』明石書店、2021 年。
テイラー、アラン『先住民 vs. 帝国 興亡のアメリカ史–北米大陸をめぐるグローバル・ヒストリー』（橋川健竜訳）ミネルヴァ書房、2020 年。
Calloway, Colin G. First Peoples: A Documentary Survey of American Indian History, 4th ed.
New York: Bedford/St. Martins's: 2012.
その他、講義中に紹介する。（上記の参考書は、購入の必要はありません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の歴史と文化Ａ						
教員名	有富　純也						
科目№	125333090	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】前近代における仏教文化
【概要】一般的に、日本人で信仰を持つ人は少ないと言われています。にもかかわらず、我々は七五三で神社を詣で、チャペルで結婚式をあげ、仏式のお葬式を執り行います。それはなぜでしょうか。この講義では、仏教を歴史的に取り上げることで、日本人の「無宗教」について考えてみようと思います。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】提示された参考文献をチェックする。	60
第２回	仏教伝来	【予習】インターネットなどで「蘇我氏と物部氏」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	飛鳥寺の成立	【予習】インターネットなどで「飛鳥寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	弥勒寺と百済大寺	【予習】インターネットなどで「百済大寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	白鳳寺院の成立	【予習】インターネットなどで「白鳳寺院」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	東大寺と国分寺	【予習】インターネットなどで「東大寺と国分寺」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認試験（中間）	【予習】到達度確認試験に備える。 【復習】到達度確認試験を復習する。	60
第８回	空海と最澄	【予習】インターネットなどで「天台宗と真言宗」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	末法思想と浄土思想	【予習】インターネットなどで「空也」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	鎌倉新仏教と顕密体制論	【予習】インターネットなどで「鎌倉新仏教の開祖」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	中世の禅宗と対外関係	【予習】インターネットなどで「五山」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	戦国時代仏教論	【予習】インターネットなどで「蓮如」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	キリスト教の伝来と江戸時代の宗教	【予習】インターネットなどで「ザビエル」を調べ、まとめる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１４回	授業内到達度確認試験（期末）	【予習】到達度確認試験に備える。 【復習】到達度確認試験を復習する。	60

〔授業の方法〕
講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。まれに小グループにわかれてディスカッションも行います。

〔成績評価の方法〕
２回の到達度確認試験（８０％）、リアクションペーパー（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の日本仏教の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・なぜ現代の日本人は、「無宗教」なのか、説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で日本史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。ただし、中学時代の歴史を思い出しておいてください。

〔テキスト〕
プリントを配布する。

〔参考書〕
箕輪顕量『日本仏教史』春秋社、2015
その他、初回授業で提示します。
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本の歴史と文化B						
教員名	髙島　笙						
科目№	125333100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

テーマ　近現代日本と政治参加のあゆみ

2022 年、成人年齢が引き下げられ 18 歳以上に選挙権が与えられました。こうした近年の日本社会を考える上で、日本の政治参加がどのように拡大してきたのかは今一度考える必要がある論点と言えるでしょう。そこで、本講義では幕末の開国から 1955 年体制の成立までを対象として、選挙を中心に据えながら、政治史・外交史・文化史・社会史・ジェンダー史などの多彩な観点から政治の在り方を考察します。なお、現代の政治情勢や研究動向、受講生の関心に応じて、適宜講義内容を調整することもあります。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。
・日本近現代史の基礎的知識を習得する。
・現代日本が過去の歴史的事象の積み重ねの上にあることを理解する。
・現代日本社会が抱える様々な課題について、歴史的視座から考察することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 授業の全体概要や狙い、成績評価の方法などをガイダンスします。	【予習】シラバスを読み、講義概要を把握する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第２回	開国と近代国家建設 この回では、幕末の開国から明治維新、近代国家の建設までを自由民権運動や議会開設の背景という観点から概説します。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第３回	誰が代議士であるべきか―自由民権運動と帝国憲法、初期議会 この回では、自由民権運動から憲法の制定、議会開設後までを概観します。その上で、大日本帝国憲法と衆議院議員選挙法の立法過程を通じて、明治の制度設計者たちが選挙制度として誰が誰を選ぶべきであると考えたのかを見ていきます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第４回	自由民権運動と政治文化―演歌と政談演説会 ここでは、第三回の内容を踏まえ、自由民権運動期の政談演説会とそこに参加した人々がどんな人々だったのかを考えてみます。その際、演歌に注目します。意外かもしれませんが、今日の演歌の語源は自由民権運動の政談演説会で歌われた演説歌であったと言われています。この回では演説歌として歌われていた「民権数え歌」や「おっぺけぺー節」、「ダイナマイトどん」などを実際に聞いてみます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第５回	日清・日露戦争と国民国家の形成 日清・日露戦争は近代国家日本が経験した初の対外戦争でした。この回では、この二つの戦争とその結果、国民国家が形成されていく様子を見ていきます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第６回	デモクラシーと暴力の時代 大正時代は護憲運動や軍縮運動、普通選挙運動などの盛り上がりから、しばしば「大正デモクラシー」と評価されます。一方で日露戦争後、都市部では日比谷焼き討ち事件などに代表される民衆騒擾と呼ばれる暴動が起こった時代であり、護憲運動も同様に民衆騒擾に支えられていました。この回では当時流行した「デモクラシー節」を聞いてみます。その上で「大正デモクラシー」を暴力という側面から眺めてみましょう。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第７回	大正版「推し活」と選挙 大正時代、デモクラシーと呼ばれる潮流の中で生まれたのが代議士の個人後援会でした。そこには、好みの代議士を推すためにファンクラブを作るような、現代でいう「推し活」的な要素が多分に見え隠れします。この回では、個人後援会制度をデモクラシーの観点から捉えてみます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第８回	原敬内閣と軍事国家日本 1918 年、初の本格的政党内閣と評価される原敬内閣が成立します。原が首相に就任するまで、日本の首相はそのほとんどが軍人でした。つまり、原敬内閣は政党内閣であると同時に、非軍人首相による内閣という側面を持ちます。この回では、こうした側面から皇太子外遊や軍縮会議といった国際協調路線を見ていきます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第９回	1930 年代の日本政治―政党政治から戦争の時代へ 1930 年代初頭、二大政党が交代する「憲政の常道」と呼ばれる時代が訪れました。しかし、政党政治は長く続かず、満州事変をきっかけに日本は戦争の時代へと向かっていきます。この回では、1930 年代の日本政治を概観した上で、初めて男子普通選挙制によって行われた 1928 年の第 16 回総選挙以降、選挙がどのように変わったのか、あるいは変わらなかったのかを考えてみます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60

第１０回	選挙粛正という模索 1930 年代は政治不信の時代でした。既成政党と呼ばれる政友会や民政党といった政党はスキャンダル合戦を繰り広げていきます。一方で、地方に目を向けると選挙不正が常態化している時代でもありました。こうした不正を正すためとして、選挙粛正運動が展開されていきます。この回では、エリートたちによる理想の選挙像と地方における選挙の実情とのギャップを考えてみます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第１１回	アジア・太平洋戦争と総力戦体制下の選挙 1941 年に始まったアジア・太平洋戦争下で日本は総力戦を戦っていきます。こうした戦時下にもかかわらず、日本国内では衆議院議員総選挙や地方議会の総選挙が行われていました。戦時下の選挙において有権者・代議士それぞれにどのような役割が求められたのかを考えてみます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第１２回	占領改革と民主化 1945 年 8 月、日本は敗戦を迎えます。進駐した連合国軍は日本政府に様々な民主化要求を行い、憲法改正に伴って様々な制度が変わっていきました。この回では、以降 2 回の背景となる占領改革を概説します。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第１３回	女性代議士の誕生―「身代わり」代議士に見るジェンダーと政治 1945 年、衆議院議員選挙法が改正されて女性にも参政権が与えられます。そして、戦後初の第 22 回衆議院議員総選挙では 39 名の女性議員が誕生しました。他方で、彼女たちの中には、夫や家族が公職追放にあったため追放中の「身代わり」として代議士となった者が多く居たとされています。ここでは、こうした「身代わり」たちが初の女性議員という自身の位相をどのように理解し、代議士として自己主張したのか、また彼女らがどのような人々に支えられたのかを見ていきます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60
第１４回	講和と独立と選挙―追放解除と吉田政権 1951 年、サンフランシスコ講和条約が調印され、翌 1952 年に日本は独立を果たしました。これにより GHQ による占領は終わりを告げます。一方でこの講和条約によって、占領期の民主化に伴って公職追放となっていた議員が政界に復帰していきます。そのため、1950 年代の日本政治は大きく混乱することになりました。この回では講和から 1955 年体制の成立までを追放解除という視角から見ていきます。	【予習】事前に参考文献を読み、要点や疑問点を整理する。 【復習】授業で配布したレジュメや講義ノートを振り返り、理解を深める。	60

〔授業の方法〕
・講義形式の授業で行う予定ですが、適宜グループディスカッションなども取り入れる予定です。
・初学者向けの内容とします。
・毎回授業の最後に、感想や疑問点などのコメントを提出してもらいます。
・期末に CoursePower から日本近現代史に関するレポートを提出してもらいます。
・配布物や連絡事項はすべて CoursePower に掲載します。紙媒体で配布することはしません。 ※CoursePower を使用するので、各自で操作方法を習得しておくこと。

〔成績評価の方法〕
平常点（毎回授業後の感想・コメント）30%、期末レポート 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・日本近現代史に関する基礎的知識を習得したか。
・現代日本が過去の歴史的事象の積み重ねの上にあることを理解できたか。
・現代日本社会が抱える様々な課題について、歴史的視座から考察することができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
予習として①と②には目を通していることが望ましい。なお、必ずしも購入の必要はない。
①清水唯一朗ほか『日本政治史』有斐閣、2020 年
②季武嘉也ほか『日本近現代史』放送大学、2021 年
③福永文夫『日本占領史』中央公論新社、2014 年
④藤野裕子『民衆暴力』中央公論新社、2020 年
⑤松沢祐作『自由民権運動』岩波書店、2016 年
この他、適宜授業中に紹介することがあります。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・太平洋の歴史と文化A						
教員名	武田　知己						
科目№	125333110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本講義では、幕末以来の日本外交を理解するうえで重要な基礎知識を学び、特に満州事変以降のアジア・太平洋をめぐる日本外交史を、中国要因・ロシア要因に着目して講義する。現在、日本を取り巻く外交環境・安全保障環境は、中国とロシアに大きな影響を受けていることは周知である。しかし、それは今に始まったことではない。近代日本外交にとって、アジア・太平洋は、中国とロシアの存在を抜きには語れなかった。その歴史を俯瞰的に見て行きたい。

〔到達目標〕
1　幕末以降の日本外交の主要な出来事を通観できる。
2　日本と中国の複雑な歴史を理解できる。
3　日本とロシアの複雑な歴史を理解できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	オリエンテーション：(日本) 外交のイメージ／内政の延長としての外交、対外環境の反映としての内政／国際秩序形成と戦争／アメリカ史観・イギリス史観／中国要因とロシア要因／「危機」と政策決定者の役割	予習・復習	90 分
第2回	基礎知識①：明治：地域閥／藩閥と民権運動の「統治イメージ」／明治憲法体制	予習・復習	90 分
第3回	基礎知識②：大正：日清・日露・第一次世界大戦の経緯と結果／版図の広がり	予習・復習	90 分
第4回	基礎知識③：大正ー昭和戦前期：第一次世界大戦後の民族主義の台頭／アジア主義とモンロー主義の結合／死活的権益観の醸成／共産主義への敵意	予習・復習	90 分
第5回	基礎知識④：昭和戦前期：アジア太平洋を巡る合意：国際連盟、ワシントン体制、不戦条約	予習・復習	90 分
第6回	基礎知識⑤：昭和戦前・戦時期：戦争への道／満州事変／満州国建国／国際連盟脱退／国際的孤立の中の自主と協調：華北への関心と防共協定／日中戦争／第二次世界大戦／三国同盟／日米開戦	予習・復習	90 分
第7回	基礎知識のまとめと中間考査：授業中試験と解説	予習・復習	90 分
第8回	20 世紀初頭までの日中露関係①：畏れの対象から競争へ／緊張の中の日中友好／アジア主義と共和制・共産主義への恐怖	予習・復習	90 分
第9回	20 世紀初頭までの日中露関係②：最も友好的な二国間関係としてのロシア／朝鮮を巡る確執／戦争へ／革命ロシアの誕生	予習・復習	90 分
第10回	20 世紀半ばからの日中露関係①：日本が描いた「戦後のかたち」とロシア・中国／冷戦という歪み／平和国家というアイデンティティ／歪みの中の欲望と贖罪	予習・復習	90 分
第11回	20 世紀半ばからの日中露関係②：世界の奇跡としての経済成長／日本外交よ、世界へ／湾岸戦争と「普通の国」へ道	予習・復習	90 分
第12回	冷戦から 21 世紀へー未完の日中露関係：冷戦終結とロシア・中国／ロシアの崩壊と復活／日本の停滞／中国の台頭／抑止力を持つ日本／ウクライナ戦争の教訓	予習・復習	90 分
第13回	まとめ①：中国要因とは何だったのか	予習・復習	90 分
第14回	まとめ②：ロシア要因とは何だったのか	予習・復習	90 分

〔授業の方法〕
講義形式。レジュメを用意する。中間テストを行い、日本外交を理解する上での基礎知識を定着させる。授業の最後に 10 分間質問を受け付ける。

〔成績評価の方法〕
中間試験　40%
期末試験　60%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校の日本史・世界史の近代部分の知識。授業の前半で復習する。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
田村幸策『太平洋戦争外交史』（鹿島研究所出版会、1966 年）、日本外交史　＜全 34 巻・別巻 4 巻＞（鹿島研究所出版会、1970-1974 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・太平洋の歴史と文化Ｂ						
教員名	有富　純也						
科目№	125333120	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】中華世界における歴史と文化
【概要】前近代の中国を中心に、その周辺諸国にも目を配りながら、さまざまな歴史・文化事象について検討していきます。外交や仏教などについてが中心となりますが、アイドル文化についても触れたいと思います。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の点を到達目標とする。
・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】中国史における王朝の変遷を確認する。	60
第２回	中国の前近代史１－殷から周へ	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第３回	中国の前近代史２ー漢代と天命思想	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第４回	中国の前近代史３ー魏晋南北朝時代から隋唐へ	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第５回	中国の前近代史４－10 世紀の東アジア	【予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第６回	中国の前近代史５－明と倭寇	予習】高校世界史の教科書で中国史の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第７回	授業内到達度確認テスト（中間）とその解説	【予習】到達度確認テストに備える。 【復習】到達度確認テストを復習する。	60
第８回	K-POP と現代韓国社会／東アジアアイドル文化の行方	【予習】インターネットで韓国のアイドル文化などについて知っておく。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第９回	仏教の道１―インドから中国へ	【予習】高校世界史の教科書で仏教の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１０回	仏教の道２―トルファンとはどこか？	【予習】インターネットなどでシルクロードについて調べる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１１回	仏教の道３―三蔵法師の旅	【予習】インターネットなどで三蔵法師について調べる。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１２回	大航海時代とアジア・太平洋	【予習】高校世界史の教科書で大航海時代の部分を通読する。 【復習】参考文献などでよく復習する。	60
第１３回	中国の肉食文化	【予習】インターネットなどで世界の肉食文化について調べる。 【復習】参考文献などでよく復習し、テストに備える。	60
第１４回	授業内到達度確認テスト（期末）	【予習】到達度確認テストに備える。 【復習】到達度確認テストを復習する。	60

〔授業の方法〕
講義形式です。皆さんの理解度によっては、授業内容を大幅に変更する可能性があります。また講義を中心としますが、皆さんに資料を読んでもらう場合もあります。

〔成績評価の方法〕
２回の到達度確認テスト（４０％×２）、リアクションペーパー（２０％）。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
・前近代の中国の歴史について、大まかな流れを説明できる。
・東アジアのさまざまな文化の歴史を説明できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高等学校で世界史を学んでおくと良いですが、そうでない人にもわかるよう授業をするつもりです。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
堀敏一『中国通史』講談社学術文庫、2000
岸本美緒『中国の歴史』ちくま学芸文庫、2015
岡本隆司・箱田恵子編『ハンドブック近代中国外交史』ミネルヴァ書房、2019
氣賀澤保規『則天武后』講談社学術文庫、2016
金成＝『K－POP』岩波新書、2018
馬場紀寿『初期仏教』岩波新書、2018
石井公成『東アジア仏教史』岩波新書、2019
藤善眞澄『隋唐時代の仏教と社会』白帝社、2004
船山徹『仏典はどう漢訳されたのか』岩波書店、2013
※購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化A						
教員名	佐々木　紳						
科目№	125333130	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】
中東前近代史概説
【概要】
この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀までの前近代史の概説をおこなう。前半は 15 世紀までの概説、後半は 16 世紀から 18 世紀までの概説である。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にもふれる。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化に関する基礎知識を身につける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに前近代の中東地域の歴史と文化に関する最新の研究動向にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションも含みます。） ・「中東」とはなにか？／どこか？	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	中東古代史としての古代オリエント史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	古代末期の中東とイスラーム	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	中東地域史のアフロ=ユーラシア的展開	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	「中世」か、「中期」か	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	世界システム論のなかの中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	境域世界論のなかの中東地域史	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60
第９回	近世イスラーム帝国の競演（1）：ティムール朝とムガル帝国	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	近世イスラーム帝国の競演（2）：オスマン帝国の興隆	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	近世イスラーム帝国の競演（3）：オスマン帝国の近世	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	近世イスラーム帝国の競演（4）：近世イスラーム帝国としてのサファヴィー朝	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	近世から近代へ、そして現代へ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60

第１４回	授業期間後半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ授業内テストをおこなう。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（40%）、授業内テスト（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。
・授業内テストは、授業期間の中盤（中間テスト）と終盤（期末テスト）に課す予定である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化 B」では、この授業の後編にあたる中東近現代史を扱う。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
・後藤明『イスラーム世界史』〈角川ソフィア文庫〉KADOKAWA、2017 年、ISBN 9784044002640
・佐藤次高『イスラーム世界の興隆』〈中公文庫〉中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050792
・永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』〈中公文庫〉中央公論新社、2008 年、ISBN 9784122050303
・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年、ISBN 9784000802017

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア・アフリカの歴史と文化B						
教員名	佐々木　紳						
科目№	125333140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】
中東近現代史概説
【概要】
この授業では、アジア・アフリカの歴史と文化、とくに中東地域（西アジア・北アフリカ）の歴史と文化について、およそ 18 世紀末以降の近現代史の概説をおこなう。授業期間の前半は 18 世紀末から 20 世紀初頭までの概説、後半は 20 世紀から 21 世紀初頭までの概説をおこなう。必要に応じて、南アジア・中央アジア・東南アジア・東アジアなど、中東以外の地域の歴史と文化にもふれる。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を達成すべく、以下の到達目標を設ける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての基礎知識を身につける。
・アジア・アフリカの歴史と文化、とくに近現代の中東地域の歴史と文化についての最新の研究動向にふれる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業期間前半の紹介と導入（授業期間全体のオリエンテーションもおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第２回	中東近現代史のインタラクティヴィティ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第３回	中東近代史のなかのオスマン帝国（1）：オスマン帝国の近代化	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第４回	中東近代史のなかのオスマン帝国（2）：オスマン帝国と近代世界	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第５回	中東近代史のなかのイラン（1）：グレート・ゲームと「メタ・マクロな国家」	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第６回	中東近代史のなかのイラン（2）：史料から見たガージャール朝	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第７回	中東近代史のなかのアラブ地域	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第８回	授業期間前半の総括と確認	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の前半を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	60
第９回	中東現代史の形成と展開（1）：「セーヴル体制」の出現	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１０回	中東現代史の形成と展開（2）：自存自立型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１１回	中東現代史の形成と展開（3）：委任統治型の国家と社会	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１２回	中東現代史から現在へ（1）：パレスチナ問題と中東戦争	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60
第１３回	中東現代史から現在へ（2）：アルカーイダからイスラーム国へ	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】当該テーマに関して新たに得た知見や解釈を整理する。	60

第１４回	授業期間後半の総括と確認（授業期間全体の総括と確認もおこないます。）	【予習】当該テーマに関する教科書的な予備知識を確認しておく。 【復習】授業期間の後半および全体を通して新たに得た知見や解釈を振り返る。	120

〔授業の方法〕
・講義形式で進める。
・授業内容に関するリアクションペーパーを毎回提出してもらう。
・授業期間の中盤と終盤に、それぞれ授業内テストをおこなう。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（40%）、授業内テスト（60%）
・リアクションペーパーを毎回提出してもらい、授業への取り組みを評価する材料とする。
・授業内テストは、授業期間の中盤（中間テスト）と終盤（期末テスト）に課す予定である。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
到達目標の欄に掲げた項目が達成できたかどうかを成績評価の主たる基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・関連科目：「アジア・アフリカの歴史と文化 A」では、この授業の前編にあたる中東前近代史を扱う。

〔テキスト〕
とくになし。

〔参考書〕
・後藤明『イスラーム世界史』〈角川ソフィア文庫〉KADOKAWA、2017 年、ISBN 9784044002640
・ユージン・ローガン（白須英子訳）『アラブ 500 年史：オスマン帝国支配から「アラブ革命」まで』（上下巻）白水社、2013 年、ISBN 9784560083284
・新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001 年、ISBN 9784622033882
・吉村慎太郎『イラン現代史：従属と抵抗の 100 年』有志社、2011 年、ISBN 9784903426419
・酒井啓子『9・11 後の現代史』〈講談社現代新書〉講談社、2018 年、ISBN 9784062884594
・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年、ISBN 9784000802017

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典文化研究Ａ						
教員名	有富　純也						
科目№	125333150	単位数	2	配当年次	１年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
平安時代の貴族の日記を読み、平安時代の文化を考える。
独特な資料である平安時代の貴族日記に親しみ、基礎的な読解をしたいと思います。くわえて、その読解を通じて平安時代の政治・社会・文化について考えていく予定です。

〔到達目標〕
DP６（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①古典を現代語訳だけではなく、漢文やその書き下し文などでもある程度理解できる。
②平安時代の風俗や文化について理解できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス一古典文化とはなにか	【予習】シラバスを熟読し、インターネットなどで平安時代のことを知っておく。 【復習】平安時代の史料を読むための工具書などを確認する。	60
第２回	御堂関白記と藤原道長	【予習】インターネットで藤原道長や平安時代について知っておく。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第３回	摂関期とはどういう時代か	【予習】高校教科書などで平安時代について学ぶ。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第４回	国風文化とは何か	【予習】高校教科書などで国分文化について学ぶ。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第５回	国風文化研究の現状と課題	【予習】高校教科書などで国分文化について学ぶ。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第６回	長保元年八月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第７回	長保元年九月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第８回	長保二年正月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第９回	長保二年二月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１０回	長保二年三月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１１回	寛弘元年正月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１２回	寛弘元年二月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１３回	寛弘元年三月条を読む	【予習】テキストを予習する。 【復習】参考文献などを用いて復習する。	60
第１４回	総まとめ	【予習】御堂関白記全体を理解する。 【復習】授業全体の復習し、レポート課題に備える。	60

〔授業の方法〕
講義形式ですが、書き下しや現代語訳を読んでもらいますので、ある程度の予習が必須です。
なお受講生の多少によっては、方法を変更する可能性もあります。

〔成績評価の方法〕
担当時の予習量（３０％）、簡単な確認テスト（２０％）、期末レポート（５０％）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典を現代語訳だけではなく、漢文などでもある程度理解できるようになるか。
②平安時代の風俗や文化について理解できるかどうか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本の歴史と文化Ａ

〔テキスト〕
適宜プリントを配布します。

〔参考書〕
国史大系『日本紀略３』吉川弘文館
大津透ほか編『藤原道長事典』思文閣出版
そのほか、初回授業時にお示しします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究A						
教員名	加藤　裕人						
科目№	125333170	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、主に朝鮮半島の歴史を古代から近代まで通史的に扱う。
近年、世界規模の国際化が進むなかで日韓両国の交流は飛躍的に活発化した。すでに現代の社会では、さまざまな場面において韓国・朝鮮人との対話は不可避の問題であり、彼らと円滑な関係を築くためには韓国・朝鮮の歴史に対する理解が必須の要件である。そこで受講生には、本講義で朝鮮の歴史を通史的かつ体系的に学び、国際化著しい現代の社会で活躍していくための基礎的な知識を修得してもらいたい。

〔到達目標〕
韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得する。
韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別できる。
韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス、古朝鮮と高句麗・三韓	予習：シラバスを確認し、講義内容を把握しておく。 復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第２回	三国の鼎立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第３回	統一新羅と渤海	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第４回	後三国時代と高麗王朝の成立	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第５回	高麗王朝の興隆	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第６回	武臣政権と事元期高麗	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第７回	高麗の滅亡と高麗の文化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第８回	朝鮮王朝の成立と国家体制	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第９回	朝鮮前～中期の政治動向と対外危機	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１０回	朝鮮後期の政治動向	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１１回	朝鮮王朝の文化	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１２回	開港期の朝鮮と開化政策	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１３回	日清・日露戦争から韓国併合へ	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分
第１４回	植民地期の朝鮮	復習：配付資料や参考資料、参考書を読み、講義内容の理解・定着に努める。	60 分

〔授業の方法〕
授業は基本的に講義形式で進めていく。
授業では適宜配付物を使用する。
なお、上記の予習・復習時間はあくまでも目安となる。受講者は各々の理解度に応じて適宜取り組むこと。

〔成績評価の方法〕
平常点 30%、学期末試験 70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
また、主に以下の３点を評価の基準とする。
①韓国・朝鮮の歴史に対する基礎的な知識を修得しているか。
②韓国・朝鮮の歴史に関する言説の正誤を弁別できるか。
③韓国・朝鮮人と日本人との歴史に対する意識や認識の差異について理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『韓国朝鮮の歴史と文化　―古代から現代まで―』、須川英徳・三ツ井崇、放送大学教育振興会、3850 円、ISBN：978-4-595-32256-3。
ただし、やや高価なため、購入を推奨するが、必ずしも購入する必要はない。
その他、授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後、適宜教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究Ｂ						
教員名	水口　良樹						
科目№	125333180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
ラテンアメリカは、その豊かで多様な自然と同様、文化的にも多様性を内包した地域だ。しかし、同時に征服期から植民地支配期を経て新自由主義の隆盛する現代に至るまでの負の遺産が、社会の分断と不平等を再生産し続けている地域でもある。ラテンアメリカは、その収奪と暴力の歴史の中で、自分たちの身は自分たちで守らなければならないということ、そして分断された社会の中で連帯していくことが力に対抗する術であることを学んできた。そんな今ある社会秩序、世界秩序に異議申し立てをし、自分たちが自分自身の生をいかに取り戻すことができるかという実践を繰り広げる民衆の行動が、国際社会に与えてきた影響は決して少なくない。この授業では、ラテンアメリカの歴史をまず前半に概観した上で、草の根の実践と声を具体的に見ていきながら人が生きる上での「尊厳」とはなにかを考えていく。また各回テーマとなるラテンアメリカの名曲も鑑賞していく。

〔到達目標〕
ラテンアメリカが抱える諸問題とそれに対する社会運動や民衆文化といった民衆の多様な実践について説明することができるようになる。また彼らが抱える問題について、より広い視野で他の問題と関連付けながら自分自身の考えを述べ、それをもとに議論することができるようになることを目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンスとイントロダクション	小レポート作成・リアクションペーパー作成	90
第２回	先スペイン期の社会	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第３回	植民地支配の確立	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第４回	抵抗の手法	リアクションペーパー作成	60
第５回	独立と国民国家の模索	リアクションペーパー作成	60
第６回	米国覇権主義と革命	リアクションペーパー作成	60
第７回	社会暴力と移行期正義	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第８回	新自由主義の実験場	リアクションペーパー作成	60
第９回	社会運動と民主主義	リアクションペーパー作成	60
第１０回	家父長制とフェミニズム	リアクションペーパー作成	60
第１１回	文学と詩	小レポート作成・リアクションペーパー作成	120
第１２回	音楽と社会(ペルーを事例に) Ⅰ	リアクションペーパー作成	60
第１３回	異なる世界の見方(先住民の世界観)	リアクションペーパー作成・期末レポート作成準備	120
第１４回	音楽と社会(ペルーを事例に) Ⅱ	リアクションペーパー作成・期末レポート作成準備	120

〔授業の方法〕
・授業は対面講義形式で行う。
・履修希望者は第１回授業に必ず参加すること（ガイダンスを含むため)。
・授業内で抗議の中で映画や音楽ビデオを視聴する回がある。
・授業前に事前に示された文章を読んでくる必要がある回がある。
・授業ごとにリアクションペーパーを提出する必要がある。
・小レポートを３回提出する必要がある。
・選択式の期末レポートを提出する必要がある。

〔成績評価の方法〕
・授業ごとのリアクションペーパー　28%
・小レポート　36%
・期末レポート　36%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
(購入の必要なし)
清水透『ラテンアメリカ五〇〇年』岩波現代文庫
高橋均・網野徹哉『ラテンアメリカ文明の興亡』中公文庫
石橋純(編)『中南米の音楽』東京堂出版
そのほかの参考文献や資料は、授業内で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
メールアドレスは配付資料にて周知します。
メールもしくは授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究C						
教員名	藪内　聡子						
科目№	125333190	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、上座仏教（パーリ仏教）を中心としたスリランカの文化史について学修します。スリランカの社会構造、宗教的諸観念に基づいた思惟方法、儀礼、生活慣行などの視点を通じて、国家仏教として位置付けられた上座仏教の存在形態、仏教思想、社会的役割を、広く歴史的に概観します。そして上座仏教がスリランカの人々の生活にどのように受容され、実践されてきたのかを、スリランカの王朝の政策と関連づけながら検討していきます。（なお授業の進捗状況によっては、内容を一部変更する場合もあります。）

〔到達目標〕

DP1(専門分野の知識・技能)、３（課題の発見と解決）を実現するため、次の６点を到達目標とします。
1. スリランカにおける上座仏教の存在形態とその思想を様々な視点から理解する。
2. 近代仏教学の成立と上座仏教（パーリ仏教）の歴史学的研究について理解する。
3. 上座仏教の聖典であるパーリ三蔵の編纂過程について理解し、どのように伝承されてきたかを把握する。
4. スリランカの社会構造における上座仏教の位置づけを、王朝の政策と関連付けて歴史的に把握する。
5. 西欧列強の植民地支配からの独立の際に、スリランカにおける仏教の果たした役割について理解する。
6. 史書や碑文資料の取り扱いの方法ならびに歴史研究のための視点を捉える。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 本講義の目的・進め方について説明し、現代スリランカを概観します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　序章　を読むこと。	60
第２回	仏教史概観 仏教の興隆と各国への流布について学修します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第一章　を読むこと。	60
第３回	仏典の言語 上座仏教の聖典語であるパーリ語と、上座仏教（パーリ仏教）の研究の歴史について学修します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第二章　を読むこと。	60
第４回	上座仏教とは 上座仏教の存在形態を三宝という視点から考察します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第三章　を読むこと。	60
第５回	スリランカ史を知るための資料 『マハーワンサ』を中心とした史書、碑文等を紹介し、史料を扱う上での注意点を学修します。	【予習・復習】　教科書　I　釈尊の生涯　　第四章　を読むこと。	60
第６回	スリランカの建国神話とスリランカへの仏教伝道 神話と王権、国家と民族のあり方を検討します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第一章　を読むこと。	60
第７回	アヌラーダプラ時代～ポロンナルワ時代のスリランカ スリランカにおける仏教サンガの変容を、インド仏教の変容とあわせて検討します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第二章　を読むこと。	60
第８回	ダンバデニヤ時代以降のスリランカ 南アジアからのタミル人の侵入を中心に、仏教とヒンドゥー教の融合について検討します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第三章　を読むこと。	60
第９回	スリランカと東南アジアとの交流 ミャンマー、タイ、カンボジアなどの東南アジア諸国への上座仏教の伝道過程について検討します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第四章　を読むこと。	60
第１０回	西欧列強の植民地下のスリランカ キリスト教優位政策下での仏教衰退と復活の過程を概観します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第五章　を読むこと。	60
第１１回	スリランカのパリッタ儀礼 出家者と在家者との日常的なかかわりについて検討します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第六章　を読むこと。	60
第１２回	経典を読む（1)『スッタニパータ』 実際にパーリ経典の日本語訳を読んで、思想について学修します。	【予習・復習】　教科書　II　人生の指針　　第七章　を読むこと。	60
第１３回	経典を読む(2)　『ダンマパダ』 実際にパーリ経典の日本語訳を読んで、思想について学修します。 （課題レポートの提出）	【予習】　授業で紹介した参考文献を読んでおくこと。	120
第１４回	総括 レポートの講評とともに、これまでの授業の総括をおこないます。	【復習】到達目標と自分の理解度とを振り返り、不足している知識等を確認し、学修すること。	60

〔授業の方法〕

授業は講義を中心に進めます。資料を適宜配布します。なおシンハラ人の行動指針の基底をなしている仏教思想を理解するため、教科書を自分で読んでおくことが求められます。学修内容の理解度の確認のために、e-learning を使用した小テストを毎回実施する予定です。（上で示された準備学修の時間は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。）なお到達目標を達成しているかどうかを課題レポートにても評価します。

〔成績評価の方法〕
毎回の小テスト（40%）、課題レポート（40%）、講義中の発言や質問など授業への積極的な参加（20%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
到達目標の達成度により評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
中村元『原始仏典』筑摩書房（ちくま学芸文庫）2011 年　1430 円　ISBN978-4-480-09367-7

〔参考書〕
鈴木正崇『スリランカの宗教と社会』春秋社　1996 年　　ISBN4－393－29901－9
奈良康明『仏教史 I』　山川出版社　1979 年　ISBN4－634－43070－3
前田慧學編『現代スリランカの上座仏教』山喜房佛書林　1986 年　ISBN4-7963-0173-9
藪内聡子『古代中世スリランカの王権と佛教』　山喜房佛書林　2009 年　ISBN978－4－7963－0187－9
他、適宜授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地域文化研究D						
教員名	草野　佳矢子						
科目№	125333200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
1917 年革命以前のロシアの歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当てて、講義する。適宜、関連映像の視聴も行う。

〔到達目標〕
帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。
ロシアを含むヨーロッパの歴史と文化についての基本的な知識と研究方法を修得し、これを用いて自他の歴史を多角的に理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ロシア帝国成立前のロシア① ・キエフ・ルーシの成立と分解、モスクワの勃興と拡大。	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握しておく。 復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第２回	ロシア帝国成立前のロシア② ・モスクワ・ロシアの特徴、モスクワ・ロシアの政治文化の崩壊。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第３回	ピョートル 1 世の改革①：西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第４回	ピョートル 1 世の改革②：中央・地方の行政改革、社会の再編。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第５回	女帝たちの時代：エカチェリーナ 1 世～ピョートル 3 世。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第６回	エカチェリーナ 2 世の統治：啓蒙思想、プガチョフの乱、地方行政改革など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第７回	アレクサンドル 1 世とニコライ 1 世：アレクサンドル 1 世の初期の改革、デカブリストの乱とニコライの即位、法律と官僚制の整備など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第８回	アレクサンドル 2 世と大改革①：大改革の前提、農奴制廃止、ゼムストヴォ制度の導入など	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第９回	アレクサンドル 2 世と大改革②：都市自治制度の改革、地方官僚制、司法改革など	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１０回	革命運動と政治改革の試み：革命運動の展開、政府内の政治改革の試み。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１１回	アレクサンドル 3 世時代のロシア：専制体制の安定化、農民統治制度の改革、工業化とその影響など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１２回	ニコライ 2 世の治世　1894-1904 年：ゼムストヴォ・リベラル運動、労働運動、革命運動、地方統治問題など。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１３回	第一次ロシア革命：「自由主義の春」、血の日曜日事件、立憲制への移行。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第１４回	1906 年体制下のロシア：第一ドゥーマ、ストルイピン改革、2 月革命。	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60

〔授業の方法〕
授業は配布プリントに沿って、講義を中心に進めます。
授業後、リアクションペーパー（今回の授業で学んだこと、印象に残ったことなど、250 字以上）をコースパワーにて提出してください（欠席した方は出さないこと）。
上に示された予復習時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。

〔成績評価の方法〕
期末レポート（3 題程度出題します。合わせて A４　1・5～2 枚程度。コースパワーに提出）　70%
授業への取り組み（リアクション・ペーパーの提出・内容）30%
＊リアクションペーパーの提出が 10 回に満たない場合、成績評価の対象としません。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・近代ロシア史の流れ、ロシアの国家・社会の特徴、重要な事件の歴史的な意義などについて、授業内容を理解しているかに着目して評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校世界史程度の西洋史（ロシア史を含む）の知識があること。

〔テキスト〕
特定の教科書は用いません。

〔参考書〕
『ロシアを知る事典』、平凡社
世界歴史体系　『ロシア史 1～3』、山川出版
和田春樹編　世界各国史　『新版　ロシア史』」山川出版社
和田春樹編　YAMAKAWA Selection　『ロシア史　上』『ロシア史　下』　山川出版社
藤本和貴夫他編著　『ロシア近現代史』、ミネルヴァ書房
栗生沢猛夫　『図説　ロシアの歴史』　河出書房新社
土肥恒之　『図説　帝政ロシア』　河出書房新社
土肥恒之　『ロシア・ロマノフ王朝の大地』講談社学術文庫
マルク・ラエフ（石井規衛訳）　『ロシア史を読む』名古屋大学出版会
三浦清美　『ロシアの思考回路』
その他に関しては、レジュメに記載します。
*参考書は購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。または、コースパワーの質問機能を利用してください。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパ文化・文化史特講A						
教員名	小野　俊太郎						
科目№	125333210	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
「ルールと逸脱」をテーマとする。サッカーには「オフサイド」のような不思議なルールがあるが、制約を発明して得失点差を少なくし勝負を伯仲させることに長けているのがイギリス文化だろう。ギャンブルや賭け事、笑いやファッションに、独特な味をもつ。また成文としての憲法をもたず、サリカ法などにさかのぼる古い規則を残しながら、大胆に時代に合わせてルールを変えてきた。この授業では、一見相互に関係ないように見える「ガーデニング」「スポーツ」「コメディ」「ファンタジー」「ファッション」などを通じて、イギリス文化がルールとその逸脱についてどのような展開してきたかを見ていきたい。

〔到達目標〕
DP1-（専門分野知識と理解）、DP3-（課題の発見と解決）、DP4-（表現力・発信力）を実現するために次の３点を目標とする。
①歴史的文化的な背景を踏まえてイギリス文化の特性を把握できるようになる。
②関連する文化現象の課題を発見し調査検証できるようになる。
③イギリス文化の特性を理解した上で的確な分析レポートが書けるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	はじめに：逸脱とルール	シラバスを熟読しておくこと。配布プリントの項目を復習すること。	60
第２回	都会と田舎（１）産業革命と近代化	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第３回	都会と田舎（２）田園都市	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第４回	ガーデニングの功罪	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第５回	動物虐待と動物愛護	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第６回	スポーツとルール	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第７回	賭けとフェアプレイ	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第８回	コメディと逸脱	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第９回	ミステリーと正義	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第１０回	裁判と法	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第１１回	幽霊と屋敷	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第１２回	ファンタジー愛好熱	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第１３回	ファッションと階級	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第１４回	全体のまとめ	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60

〔授業の方法〕
配布プリントに基づく講義形式で行う。必要な資料は CoursePower を通じて配布する。毎回内容確認の小テストと、期末に課題レポートを課す。イギリス文化の特性を理解し、広範囲な資料を集めて分析できるのかが評価の基準となる。

〔成績評価の方法〕

授業内の毎回の内容確認の小テスト（50%）と CoursePower 提出の課題レポート（50%）によって総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。イギリス文化についての知識の獲得および「逸脱とルール」についての理解が到達目標に達したかを基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし（毎回プリントを配布する）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。メールアドレスは、授業開始後に告知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ヨーロッパ文化・文化史特講C						
教員名	田中　一嘉						
科目№	125333230	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、広くヨーロッパ地域の様々な時代における文学作品や哲学的著作に見られる恋愛観の特質を探っていきます。
恋愛は、時代や地域の文化的条件によって様々にかたちを変えて語られています。
その一方で、どの時代・文化圏にも共通する普遍的な要素も見られるかもしれません。
本講義では、この二つの視点からさまざまに語られた恋愛について分析していきます。
適宜、映像資料も用いる予定です。

〔到達目標〕
DP２（教養の修得）、DP３（課題の発見と解決）、DP４（表現力、発信力）を実現するために、以下を到達目標とします。
①個々の文学作品について、時代・文化的背景を理解し、その独自性や現代との違いなどを他者に説明できること。
②個々の作品の独自性を理解すると同時に、その背後に隠れている共通項を探ることができるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション	ヨーロッパの歴史について	60
第２回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(1) 近世ヨーロッパ世界と文学	前回の内容の復習	60
第３回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』(2) 情熱恋愛？	前回の内容の復習	60
第４回	ジェイン・オースティン『自負と偏見』	前回の内容の復習	60
第５回	スタンダール『恋愛論』	前回の内容の復習	60
第６回	中世の「宮廷風恋愛」概論 (1) アンドレアス・カペルラヌス『宮廷風恋愛について』	前回の内容の復習	60
第７回	中世の「宮廷風恋愛」概論 (2)『バラ物語』	前回の内容の復習	60
第８回	中世の「宮廷風恋愛」概論 (3) ミンネザング	前回の内容の復習	60
第９回	ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク『トリスタンとイゾルデ』	前回の内容の復習	60
第１０回	クレチアン・ド・トロワ『ランスロ』	前回の内容の復習	60
第１１回	エロスとクピドー：ウェルギリウス『アエネーイス』	前回の内容の復習	60
第１２回	オウィディウス『恋愛の技術（アルス・アマトリア）』	前回の内容の復習	60
第１３回	プラトン『饗宴』、『パイドロス』	前回の内容の復習	60
第１４回	総括、期末レポート執筆に向けて	前回の内容の復習	60

〔授業の方法〕
講義形式。
毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の概要をきちんと把握しているか、授業内容について自分の考えをまとめることができているかを評価基準とします。

〔成績評価の方法〕

毎回課すコメントペーパーの内容 50%、期末レポート 50%を総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現在の興味関心が文学に向いていなくとも構いませんが、歴史・社会・思想・芸術など、自らの学問的関心をもった受講生が幅広く参加してくれることを期待します。

〔テキスト〕
特になし。
講義資料は授業で配布します。

〔参考書〕
授業内で紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アメリカ文化・文化史特講A						
教員名	細谷　典子						
科目№	125333250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
コロナ禍での BLM 運動の波及により、アメリカ合衆国の人種に関わる問題、特にアフリカ系アメリカ人に対する差別が不可視化されてきたことや、制度的差別によって格差が再生産されていることが露呈されたことは記憶に新しい。そのような現代アメリカの実情、そして、アメリカだけの問題ではない現代社会に求められる犠牲者の可視化、窮乏への対応等を念頭に置いて、アメリカ合衆国におけるアフリカ系アメリカ人の歴史を学修する。
講義においては、公民権運動以前の歴史を概観したうえで、公民権運動とその成果、法的平等達成後のアフリカ系アメリカ人の不満、その解消のための新たな運動やリーダーの出現、貧困や教育の問題、そして、それらの問題への取り組み、近年の刑務所への大量収監(人種プロファイリング）の問題等を扱っていく。具体的な運動とリーダーを取り上げ、その思想や運動の戦略については、議論することで理解を深めていく。
その際、「人種」あるいは「人種主義」について、以下の観点から考察する機会を持ちたい。ひとつは、「人種」は歴史的に構築されてきたものという視点から、それぞれの時代について、政治・経済・社会状況を背景に「人種」がどのように定義、再定義され、人種差別を内包する社会が成立していたのか、という点。もうひとつは、歴史的に構築されてきた制度的差別や、白人至上主義のような人種主義的な思考が、現代世界にどのような影響や緊張関係を産み出しているのか、という点である。現代社会と比較する、あるいは関連性を論じることによって、内在的な議論をしていきたいと考えている。

〔到達目標〕
① アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史的知識を習得する。
② 現代アメリカ社会の問題を歴史的な視点から理解することができる。
③ 多人種・多文化・多民族社会であるアメリカ合衆国のマイノリティの歴史を学び、社会の差別構造やマイノリティの復権について深く考察することによって、今後、国際社会のなかで生きていくうえでの基本的な知見を身につけ、課題や問題に対処する思考・判断能力の基礎を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習、復習の仕方等を説明する ・最近の新聞記事について	【予習】シラバスをよく読んで、講義内容を把握する。教科書のプロローグを読む。 【復習】授業の全体像や進め方を確認する。	60
第２回	教科書の第一章から第三章の概要を説明　(第一章～三章) ・奴隷制時代から公民権運動前までの歴史を概観。 ・南部のプランテーションのシステムと発展を学修する。	【予習】 テキスト第一章～第三章を読む。 【復習】 年表を作成する。授業内で学修した事件や人物について記入する。	60
第３回	冷戦下の公民権運動　(第四章) ・冷戦と 1940 年代から 50 年代の合衆国の赤狩りを学修する。	【予習】 第四章(1) を熟読。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第４回	公民権運動(第四章、続き) ・バス・ボイコット運動から始まる公民権運動を学ぶ。	【予習】 第四章(2) を読む。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第５回	ワシントン行進と公民権法の成立(第四章、続き) ケネディによる公民権法提案から、ワシントン行進とキングの演説を学修する。 ケネディ暗殺後の公民権法成立について学ぶ。	【予習】 第四章(3)を読む。 【復習】 M.L.キングの演説の内容を復習し、その意義を考える。	60
第６回	投票権法(第四章、続き) ミシシッピ・サマープロジェクトの流れを理解する。 セルマ行進を学修する。	【予習】 第四章(4)を読む。 【復習】学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成すｒ。	90
第７回	脱人種「白人保守革命」の時代(第五章) ・ジョンソンの「偉大な社会」計画を学ぶ。 ・ベトナム戦争に対するアフリカ系アメリカ人の立場を考える。 ・キング暗殺とその衝撃を学修すｒ。	【予習】 第五章(1) を熟読。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第８回	アファーマティブ・アクション　(第五章、続き) ・アファーマティブ・アクションとは何かを学ぶ。 ・「逆差別」という論理について学ぶ。	【予習】 第五章(2) を熟読。 【復習】 学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第９回	「レーガン保守革命」と黒人の反撃　(第五章、続き) ・レーガン政権時代の政策とカラー・ブラインドへの布石を学ぶ。 ・ブラック・カルチャーを学修する。	【予習】 第五章(3～4)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第１０回	「分極化」と「多様化」の時代(第六章) ・アフリカ系アメリカ人の就業構造の変化と公民権運動後の中産階級の増加を学修する。	【予習】 第六章(1)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	90
第１１回	インナーシティ(第六章、続き) ・インナーシティとは何かを学ぶ。 ・インナーシティに暮らすアフリカ系アメリカ人の貧困と教育の欠如のスパイラルを学修する。	【予習】 第六章(2)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60

第１２回	産獄複合体(第六章、続き) ・レイシャル・プロファイリング ・監獄建設・維持と関わる企業の利益　　黒人の大量収監公民権法成立後の運動と、投票権法の成立について学修する。	【予習】 第六章(3)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第１３回	黒人社会の多様化(第六章、続き) ・現代のアフリカ系移民 ・授業全体のまとめ ・Q&A	【予習】 第六章(4)を熟読、授業を振り返り不明瞭な箇所等を明確にし質問の準備をする 【復習】 これまでの内容について復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テスト	【予習】 到達度確認テストに備えた学修 【復習】 授業全体を振り返り、今後学ぶべきことを明確にする。	60

〔授業の方法〕
講義を中心とする。講義内容についてグループディスカッションを行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト６０％、平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）４０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
以下の点の達成度を評価する。
・アフリカ系アメリカ人の歴史に関する知識を十分に学修できているか。。
・それぞれの時代のアフリカ系アメリカ人が置かれた状況と差別について理解し説明ができるか。
・アフリカ系アメリカ人の復権運動を理解し説明できるか。
・現代のアメリカが抱える問題と歴史的事象を関連づけて考えることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
『アメリカ黒人の歴史』上杉忍著、中公新書　ISBN978-4-12-102209-7

〔参考書〕
授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業の前後
個別に質問や連絡がある場合で、授業の前後に話すことが不可能な場合、コースパワーの「質問」機能を使用し、連絡ください。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本文化・文化史特講A						
教員名	酒井　晃						
科目№	125333270	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】現在の日本のジェンダー／セクシュアリティのあり方（「あたり前」）を歴史的にさかのぼって検討する。
【概要】現在のセクシュアルマイノリティや性的欲望がどのように構築されたのかについて、近現代日本の歴史を振り返りながら検討する。本講義では、LGBTQ をめぐる社会規範や人びとの実践を見ることで、近現代日本にけるジェンダー／セクシュアリティの秩序（「当たり前」）がいかに構築されたのか、そうした秩序がなぜ継続したり、変化したりするのかについて考える。

〔到達目標〕
・日本近現代史のジェンダー／セクシュアリティをめぐるさまざまな実践や活動について、同時代の文脈（「当たり前」がつくられる過程、背景）を理解する
・ジェンダー／セクシュアリティの認識枠組みについて、過去と現在の共通性と相違点を踏まえて、自分なりの意見や考えを獲得する

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する。	60
第２回	性の認識枠組みと前近代社会のセクシュアリティ	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第３回	文明開化とセクシュアリティの統制	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第４回	日清・日露戦争と男色文化	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第５回	女性同士の「絆」と女性同性愛の発見	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第６回	「変態性欲論」と近代家族	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第７回	「エロ・グロ・ナンセンス」と LGBTQ	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第８回	戦後「解放」と LGBTQ	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第９回	高度成長と性別役割分業の強化	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１０回	ゲイ商業誌の誕生とレズビアン・コミュニティの形成	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１１回	「エイズパニック」と対抗運動	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１２回	「ゲイブーム」と LGBTQ の序列化	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１３回	バックラシュと性教育バッシング	【予習】高校日本史教科書や関連する文献等を使って当該時期の時代背景について調べる。 【復習】授業プリントを熟読する。	60
第１４回	まとめ	【予習】これまでの授業を振り返る。 【復習】授業全体を復習する。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式でおこなう。なお、扱う時代は、第 3 回～第 5 回は 19 世紀～20 世紀初頭、第 6 回～第 7 回戦前期、第 8 回～第 9 回戦後～1970 年代前後)、第 10 回～第 13 回は 1970 年代以降となる。また、受講生の関心によって、多少の変更をおこなう場合もある。

〔成績評価の方法〕
①リアクションペーパーによる評価（40 点）
②到達度確認テスト（60 点）
　計：100 点満点

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、セクシュアルな内容を含んでいるため、注意を要する（露骨な描写は授業では触れない）。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業回ごとに提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア文化・文化史特講A						
教員名	倉田　明子						
科目№	125333290	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
香港と中国の歴史　――近現代の歴史と社会
植民地期から返還を経て現在にいたる香港の歴史を通史的に取りあげつつ、20 世紀以降の中国現代史についても関連づけながら講義し、香港の成り立ちと現状を多角的に捉えなおす。

〔到達目標〕
イギリス植民地から中国の特別行政区へと変遷してきた香港、および中国本土の歴史について理解を深める。歴史的視点から現代の中国社会を捉える視座を養う。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：香港の歴史	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第２回	香港の誕生と植民地統治の展開	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第３回	戦間期の中国と香港	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第４回	日中戦争と日本占領期の香港	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第５回	戦後の香港・中国	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第６回	動乱の時代	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第７回	香港返還への道	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第８回	中国の改革開放と天安門事件	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第９回	返還と「一国二制度」	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１０回	2010 年代の香港	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１１回	2019 年反政府運動	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１２回	国家安全維持法下の香港	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１３回	宗教から見る香港	テキストおよび下記の参考書に適宜目を通し、予習しておくこと。 教員の指示に従って、参考書等を利用しながら、授業後の復習を行うこと。	60
第１４回	達成度の確認	全体の授業内容について復習しておくこと	60

〔授業の方法〕

講義形式で授業を行う
受講者は毎回受講後にコメントシートを提出すること

〔成績評価の方法〕
コメントシート（30%）
期末試験（70%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『香港の歴史 ： 東洋と西洋の間に立つ人々』ジョン・M・キャロル著 ； 倉田明子, 倉田徹訳、明石書店、4730 円、ISBN:9784750350172、購入の必要なし

『香港危機の深層 ： 「逃亡犯条例」改正問題と「一国二制度」のゆくえ』倉田徹, 倉田明子編、東京外国語大学出版会、1680 円、9784904575796、購入の必要なし
『香港と「中国化」 ： 受容・摩擦・抵抗の構造』倉田徹, 小栗宏太編著、明石書店、4950 円、978-4750353692、購入の必要なし

〔参考書〕
『香港を知るための 60 章』吉川雅之, 倉田徹 編著、明石書店、2200 円、978-4750342535、購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アジア文化・文化史特講C						
教員名	松尾　有里子						
科目№	125333310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】
オスマン帝国の社会と文化
【概要】
この授業では、オスマン帝国（1299-1922)の成立期から 18 世紀までの前近代史を中心に、その社会と文化の特徴を検討する。いつかのテーマとトピックを取り上げ、検討するとともに、同時代の中東（イラン、アラブ地域)、バルカン、北アフリカ、ヨーロッパの歴史との比較や、交流史にも触れていく。

〔到達目標〕
DP1(専門分野の知識・技能）を深め、DP2(教養の修得）を目指すうえで、以下の到達目標を設定する。
・オスマン帝国の歴史を通じて、近代以前の中東・バルカン・北アフリカの歴史や文化の基礎的な知識を修得する。
・最近の研究動向も踏まえながら、近現代の当該地域の歴史や社会を考えるうえでの視野を広める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・オスマン帝国史を理解するために ・中東・バルカン地域の前近代史とオスマン帝国	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第２回	・オスマン「帝国」の誕生 ・コンスタンティノープルの征服と首都イスタンブル	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第３回	・首都イスタンブルの造営（１） ・異教徒との共存	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第４回	・首都イスタンブルの造営（２） ・街区の形成と宗教寄進制度	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第５回	・「壮麗王」スレイマンの時代（１） ・軍人エリートの登場	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第６回	・「壮麗王」スレイマンの時代（２） ・イスラーム知識人（ウラマー）と司法行政	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第７回	・「壮麗王」スレイマンの時代（３） ・ハレム（後宮）制度と女人の統治	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第８回	・オスマン社会の変容 ・軍事国家から財政国家への変貌	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第９回	・近世オスマン地方社会を生きる ・ボスニアのイスラーム法廷を中心に	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１０回	・新たな統合の時代へ ・第二期オスマン帝国論とは何か	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１１回	・オスマン帝国とヨーロッパ ・ウィーン包囲からトルコ趣味の流行まで	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１２回	・オスマン近世社会における名士たち ・ウラマーの家系史研究から見た近世社会	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分
第１３回	・チューリップ時代の幕開け ・オスマン遣欧使節が見たヨーロッパ	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分

第１４回	・総括 ・オスマン帝国の近代化改革を理解するために	【予習】当該テーマに関わる予備知識は概説書にあたり、調べておく。 【復習】新たに得た知見をもとに当該テーマの要点を整理し、理解しておくこと。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進める。
偶数回の講義時に小テストを行うので、理解の確認をしてください。こちらの提出も授業の取り組みへの評価に加えます。

〔成績評価の方法〕
・授業への取り組み（20%）、リアクションペーパー提出(20%)、定期試験(60%)
・授業についてのリアクションペーパー、小テストの提出、質問により、取り組みの内容を判断する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
到達目標の欄に挙げた項目が達成できたか否かを成績評価の基準とする。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
・林佳世子　『オスマン帝国 500 年の平和』講談社、 2008
・小笠原弘幸『オスマン帝国　繁栄と衰亡の 600 年史』中公新書、2018
・永田雄三　『トルコの歴史』（上）（下）刀水書房 2023
・永田雄三編　井谷鋼造　林佳世子　秋葉淳　新井政美　間寧著『トルコ史』2023

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界の宗教文化（東南アジアの仏教徒社会）						
教員名	高橋　美和						
科目№	125334110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この授業科目は、仏教という側面からの異文化理解の入門的な授業である。
日本から比較的近い距離にある東南アジア諸国は、日本人の観光旅行目的地の選択肢に入って久しい。しかし、この地域に暮らす人々の日常の暮らしや価値観や人生観について、日本人はどれだけ知っているだろうか。特に、宗教を普段意識しない大半の日本人にとって、異文化社会における宗教の重要性を共感的に理解することは非常に困難である。この授業では、多様性に満ちた東南アジア地域のうち、特に上座部仏教圏に光を当て、この地域に暮らす人々の宗教実践を詳細に検討することにより、地域社会の理解に宗教理解が重要であることを論じたい。

〔到達目標〕
① 上座部仏教の歴史や教義の特徴などの基礎的知識を修得する。
② 東南アジアの該当地域における宗教実践・信仰の具体的状況を理解する。
③ 異文化理解における宗教理解の重要性を認識できるようになる。
④ DP2（教養の修得）を実現するため、異文化に関する知識を修得し、広い視野での思考力を養うことを目標とする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	導入：異文化理解における宗教理解の重要性	授業後課題	60 分
第２回	東南アジア文化史概観：文化の重層性と宗教との関り	授業後課題	60 分
第３回	東南アジアの仏教入門①：仏教史概観	授業後課題	60 分
第４回	東南アジアの仏教入門②：東南アジアの仏教の概要	授業後課題	60 分
第５回	日本のメディアにおける東南アジアの上座部仏教：タイ・ミャンマーの事例	授業後課題	60 分
第６回	上座部仏教徒社会の構造：出家と在家、国家と仏教	授業後課題	60 分
第７回	カンボジア仏教①：カンボジア史と仏教	授業後課題	60 分
第８回	カンボジア仏教②：他の信仰体系と仏教	授業後課題	60 分
第９回	カンボジア仏教③：コミュニティと仏教	授業後課題	60 分
第１０回	カンボジア仏教④：世代間関係と仏教	授業後課題	60 分
第１１回	カンボジア仏教⑤：ライフコース、教育と仏教	授業後課題	60 分
第１２回	カンボジア仏教⑥：ジェンダーと仏教	授業後課題	100 分
第１３回	カンボジア仏教⑦：華人と仏教 到達度確認テスト	授業後課題は課さないが、復習をする	60 分
第１４回	到達度確認テストの解説 まとめの講義	到達度確認テストの内容について、復習をする	60 分

〔授業の方法〕
第１～12 回まで、毎回、授業後課題を CoursePower を通じて出すので、提出すること。内容は、①授業の感想・質問、②知識定着のための復課課題、③次回授業のための予習課題　の３通りがあり、毎回変わる。
第 13 回の到達度テストでは、基礎的知識の定着を見る問題の他、宗教理解の重要性に関する論述問題が含まれる。

〔成績評価の方法〕

平常点（＝授業後課題の提出状況およびその内容）50%＋到達度確認テスト 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『カンボジアを知るための６０章』（第３版）、上田広美・岡田知子・福富友子編、明石書店、2,200 円
『挑戦する仏教―アジア各国の歴史といま』、木村文輝編、法藏館、2,530 円
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
また、授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究A						
教員名	中野　由美子						
科目№	125334120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義の課題は、主にハリウッド映画を題材として、第二次世界大戦を経て超大国となったアメリカ合衆国の自画像の変遷を社会史・文化史的に検討することである。戦禍を免れたアメリカ合衆国は、絶対的な軍事力と経済力を誇る強国として、国際社会において圧倒的な存在感をもつ存在となった。その一方で、国内においては、人種・エスニシティにまつわる様々な矛盾や葛藤を抱え、それが次第にアメリカ社会全体を揺るがす問題として表出することになった。本講義では、このような国内外の状況の変化を踏まえ、アメリカ合衆国の自画像がどのように形成され、そして変容せざるを得なかったのかを、映画を題材として探求していく。なお、本講義では、上記のテーマに即して、適宜、史料分析のトレーニングも行う。

〔到達目標〕
DP1-1、DP2-1 を実現するため、以下の３点を到達目標とする。
① 20 世紀の合衆国に関する社会史・文化史の基礎知識を修得する。
② 人種・エスニシティという観点から、合衆国における娯楽産業の歴史の特質を説明できる。
③ 映像史料とそれに関連する二次史料を批判的に分析することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを確認する。	テキストの指定箇所をよく読んでおくこと。	60
第２回	映像の可能性―社会史的考察 ・映像資料の活用方法について理解する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第３回	創られる先住民像（その１） ・20 世紀前半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第４回	創られる先住民像（その２） ・20 世紀半ばの西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第５回	創られる先住民像（その３） ・20 世紀後半の西部劇を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第６回	国境を超える西部劇 ・西部劇がヨーロッパ・日本においてどのように受け入れられたのかを検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第７回	小括　これまでの講義のポイントをまとめる。小テストを実施する。	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第８回	映画の中のアジア人像（その１） ・20 世紀前半のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第９回	映画の中のアジア人像（その２） ・20 世紀半ばのハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１０回	映画の中のアジア人像（その 3） ・20 世紀末のハリウッド映画を題材として、配布資料に基づき検討する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１１回	映画の中のアジア人像　小括 ・映画を題材として、「人種」問題について探求する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１２回	到達度確認テスト	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60
第１３回	到達度確認テストの講評を行う。配布資料に基づき、論点を整理する。 リアクションペーパーを作成・提出する。	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第１４回	全体のまとめ	レジュメを参照しながら、テキストや配布資料を読み直しておくこと。	60

〔授業の方法〕
・講義形式で行う。レジュメや史料の配布の際にコースパワーを使用するので、毎回の講義前後には必ずコースパワーにアクセスをして確認をすること。（なお、コースパワーにアップロードすることができない史料等についてのみ、講義中に紙媒体で配布する。後日の再配布には応じられない場合が多いので注意すること。）
・ほぼ毎回、簡単な課題を出題するので、コースパワーを使って回答（リアクションペーパー）を提出すること。
・小テストと到達度確認テストは、コースパワーを使って解答を提出する形で実施する予定。小テストと到達度確認テスト実施時にはノート PC・タブレット等を必ず持参すること。

〔成績評価の方法〕
授業中に出す課題（リアクションペーパー等のコースパワーで一定期間内に提出していただく課題も含む）＝平常点（55%程度）、小テスト（15%程度）、到達度確認テスト（30%程度）による総合評価。課題への積極的・独創的な貢献に対しては、１０％を上限として加点する場合がある。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
主に以下の点について、その到達度により評価する。
①合衆国における娯楽産業の歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
②世界史全体の流れのなかに、アメリカの映画産業を位置づけ、その特質を理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。アメリカの歴史と文化Ａ・Ｂの他、日本を含む世界各国・地域の歴史と現状に関する科目を幅広く受講することが望ましい。

〔テキスト〕
特になし。
史資料・レジュメ等は、適宜配布します。

〔参考書〕
Decherney, Peter. Hollywood: A Very Short Introduction. Oxford University Press, 2016.
北野圭介『新版　ハリウッド 100 年史講義―夢の工場から夢の王国へ―』平凡社新書、2017 年。
阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための 62 章』明石書店、2016 年。
有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』有斐閣、2003 年。
※上記の参考書は、購入する必要はありません。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究Ｂ						
教員名	川村　陶子						
科目№	125334130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
テーマ：「文化多様性からみる現代ドイツ」
この授業では、ひとつの国ないし社会を、文化多様性という見地から、多角的かつ歴史的にとらえ直すことを試みる。具体例として、ヨーロッパの中心国であり、西ドイツ時代以来「ひらかれた民主主義」の建設を目指してきたドイツ連邦共和国をとりあげる。メインとなる部分では、現代ドイツを構成するさまざまな「文化（多様性）の次元」を、時間的・空間的な広がりに留意しつつ読み解いていく。そうした作業をとおして、ドイツという〈くに〉の成り立ちやその魅力、抱える問題や困難、それらを克服する努力などを理解することを試みる。私たちの住む日本との比較も折々に織り込む予定である。
多様なものの共生は、今日の世界において摩擦や対立を生み出す契機となりうるが、同時に活力ある社会、新たな創造性の源ともなりうる。多様性のこうした二面性を理解しつつ、そのダイナミクスをより肯定的に生かすには、社会に多様性をもたらす文化のさまざまな次元を意識することが重要である。授業ではドイツやヨーロッパで行われている多様性マネジメントの試み（政策、活動等）にも注目し、文化多様性をよりよい社会づくりに生かすためのヒントを考えたい。
＊授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって修正・調整する可能性がある。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するため、以下のことを目標とする。
①現代ドイツが内包するさまざまな意味での「多様性」をひもとくことにより、ドイツを新たな目で理解すること。
②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げること。
③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養うこと。
④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、受講者の人数や構成、現実の社会や研究の動きなどの要因をふまえて適宜修正する。） 《イントロダクション》 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。テーマに関連した自分の関心や事前知識を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	60
第２回	《文化の多様性と現代の諸問題》 文化多様性とはどのようなことか、それが今日の世界におけるどのような事象と関連しているかについて、概略的に整理する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第３回	《ドイツとは何か》 ドイツという国、社会がはらむ複雑さと、それを規定する多様性について理解を深める。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第４回	《多様性からみるドイツ（１）地方とヨーロッパ①》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。歴史的な経緯にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第５回	《多様性からみるドイツ（２）地方とヨーロッパ②》 地理的な広がりと多彩な地方色について理解を深める。現代的な状況にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第６回	《多様性からみるドイツ（３）冷戦と東西①》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。とくに、20 世紀後半の冷戦と国家分断がもたらした影響に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第７回	《多様性からみるドイツ（４）冷戦と東西②》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。今日における東西ドイツの違いや、それが政治や社会に及ぼす影響にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第８回	《多様性からみるドイツ（５）世代と歴史・社会観①》 人びとを分ける世代について理解を深める。近現代史の流れの中で、世代を形成する要因となった出来事にとりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第９回	《多様性からみるドイツ（６）世代と歴史・社会観②》 人びとを分ける世代について理解を深める。現代史の諸問題に関する公的認識の形成に、世代が及ぼした役割についても考察する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１０回	《多様性からみるドイツ（７）人の移動と受け入れ・統合①》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。ドイツをめぐる人の移動の歴史的な流れに、とりわけ注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１１回	《多様性からみるドイツ（８）人の移動と受け入れ・統合②》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 20 世紀後半における外国人労働者の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１２回	《多様性からみるドイツ（９）人の移動と受け入れ・統合③》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに 21 世紀における移民・難民の受け入れや統合に注目する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60
第１３回	《多様性からみるドイツ（１０）ジェンダーとセクシュアリティ》 ジェンダーや家族に関する考え方、性的指向や性的自認の多様	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。	60

	性の扱いについて理解を深める。歴史的な経緯と現代における展開の双方に注目する。		
第１４回	《多様性がもたらす課題と可能性》 今日、多様性がもたらす諸問題と、それが生み出す革新や創造を再確認するとともに、文化多様性を肯定的に生かすためのドイツの取り組みとその課題を総括的に議論する。	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返りをおこなう。 レジュメの「復習・予習」欄に書かれた課題に取り組む。レポートを執筆する。	120

〔授業の方法〕
講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。（履修者の人数等によっては、より参加型の性格が強い授業とする可能性もある。）
毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパー（CoursePower のレポート機能を利用する予定）で授業内容に関する質問や意見、講義に関連しておこなった自主的学習の成果等をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説をおこなう。また、受講者に授業内容に関連するアンケートに答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義をおこなう。授業内容に関連する映画を紹介し、小課題の形で鑑賞、批評をおこなってもらうことも検討している。学期末には授業に関連した内容のレポートを課す。
授業では、講義の要点や参考文献、復習・予習のポイントを掲載したレジュメを配布する。
受講者には、毎回の授業の予習・復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパーおよび各種提出物）80%、期末レポート 20%をめやすに総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
以下の点に着目し、その到達度により評価する。
①現代ドイツが内包するさまざまな「多様性」を理解する。
②多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げる。
③日本を含むさまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養う。
④自主的な学習態度を身につけ、授業のフィードバックをおこなえるようになる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修者は、ドイツやヨーロッパ、世界の情勢について文献やネット等で自主的な情報収集をおこなうことが望ましい。
世界史、とくに近現代史に関する基礎知識があると授業の理解に役立つ。高校での選択の有無にかかわらず自主的な学習を推奨する。
ドイツの歴史や文化に関する事前の知識は必須ではないが、関連授業の履修や自主的な学習は授業の内容理解に役立つ。
ドイツ語に関する知識は必要ないが、あれば授業の内容理解に役立つ。
関連科目：国際文化論、ヨーロッパの歴史と文化、ヨーロッパ文化・文化史特講、その他近現代史およびド

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
田野大輔・柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016 年。
浜本隆志・高橋憲編著『現代ドイツを知るための 67 章【第 3 版】』明石書店、2020 年。
森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年。
『ドイツの実情』2018 年（ドイツ外務省制作の e ブック、インターネットから無料ダウンロード可能）。
ほか、開講時および授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究C						
教員名	赤川　尚平						
科目№	125334140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】
「日英関係の歴史」
【概要】
この授業では主に近世以降の日本とイギリスの関わりについて政治・外交・社会・文化など、多様な観点から学びを進める。その際、どのような出来事が起こったのかを学ぶだけではなく、それがいかなる意味を有したのかということについて考えることを目指す。講義では日英二国間の関係を主軸としつつも、他国との関係や地域、国際社会との関わりというより広い文脈のなかで日英関係史を捉えることで、物事を相対化して考える思考力を鍛える。

〔到達目標〕
DP2（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とします。
・高校の学習から大学における学びへの架け橋となる思考の基礎を身に付ける。
・近現代史の全体の流れのなかに日英関係を位置付け、その歴史的展開と意義について説明できるようになる。
・日英関係の歴史を他国の視点も踏まえて検討することで、受講生が多様性を理解し、物事を複眼的に捉える思考を身に付けることを目指す。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	ガイダンス・イントロダクション ・シラバスの記載事項の確認、「イギリスとは何か」ということについて	【予習】 シラバスを読み、講義内容についてあらかじめ確認する。 【復習】 参考文献リストを確認し、自分の興味・関心に基づき文献にあたってみる。	100 分
第2回	【第1部　日英関係の黎明期】 近世以前の日英関係	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第3回	日本の開国とイギリス	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第4回	【第2部　不平等条約から同盟関係へ】 不平等条約改定への試み	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第5回	日英同盟の時代	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第6回	明治日本とヴィクトリア朝イギリスの文化交流	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第7回	【第3部　大戦の時代】 同盟後の日英「協調」	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第8回	アジア・太平洋戦争における日英の角逐	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第9回	2つの帝国の間で―戦間期日英の交流	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、	100 分

		配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	
第１０回	【第 4 部　日英関係の現在へ】 戦後日本の再出発と対英和解	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第１１回	冷戦時代の日英関係	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第１２回	日本とコモンウェルス	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第１３回	現代世界における日英関係	【予習】 事前配信動画を視聴し、授業対象となる時代の背景や基本事項を把握する。 【復習】 授業の内容を振り返り、わからなかった箇所などがあれば、配布資料や参考文献を読み、自分なりの整理を行う。	100 分
第１４回	論述式の到達度確認試験 ・電子機器以外持ち込み可	【予習】 これまでの講義内容を振り返り、期末試験に向けて理解の定着を確認する。 【復習】 要点解説を踏まえて自身の解答を振り返り、講義資料などと照らし合わせる。	100 分

〔授業の方法〕
全回とも PowerPoint 資料とそれを用いた動画の事前配信、および当日の講堂での授業という構成で運営する。講義資料と動画については講義日よりも前に Course Power にアップロードし、当日の授業は動画視聴などの予習を前提として動画内容の補足を行うとともに、受講者自身で更に学習を進めていくための文献案内、質疑応答などに時間を充てる。
上記の運営方針はシラバス作成時点での想定に基づくものであり、情勢の変化や授業進行の都合によって変更となる可能性がある。

〔成績評価の方法〕
授業期間内に論述式の到達度確認試験を行う。
試験終了後、その場で成績評価のポイントについて解説を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に無いが、より豊かな学びの機会とするために、高校の歴史の授業の教科書や資料集を活用して基本的な情報を確認し、各自の興味・関心に応じて積極的に情報収集することを推奨する。

〔テキスト〕
特に無し。

〔参考書〕
各回の講義資料の末尾に適宜参考文献を掲載し、講義内で説明を行う。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問等については講義終了後に対応するとともに、メールでも随時受け付ける。
連絡先は第 1 回のガイダンスで公示する。

〔特記事項〕
・反転授業

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	国際文化研究D						
教員名	鈴木　重周						
科目№	125334150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
テーマ：ヨーロッパ文化と「ユダヤ人」
　この授業は、ヨーロッパ社会におけるマイノリティ（社会的少数者）としての「ユダヤ人」に着目し、かれらがどのような存在であったのかを、フランスを中心としたヨーロッパの芸術作品（文学、絵画、戯曲等）を通して考えることを目的とします。
ヨーロッパ文化と「ユダヤ人」について考えることは、歴史上常に周縁に追いやられてきた存在をめぐる差別の構造に気づくことでもあります。また、「ユダヤ人」が芸術作品の担い手となった時にどのような軋轢が起こったのかを学ぶことで、現代の日本に生きる私たちにとってもさまざまなマイノリティをめぐる問題が無関係ではないことを知ることができます。
この授業で学ぶことが受講者自身の真摯な問題意識とつながることを期待しています。なお、受講者の関心やアクチュアリティに応じて授業内容を修正することがあります。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、以下を目標とします。
・ヨーロッパの「ユダヤ人」をめぐる歴史に関する基本的知識を身に付ける。
・文化表象におけるマイノリティをめぐる差別の構造を理解する。
・授業内容を自身の問題意識に引きつけコメントすることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【テーマ】「ユダヤ人」とは誰のことか 【内容】授業の内容や方法についてのガイダンス。ヨーロッパ・ユダヤ史の概説	シラバスをしっかり読む。「ユダヤ人」について考えてみる。 授業ノートを準備しておく。	30 分
第２回	【テーマ】描かれる「ユダヤ人」1 【内容】文学テクストにおいて「ユダヤ人」はどのように描かれるのか。 【扱う作品】W・シェイクスピア『ヴェニスの商人』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第３回	【テーマ】描かれる「ユダヤ人」2 【内容】文学テクストにおいて「ユダヤ人」はどのように描かれるのか。 【扱う作品】W・シェイクスピア『ヴェニスの商人』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第４回	【テーマ】「美しきユダヤ女」 【内容】キリスト教徒男性の欲望としての「美しきユダヤ女」について考える。 【扱う作品】W・スコット『アイヴァンホー』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第５回	【テーマ】スペインの「マラーノ」 【内容】1492 年という年に着目し、スペインの異端審問がヨーロッパ文化に与えた影響について考える。 【扱う作品】D・ベラスケス『侍女たち』、F・ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』、J・アタリ『1492 年』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第６回	【テーマ】「サロメ」という少女 1 【内容】ヨーロッパ文化において繰り返し表象される「ユダヤの王女サロメ」について考える。 【扱う作品】G・フローベール「エロディアート」、G・モロー『出現』、J－K・ユイスマンス『さかしま』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第７回	テーマ】「サロメ」という少女 2 【内容】ヨーロッパ文化において繰り返し表象される「ユダヤの王女サロメ」について考える。 【扱う作品】O・ワイルド『サロメ』、O・ビアズリー「お前に口づけしたよ、ヨカナーン」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第８回	【テーマ】具現化する「美しきユダヤ女」 【内容】ユダヤ系フランス人女優サラ・ベルナールに着目し、その戦略と、職業としての女優について考える。 【扱う作品】A・ミュシャ『ジスモンダ』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第９回	【テーマ】ベル・エポックの影としてのドレフュス事件 1 【内容】フランスの反ユダヤ主義がなぜ、どのように爆発したのか考える。 【扱う作品】E・ドリュモン『ユダヤのフランス』、H・メイエル「裏切り者」、L・ドーデ「懲罰」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１０回	【テーマ】ベル・エポックの影としてのドレフュス事件 2 【内容】フランスの反ユダヤ主義がなぜ、どのように爆発したのか考える。 【扱う作品】E・ゾラ「私は告発する」、カランダッシュ「家族の晩餐」ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１１回	【テーマ】ドレフュス事件をいかに描くか 1 【内容】あるユダヤ系フランス人作家がドレフュス事件期に書いたフィクションを通して、史実をフィクションに描くことについて考える。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分

	【扱う作品】M・シュウォブ『少年十字軍』ほか。		
第１２回	【テーマ】ドレフュス事件をいかに描くか２ 【内容】二十世紀のフランス文学を代表する作家 M・プルーストの『失われた時を求めて』を通してドレフュス事件について考える。 【扱う作品】M・プルースト『失われた時を求めて』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１３回	【テーマ】祖父母をめぐる物語 【内容】ユダヤ人にとっての最大の災厄である「ホロコースト」は現代のユダヤ系作家によってどのように描かれるのか。実際に文学テクストを読むことによって考える。 【扱う作品】I・ジャブロンカ『私にはいなかった祖父母の歴史』、A・ベレスト『ポストカード』ほか。	授業で配布する資料や参考文献を読む。 授業内容を自分自身の問題としてとらえ、考える練習をする。 授業に対するコメントを文章で論理的に伝える。	60 分
第１４回	到達度確認テスト（論述式）	これまでに作成した授業ノートを整理し到達度確認テストに備える。	60 分

〔授業の方法〕
基本的にはスライドを用いた講義ですが、できるかぎり受講者の皆さんとの対話形式で授業を進める予定です。毎回の授業ごとにテーマを設定しレスポンスペーパー（300 字程度）を LMS（Course Power 使用予定）から提出してもらいます。必ず自筆ノートをとるようにしてください。到達度確認テストでは自筆ノートの持ち込みを可とする予定です。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加姿勢、授業後に提出するレスポンスペーパー）60%、到達度確認テスト 40%を目安として総合的に評価します。理由のない欠席や遅刻、授業に関係のない行為および居眠り等は減点の対象となります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
講師の研究領域であるフランスを主とした近現代ヨーロッパが話題の中心となりますが、フランス語や文学史・美術史等の知識の有無は問いません。ただし、講義内容に興味を持って授業に主体的に取り組んで下さい。高校の標準的教科書レベルの世界史知識は授業の前提となっている場合がありますので、欠けている部分は自身で補うようにしてください。

〔テキスト〕
特にありません。講義後にスライド資料を LMS から配付します。

〔参考書〕
市川裕『ユダヤ教の歴史』（山川出版社、2009）
ペンブックス編集部『ユダヤとは何か。』（CCC メディアハウス、2012）
國府寺司『ユダヤ人と近代美術』（光文社新書、2016 年）
市川裕『ユダヤ人とユダヤ教』（岩波新書、2019 年）
以上の文献は購入の必要はありませんが、授業理解に役立ちますので書店や図書館で手に取ってみてください。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界美術史 A						
教員名	人見　伸子						
科目№	125334160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
古今東西の美術作品には、特定のモティーフが繰り返し描かれてきた。それは自然現象や天体、動植物、私たちの身の回りにある品々など多岐にわたり、年月を経て特別の意味をもつようになったものもある。この授業では特に人気があったモティーフを選び、時代や地域によって異なる意味や象徴性について、具体的な作品例をあげながら検証していく。普段の生活の中に、新たな気づきを見出すことを期待する。

〔到達目標〕
古今東西を問わず、各々のモティーフが表現された作品の具体例をを確認し、その多様性の一端に触れるとともに、象徴的な意味を考えてみよう。美術のみならず、文学や音楽など他のジャンルにも、考察が深まることが望ましい。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	授業の概要 / 星のモティーフ ・夜空に輝く星はキリスト教美術の重要なモティーフのひとつであり、ギリシア神話では神々と同一視された。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60 分
第２回	虹のモティーフ ・虹は神との契約のしるし、天と地をつなぐ架け橋であると同時に、はかなさ故に移ろいの象徴でもあった。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第３回	山を描く（1）西洋 ・信仰の場として、あるいは人間に立ちはだかる存在として描かれてきた山の絵画を取り上げる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第４回	山を描く（2）日本 ・日本の象徴ともいえる富士山を描いた絵画を検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第５回	動物（1）犬 ・古くから人間と近しい関係にある犬はペットや猟犬、ときには神の姿で表現された。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第６回	動物（2）ドラゴン / 竜 ・想像上の動物であるドラゴンは西洋では悪の象徴だが、中国では聖獣であり、皇帝のシンボルとなった。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第７回	動物（3）孔雀 ・不死と復活の象徴であり、傲慢・虚飾のイメージと結びつく孔雀のモティーフを扱う。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第８回	植物（1）バラ ・聖母およびヴィーナスの聖なる花であるバラについて検証する。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第９回	植物（2）樹木 ・オリーブ、月桂樹、棕櫚（シュロ）を中心に、樹木のモティーフを取り上げる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１０回	植物（3）リンゴ ・リンゴは禁断の果実、あるいは黄金のリンゴとして、多くの美術作品に登場した。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１１回	手紙 / 本 / 読書 ・手紙や本は、風俗画の重要なモティーフであり、作品に象徴的な意味を添えた。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１２回	窓と画中画 ・窓は画面に異なる空間を導く小道具として、しばしば用いられてきた。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１３回	塔と廃墟 ・天をうかがう塔と崩れ落ちた廃墟は、人工物の二面性を示す重要なモティーフとなる。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分
第１４回	鉄道 ・19 世紀に登場した鉄道は、近代化の象徴として描かれてきた。	テキストや参考図書を読んで知識や視野を広めるとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。	60 分

〔授業の方法〕
Course Power を利用して毎回の授業のレジュメを配信し、スライドの画像を見ながら、講義形式で授業を進める。授業終了後には内容に関するアンケートに回答してもらう。学期末には課題レポートの提出が必要である。

〔成績評価の方法〕
アンケートを基にした平常点（30%）、および課題レポート（70%）から、総合的に判断して評価する。単位認定には、3 分の 2 以上の出席と期末の課題レポートの提出が必須条件である。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
全般的な世界史の知識が必要だが、必須ではない。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
宮下規久朗著　『モチーフで読む西洋美術史』1&2　ちくま文庫　2013&15 年
高階秀爾監修　増補新装　『カラー版：西洋美術史』　美術出版社　2002 年初版
ジェイムズ・ホール　『西洋美術解読辞典』　河出書房新社　1988 年初版
その他、テーマ毎に授業で随時紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了時に教室で受け付ける。
Course Power Q&A を利用することも可能である。

〔特記事項〕
特になし。

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	世界美術史 B						
教員名	米倉　立子						
科目№	125334170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、キリスト教美術を扱います。普段美術館の展示室で「美術作品」として、その時々のテーマに沿った組み合わせで並べられた図像を見ることが多い私たちですが、聖性を帯びた宗教的図像が本来置かれていた状況ではどのように機能していたのか、その多様なあり方を探っていきましょう。まず作例を多数見ながら、キリスト教美術に頻出する主題やシンボリックなモティーフの意味を知って、図像読解の基礎知識を学ぶことから始めます。キリスト教美術というと主にヨーロッパの事例を思い浮かべるかもしれませんが、本授業では、日本やエチオピアなど他地域の図像についても触れたいと思います。
人によっては、「美術」というと感覚的な印象や才能の有無などで鑑賞されたり、評価されたりして基準があいまいでわかりづらいもの、あるいは現在の資産的評価で価値が決まりうるものと思っていたりするかもしれません。しかし、そのような捉え方だけでは現在の私たちと異なる時代や地域の人々の感覚を理解できません。本授業では、作例がどのような社会の中で生まれ、どのように捉えられていたのかに注目し、宗教的崇敬対象として、また多様なメッセージを発する視覚的情報メディアとしてのキリスト教美術を考察していきます。

〔到達目標〕
キリスト教美術に関する知識は、西洋美術やキリスト教の世界観を理解するのに必要な大きな要素です。本授業では、キリスト教美術の読解に必要な基本事項を押さえることから始め、主題やモティーフの意味が分かるようになるだけでなく、図像が作り出される歴史的・社会的背景にも目を配って、図像の多様な機能や社会との関わりについて理解を深めることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	シラバスの解説（授業内容・スケジュール・評価方法等についての説明)・ガイダンス（メッセージを運ぶメディアとしての図像） 各自どのような美術作品やヴィジュアルイメージに関心があるかなど、アンケートに回答など。	シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。	60 分
第２回	キリストの生涯をめぐる主題１　アトリビュートとは、旧約・新約聖書について　「幼児伝」	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第３回	キリストの生涯をめぐる主題 2　「公生涯」	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第４回	キリストの生涯をめぐる主題 3　「受難伝」　予型論	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第５回	聖母マリアの図像 1　「マリアの幼児伝」「受胎告知」	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第６回	聖母マリアの図像 2　「聖母子像」「聖母被昇天」	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第７回	聖母マリアの図像 3　聖母マリアに関わる図像の源泉、その多面的な性格	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第８回	聖ヨセフの図像の変遷　マリアの夫、イエスの養父たるヨセフはどのような役割を引き受けてきたか	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第９回	旧約聖書 1　旧約聖書の物語図像　アダムとエヴァー神人同型の根拠	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第１０回	旧約聖書 2　旧約聖書の物語図像　ノア、アブラハムなど	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第１１回	旧約聖書 3　旧約聖書の物語図像　モーセ、ダヴィデなど	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第１２回	旧約聖書 4　旧約聖書の物語図像　ソロモン、ヨナ、ヨブなど	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第１３回	エチオピアにおけるキリスト教図像	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分
第１４回	日本におけるキリスト教図像	配布資料や参考図書を読んで予復習をし、画集やインターネットを利用して、他の作例を確認する。	60 分

〔授業の方法〕

パワーポイントによるスライドを用いた講義形式の授業です。Course Power を利用して毎回の授業スライド PDF を配信します。授業では学生への質問を行うこともありますので、積極的な受講態度が期待されます。
授業後には、提出期限を定めたリアクションペーパーの提出をもって、どのように授業内容を理解しているか、質問等がないかを測ります。

〔成績評価の方法〕
学期末試験　80%
随時行うリアクションペーパーの提出　20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
全般的な歴史や地理の知識が必要ではありますが、必須ではありません。予備知識がなくてもわかるように授業を進めたいと思いますが、自分なりに予復習をしてください。
また、展覧会や旅行先など、機会があったら是非本物の作品を見る機会を作ってください。日本の美術館等で見られる作品の割合において、キリスト教美術は多いとは言えないかもしれませんが、実物を見ることで、画像等では伝わらない作品のサイズや質感を発見してみましょう。
参考になるサイト
http://artscape.jp/　（展覧会情報サイト）
h

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
1. E.H. ゴンブリッチ［著］; 天野衛［ほか］翻訳 、『美術の物語』、ファイドン、2011（9784864410069）
2. 水野千依、『キリストの顔：イメージ人類学序説」、筑摩書房、2014（9784480016010）
3. 岡田温司著『キリストの身体 ： 血と肉と愛の傷 』中公新書、2009（9784121019981）
4. 岡田温司著 『処女懐胎：描かれた「奇跡」と「聖家族」』中公新書、2007（9784121018793）
5. 岡田温司著『アダムとイヴ ： 語り継がれる「中心の神話」』中公新書、2012（9784121021885）
6. 池上英洋著『西洋美術史入門』ちくまプリマー新書、2012（9784480688767）
7. 池上英洋著『ヨーロッパ文明の起源 ： 聖書が伝える古代オリエントの世界』ちくまプリマー新書、2017（9784480689924）
8. 中村明子著『聖書と名画 ： ビジュアル図解』、西東社、2017（9784791623211）
9. 若桑みどり著『聖母像の到来』青土社、2008 年（9784791764419 ）
購入の必要なし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会入門						
教員名	川端　健嗣						
科目№	125411100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
この講義では現代社会のさまざまなトピックを学びます。わたしたちの生きる現代社会は、どのような社会であり、どのような社会問題が生じているのでしょうか。ある社会問題について、どのような立場の違いがあり、いかなる解決策が考えられるのでしょうか。また、社会はどのように変化するのでしょうか。
この授業ではこうした問いに対して、とくに人びとの「自由」や「アイデンティティ」、社会の「秩序」や「社会規範」、そして「社会の変化」という観点から取り組んでいきます。各回のテーマについて学びながら、みなさんの研究と暮らしに役立つ「社会と人についての見方」を身につけていきましょう。

〔到達目標〕
DP1【専門分野の知識・技能】、DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下の到達目標を設定します。
①現代社会のさまざまな現象について、その成り立ちや問題点を理解できるようになる。(DP1、DP3)
②さまざまな資料やデータや文献の見方を学び、自ら調べて確かめる姿勢を身につける。(DP1、DP3)
③現代社会の諸問題について分析するための、基礎的な概念や基本的な理論枠組みを理解し、身につける。(DP1、DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション （以下の各回のテーマは一例です。その時々の社会情勢や授業の進捗に応じて入れ替わる可能性があります。）	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第２回	現代社会の分析の基礎１ ～社会的行為と社会規範	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第３回	現代社会の分析の基礎２ ～相互行為と社会的協力，コンフリクト	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第４回	現代社会の分析の基礎３ ～社会秩序と社会構造、社会変動	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第５回	現代社会の分析の基礎４ ～さまざまな差別のメカニズム	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第６回	障害者差別と自立生活，ノーマライゼーション	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第７回	性の多様化とジェンダー	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第８回	貧困の連鎖と社会的排除	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第９回	近代家族と家族の多様化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１０回	仕事と家庭，ワークライフバランス	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１１回	少子高齢化と社会福祉	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１２回	リスク社会と個人化	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１３回	公共性，ボランティア，町内会	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60
第１４回	授業のまとめ 到達度確認テスト	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む.	60

〔授業の方法〕
基本的に講義形式（オンデマンド）でおこないます。
毎回、リアクションペーパー（ forms によるコメント）を集めます。
リアクションペーパーの提出をもって出席とします。
講義では学術的な概念を用いるので、適宜簡単な小テストなどをおこなう可能性があります。
進捗と復習の必要に応じて、中間テストなどをおこなう可能性があります。
授業の進捗度やその都度の重要トピックに応じて、各回の内容は変更されることがあります。
小テストや中間テスト等の範囲は授業で扱った内容全般です。

〔成績評価の方法〕
平常点，小テストや課題、学期末テスト（または到達度確認テスト）から総合的に評価します。
基本的には学期末テスト（または到達度確認テスト）を重視します。テストの出題範囲は授業で扱った内容全般です。
学期末テストは対面で行う予定とします。
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%，小テストや課題 30%，学期末テスト（または到達度確認テスト） 60%
進捗状況によって，課題や小テストがおこなわれなかった場合や，おこなわれても回数が少なかった場合には，その分の配点を平常点や学期末テ

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識はとくに必要ありませんが、社会階層論、労働社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学などについて，また，社会学的な相互行為論（ゴッフマン，ガーフィンケル，シュッツなどの理論）について学んでいると、より理解が深まります。

〔テキスト〕
授業時に資料を配付し、テキストとして使用するほか、適宜授業内で指示します。

〔参考書〕
筒井淳也ほか『社会学入門』有斐閣．（購入の必要なし）
小林盾ほか『社会学入門』朝倉書店．（購入の必要なし）
本田由紀編『現代社会論』有斐閣．（購入の必要なし）
江原由美子『増補　女性解放という思想』筑摩書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『行為と演技』誠信書房．（購入の必要なし）
E．ゴッフマン『スティグマの社会学』せりか書房．（購入の必要なし）
前田泰樹・水川喜文編『エスノメソドロジー』新曜社．（購入の必要なし）
など、授業内で随時指定します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業後の forms で受け付けます。
授業終了後に教室でも受け付けます。
その他の連絡手段はポータルサイト等で周知します。

〔特記事項〕
・初年次教育

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会学入門						
教員名	澁谷　智子						
科目№	125411150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
社会学は、異なる人々が共存していくあり方に目を向け、時代による変化の中で、人々の関係性や規範や制度がどう作用しあっているのか、そこから生み出される社会現象の構造などを読み解いていく学問である。この授業では、そうした社会学の基本となる考え方を勉強する。

〔到達目標〕
ＤＰ１「専門分野の知識・技能の修得」、ＤＰ２「教養の修得」、ＤＰ３「課題の発見と解決に向けた力の修得」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①社会学という学問分野において、これまでどのような議論がなされてきたのかを学び、その基礎的な知識を習得する。
②その作業を通して、社会の構造を読み解く視点と思考を身に付け、今後の勉強に役立てられるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	公共空間と親密空間	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第３回	自殺論	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第５回	相互行為	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	規律と訓練	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第７回	専門職の管理・献身と自己決定	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	組織と人間――マクドナルド化する社会	配布資料を読み、理解する。	60
第９回	国家とグローバリゼーション	授業の内容を受け、自分の意見をまとめる。	60
第１０回	家族とライフコース	配布資料を読み、理解する。	60
第１１回	ジェンダー	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	格差と階層、文化と再生産	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、歴史と記憶	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じて、映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。授業の中で、課題を行うこともある。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「現代社会入門」がある。

〔テキスト〕
必要に応じて資料を配布する。

〔参考書〕
長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2019，『社会学（新版）』有斐閣．（3500 円＋税、ISBN978-4-641-05389-2）　購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
初年次教育

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	コミュニケーション論入門						
教員名	見城　武秀						
科目№	125411200	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
『ドラえもん』に出てくる「ほんやくコンニャク」が欲しいと思ったことはないでしょうか？食べればどんな言葉をしゃべる人とでもコミュニケーションできる「ほんやくコンニャク」は、夢のような道具です。しかも、人工知能や機械翻訳についての研究が急速に進んでいる今、そう遠くない将来実現しそうな道具、部分的にはすでに実現している道具であるようにも思えます。
ところが驚くべきことに、現在のコミュニケーション論に大きな影響をおよぼしている「構造主義」という考え方は、「ほんやくコンニャク」という道具が原理上存在し得ないということを示しました。一体構造主義は、どのような仕方で「ほんやくコンニャクが存在し得ないこと」を示したのでしょう。そもそも構造主義とは、どのような物の見方なのでしょう。また、現在進みつつある機械翻訳研究は無駄な試みなのでしょうか。これらの問いに答えながら、一体コミュニケーションとは何か、多角的に考察していきます。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまた がる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の３点を到達目標とします。
（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解すること。
（2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解すること。
（3）構造主義的翻訳観と現在の機械翻訳技術の根底にある翻訳観を比較することで、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。課題文献を読む。	60
第２回	＜モノ語り＞と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第３回	“やさしさ”と現代のコミュニケーション	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第４回	“やさしさ”という呪縛	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第５回	大衆社会としての現代とコミュニケーション－現代人の「不安」	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第６回	言葉の「意味」とは何か－言葉と文化の「構造」性	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第７回	構造主義の源流－ソシュールの言語学	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第８回	言語の差異性／恣意性／体系性―構造主義の基礎概念	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第９回	言語は「現実」や「思考」とどのように関係するか	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１０回	「ほんやくコンニャク」があれば本当に「異文化理解」ができるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１１回	コミュニケーションにとって言語とは何か	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１２回	構造主義以後のコミュニケーション論がかかえる問題	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１３回	機械は言語を「理解」できるのか？	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60
第１４回	まとめ	配付資料に沿って復習をし、課題を仕上げて提出する。課題文献を読む。	60

〔授業の方法〕

配布資料に基づく講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。

〔成績評価の方法〕
毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解しているか。
（2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解しているか。
（3）講義内容を踏まえ、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めることができたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
多数。授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア論入門						
教員名	西　兼志						
科目№	125411250	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
　この授業では、メディアを、「人間」を「社会」にまとめ上げていく「技術」と定義することで、いまや私たちの環境となっているメディアを広い視点から理解できるようにしていきます。メディアの展開――書物、写真、映画、テレビ、ソーシャル・メディアなど――を辿りながら、現代社会におけるメディアの成り立ちについて考えていきたいと思います。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定してます：現代のメディア社会を考えるにあたって基礎となる知識や観点を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：人間・社会・技術	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第２回	メディア、情報、記号（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第３回	メディア、情報、記号（２）：メディアと情報社会	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第４回	メディア、情報、記号（３）：メディアと記号	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第５回	メディアとしての文字	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第６回	メディアとしての印刷術	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第７回	メディアとしての写真	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第８回	メディアとしての映画（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第９回	メディアとしての映画（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１０回	メディアとしてのテレビ（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１１回	メディアとしてのテレビ（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１２回	メディアと監視社会（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１３回	メディアと監視社会（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
提出されたリアクション・ペーパーは、毎回できるかぎり取りあげ、講義に組み込んでいきます。
CoursePower にアップロードした資料のアクセスは、出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
授業への参加（≠出席）＝50%、リアクション・ペーパーの内容（≠投稿）＝50%
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・授業で取り上げた各メディアの特質を理解できているか。
・授業で参照したメディア論の古典的なテクストをきちんと理解できているか。
・各自にとって身近なメディア現象を、メディア論の観点から位置づけられているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.
『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.
その他、授業中に随時、指示します。
CoursePower にアップロードした資料のアクセスは出席にあたって必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会学史						
教員名	金　善美						
科目№	125411500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
社会学の歴史的な歩みをたどりながら、社会学という学問の基礎的な概念と理論について学ぶ授業です。毎回、代表的な社会学者（学説）を取り上げ、その理論・思想を生み出した時代的背景や主な業績の内容、他の学問分野との関連などを解説していきます。
社会学が扱う領域は幅広く、また、抽象的な考え方や馴染みの薄い用語が出てくることもあるため、難しいと感じる人もいるかもしれません。授業ではそれらをなるべく分かりやすくかつ具体的に解説することで、それぞれの受講者が「好きな社会学者」「今後のレポートや卒論に活用したい概念・理論」に出会うきっかけを提供したいと思います。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）・DP2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①社会学の主要な概念と理論を修得する。
②さまざまな学説を社会学全体の流れの中で位置づけ、その特徴と意義を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する	シラバスを読み、講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	近代の成立と社会学の誕生	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第３回	ウェーバーの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第４回	デュルケムの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第５回	ジンメルの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第６回	実証主義の社会学：シカゴとコロンビア	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第７回	パーソンズの社会学と現象学的社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第８回	意味学派の社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第９回	ルーマンの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１０回	ハーバーマスの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１１回	ブルデューの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１２回	コミュニティとネットワークの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１３回	フーコーとギデンズの社会学	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60
第１４回	全体のとりまとめ ・これまで学んだ社会学の歴史を振り返りながら、社会と社会学の関係を考察する	テキストや配布資料を読み直し、社会学の基本的な考え方を身につけておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式。授業内容への理解度を確認するために、コメントペーパーの提出を求めます。学期末試験あり。

〔成績評価の方法〕

平常点（質問や発言など授業への参加状況）20%＋学期末試験 80%で評価します。学期末試験は、資料持ち込み禁止の論述式試験です。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・社会学の大まかな歴史について、基礎的な知識を修得しているか
・特定の理論・概念を社会学史全体の流れの中で位置づけ、その特徴や意義を理解しているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
現代社会学科の 1 年生必修科目（現代社会入門・社会学入門・コミュニケーション論入門など）や 2 年生演習科目の内容を身につけておくと、授業内容を理解しやすいと思います。

〔テキスト〕
『ブリッジブック社会学（第 2 版)』、玉野和志編、信山社、2400 円＋税、ISBN-10: 4797223529（購入の必要なし）

〔参考書〕
『社会学の歴史Ⅰ』奥村隆著、有斐閣、1900 円＋税、ISBN-10: 4641220395
『クロニクル社会学』那須壽著、有斐閣、2100 円＋税、ISBN-10: 4641120412
『社会学用語図鑑』田中正人・香月孝史、1800 円＋税、ISBN-10: 4833423111
『よくわかる社会学史』早川洋行編著、ミネルヴァ書房、2800 円＋税、ISBN:9784623059904
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア史入門						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125411650	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、さまざまなメディアの歴史を一つひとつ丹念に読み解きながら、メディアそのものの独自性に固執することなく、むしろそのメディアを取り囲んでいる社会的な文脈にこそ目を向け、日本社会の歴史的な動向を把握していくことにしたい。さまざまなメディアがどのような社会のなかでどのように創出されてきたのか。また、メディアはどのような社会的現象を創出してきたのか。このような問いに取り組んでいく。そして、歴史資料を読み解くなかで、メディアが、階級、ジェンダーなどの社会的カテゴリーを創出するプロセスを把握する。また、同時に、そのような社会的カテゴリーの生成とともに新たなメディアが生み出されるプロセスをとらえる。このような作業を繰り返すことによって、メディアは決して社会と切り離された存在ではないことを確認し、メディアというフィルターを通して社会そのものを読み解いていきたい。

〔到達目標〕
ＤＰ１（専門分野の知識・技能）、ＤＰ２（教養の修得）、ＤＰ３（課題の発見と解決）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
社会の「常識」や、社会現象やメディアの定型的な語りから脱し、さまざまな視点から社会現象やメディアを捉えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	少年少女雑誌と「少年」「少女」はどのように生まれてどのように変遷したのか	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第２回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第３回	子どものメディアから「少年」のメディアへ（２） 「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第４回	「少年」のメディアから「少年」「少女」のメディアへ（１） 大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第５回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第６回	大人と異なる存在としての「少年」「少女」へ（３） 新体詩の名手と口語詩の名手（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第７回	新体詩の名手と口語詩の名手（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第８回	新体詩の名手と口語詩の名手（３） 少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第９回	少女雑誌のアイドルと少年雑誌のアイドルの不在（２） あこがれの才色兼備のお嬢さま（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１０回	あこがれの才色兼備のお嬢さま（２） 完全無欠の英雄（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１１回	完全無欠の英雄（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１２回	完全無欠の英雄（３） 都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１３回	都市新中間層の「少年」「少女」からあらゆる階層の「少年」「少女」へ（１） 「少年」「少女」から少国民へ（１）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90
第１４回	「少年」「少女」から少国民へ（２）	【予習】テキストの該当箇所を読み、専門用語を辞典・事典で調べ、理解しておく。 【復習】教科書の該当箇所、および、参考文献を読む。	90

〔授業の方法〕
講義形式。

〔成績評価の方法〕

授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔参考書〕
とくに指定しない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	家族社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125431100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本講義のテーマは、家族をめぐる過去・現在・未来における諸問題を理解することにある。
ごく自然な存在として理解されている、両親と子どもを中心とした家族は、戦後の日本社会において確立した制度であり、決して自明なものでも古来からの伝統でもない。本講義では、私たちが自然に感じる「家族」がいかにして形作られ、自然化していったかを産業化の過程を踏まえて議論し、またその家族が現在どのような危機を迎えているかを議論する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、家族社会学における「家族」のとらえ方やその社会的機能について理解できるようになるとともに、現在の家族を取り巻く諸問題を把握し、その実践的な対応策を構想することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	【家族とは何か 1〜2】 イントロダクション：なぜ家族を考えるのか？	【復習】講義で指定した課題の実施（家族へのヒヤリング）	90
第２回	ファミリー・アイデンティティと家族類型：家族を主観的に捉える	【予習】自身と家族の家族観を把握する 【復習】講義での知見を踏まえ、家族と家族イメージについて議論する	90
第３回	【近代家族の成立 3〜5】 近代家族の成立 1：ロマンティックラブという考え方	【予習】参考文献 1 第 2 章を読む 【復習】参考文献 1 第 2 章を再読する	90
第４回	近代家族の成立 2：主婦の登場と性別役割分業の明確化、母性神話の構築	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第５回	近代家族の成立 3：産業革命と産業構造の変化	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第６回	【日本における戦後家族モデルの形成と解体 6〜8】 戦後家族モデルの形成：「家」制度の近代における読み替えと男性稼ぎ手－主婦モデルの形成	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第７回	戦後家族モデルの揺らぎ：安定成長期における家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第８回	戦後家族モデルの解体：経済不況期における家族の機能不全	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第９回	【現代の家族をめぐる諸問題 9〜14】 配偶者選択と未婚化	【予習】『厚生労働白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１０回	家族形成の国際比較、家族形成の諸問題	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	妊娠、出産、子育ての現在	【予習】『少子化社会対策白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第１２回	家族の暗部	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１３回	グローバル化と家族	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	家族の可能性、講義のまとめ	【復習】すべての配布資料を再読する	120

〔授業の方法〕
講義形式で行う。家族は私たちにとってもっとも身近な領域であり、相対化が難しい領域でもある。そこで、画像資料や映像資料などももちいて講義する。また、一部の課題では自身の家族や身近な人への聞き取りも行う。

〔成績評価の方法〕
小レポート（50%）とテークホーム試験（50%）によって行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「ライフコース論」（2 年次以降に履修可能）を履修するとより理解が深まる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介する。いずれも購入の必要はない。
1. 岩間暁子・大和礼子・田間泰子『問いからはじめる家族社会学−多様化する家族の包摂に向けて　改訂版』有斐閣、2022 年。
2. 野沢雍彦『データで読む平成期の家族問題−四半世紀で昭和とどう変わったか』朝日新聞出版、2014 年。
3. 筒井淳也『仕事と家族― 日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中央公論新社、2015 年。
4. 前田正子・安藤道人『母の壁―子育てを追いつめる重荷の正体』岩波書店、2023 年。
上記に加えて、関連する白書（いずれも下記 WEB ページから参照可能）、および、国立社会保障・人口問題研究所（{http://www.ipss.go.jp/}）にて公表されている各種データや報告書を参考にすることが望ましい。
厚生労働省『厚生労働白書』：{http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/}
内閣府共生社会政策統括官→こども家庭庁『少子化社会対策白書』：{https://www.cfa.go.jp/resources/white-paper/}
内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：{http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html}

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	都市社会学						
教員名	金　善美						
科目№	125431150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
学生のみなさんの中には、大学進学をきっかけに新しい街で暮らすようになった方や、大学生になって改めてあちこちの街を歩き回るようになった方も多いのではないでしょうか。この授業では、私たちのこうした日常生活の舞台としての都市を対象に、都市社会学の基本的な概念や理論、その背景にある考え方について学びます。また、都市における近年の社会現象・問題を積極的にとりあげながら、その背景や展開、課題を検討することで、現代都市への理解を深めていきます。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の２点を到達目標とします。
①都市社会学の基礎知識を修得する。
②受講者自身にとって興味深い都市現象・問題について、授業で学んだ内容と結びつけてその背景と展開を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する ・都市社会学が何を扱う学問なのかを概観する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	都市とは何か？ ・都市の定義と類型、農村との違い、歴史、都市化のプロセスなどを学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	都市論の系譜（１）都市化の問題と「シカゴ学派」のまなざし ・都市社会学の始まりであるシカゴ学派の問題意識と調査方法などを学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	都市論の系譜（２）都市に生きる人々のつながりをめぐる議論 ・アーバニズムとコミュニティ、パーソナル・ネットワークなど、都市に生きる人々のつながりに関する諸理論を学び、その変容を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	都市論の系譜（３）情報化・脱工業化とグローバル・シティの出現 ・情報化・脱工業化がもたらす都市の構造再編を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	日本都市の形成（１） ・東京大都市圏の空間・社会構造の形成やその変容を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	日本都市の形成（２） ・都市化の理論的プロセスを、日本都市の事例から理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	都市をフィールドワークする：担当教員のフィールドワーク経験から ・都市フィールドワークの実例を学ぶ	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	インナーエリアの危機と再生：生まれ変わる東京の下町 ・インナーエリア衰退の背景を理解し、ジェントリフィケーションを含む近年の変化について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	郊外のゆくえ：少子高齢化社会における「郊外」問題 ・郊外住宅地の現状と近年の課題について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	グローバル化する都市の地域社会：東京のエスニック・コミュニティ ・外国人集住地域の形成を新大久保・高田馬場の実例から把握し、都市の多様性について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	都市下層の世界 ・都市下層の社会的世界を理解する ・山谷と釜ヶ崎などの事例から、現代日本における社会的排除と格差について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	都市の文化とまちづくり：アートを用いた地域活性化の試み ・創造都市や都市再生、地域活性化の考え方を学び、その意味や課題を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	まちの開発と保存：京都市の景観政策と町屋保存 ・歴史的景観の保存・保全をめぐる諸議論と実践を把握し、都市計画・都市開発の原理を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕
パワーポイントを用いた講義形式で進めていきます。2 回ある課題レポートのうち 1 回は、各自がフィールドワークを行いながら取り組むという内容のものです。
単に授業で紹介した知識を覚えるだけでなく、それを自分なりに消化・応用した上で現代日本社会で起きている都市現象・都市問題をある程度、説明したり分析したりできるかどうかを評価します。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況やコメントペーパー）20%、2 回の課題レポート 80%で評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・都市社会学の基礎的な概念と理論を理解できているか。
・現代都市の社会現象・問題の背景を理解し、的確な情報を収集した上で自分なりの言葉で論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『都市社会学・入門』、松本康編、有斐閣、2014 年、2000 円＋税、ISBN-10: 4641220158
『よくわかる都市社会学』、中筋直哉・五十嵐泰正編、ミネルヴァ書房、2013 年、2800 円＋税、ISBN-10: 4623065057
いずれも購入の必要なし。なお、各回の参考書については授業内で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会心理学						
教員名	李　ウェンウェン						
科目№	125431200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
　なぜ多くの人は恋愛や結婚をするのでしょうか. なぜ人は美しさに投資するのでしょうか. 人びとはどのように幸せをみつけるので しょうか. この授業では, そうした人びとの心理が, どのようなメカニズムをもつのかを考えます. そのために, 恋愛と結婚, 家族関係, 美容, 幸せ, 食事, 仕事など, さまざまな身近なトピックをとりあげ, 国際的な視点も取り入れつつ分析します. グループでフィールドワークやインタビューを行い, グループプレゼンテーションが中心となって進みます.

〔到達目標〕
DP1(専門分野の知識・技能)を実現するため, 次の 3 点を到達目標とします.
(1)社会心理にかんする重要な考え方を身につけ, メカニズムを説明できる.
(2)フィールドワークやインタビューを通して, 本格的な研究メソッドを使いこなすことができる.
(3)人びとの喜びや希望, ときには不安や痛みに寄りそうことで, だれにもやさしく温かい, 本当の意味で豊かな社会を構想できる.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	担当教員が初回授業時に説明します	60
第２回	家族関係の国際比較：個人の考え方を左右する社会文化	担当教員が初回授業時に説明します	60
第３回	幸福度の国際比較：幸福度にも地域性？	担当教員が初回授業時に説明します	60
第４回	働き方の国際比較：日本人は働きすぎ？	担当教員が初回授業時に説明します	60
第５回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第６回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第７回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第８回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第９回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１０回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１１回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１２回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１３回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60
第１４回	トピック研究	担当教員が初回授業時に説明します	60

〔授業の方法〕
講義, ディスカッション, グループワーク, プレゼンテーション, フィールドワークも行われます

〔成績評価の方法〕

平常点(授業への参加状況，宿題の提出状況，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション)50%，成果物(宿題レポー ト，到達度確認テストなど)50%による総合評価

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
社会学的思考力を身につけているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし

〔テキスト〕
初回授業時に説明します

〔参考書〕
『変貌する恋愛と結婚』，小林盾他編，新曜社(購入の必要なし)
『美容資本』，小林盾，勁草書房(購入の必要なし)
『嗜好品の社会学』，小林盾編，東京大学出版会(購入の必要なし)

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	歴史と社会						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125431250	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

本講義の目的は、誰もが経験しているジェンダー、家族、教育を切り口にして、それらを取り巻く社会全体の歴史をとらえなおすことである。わたしたちは、ジェンダー、家族、教育にかんして、固定的なイメージを抱きやすい。たとえば、「男は仕事、女は家事・育児・介護をするべきである」、「教育はもっぱら学校で行われるべきである」、「家族はお互いに愛情を持って接するべきである」、「子どもはかわいがるべきである」などというイメージを持ちやすい。このようなイメージは、わたしたちにとっては、もはや「常識」となっているきらいもある。しかしながら、このようなイメージのほとんどは近代以降に生まれたものである。つまり、「常識」でも、「当たり前のこと」でもないのである。

本講義では、ジェンダー、家族、教育の歴史を学びながら、これらのステレオタイプ化されたイメージを疑っていくことにしたい。そして、わたしたちの「常識」を疑っていくことにしたい。その上で、ジェンダー、家族、教育とは何か、という問いに、取り組んでいくことにしたい。

〔到達目標〕

ＤＰ１（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。
ジェンダー、家族、教育という身近なものの歴史を社会全体の歴史と関連させて考えることができるようになる。
社会に関する固定的なイメージにとらわれず、より広い視点からそれらを把握できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「ジェンダー」の視点から歴史を見るとはどのようなことか	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第２回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（１） ――「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（２） ――「主婦」の誕生（２）、日本の「主婦」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第４回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（３） ――日本の「主婦」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（４） ――日本の「主婦」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	「男は仕事、女は家事・育児」（性別役割分業）の歴史（４） ――日本の「主婦」の誕生（３） 家族の歴史（１） ――「近代家族」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	家族の歴史（２） ――「近代家族」の誕生（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第８回	家族の歴史（３） ――「近代家族」の誕生（３）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	家族の歴史（４） ――「近代家族」の誕生（４）、日本の「近代家族」の誕生 「子ども」の歴史（１） ――「子ども」の誕生（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	「子ども」の歴史（２） ――「子ども」の誕生（２）、「母性愛」の誕生	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	「子ども」の歴史（３） ――「子ども」の誕生（３）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１２回	「子ども」の歴史（４） ――「子ども」の誕生（４）、現代日本社会の「子ども」をめぐる問題 日本社会と子どもの教育の歴史（１） ――江戸後期の社会と子どもの教育（１）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１３回	日本社会と子どもの教育の歴史（２） ――江戸後期の社会と子どもの教育（２）	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１４回	日本社会と子どもの教育の歴史（３） ――江戸後期の社会と子どもの教育（３） 日本社会と子どもの教育の歴史（４）――明治以降の社会と子どもの教育	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

〔授業の方法〕
講義形式。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ジェンダーの社会学						
教員名	坪田　美貴						
科目№	125431300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この講義では「ジェンダー」という視点で、テーマ別に社会の諸現象を読みといて直していきます。
私たちは無意識のうちにジェンダーの視点で社会を理解しています。それだけでなくジェンダーは私たちのアイデンティティに深く根付いています。
そのため、目の前で起きている現象を「当たり前」だと感じ、「当たり前でない」可能性について考えにくくなっています。
そこでこの講義では、「ジェンダー」をキーワードとして社会や世界を見直していきます。「当たり前」で「普通」の事柄をジェンダーの視点からみることで、ジェンダー問題を自分にひきつけて考えていきたいと思います。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、ジェンダーをキーワードに、社会の現象を説明できるようになる。
自分や身の回りの人の生き方や社会について、ジェンダーを切り口に理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション： フェミニズムからジェンダーへ	【復習】配布プリントを読み直す	60
第２回	ジェンダーと近代家族の成立	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第３回	戦後の社会制度と家族	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第４回	教育とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 指定の材料を集める 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第５回	言語・映像・ジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第６回	男らしさ・男の生きづらさのジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第７回	身体とジェンダー・アイデンティティの多様性	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第８回	LGBTQ+の権利と価値観	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第９回	法とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１０回	戦争・軍隊とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 課題に取り組む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１１回	セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１２回	性と生殖	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１３回	開発とジェンダー	【予習】参考文献の指定個所を読む 【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60
第１４回	国際移動	【復習】配布プリントと参考文献の読み直し	60

〔授業の方法〕
授業形式は、講義およびグループディスカッション。
予習として、参考文献や参考資料に必ず目を通すこと。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）50%、学期末レポート 50%。
学期末レポートは、内容だけでなく、レポートとしての形式を整えていることが必須である。形式については授業内で提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に必要なし。毎回プリントを配布する。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013。
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後およびポータルサイトにて受付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	労働社会学						
教員名	森山　智彦						
科目№	125431350	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

この授業では、労働社会学の入門的講義を行います。

今日の日本社会では、仕事をして報酬を得ることが、生きる糧を得るための主な手段となっています。その中心は、企業などで雇われて働く雇用労働です。

この授業では、日本的な働き方の仕組みの特徴と利点、問題点を理解することを目的とします。理解にあたっては、家族や福祉などの他の諸制度と関連づけながら、海外との比較や歴史的視点も交えて解説します。

また、キャリア形成、ワークライフバランスなど大学生にとって関心の高いトピックに加えて、外国人労働者との共生、AI 等による雇用危機の可能性、フリーランスなどの雇用されない働き方といった最新の動向も扱う予定です。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。

(1)働き方に関する様々なトピックや問題について、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP2、DP3)

(2)働き方の仕組みや問題点について、労働者個人だけでなく企業や社会制度といった多角的な視点から考察することで、社会科学的にバランスの取れた視点を身につけます。(DP1、DP2、DP3)

(3)さまざまな資料やデータ、文献の見方を学び、自ら調べて確かめる方法と姿勢を身につけます。(DP3)

(4)これから生きていく中で、自分自身が、仕事と生活をめぐる問題に直面した時に、冷静に問題に対処できるよう、労働をめぐる法律や権利などの実践的知識を習得します。(DP1、DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明し、参考資料などを紹介します。 （授業内容は、そのときどきの労働をめぐる社会的論点や授業の進捗によって変わることがあります。）	【復習】ワークシート作成。	60
第２回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　1 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方は他の国から見ると非常にユニークなものです。その根本的な特徴と仕組み（日本的雇用システム）について、海外との比較を交えて学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第３回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　2 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 前回に続き、日本的雇用システムの特徴に焦点を当て、日本の企業がどのようにして、正社員の仕事経験がない若者を、目標に貢献できる人材に育てているかを説明します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第４回	日本的雇用システムの特徴と長所・短所　3 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の昨今の変化（多様化）について解説します。また、日本的な働き方と人生設計との関係を理解するため、日本的雇用システムと福祉制度の関連を学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第５回	キャリア形成１：新卒一括採用の是非を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の下でどのようにキャリアが形成されるかを学びます。まずはその入り口である新卒一括採用制度の導入の経緯と長所・短所を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第６回	キャリア形成２：どのように仕事を覚えていくのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的雇用システム下のキャリア形成について、職場等で教育訓練がどのように行われ、職業経験のない若者が仕事に必要な能力をどのように身につけていくかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第７回	長時間労働は誰の責任か ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本的な働き方の中で、大きな問題となっているのが長労働時間です。その発生原因について、雇用システム、企業、個人など多角的な視点から迫ります。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第８回	非正規雇用の問題は解消すべきなのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 格差問題の大きな要因としてしばしば採り上げられる非正規雇用の問題について、歴史的な流れや背景、問題点を検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第９回	昇進と職務のジェンダー格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 働き方のジェンダー格差について、賃金や昇進、職務に焦点を当てて解説します。また、昨今の政策的対応について、賛成と反対の両方の立場から考察することで、解消策を検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１０回	ワークライフバランス実現のために ＝＝＝＝＝＝＝＝ ワークライフバランス（WLB）の考え方は一般的に広まっていま	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

	すが、その実現には様々なハードルがあります。この回では WLB を規定する社会的な背景、制度、職場の問題を解説します。		
第１１回	男性の育児・介護休暇 ＝＝＝＝＝＝＝＝ WLB の議論は、子育て中心の議論から介護問題にまで拡大し、男性の育休取得の議論も盛んに行われています。このような昨今の展開と残る問題点について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１２回	外国人との共生を考える ＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化や人口減少により、日本でも海外からの労働者の受け入れが徐々に進んできました。外国出身の労働者と日本人が共存して働く中でどのような問題が生じているのかを学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１３回	技術革新は仕事を奪うのか、補うのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ AI などの自動化技術やロボットの発達により、仕事が奪われるかもしれないという議論が盛んに行われています。こうした技術の発達によって、日本的な働き方にどのような変化が生じ得るかを検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１４回	フリーランスという働き方の展望と課題は何か ＝＝＝＝＝＝＝＝ 自営という働き方は以前からありましたが、昨今では情報技術の発達やシェアリングエコノミーの拡大等により、一部のフリーランスが増加しています。このような雇用されない働き方の利点と課題を学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

〔授業の方法〕
本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。資料は CoursePower からダウンロードすることができます。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業時の課題（Q&A など）やワークシートの内容：７０%）、期末レポート（３０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に必要ありませんが、社会階層論、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前または並行して学ぶと、より理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学：変貌する働き方』有斐閣ブックス.
上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房.
小川慎一・山田信行・金野美奈子・山下充『産業・労働社会学：「働くこと」を社会学する』有斐閣アルマ.
佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理』有斐閣アルマ.

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます（アドレスは配布資料のタイトルスライドに掲載）。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アイデンティティの社会学						
教員名	神谷　悠介						
科目№	125431400	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

ファミリー・アイデンティティ研究において家族のありようは時代や社会によって大きく変化することが明らかにされてきた。その成果の一つとして、近代家族論が挙げられる。近代家族とは、近代化のプロセスにおいて成立した歴史的に固有の家族である。近代家族において男性は仕事、女性は家事育児という性別役割分業が行われる。

しかし、近代家族は近年の社会構造の進展に伴って変容しつつある。国内では、共働き家族が増大する中で、ワークライフバランスをいかに実現するかが社会的な課題となっている。他方、未婚化や非婚化によって従来自明視されてきた結婚は揺らぎつつある。世界的なトレンドとしては、家族のグローバル化が進行している。すなわち、女性の社会進出が進む中で、子育てや家事の担い手が不足する「ケアの危機」が生じたため、先進国と発展途上国の経済格差を背景に、外国人家事労働者の雇用が急速に拡大している。

この他にもセクシュアリティやイノベーションの観点から見逃せない動向がある。先進国を中心に、同性愛者の解放運動の展開に伴い、同性パートナーシップが公的に承認されるようになり、多くの国で同性婚やパートナーシップ制度が成立してきた。また、遺伝子操作や生殖補助医療の新技術によって家族に関する従来の常識が揺らぐとともに、これらの新技術の商業化に対して倫理や安全性の観点から批判の声も上がっている。

以上を踏まえ、本講義では、近代家族の成立および変容を歴史的に考察した上で、現代のファミリー・アイデンティティに関する諸問題を多角的に検討する。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野に関する知識・技能）、DP1-3（現代 社会を理解するための基本的枠組み）を実現するため、以下の三点を到達目標とする。
①社会学の主要な理論と方法を踏まえて、ファミリー・アイデンティティのありようを考察する
②ファミリー・アイデンティティに関する諸問題をジェンダー・セクシュアリティ・階層・人種・民族・国籍などの観点から検討する
③家族のありようを政治・経済・文化などの領域と関連付けることで幅広い教養および専門性を習得する

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	【予習】アイデンティティの社会学のアプローチを整理しておくこと。 【復習】アイデンティティの社会学の主要概念を押さえておくこと。	60
第２回	テレビドラマで読み解く恋愛、家族、仕事	【予習】テレビドラマを研究するアプローチを整理しておくこと。 【復習】国際比較の視点から性的マイノリティと家族に関する課題を押さえておくこと。	60
第３回	家族の多様性とセクシュアリティの多様性	【予習】性的マイノリティの家族に関する課題を整理しておくこと。 【復習】同性パートナーシップの法的保障をめぐる論点を押さえておくこと。	60
第４回	家族と恋愛の日米比較	【予習】職業生活と家族生活を捉える枠組みを理解しておくこと 【復習】ワークライフバランスとダイバーシティのアプローチを整理しておくこと	60
第５回	家計管理と夫婦関係	【予習】家計組織アプローチを整理しておくこと。 【復習】家計組織タイプごとの夫婦の特徴を押さえておくこと。	60
第６回	映画を通してみる親密な関係性	【予習】映画を研究するアプローチを整理しておくこと。 【復習】歴史的変容の視点から性的マイノリティと家族に関する課題を押さえておくこと。	60
第７回	前近代の恋愛と結婚	【予習】中世宮廷恋愛の特徴を整理しておくこと。 【復習】政略結婚の具体的イメージを押さえておくこと。	60
第８回	近代の恋愛と結婚	【予習】ロマンティック・ラブとは何かを整理しておくこと。 【復習】ロマンティック・ラブが広がった背景を押さえておくこと。	60
第９回	現代の恋愛と結婚	【予習】純粋な関係性の概念を整理しておくこと。 【復習】純粋な関係性が広がった背景を押さえておくこと。	60
第１０回	同性愛と異性愛	【予習】近代化とセクシュアリティの構築に関する議論を整理しておくこと。 【復習】性的マイノリティに関する現代的課題を押さえておくこと。	60
第１１回	グローバル化する家族	【予習】家事労働の市場化の実態を整理しておくこと。 【復習】外国人家事労働者の雇用が広がる背景を押さえておくこと。	60
第１２回	排除型社会の諸相	【予習】包摂型社会と排除型社会の特徴を整理しておくこと。 【復習】排除型社会における相対的剥奪と犯罪の背景を整理しておくこと。	60
第１３回	遺伝子操作と家族	【予習】遺伝子操作と家族をめぐる論点を整理しておくこと。 【復習】デザイナー・ベビーの倫理性と安全性に関する課題	60

		を押さえておくこと。	
第１４回	生殖補助医療と家族	【予習】生殖補助医療と家族に関する課題を整理しておくこと。 【復習】商業的代理出産の倫理性と安全性に関する課題を押さえておくこと。	60

〔授業の方法〕
授業は講義形式で進めます。本科目では、アイデンティティの社会学におけるこれまでの研究を踏まえて、統計資料やインタビュー資料などをもとに講義を行います。さらに、本科目のテーマに関する具体的なイメージを持てるよう、ドキュメンタリー作品や映画、テレビドラマを鑑賞します。必要に応じて授業のテーマに関連した課題を教科書をもとに出題します。課題に取り組む際に、内容に関する疑問点や、議論したい論点がある場合は、提示して下さい。教員からフィードバックを行います。

〔成績評価の方法〕
平常点（30%）、課題（70%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度によって評価する。
・授業や資料の文脈に沿った考察ができる
・課題内容に論理的整合性がある
・独自の見解を提示している

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目：社会学入門、メディア論入門、家族社会学、労働社会学、ジェンダーの社会学、社会階層論、ライフコースの社会学、文化社会学、人権とジェンダー、芸術への招待、メディアとアート、映像メディア論、上演芸術論、メディア文化論、サブカルチャー論

〔テキスト〕
教科書については、参考書の欄を参照して下さい。

〔参考書〕
神谷悠介（2024）『映画で見つめるモダニティ』スカイ・パブリッシング　5400 円
教科書として使用する電子書籍です。
購入する必要があるため、利用方法は初回の授業で提示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	コミュニティの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125431450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、社会学の視点からコミュニティについて議論する。
コミュニティは社会学のなかでももっとも古い概念であると同時に、現代社会の政治、経済、社会、文化のあらゆる側面において重視されている概念でもある。この講義では、コミュニティという概念の展開について議論するとともに、その概念がなぜこれほどまでに多様に、かつ、ときに無思慮にもちいられてきたかを議論する。また、近年注目されている社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の議論を整理し、流動する社会におけるネットワークとコミュニティの関係について整理する。その上で、現代のコミュニティが直面する問題について、身近な具体的例を取り上げて論じる。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、社会学におけるコミュニティという考え方の意義とその難しさについて理解できるとともに、現代社会においてコミュニティが、そしてそのコミュニティに生きる人々が直面する問題について理解できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：なぜ今、コミュニティを議論するのか	【復習】配布資料を読み直す	90
第２回	コミュニティ概念 1：コミュニティは伝統か	【予習】自分が「コミュニティ」だと思うもののリストを作成する 【復習】配布資料を読み直す	90
第３回	コミュニティ概念 2：都市化と人のつながり	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第４回	Social Netowrk1：弱い紐帯の強さ	【予習】配布資料を読む、ネットワーク課題に回答する 【復習】配布資料を読み直す	90
第５回	Social Netowrk2：ネットワーク分析の現在	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第６回	Social Netowrk3：ネットワークとその問題性	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第７回	社会関係資本 1：概念と展開	【予習】参考資料 4 の一部を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第８回	社会関係資本 2：なぜ効力を持つのか	【予習】社会関係資本をどうすれば測定できるか考える 【復習】配布資料を読み直す	90
第９回	日本の地域コミュニティ	【予習】自分自身が居住する地域の地域団体（町内会、自治会）を把握する 【復習】配布資料を読み直す	90
第１０回	商店街の衰退と新しいコミュニティ	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１１回	コミュニティ行政、監視社会	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１２回	コミュニティをつくる／を活用する	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１３回	IT、アイデンティティとコミュニティ	【予習】配布資料 2 を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第１４回	コミュニティとコミュニケーション、講義のまとめ	【予習】配布資料を読む 【復習】すべての配布資料を読み直す	120

〔授業の方法〕
講義形式で行う。

〔成績評価の方法〕
期末レポート（90%）、平常点（クラスアンケート、10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「都市社会学」、「ボランティア・NPO の社会学」、「コミュニティ演習」などが関連科目として想定される。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介し、配布する。いずれも購入の必要はない。
1. 船津衛・浅川達人『現代コミュニティとは何か―「現代コミュニティの社会学」入門』、恒星社厚生閣、2014 年。
2. デランティ『コミュニティ―グローバル化と社会理論の変容』、NTT 出版、2006 年。
3. 野沢慎司『リーディングス　ネットワーク論-家族・コミュニティ・社会関係資本』、勁草書房、2006 年。
4. パットナム『孤独なボーリング-米国コミュニティの崩壊と再生』、柏書房、2006 年。
5. 祐成保志・武田俊輔『コミュニティの社会学』有斐閣、2023 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	生活文化史						
教員名	鈴木　禎宏						
科目№	125431500	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
比較文化論的な視点から近現代の日本の文化・生活のあり方を考える。序盤では主に時間をめぐる問題、中盤では食をめぐる問題、終盤では空間をめぐる問題を扱う。普段なかなか意識できない「生活／文化」を研究の対象として捉えることを試み、そのあり方について考える。

〔到達目標〕
人文・社会科学を中心に基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができるようになることを目的とする。具体的には、ふだん当たり前に受け止めているライフスタイルや日常の文化を意識化できるようになる。そして自ら調べて考え、その対象がどのような歴史的な経緯を経て成立したかを理解する。自らが生活文化の担い手であることを自覚できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	シラバスの説明。 暦と暦法① 太陽暦・太陰暦・太陰太陽暦。ヨーロッパ諸語の数字・月・曜日の表現。	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第２回	暦と暦法②　太陰太陽暦（二十四節気、閏年のしくみなど）。	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第３回	暦と暦法③ 明治 5 年の太陽暦と定時法の導入について（福沢諭吉、大隈重信の主張を中心に）	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第４回	二重生活①　太陽暦導入後の日本の生活（大正時代）、文化住宅など	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第５回	二重生活②　単位（国際単位系と尺貫法）を中心に。	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第６回	食の思想と文化①　食の文化の考え方	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第７回	食の思想と文化②　食の規制（タブー）について：諸宗教、菜食主義など	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第８回	食の思想と文化③　食の規制（科学思想）および世界の食の多様性について	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第９回	食の思想と文化④　飲料としての茶、茶の湯	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１０回	空間①　上と下、右と左、中心と周縁など	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１１回	空間②　「世界」観	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１２回	空間③　旅行について	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１３回	空間③　「向こう側」（異界）について。茶室と露地。	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60
第１４回	授業のまとめ　歌枕と季語など	授業教材（CoursePower 掲載）の予習と復習。	60

〔授業の方法〕
講義形式。
毎回授業後に短いコメントを書いてもらい、理解の程度を確認する。（コメント入力は出席確認を兼ねる）

〔成績評価の方法〕
授業毎のコメント（50%）、課題レポート 50%とする。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
・授業内容（ライフスタイルや日常の生活・文化の成り立ちについて）理解を深められているか。
・授業内容を自己の問題意識にひきつけ、発展的な学びに結び付けられているか。
・自己の認識や価値判断を相対化することができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
・小泉和子編『生活文化史』、新体系日本史 14、山川出版社、2014 年。（購入の必要なし）
その他参考文献については授業内でその都度示す。
レポートの書式については次の文献などを参照のこと（購入の必要なし）：
・小笠原喜康『新判　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009 年。
・佐藤望〔編著〕、湯川武、横山千晶、近藤明彦『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会、2018 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
CoursePower の「Q&A」で受け付けます。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	教育社会学						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125431550	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、教育社会学の「ジェンダーと教育」について学んでいく。現代社会における学校教育という営みについて考えるとき、それを取り巻く社会構造を無視することはできない。現代社会においてはジェンダー、社会階層による社会的格差が存在する。そして、そのような社会的格差はなくならないどころか、ますます拡大しているといわれている。社会的格差と学校教育はどのように関連しているのだろうか。本講義では社会問題と教育問題の関連を解き明かしていく。そして現代社会における「教育」という営みについてもう一度考え直していく。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
ジェンダー、社会階層が学校教育を通して再生産されるプロセスをとらえられるようになる。
学校教育をとおして社会の構造について考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「ジェンダーと教育」とは何か ――フェミニズムと「ジェンダー」	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第２回	「教育社会学」とは何か（１） ――機能主義理論、タルコット・パーソンズの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	「教育社会学」とは何か（２） ――葛藤理論①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第４回	「教育社会学」とは何か（３） ――葛藤理論②、ランドル・コリンズの理論、ピエール・ブルデューの理論	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	「教育社会学」とは何か（４） ――葛藤理論③、ピエール・ブルデューの理論①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	「教育社会学」とは何か（５） ――葛藤理論④、ピエール・ブルデューの理論②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	「教育社会学」とは何か（５） ――葛藤理論⑤、ピエール・ブルデューの理論③	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第８回	「教育社会学」とは何か（６） ――日本社会はメリトクラシー社会なのか①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	「教育社会学」とは何か（７） ――日本社会はメリトクラシー社会なのか②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	進学・労働とジェンダー（１） ――最新のデータにおける進学・労働の男女差、進学の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	進学・労働とジェンダー（２） ――進学の男女差②、専攻分野の男女差①	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１２回	進学・労働とジェンダー（３） ――進学の男女差③、専攻分野の男女差②	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１３回	進学・労働とジェンダー（４） ――進学の男女差④、労働市場の男女差	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１４回	かくれたカリキュラム	【予習】参考文献の指定部分を読む。これまでの学修内容を確認する。	90

〔授業の方法〕
講義形式。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート・コメントシートなど提出物（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化社会学						
教員名	金　善美						
科目№	125431600	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
初学者の１～２年生の目線に合わせて、社会学の視点から「文化」について学んでいく授業です。まずは、社会学的な問いの対象としての「文化」概念を検討し、20 世紀以降の大衆文化の誕生を概観します。その上で、資本主義や消費社会、国民国家、グローバリゼーション、ジェンダー、観光など多様な視点に着目しながら、文化と社会の関係性や文化形成の原理を考えていきます。授業では写真や映像、新聞・雑誌の記事などの資料も積極的に活用し、理論の学習と並行して毎回の授業内容に関わる具体的事例を取り上げます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とします。
①社会学の研究対象としての文化の概念を理解し、主な理論を説明できる。
②自分が興味を持つ文化現象を発見し、その形成と変容を授業で学んだ諸理論および様々な社会変動との関連の中で論じることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法などについて説明する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	文化とは何か（１） ・「文化」概念の成立と変容を把握し、文化社会学が扱う領域を概観する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第３回	文化とは何か（２） ・20 世紀初頭の大都市における大衆文化の開花を把握する ・シカゴ学派の都市社会学やカルチュラルスタディーズによる文化のとらえ方を理解する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第４回	資本としての文化（１） ・文化産業論や文化資本論、知識産業論、クリエイティブ産業論などの考え方を把握し、資本主義経済と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第５回	資本としての文化（２） ・東京ディズニーランドや創造都市などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解をかめる	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第６回	差異としての文化（１） ・消費社会論や記号論、カルチュラルスタディーズなどの考え方を把握し、消費社会と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第７回	差異としての文化（２） ・ファッション雑誌やアニメキャラクターなどの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第８回	映画から読み解く文化社会学 ・映画作品をピックアップし、そこから見えてくる文化社会学のキーワードについて考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第９回	越境する文化（１） ・文化帝国主義とオリエンタリズム、文化のグローバル化などをめぐる議論を把握する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１０回	越境する文化（２） ・ディズニーのアニメーション、K-POP などの事例を検討しながら、前回学修した諸理論への理解を深める	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１１回	ジェンダーの文化政治（１） ・アイデンティティとフェミニズム、ジェンダーという視点から現代社会と文化の関係を考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１２回	ジェンダーの文化政治（２） ・ファッションの流行やコスプレなどの事例を検討しながら、現代日本社会で描かれる女性／男性のイメージ・役割について考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１３回	現代文化としての観光・地域社会 ・現代の消費文化としての観光を、J.Urry「観光のまなざし」やS. Zukin「Authenticity」などの議論から考察する ・事例として昭和ノスタルジー・下町ブームを検討する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60
第１４回	ネットワーキングする文化 ・ネット社会の到来による文化の変容を、市民運動や新しいプラットフォーム・メディアの登場、フェイクニュースなどの事例を挙げながら考察する	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読み込んでおく。また、主なキーワードについて説明できるようにする。	60

〔授業の方法〕
パワーポイントを用いた講義形式で進んでいきます。2 週間に一度、受講者の授業内容への理解度を確認するためにコメントペーパーの提出を求めます。2 回の課題レポートがあります。
単に授業で紹介した知識を覚えるのではなく、①それを自分なりの言葉で説明できるかどうか②文化にまつわる社会現象・問題の事例について授業で学んだ知識を応用して自分なりに分析・考察できるかどうか、を評価します。

〔成績評価の方法〕
平常点（質問や発言など授業への参加状況）20%、2 回の課題レポート 80%で成績評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・文化に関する社会学の主な概念・理論を修得しているか
・特定の文化現象を社会変動の中で位置づけ、その背景や特質を説明できるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『現代文化論――新しい人文知とは何か』、吉見俊哉、有斐閣、2000 円＋税、ISBN-10: 464122076X（購入の必要なし）
なお、各回の授業内容と関連する参考文献については、授業内で適宜紹介していきます。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会階層論						
教員名	森山　智彦						
科目№	125432100	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
この授業では、社会の格差・不平等の問題を扱います。授業内容は、現代社会においてどのような不平等があるのか（現状の理解）と、なぜそのような不平等が生じているのか（メカニズムの理解）に大きく分かれます。具体的なテーマとして、経済格差や貧困、階層再生産、教育、労働市場、ジェンダー、家族、意識に関する不平等を取り上げます。また、他国の格差・不平等の状況との比較を行うことで、日本の不平等問題の特徴を学びます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下の到達目標を設定します。
(1)格差・不平等問題に関する様々なトピックについて、背後にある社会構造を理解し、自分なりの考えを整理できるようにします。(DP1、DP２、DP3)
(2)格差・不平等問題の構造や問題点を多角的な視点から考察することで、社会の中の自身の立ち位置を認識すると同時に、自分の知らない他者の視点を身につけます。(DP1、DP3)
(3)さまざまな資料やデータ、文献の見方を学び、自ら調べて確かめる方法と姿勢を身につけます。(DP3)

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	なぜ社会階層論を学ぶのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 授業全体の内容や進め方を説明します。また、どのような不平等が問題視されているのか、なぜそれが問題なのかについて、概要を説明します。	【復習】ワークシート作成。	60
第２回	不平等問題の現状把握１：経済的格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 所得格差の把握の仕方を学び、格差拡大、固定化の背後にある社会的な構造の変化について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第３回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 日本社会の貧困問題の現状と歴史的な経緯を把握します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第４回	不平等問題の現状把握２：なぜ貧困は生きづらさにつながるのか（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ なぜ経済的な貧しさが生きづらさに結びつくのかを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第５回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 親子間の社会階層の再生産を理解する上で重要な概念や指標について学びます。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第６回	不平等問題の現状把握３：階層の再生産（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 階層再生産の時系列的な展開とその背景にある社会構造について解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第７回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 出身階層と本人の階層を媒介する教育、学歴の機能や教育と仕事の関係を解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第８回	不平等が生じるメカニズム１：社会階層と教育（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 教育機会の不平等を是正するための政策（学費の無償化）の有効性について検討します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第９回	不平等が生じるメカニズム２：労働市場における格差（前半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 初職が出世や転職といった職業キャリアに及ぼす影響について、日本の雇用制度の視点から解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１０回	不平等が生じるメカニズム２：労働市場における格差（後半） ＝＝＝＝＝＝＝＝ 正規雇用と非正規雇用の間には様々な面で格差が存在します。そのような不平等がなぜ生じているのか、真に問題視すべき格差とは何かを解説します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１１回	不平等が生じるメカニズム３：雇用・労働における男女間格差 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 昔に比べれば性別による不平等は緩和しましたが、それでも根深く残っています。この回では、雇用・労働面の男女間格差の原因を解説し、解決のための施策等を紹介します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１２回	不平等が生じるメカニズム４：社会階層と家族形成 ＝＝＝＝＝＝＝＝ グローバル化などによる社会構造の変化は、結婚など家族形成にも影響を及ぼしています。そのメカニズムを解説し、真に課題視すべき問題について議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

第１３回	不平等が生じるメカニズム５：社会階層と意識 ＝＝＝＝＝＝＝＝ 社会階層は意識構造にも影響を与え、人々は意識を通して不平等に対する実感を持ちます。社会階層に関連が深い意識として、階層帰属意識や希望格差に注目します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60
第１４回	改めて問う、日本の格差は容認できるのか ＝＝＝＝＝＝＝＝ 第 13 回までの内容をまとめ、中流層の崩壊と社会の分断がもたらし得る帰結を考察します。その上で、改めて日本の格差が容認できるものかどうかを議論します。	【予習】予習課題に関する情報収集。 【復習】ワークシート作成。	60

〔授業の方法〕
本講義は、主に資料（パワーポイント）によって進めながら、Forms 等を活用したフィードバックを適宜導入します。資料は CoursePower からダウンロードすることができます。なお、授業の進捗度によって、内容を変更することがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業時の課題（Q&A など）やワークシートの提出：７０%）、期末レポート（３０%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する. /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の 2 点に着目し、その達成度により評価します。
①社会階層論に関連する概念や不平等が生じるメカニズムを理解している。
②不平等を解決するために個人や社会が何をすべきかについて、自分の言葉で考えることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に必要ありませんが、労働社会学、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前に学んでいるとより理解が深まります。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層ー豊かさの中の不平等』東京大学出版会，3080 円（購入の必要なし）
竹ノ下弘久（2013）『仕事と不平等の社会学』弘文堂，1540 円（購入の必要なし）
盛山和夫ほか編（2011）『日本の社会階層とそのメカニズムー不平等を問い直す』白桃書房，3080 円（購入の必要なし）
平沢和司（2014）『格差の社会学入門ー学歴と階層から考える』北海道大学出版会，2750 円（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は授業終了後に教室で受け付ける他、メールでも受けつけます（アドレスは配布資料のタイトルスライドに掲載）。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ライフコースの社会学						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125432150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
10 歳のときから多くの人が働き始める社会で生きることと、22 歳で働き始める社会で生きることは、同じ働くということでもまったく異なる経験となるだろう。そして、働き始めるという一見普遍的な事柄は、社会の変化によってそのタイミングも、個人にとっての意味も、具体的な内容も常に変化するものであった。本講義で扱うライフコース・アプローチは、人間の一生を普遍的な過程としてとらえるのではなく、社会的・歴史的コンテクスト（文脈）によって構築されたものとみなす点から出発する。そして、人々の人生がその年齢や時代、世代によって影響を受け、変化してゆく過程を理解する、学際的な手法となっている。このライフコースという考え方の意義や、実践方法について 1 学期間を通して議論する。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、3（課題の発見と解決）の達成のため、ライフコースという視点の意味と限界を理解し、現代社会における個人の経験を年齢、歴史、世代という 3 つの観点からとらえるための基礎的な知識や概念を学び、活用することができるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：変動する社会における個人の経験	【復習】家族の経験を聞き取る	90
第２回	ライフサイクルとは何か：発達心理学・役割理論の発展と限界	【予習】自分のこれまでの人生を段階として振り返る 【復習】配布資料を再読する	90
第３回	【ライフコース研究の概念と方法 3～9】 社会的地位と社会的役割、役割移行	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の社会的地位、社会的役割を確認し、その将来を予想する	60
第４回	時間の導入：変化と持続をとらえる	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のライフイベントカレンダーを作成する	60
第５回	年齢・時代・コーホート：APC 効果	【予習】参考文献を読む 【復習】家族の経験を APC 空間に図示する	60
第６回	家族時間、タイミング、コンボイ	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の家族の家族時間を整理し、自分のコンボイを概念図として描く	90
第７回	『大恐慌の子どもたち』	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のコンボイを概念図として描く	60
第８回	ライフコースを観察する：質的、量的な観察	【予習】21 世紀出生児縦断調査のサイトを調べる 【復習】21 世紀出生児縦断調査の報告書を読む	60
第９回	【現代社会とライフコース 9～14】 経済状況とライフコース：平成不況と就職活動の変遷	【予習】就職活動について両親に聞き取りをする 【復習】現在の就職活動の実態を調べる	90
第１０回	音楽とライフコース：文化とライフコースを考える	【予習】自分自身の音楽体験を言語化する 【復習】配布資料を再読する	90
第１１回	人口・家族変動とライフコース：祖父母の変容を考える	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第１２回	悲劇とライフコース：震災経験のその後への影響	【予習】阪神大震災について調べる 【復習】鑑賞した映像資料の感想をまとめる	90
第１３回	格差とライフコース：格差の戦後史	【予習】祖父母世代、親世代、自分自身の進学と就職を聞き取る 【復習】配布資料を再読する	90
第１４回	未来像とライフコース：想像力と時代の拘束性	【予習】2030 年の将来像を考える 【復習】配布資料を再読する	60

〔授業の方法〕
講義形式で行う。また、講義では映画の鑑賞を行うなど映像資料も用いる。

〔成績評価の方法〕
期末レポート（90%）と平常点（10%）によって行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
「家族社会学」と深い関係をもつため、あわせて履修することでより理解が深まる。

〔テキスト〕
とくに指定しない。

〔参考書〕
講義時に適宜紹介する。主とするものは以下である。いずれも購入の必要はない。
・嶋崎尚子 2008 『ライフコースの社会学（早稲田社会学ブックレット−社会学のポテンシャル)』 学文社.
また、重要文献としては以下があげられる（絶版が多い）。
・エルダー 2023 『完全版・大恐慌の子どもたち−社会変動と人間発達』明石書店.
・ハレーブン 2001 『家族時間と産業時間 新装版』早稲田大学出版部.
・プラース 1985 『日本人の生き方−現代における成熟のドラマ』岩波書店.
・エルダー・ジール 2003 『ライフコース研究の方法』明石書店.
・エルダー・ジール 2013 『ライフコース研究の技法』明石書店.
内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：{http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html}
厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査（平成 13 年出生児）」{http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-9.html}
厚生労働省「21 世紀出生児縦断調査（平成 22 年出生児）」{http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-22.html}

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
ＩＣＴ活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ボランティア・ＮＰＯの社会学						
教員名	澁谷　智子						
科目№	125432200	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では、ボランティアや NPO が社会を変える力になってきたことを学ぶ。今年度は特に、聞こえないこと、コミュニケーション、手話を切り口に、現状とその背景を学び、活動しておられる方々にゲストとしておいで頂く。実際に見たり聞いたりする中から、体験的に学び、理解を深めることが、この授業の狙いである。

〔到達目標〕
DP１「専門分野の知識・技能」、DP２「教養の修得」、DP３「課題の発見と解決」、DP５「多様な人々との協働」、DP６「自発性、積極性」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①少数派の視点を知る。
②ボランティアや NPO などの形から、社会に働きかけていく活動について知る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	NPO の活動について調べる。	60
第２回	共同創造	共同創造の例について調べる。	60
第３回	マイノリティの視点	マイノリティの視点について調べる。	60
第４回	「障害」の表象	「障害」を描いたドラマなどについて調べる。	60
第５回	中途失聴	中途障害について調べる。	60
第６回	ろう文化	課題論文を読んで、自分の意見を書く。	60
第７回	手話という言語	手話言語条例やギャローデット大学(Gallaudet University)について調べる。	60
第８回	ろう者の歴史	日本における明治期のろう学校の設立や、ろう教育における手話と口話について調べる。	60
第９回	聴覚障害児への教育	聞こえない子、聞こえにくい子どもに対する教育について調べる。	60
第１０回	手話の授業	国語とは何か、手話とは何か、について調べる。	60
第１１回	バイモーダル・バイリンガリズム	モーダリティの違う二つの言語（音声言語と視覚言語）のバイリンガリズムについて調べる。	60
第１２回	手話を教えるということ	手話教師の模索について調べる。	60
第１３回	ろう者や手話に関するドキュメンタリー	ろう者の歴史資料の収集と継承について調べる。	60
第１４回	まとめ	授業で学んだことを参考に、自分で調べたことをスライドにまとめる。	60

〔授業の方法〕
授業では、スライドやウェブページを用いて講義を行った上で、聞こえないことや手話に関する分野で活動する方々においで頂き、そのお話を伺う。そうした学びをふまえて、さらに自分でも調べた内容をまとめ、forms に書き込む。

〔成績評価の方法〕

平常点（授業への参加状況や課題、発表）100％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
授業で配布するプリント

〔参考書〕
木村晴美・市田泰弘，1995，「ろう文化宣言――言語的少数者としてのろう者」『現代思想』23 巻 3 号，青土社，354-362．購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	スポーツ社会学						
教員名	稲葉　佳奈子						
科目№	125432250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本講義は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、現代社会について考察することを目的とする。スポーツは、その場・その時かぎりの実践にとどまらず、社会の要請に応じてさまざまな意味や価値が付与された「社会」そのものとしての側面をもつ。そうした視点から、スポーツが抱える文化的・社会的意義や課題についての知識を身につけるとともに、現代社会におけるスポーツの位置づけについて理解を深めていく。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。
①スポーツ社会学の基礎的な知識や考え方を理解することができる。
②スポーツの意味や課題を社会学的な視点から考察することができる。
③スポーツを通して現代社会の特質や課題を説明することができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	シラバスの内容を把握する。	60
第２回	スポーツの成立・発展からみた近代	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第３回	オリンピックの社会的意味	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第４回	日本社会と東京オリンピック	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第５回	グローバリゼーションとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第６回	メディアとスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第７回	社会運動とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第８回	「男らしさ」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第９回	「女性活躍」とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１０回	LGBTQ+とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１１回	社会・性・スポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１２回	これからの社会とスポーツ	講義スライドの内容を確認し、ポイントを理解する。	60
第１３回	到達度確認テスト	前回までの学修内容を整理・確認する。	60
第１４回	まとめ	前回確認された自己の到達状況をもとに、全体的な学修内容を復習する。	60

〔授業の方法〕
○ 資料（PowerPoint スライド、動画教材、配布資料など）を用いて、講義形式で授業を進める。
○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
○ 各回の内容に即した課題（小テスト等）を授業時間内におこなう。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業時の課題への取り組み）40%および到達度確認テスト 60%をもとに、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
○授業時の課題に積極的に取り組んでいるか。
○到達度確認テストにおいて以下の 3 点が表現できているか。
１．スポーツにかかわる諸現象について社会学的な視点から理解・考察することができる。
２．スポーツが内包する現代的な課題を理解することができる。
３．スポーツに反映された現代社会の課題や可能性について理解することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。
必要に応じて CoursePower を通じて資料を配付する。

〔参考書〕
（購入の必要なし）『スポーツと LGBTQ＋　シスジェンダー男性優位文化の周縁』岡田桂・山口理恵子・稲葉佳奈子著、晃洋書房、2300 円

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。または授業終了時に教室で対応する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	科学技術の社会学						
教員名	定松　淳						
科目№	125432300	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
現代社会は高度な産業社会であり、科学・技術によって支えられています。同時に科学・技術が社会問題を引き起こすこともありますが、その解決においても科学・技術を抜きに語ることはできません。一方、科学・技術も社会からの支援なしには成り立たない営みです。つまり科学・技術と社会のかかわりは、社会の側にとっても、科学・技術にとっても重要な意味をもっています。このような問題領域は社会学的な対象として扱うことが可能であり、社会学を含む学際領域として科学技術社会論（STS: Science and Technology Studies）が発展してきました。本講義ではその内容を概観して、その基本問題を捉えることを目的とします。

〔到達目標〕
科学・技術の不確定性について理解し、科学・技術が関わる社会問題において、その不確定性をめぐってどのような認識の違いが生じているかを指摘することができる。【ＤＰ1-3】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／ 科学の制度化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第２回	科学の体制化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第３回	日本における原発導入と世論	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第４回	『ラボラトリー・ライフ』	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第５回	チェルノブイリ原発事故とイギリスの牧羊農家	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第６回	エイズ治療薬開発と患者団体	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第７回	遺伝子組換え作物コンセンサス会議	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第８回	第 1 回レポート作成	前半 7 回の授業内容をよく検討する。（予習）	60 分
第９回	科学論の第三の波	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１０回	ポストトゥルースと STS	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１１回	コロナ禍と科学的助言	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１２回	原発事故補償制度の展開	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１３回	生殖補助医療	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１４回	第 2 回レポート作成	後半 5 回の授業内容をよく検討する。（予習）	60 分

〔授業の方法〕
各回の講義時間は 80 分程度にとどめ、最後に 20 分程度時間を取って CoursePower にミニッツレポートを提出してもらいます。ミニッツレポートは 3 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。2 回のレポートについては 20 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。

〔成績評価の方法〕
平常点（各回のミニッツレポートの合計得点）60%
レポート（2 回提出）40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
『よくわかる現代科学技術史・STS』 、塚原東吾ほか編、ミネルヴァ書房、3,300 円、ISN978-4-623-09215-4（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	グローバリゼーションの社会学						
教員名	渡部　厚志						
科目№	125432350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
グローバリゼーションという言葉から、皆さんは何を想像するでしょうか。昨今の戦争やコロナウイルス感染症の広がりのような大事件を思い浮かべる人も多いでしょう。一方で、毎日の食や文化の消費、ご家族の仕事などに関して国外の人や組織とのつながりを感じる場面が多いことを実感している人もいるかもしれません。人、モノ、金、情報の国境を超えて移動し、世界中の人や組織が競争したり助け合ったりすることが当たり前になった世界に私たちは暮らしています。私たちの毎日の暮らしは、何カ国もの国、何千人もの人 たちの仕事に支えられています。また、私たちがあたりまえにしていることが、離れた場所で働いたり学んだりする人に影響することもあるかもしれません。
では、グローバリゼーションはいつから始まったのでしょうか。グローバリゼーションの時代とは、それまでの時代と何が違うのでしょうか。グローバリゼーションは、人を幸せにしているのでしょうか、それとも不幸にしているのでしょうか。グローバリゼーションという言葉が現れてもう何十年も経ちましたが、こんな基本的な問いについてさえ、決まった答えはありません。そのうえ、グローバリゼーションは現在進行中で、重要なプレーヤーや大事な出来事が、毎日のように入れ替わっていきます。グローバリゼーションに関する、今の時点での「正しい見方」を身につけても、５年後には古い知識になっているかもしれません。
そこで、この講義では身近な食や仕事から離れたところで起きる災害、環境破壊などまでを観察し、グローバルな人、モノ、情報、お金などのつながり方という大きなシステムの変化の中で位置づけて検討し、考えたことを他の人と交流することで知識を更新していく経験を積むことに力を入れたいと思います。

〔到達目標〕
３つのポイントに重点を置き、グローバリゼーションが進行する現代社会について、基本的な論点と、具体的なトピックを考える力を伸ばすことをめざします。
１）グローバリゼーションが毎日の暮らしに現れる場面（日本、アジア、東欧などのケース）に触れ、離れた場所で起きているできごとと私たちの暮らし、過去に起きたできごとと今の社会とのつながりを見つける発想を身につける。
２）グローバリゼーションが世界や各国の社会と経済、地域や私たちの暮らしにもたらす影響を考えながら、社会全体の変化を追うマクロの視点と、ひとりひとりの暮らしや日々の安心などに注目してみるミクロの視点といった複数の方向から考える方法を身につける。
３）グローバリゼーションが進む中で、地域社会や人の暮らしを支える新しい取り組みに触れ、考えや能力の異なる人や組織が協力する方法や、自分の立場で関わることのできる方法を考える経験を得る。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション グローバリゼーションは「正解」がない、日々変わっていく問題です。このような問題をどのように考えたらいいのか？14 回の講義を通じて鍵となるメッセージを提示します。 14 回の講義予定、レポート課題、評価方法の概要を紹介します。	予習として、学生自身の生活と「離れた場所や人」との接点を探し、3 項目をノートに書き出しておくこと。	60
第２回	変わる世界と私たちの暮らし：①「食べること」のグローバリゼーション 健康的だとされ外国でも人気のある「日本食」も、それ以外に私たちが食べているものも、食料供給システムのグローバリゼーションにより実現したものです。しかし、「フードシステム」が世界中に広がったために、外国の農地収奪、水産資源の乱獲や水の大量利用、農家の経営難、食品加工工場で働く労働者の環境など、さまざまな問題が生まれています。食と農の安全と安心を取り戻そうとする動きは、食と農、消費者と生産者の「関係を結び直す」ことでもあります。	予習として、過去１週間に食べた食事のメニューから一品を選び、「原料がどこで作られたか」「どこで加工されたか」「いつから、日本の家庭で食べられるようになったか」を調べる。（講義中のグループディスカッションで使用します。以下同じ）。	60
第３回	変わる世界と私たちの暮らし：②「働くこと」のグローバリゼーション 世界中で２億人を超える人が生まれた国とは違う国で暮らしています。移民や移動労働者は、現代の社会経済に欠かせない存在です。なかには、国民の 10 人に 1 人が外国にいるという国もあります。多くの人が、生まれ育った土地とは異なる土地で、親世代とは異なる職業を得るようになったのは、いつごろからでしょうか。また、どのような背景があるのでしょうか。移民や移動労働者は、受入国（地域）でただ「労働力を提供する」だけの人ではありません。それぞれがこれま	予習として、学生自身や友人、家族の「仕事」が、他の国や地域とどのように関係するのか、その関係は過去 20 年でどのように変わったのかを考察し、800 字程度にまとめておくこと。	60
第４回	変わる世界と私たちの暮らし：③「将来」のグローバリゼーション 前回（第３回）は、生まれ育った土地と違うところで仕事を求めて移動する人々や、地域や国の外からやってくる人々を受け入れる社会に注目しました。今回（第４回）は、多くの人が生まれ育った土地を離れて働く社会に目を向けます。 国の社会と経済がグローバル市場との繋がりを深めながら成長する過程で、地域社会では、若い世代が親世代とは異なる場所で異なる仕事をして暮らす準備をするように育てられる場合があります。20 世紀半ばの日本や、20 世紀後半から現在まで	予習として、学生自身や家族に関して、①親世代の仕事との違い、②仕事に必要な知識や技術を身につける方法の違いを調べ、800 字程度にまとめておくこと。	60
第５回	ポスト産業化時代の都市における「二極化」 第２回から４回までに見てきたような食、仕事、学びや若者の将来計画に生じる変化の背景には、世界レベルで起きている経済や社会の変動、とくに生産活動のグローバリゼーションと、それに伴う都市の再編があります。 金融、製造、情報通信が国境を超えてつながった結果、一部の大都市とそれ以外の都市や地方との間に、これまでとは異なる役割の分担が起きています。生産活動のシフトと地域の役割分担の変化に対応して、国の経済成長に国家・政府・都市が担う	予習として、東京における「仕事（職業）」「居住」「交通」または「消費生活」の４つのトピックのうち一つについて、1960 年代と 2000 年以降の違いを調べ、800 字以内でまとめること。	60

	役割も変わります。このことが、都市		
第６回	グローバル都市以外の地域で経験されるグローバル化 グローバリゼーションに反対するような主張が広く展開され、時には社会を分断するような運動につながることがあります。また、このような運動は、しばしば都市部のエリートと郊外・周辺地域の中間層（または貧困層）との対立という形で描かれます。 前回（第５回）に説明したような都市の再編と都市部における二極化は、都市以外の地域との関係にも大きく作用し、例えば郊外や農村地域の仕事、収入、消費生活などにも影響します。このため、都市とそれ以外の地域の「違い」を強調するこ	予習として、世界のいずれかの国における都市と農村の「違い」、その「違い」が誰の暮らしにどのように影響を及ぼすかを調べ、800 字以内でまとめること。	60
第７回	グローバリゼーション以前のグローバリゼーション グローバリゼーションという言葉で 20 世紀後半の新自由主義以降の出来事を指す人もいますが、19 世紀のヨーロッパの近代化と貿易拡大や 15 世紀から 18 世紀のアジア・アメリカへの進出、あるいはそれ以前に遡って考えるべきだと主張する人もいます。実際、西洋が世界進出する以前から世界の各地にはモノ、人、情報の活発な交流がありました。では、西洋の海外進出と近代化は何を変えたのでしょうか。経済や社会のルールと速度に注目して考えます。	予習課題はなし。 代わりに、①最終課題のテーマ、②現時点でそのテーマについて調べようと考えている事柄、をあわせて 500 字以内でまとめ、提出すること。 なお、最終課題のテーマは『「食」「仕事」「学習」「安全」「地域社会」「環境破壊」のうち一つを選び、①自分の暮らしとの関連、②グローバリゼーションにより特に影響を受ける人、③影響を和らげるために求められる行動』を考察し、2,000 字以内でまとめること』とする。	60
第８回	安全、安心、リスク 私たちの食生活、仕事、地域社会、国の経済などが、新型コロナウイルスパンデミックやインフレ、自然災害など様々なリスクに直面しています。多くのリスク要因は、社会のうちの特定の人々に、とくに深刻な影響を及ぼします。 第８回では、これまでに検討してきたグローバリゼーションの様々な要素が、私たちを取り巻く様々なリスクとどのように関係しているのか、なぜ、特定の人がリスクに対して脆弱な立場に陥るのかを検討します。グローバリゼーションは、経済、社会や環境のリスクに大きな影響を与えています。リス	予習として、気になる「リスク」を一つ取り上げ、そのリスクが現実になったときに誰が被害をうけるのか、どんな方法で対処できるのかを考察し、800 字程度でまとめておくこと。	60
第９回	消費社会と新しいグローバル・リスク①　気候変動と私たち 地球温暖化を含む「気候変動」は 20 世紀の後半より知られていましたが、2015 年以来、この問題が国際交渉、経済や社会の発展の最重要テーマに浮上してきました。気候変動は、グローバルな経済や社会の活動、すなわち私たちの日常生活や企業や政府の活動が人類の生存基盤を脅かすほどの影響力を持ってしまったことの現れです。また、世界中ほとんどすべての国や多くの企業、市民社会が協力するきっかけになっているという点でも、他の環境問題とは一線を画すものです。 気候変	予習として、「(a) 食生活」「 (b)集中豪雨や熱波など異常気象への備え」「(c)電気やガスの利用」のいずれかについて、受講者の家族には 30 年前と今の間にどんな違いがあるかを調べ、地球温暖化との関連を考察し、800 字程度の解説文にまとめること。	60
第１０回	消費社会とグローバル・リスク②　プラスチックと私たち 消費社会と深く関連する２つ目のリスクとして、プラスチックごみの問題を取り扱います。過去 10 年ほどの間に、プラスチックごみが海や河川に流出していることが広く知られるようになってきました。プラスチックは、食品、薬品、衣料、その他の日用品の製造にも流通にも欠かせないものとなっています。しかし、分解されずに長い期間土壌や水の中に残ること、動物や人体の中に入り込み健康被害を生み出すことなどから、近い将来、私たちの食生活、健康、生態系などに甚大な被害をもたら	予習として、プラスチックを素材、加工手段、包装などに用いている製品やサービスを一つ取り上げ、①いつごろから必要になったのか、②代替するとしたらどのような手段があるか、を調べ、800 字程度の解説文にまとめること。	60
第１１回	デジタル・グローバリゼーション 1990 年代以降、急速に発展したデジタル技術は、私たちの日常生活を便利にしただけではなく、社会や経済のあり方そのものを大きく変えています。例えば、国境を超える人と人との情報のやり取りは時間差なく行われるようになり、世界中の人々が協力して仕事をすることが容易になりました。お金やものを、お店で売り買いするのではなくアプリを介して他の人とやり取りするようなこともできるようになりました。一方で、過去数十年間に渡って地域や国の経済を支えていた仕事が失われるような経済構造と雇用の	予習として、私たちが日常的に使っているデジタル技術（スマートフォン、パソコン、ソーシャルメディア、オンライン学習等）のどれかを取り上げ、それらの技術による良い影響と悪い影響や、どのような人がそうした影響を受けるのかを考察し、800 字程度にまとめること。	60
第１２回	持続可能な地域をめざして① 気候変動、生物多様性、化学物質やプラスチックなどによる汚染、パンデミックや食料価格の高騰など、様々なリスクが社会や市民の生存を脅かしつつある中で、持続できる経済や社会に転換しようという取り組みが、各国の政府、自治体、企業や市民団体などに広がっています。 しかし、経済や社会を大きく転換させようという取り組みは、短期的には今まで行っていた仕事を諦めたり、今まで住んでいた地域を離れたりせざるを得なくなる人が発生するような大きな被害を特定の人に及ぼす可能性もあります。 この回	予習として、学生が育った地域または今住んでいる地域で作られている地域総合計画等の計画を読み、私たちがどんな方法で参加できるのか調べ、800 字程度にまとめること。	60
第１３回	持続可能な地域をめざして② 地域の経済や社会を取り巻く環境が変わっていく中で、これまでと同じ方法を維持するだけでは、地域の豊かさを維持していくことが困難になるケースがあります。この授業では、人口が減りつつある中山間地域の住民が、地域の暮らしを豊かなものにする様々な活動に取り組んでいる地域を紹介し、地域の多様な住民、近隣地域の人や行政との関わりがもたらす新たな可能性を、受講者といっしょに考えて見ます。	予習として、学生が今住んでいる地域に暮らす、異なる職業や年齢層の人々（３種類程度）を想定し、それぞれの人が求める地域の安全や豊かさに違いがあるかを検討し、800 字程度にまとめること。	60

第１４回	まとめ：グローバリゼーションと社会と私たち これまでの 13 回の講義で、グローバリゼーションが日本や他の国の地域社会やそこで営まれる毎日の暮らしに様々な影響を与えながら展開していることを見てきました。 最終回では、受講者の皆さんがこれまで学び考えてきたことを共有するために、最終課題について報告していただき、互いにコメントする形を取ります。 最後に、これまで考察してきたポイントを振り返り、最初に提示した２つのメッセージを考え直します。	最終課題を提出すること。	120

〔授業の方法〕
毎回の授業は、講義とグループワークを組み合わせた形式で行います。
講義部分では、各回の基本的な概念や事例を紹介します。
グループワークでは、受講者を３名から５名のグループに分け、１）予習課題に基づく受講者間の知識共有、２）講義で紹介した概念に当てはまるような事例・事実の探索、の２つの作業に取り組んでいただきます。
＊このため、できれば、インターネット接続可能な PC またはタブレットを持って参加していただきたいと思います。
グローバリゼーションに関する主要な論点を、身近な生活の場面や、馴染みのある出来事と関連付け、受講者相互及び受講者と講師の間で検討することにより、理解を深めたいと思います。

〔成績評価の方法〕
授業への参加にもとづき評価します。
・第 2 回から第 13 回の授業前に提出する予習課題（40%）
・第 14 回授業前に提出する最終課題（20%）
・授業中の発言と質問、及びグループディスカッションへの貢献（40%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくにありませんが、国内外のニュースに広く関心を持っておくと、授業の内容を理解する上でも、授業中に行う議論に貢献する上でも役に立ちます。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
以下、すべて購入する必要はありません。
・サスキア・サッセン「グローバル・シティ」ちくま学芸文庫
・ウルリッヒ・ベック「世界リスク社会論　テロ、戦争、自然破壊」ちくま学芸文庫
・斎藤幸平「人新世の資本論」集英社新書
・ジェームズ・C・スコット「反穀物の人類史　国家誕生のディープ・ヒストリー」みすず書房

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。
また、授業中にメールアドレスをお知らせします。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会福祉概論						
教員名	田中　悠美子						
科目№	125432400	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
社会福祉のあり方や考え方は、その人が住んでいる地域社会、時代のあり方に大きく関係しています。現在の私たちの暮らしの中で社会福祉はどのようなものとして存在しているのか、誰もが接点のある社会福祉について学ぶことは、これからを生きる上で役立つ知識、知恵を得ることができると考えます。社会福祉概論は、社会福祉学の基本的な考え方、視点、枠組み、構造について理解を深め、よりよく生きるための思考を促す導入的な講義となります。ソーシャルワーカーの実務経験を活かした授業を行います。

〔到達目標〕
DP1「専門分野の知識・技能」、ＤＰ２「教養の修得」を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①日本の社会福祉の考え方と特徴、現在の社会的問題を理解する。
②福祉制度・サービスの特徴と種類を知り、自分が利用する時にはどうするかを思い描けるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	私たちの暮らしと社会福祉	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第２回	社会福祉の考え方と目的	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第３回	生活困窮・貧困とは何か～公的扶助制度の理解～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第４回	生きづらさと社会的孤立	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第５回	社会保障制度の理解～社会保険と保健医療を中心に～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第６回	地域を基盤としたソーシャルワーク	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第７回	こどもと家庭への支援制度	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第８回	高齢者への支援制度～介護保険制度を中心に～	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第９回	認知症の理解と支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１０回	障害を有する人の支援制度	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１１回	困難を抱える女性への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１２回	子ども・若者への支援	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１３回	災害支援とソーシャルワーク	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60
第１４回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と、授業中の課題（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉事業史」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会福祉事業史						
教員名	澁谷　智子						
科目№	125432450	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
今の“福祉”につながる制度は、どのような時代状況の中で生まれ、どう変化してきたのか。また、国や社会によって“福祉”をめぐる考え方や制度にどのような特徴があるのか。この授業では、主に近代以降の欧米と日本の社会福祉の歴史を学び、異なる時代や社会の福祉のあり方との比較を通して、現在の日本の福祉制度の位置付けを知る。

〔到達目標〕
DP１「専門分野の知識・技能」の修得を実現するため、以下の２点を到達目標とする。
①社会福祉の分野において、基本的な概念や主要な政策とされてきたものを知り、重要な法律や団体、人物等の名とその関係性を理解する。
②時代の流れがどう政策に反映されてきたのかを知り、動いていく時代の中で、福祉はどのように変化していけばいいのか、自分なりの意見を持てるようにする。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イギリスの産業革命と工場法、新救貧法	配布資料を読み、理解する。	60
第２回	イギリスの民間社会福祉――貧困調査、慈善組織協会（COS）、セツルメント運動	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第３回	アメリカの社会福祉とソーシャルワーク	配布資料を読み、理解する。	60
第４回	社会保険の誕生――ドイツとイギリス	授業に関連する映像を見て、考えたことを書く。	60
第５回	戦争と人的資本の健康管理――ベヴァリッジ報告と戦後イギリス福祉国家の形成	配布資料を読み、理解する。	60
第６回	北欧の社会福祉とノーマライゼーションの理念	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第７回	明治の産業発展と救貧制度、慈善救済事業	配布資料を読み、理解する。	60
第８回	恐慌と社会事業の成立――方面委員制度、セツルメント運動、救護法制定、児童・母子保護	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第９回	戦争と戦後の国民生活――厚生省の創設、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法の制定	配布資料を読み、理解する。	60
第１０回	高度経済成長と福祉六法体制――精神薄弱者福祉法、老人福祉法、母子福祉法の制定	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第１１回	70 年代の福祉国家の危機と再編――イギリス等の福祉政策の転換、日本型福祉社会構想、日本の社会福祉計画	配布資料を読み、理解する。	60
第１２回	高齢社会と介護保険制度の創設、東アジアの社会福祉	授業の内容に即して、考えたことを書く。	60
第１３回	到達度確認テスト	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	到達度確認テストの解説、質疑応答	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

〔授業の方法〕
毎回プリントを配布し、必要に応じて映像やインターネット等を使いながら、講義を行う。

〔成績評価の方法〕
到達度確認テスト（50%）と平常点（授業中の課題など）（50%）で、総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、「社会福祉概論」「地域福祉論」「高齢者福祉論」がある。

〔テキスト〕
授業で配布するプリント

〔参考書〕
清水教惠・朴光駿編著，2011，『よくわかる社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房.
金子光一，2017（初版 2005），『社会福祉のあゆみ』有斐閣アルマ.
いずれも購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	環境社会学						
教員名	定松　淳						
科目№	125432500	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
環境問題は自然科学的に把握し、対処されるだけではなく、社会的な過程を伴っています。環境問題をどのように認識するか、環境問題への対応がどのように選択されるかは優れて社会学的な分析対象です。本講義では、とりわけ日本で独自に発展してきた環境社会学の基本的な概念や考え方、事例について概観します。学期の前半では水俣病を中心とする日本の公害問題の歴史をたどりながら、後半では原発問題、所沢ダイオキシン問題、自然保護問題といった事例を取り上げながら、具体的に学んでいきます。

〔到達目標〕
自分が関心のある環境問題について、環境社会学の基礎概念（受益圏受苦圏・社会的ジレンマ論・被害構造論・生活環境主義・社会的リンク論など）を用いて分析が行えるようになる。【DP1-3】

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス／ 水俣病の発生	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第２回	水俣病の科学論争	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第３回	公害の社会問題化	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第４回	公害訴訟と裁判外闘争	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第５回	公害へのバックラッシュ	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第６回	未認定患者問題	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第７回	第 1 回レポート作成	前半 6 回の授業内容をよく検討しておく。（予習）	60 分
第８回	所沢ダイオキシン問題①	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第９回	所沢ダイオキシン問題②	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１０回	白神山地保護問題	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１１回	原発建設反対運動	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１２回	福井県のエネルギー政策	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１３回	核燃料サイクル	配布資料を見て授業内容を復習する。ミニッツレポートを書き直す。	60 分
第１４回	第 2 回レポート作成	後半 6 回の授業内容をよく検討しておく。（予習）	60 分

〔授業の方法〕
各回の講義時間は 80 分程度にとどめ、最後に 20 分程度時間を取って CoursePower にミニッツレポートを提出してもらいます。ミニッツレポートは 3 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。2 回のレポートについては 20 点満点で評価して CoursePower でフィードバックします。

〔成績評価の方法〕
平常点（各回のミニッツレポートの合計点）60%
レポート（2 回提出）40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕
『よくわかる環境社会学（第２版）』、鳥越皓之ほか編、ミネルヴァ書房、3080 円、ISBN978-4623079346
（購入の必要なし）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会調査入門						
教員名	渡邉　大輔						
科目№	125433100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
社会調査の意義と諸類型，調査のプロセス，社会調査の諸課題に関する基本的事項を学ぶ.

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能），DP2（教養の修得），DP3（課題の発見と解決），を実現するために，社会調査の意義と諸類型について，基礎的知識と理論的枠組みを身につけることを目標とします.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：社会調査とは何か	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第２回	社会調査の歴史	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第３回	社会調査の目的と種類	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第４回	公的統計：国勢調査、官庁統計	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第５回	学術調査、世論調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第６回	市場調査、デジタルデータによる社会分析	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第７回	量的調査と質的調査	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第８回	量的調査による研究～SSM 調査、JGSS 調査	【予習】教科書 166~167 ページ、184~185 ページを読む 【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第９回	質的調査による研究～インタビュー、参与観察	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１０回	社会調査のプロセス①：問いを立て、調査を企画する	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１１回	社会調査のプロセス②：データを集め分析する	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１２回	社会調査の困難	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１３回	調査倫理	【復習】CoursePower 上に提示した課題を行う	60
第１４回	まとめ、期末課題	【復習】これまでの資料を読み直す	60

〔授業の方法〕
講義、および、グループワークによる演習を行う。

〔成績評価の方法〕
平常点（グループ課題）40%、期末課題 60%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム A)。課程登録者以外でも履修できる。

〔テキスト〕
金井雅之・小林盾・渡邉大輔編『社会調査の応用』弘文堂，ISBN: 978-4335551512　　（購入の必要なし）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
プロジェクト型授業、アクティブ・ラーニング、ＩＣＴ活用

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	社会調査の方法						
教員名	那波　泰輔						
科目№	125433150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
社会調査によって資料やデータを収集し，分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ.

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能），DP3（課題の発見と解決）を実現するため，次の 2 点を到達目標とします.
(1) 社会調査によって資料やデータを収集できる.
(2) それらを分析しうる形にまで整理できる.

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション：社会調査の方法とは何か	（復習）配布資料を再読する	60
第２回	調査目的と調査方法	（復習）配布資料を再読する	60
第３回	調査方法の決め方	（復習）配布資料を再読する	60
第４回	調査企画と設計	（復習）配布資料を再読する	60
第５回	仮説構成	（復習）配布資料を再読する	60
第６回	対象者の選定の諸方法	（復習）配布資料を再読する	60
第７回	サンプリング法１　全数調査と標本調査	（復習）配布資料を再読する	60
第８回	サンプリング法２　無作為抽出、標本数と誤差	（復習）配布資料を再読する	60
第９回	質問文・調査票の作り方	（復習）配布資料を再読する	60
第１０回	調査の実施方法１　調査票の配布・回収法	（復習）配布資料を再読する	60
第１１回	調査の実施方法２　インタビューの仕方	（復習）配布資料を再読する	60
第１２回	調査データの整理 1　エディティング、コーディング、データクリーニング	（復習）配布資料を再読する	60
第１３回	調査データの整理 2　フィールドノート作成、コードブック作成	（復習）配布資料を再読する	60
第１４回	まとめ	（復習）配布資料を再読する	60

〔授業の方法〕
講義．ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション，フィールドワークも行われます

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況，宿題の提出状況，ディスカッション，グループワーク，プレゼンテーション）50%，成果物（宿題レポート，到達度確認テストなど）50%による総合評価

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
社会調査的思考力を身につけているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム B）．課程登録者以外でも履修できます

〔テキスト〕
『社会調査の応用』，金井雅之・小林盾・渡邉大輔編，弘文堂，ISBN978-4335551512

〔参考書〕
とくになし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	質的調査入門（資料分析）						
教員名	坪田　美貴						
科目№	125433250	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
会話分析、ドキュメント分析、内容分析などを中心に、質的調査のデータ収集方法と分析方法について学ぶ。また、実際にそれぞれの方法を用いて行われた調査を事例として参照し、それぞれの方法がどのような目的に適し、どのようなことを解明してきたのかを考察する。その後、質的調査の進め方について具体的に学ぶ。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、質的調査の技法と分析方法を習得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	質的調査とは何か：目的とデータ収集方法の種類	【復習】配布プリントを再読する	60
第２回	フィールドワーク１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第３回	フィールドワーク２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、フィールドワークを行ったミニレポートを書く	120
第４回	会話分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第５回	会話分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第６回	ライフヒストリー分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第７回	ライフヒストリー分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、会話分析かライフヒストリー分析を用いたミニレポートを書く	120
第８回	ドキュメント分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第９回	ドキュメント分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１０回	内容分析１：目的とデータ収集方法	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第１１回	内容分析２：事例	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直し、内容分析を使ったミニレポートを書く	120
第１２回	質的調査の企画・設計とデータ収集	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直し、質的調査の企画・設計を行う	120
第１３回	質的調査の公表・倫理	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	90
第１４回	質的調査の動向と今後の展開	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直す	60

〔授業の方法〕
講義および演習形式。

〔成績評価の方法〕
提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士資格の関連科目（カリキュラム F)。課程登録者以外でも履修できます。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	質的調査法（インタビュー）						
教員名	金　善美						
科目№	125433350	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
インタビューと参与観察を中心とする質的調査について、豊富な事例に触れながら学んでいく授業です。毎回、先人たちによる優れた質的調査の実例をとりあげ、そこで使われた手法の特徴や意義、具体的な調査のプロセスなどを解説していきます。また、参考になる例だけでなく、よくない調査設計や対象に関する薄っぺらい記述の例にも触れながら、質的調査を行う際の注意点についても学びます。
卒論などで質的調査する予定の方、自分で調査する予定はとくにないけど質的研究の文献を読んでみたい方、社会調査士過程を履修中の方、どなたでも歓迎します。さまざまな質的調査を通じて描かれる、あなたの知らない世界に触れる半年間にしてみませんか？

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）、DP6（自発性、積極性）を実現するために、次の 3 点を到達目標とします。
①質的調査の各手法に関する基礎的知識を修得する。
②質的調査を用いた代表的な調査研究について知り、その内容と意義を説明できる。
③授業で学んだ知識と手法を応用し、自分が関心を持つ研究対象に関する調査計画を立てられる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・今後の授業計画と進め方、成績評価方法、授業時間外の実習内容などについて説明する	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の概要や授業計画、成績評価方法などを把握する。	30
第２回	社会調査と質的調査 ・社会調査の意味、質的調査と量的調査の違いについて解説する ・質的調査の特徴と種類、意義、調査倫理などを学ぶ	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第３回	インタビュー（1）インタビュー法の種類，プロセス，実習時の注意点，記録の作成方法	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第４回	インタビュー（2）インタビューにおける相互作用やラポールをめぐる議論，インタビューの社会的意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第５回	ライフストーリー（1）ライフストーリー法の意味や実施のプロセス，実習時の注意点，意義	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第６回	ライフストーリー（2）ライフストーリー法における語りの解釈や分析	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第７回	参与観察（1）参与観察法の意味や具体的プロセス，調査対象者との関係性づくり，実習時の注意点	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第８回	参与観察（2）現場の探し方や現場での過ごし方，参与観察法の意義，フィールドノートの取り方	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第９回	参与観察（3）「調査する私」をめぐる諸問題	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１０回	質的データの分析と論文の執筆（1）データの整理と「分厚い記述」の意味	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１１回	質的データの分析と論文の執筆（2）分析の仕方と論文の書き方	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１２回	質的データの分析と論文の執筆（3）研究実例	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１３回	受講者による発表（1）	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60
第１４回	受講者による発表（2）	【予習】配布資料を読み込んでおく。 【復習】授業内容を振り返り、重要なポイントを整理する。また、自分の調査研究への応用を考えてみる。	60

〔授業の方法〕
講義形式が中心となりますが、毎回、グループでのディスカッションを挟みます。文献資料（質的調査の実例）を事前に読んでくる or 授業内で読む時間を設ける回もあります。質的調査に関する知識を身につけ、その上で文献に出てくる質的調査の内容を多角的に考察したり自分なりの調査計画を立てたりすることができるかどうかを評価します。

〔成績評価の方法〕

授業中の発言や質問、グループディスカッションへの参加状況（40%）、第 13 回～14 回の発表（60%）で評価します。発表は、①受講生自らによる簡単な質的調査の実施とその成果の報告②自分が読んだ質的調査の文献紹介、のうち好きな方を自由に選択していただきます。
なお、受講者の人数次第で発表が課題レポート提出に代わる可能性があります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・質的調査の各手法に関する基礎的な知識を修得しているか
・研究実例に用いられた調査方法を把握し、その特徴と意義について説明できるか
・調査のテーマや対象の特徴を考慮し、適切な調査計画を立てることができるか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
社会調査士課程の資格対応科目（F）に該当する科目です。また、資格取得を目指さない人も自由に受講できます。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』岸政彦・石岡丈昇・丸山里美、有斐閣、1900 円＋税、 ISBN-10: 4641150370
『インタビューの社会学――ライフストーリーの聞き方』、桜井厚、せりか書房、2800 円＋税、ISBN-10: 4796702377
『質的データ分析法』、佐藤郁哉、新曜社、2100 円＋税、ISBN-10: 4788510952
いずれも購入の必要なし。その他の参考書については、授業内で随時紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア調査						
教員名	石堂　彰彦						
科目№	125433400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

現在、メディア上で発信される情報の多くがデジタル化され、インターネット経由での利用が可能となっている。利用できる情報にはクチコミサイトや SNS の書き込みだけでなく、新聞記事の本文や雑誌記事の見出し、さらには過去の映像作品なども含まれる。こうした膨大な情報を、適切な視点にもとづいて選択・収集・分析することで、新たな知見を得ることができる。そのため、多様なメディアを多様な視点から分析した研究が日々生み出されている。

そこで本講義では、新聞・雑誌・テレビ・ネットなどのメディアの内容を分析し、その背後にある“意味”を発見することを目的として、関連する研究事例を参照するとともに、実際のデータを用いた分析方法を検討する。また、調査をおこなうさいに必要となるデータの収集方法や、データの分析に用いるツールの使用方法も解説する。

〔到達目標〕

DP1（専門分野の知識・技能）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を説明できる。
②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の概要、進め方、期末レポートの内容などについて説明する。	シラバスを読み、授業の概要を把握する。	30
第２回	メディア関連の既存調査 ・既存の調査・研究を知ることが調査の第一歩。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第３回	新聞の特性と調査事例 ・新聞の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第４回	新聞（記事・社説）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第５回	新聞（投書）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第６回	雑誌の特性と調査事例 ・雑誌の特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第７回	雑誌の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第８回	テレビの特性と調査事例 ・テレビの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第９回	テレビの調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１０回	ネットの特性と調査事例 ・ネットの特徴と資料としての特性、アクセス方法、研究事例を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１１回	ネット（SNS）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１２回	ネット（クチコミ系サイト）の調査方法 ・具体的な調査の目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１３回	複数メディアの調査方法 ・複数のメディアを組み合わせた調査について、具体的な目的を設定し、適切な調査・分析方法を検討する。	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90
第１４回	まとめ ・授業の総括と期末レポートの説明	配付資料・講義内容を授業の前後に確認し、調査方法に対する理解を深める	90

〔授業の方法〕

１．配付資料をもとに講義形式で進行する。資料は前日までに CoursePower に掲示するので、授業開始までにダウンロードして内容を確認しておくこと。
２．授業で取り上げるメディアの分析方法には、手作業や Excel を用いる方法、KH Coder というテキスト分析用のフリーソフトを用いる方法がある。これらの分析方法を、調査対象の性質に応じて適宜使い分け、実践的な分析方法を検討する。
３．授業の予習・復習用に、授業で使用するデータファイル等を受講生に配付し、受講生各自が必要に応じて分析の練習・確認をできるようにする。
４．調査・分析方法の説明には、Windows PC を用いる。これは、上記 KH Coder を Mac に導入するさいに若干の制約があるためだが、Mac で利用できないわけではない。この点については初回授業時に説明する。

５．授業は、毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、受講生の理解を確認しつつ進める。コメントには、調査のアイデアや講義内容にかんする質問や意見、感想等を記述する。
６．期末レポートでは、各自の問題意識をもとに簡単な調査計画を立てることが求められる。詳細は初回授業時に説明する。
７．授業中も質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用いる。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になる。
８．なお、授業教室が PC 教室ではなく通常教室になった場合は、受講生各自が Windows PC を持参して受講することを推奨する。この点についても初回授業時に説明する。

〔成績評価の方法〕
期末レポート 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①各メディアの特徴や資料特性、データの収集方法、分析方法を理解しているか。
②問題意識に対応したメディアを適切に選択し、簡単な調査計画を立てることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要だが、「授業の方法」に記したとおり PC を用いた分析方法も説明するため、PC 操作が苦手という人も、この授業を通して PC を用いた分析の有用性・必要性を学ぶ心づもりで受講してほしい。
・関連科目は、メディアや社会調査に関する科目全般。

〔テキスト〕
特になし。講義レジュメを毎回配付する。

〔参考書〕
初回授業時に提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・授業終了後に教室で受け付ける。
・CoursePower でも随時受け付ける。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用いる。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	情報社会論						
教員名	西　兼志						
科目№	125434100	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
現代社会は情報社会だと言われるようになって久しいですが、この講義では、毎回のテーマに沿った 4、5のキーワード（「脱工業社会」「知識社会」「情報産業」「物語消費」「データベース消費」「ディズニー化」「感情労働」「アテンション・エコノミー」「監視資本主義」など）を取り上げることで、現代の情報社会を理解できるようになることを目指します。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：現代のメディアのあり方について学修することを通じて、個人と社会をつなぐ関係の理解や情報化社会への対応力を解明するメディア研究の手法を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第2回	情報社会論の起源	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第3回	情報社会論の文脈	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第4回	消費社会をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第5回	消費社会論の展開	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第6回	＜キャラ＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第7回	リアル化するメディア環境をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第8回	＜推し＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第9回	アテンションをめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第10回	＜顔＞をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第11回	動物化をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第12回	労働をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第13回	監視をめぐって	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分
第14回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60 分

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
講義資料のアクセスは出席にあたっては必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの適切度＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・取り上げたキーワードを理解できているか。
・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に、ありません。

〔テキスト〕
ポータルサイトを通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア文化論						
教員名	伊藤　昌亮						
科目№	125434150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア文化のあり方を論じます。出版、放送、音楽、ネットのそれぞれの領域から、メディア文化の成り立ちとその動向を捉えるとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。また、メディア文化について考えるための枠組みとなる概念や、関連するトピックについて論じます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①メディア文化の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。
②メディア文化をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第２回	メディア文化とは	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第３回	出版メディアとその文化	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第４回	放送メディアとその文化	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第５回	音楽メディアとその文化	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第６回	ネットメディアとその文化	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第７回	授業内レポート①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第８回	広告表現の展開①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第９回	広告表現の展開②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１０回	笑い	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１１回	都市伝説	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１２回	メディアイベント	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１３回	ゲストトーク	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１４回	授業内レポート②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、到達度確認レポート：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に随時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ネットワーク社会論						
教員名	伊藤　昌亮						
科目№	125434200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
ネットワーク社会のあり方を、その歴史的な経緯と理論的な分析との両面から論じます。「環境編」では、インターネットやスマートフォンなどのテクノロジーに注目し、ネットワーク社会の成り立ちとその動向を捉えます。「理論編」では、ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論として、複雑ネットワーク論、ソーシャルキャピタル論などを取り上げます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。
①ネットワーク社会の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。
②ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。
③ネットワーク社会に固有の社会現象を適切な理論に基づいて把握し、検討できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第２回	【環境編】ケータイからスマートフォンへ	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第３回	【環境編】Google 革命の衝撃	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第４回	【理論編】複雑ネットワーク①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第５回	【理論編】複雑ネットワーク②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第６回	【理論編】複雑ネットワーク③	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第７回	授業内レポート①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第８回	【環境編】iPod は何を変えたのか	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第９回	【環境編】オープンソースとシェア	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１０回	【理論編】ソーシャルキャピタル①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１１回	【理論編】ソーシャルキャピタル②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１２回	【環境編】SNS 社会の到来	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１３回	【環境編】SNS 社会の進展	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１４回	授業内レポート②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に随時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア産業論						
教員名	伊藤　昌亮						
科目№	125434250	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア産業のあり方を論じます。テレビ、新聞、出版、音楽、アニメ、ゲーム、ネットのそれぞれの領域から、メディア産業の成り立ちとその動向を捉えるとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。また、編集者としての実務経験に基づき、メディア産業の実状について論じます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の2点を到達目標とする。
①メディア産業の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。
②メディア産業をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第1回	イントロダクション	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	テレビ産業の成り立ち	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	番組から動画へ	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第4回	新聞産業の成り立ち	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	出版産業の成り立ち	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	音楽産業の成り立ち	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	授業内レポート①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	アニメ産業の成り立ち	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	ゲーム産業の成り立ち	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第10回	ネット産業の成り立ち①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	ネット産業の成り立ち②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	メディアミックス	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	ゲストトーク	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	授業内レポート②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に随時指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア制度史						
教員名	塩谷　昌之						
科目№	125434300	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この科目では、近現代の日本におけるメディアの歴史について、制度に注目しながら学んでいく。
現代において当たり前に存在しているさまざまなメディアは、それらが誕生して普及しはじめた当初には新しいものであった。新しいものが社会に受け入れられていくなかで、人々の間には驚きや困惑、そしてコンフリクトが引き起こされていく。そこでは文化が作り出されることもあれば、規制が生み出されることもあった。このような歴史的な展開について、制度のあり方を追跡することによって学修していく。メディアの初期の姿を描き出すために、主として近代の出来事を中心に取り上げるが、現代との結びつきもある程度補足する。

〔到達目標〕
DP1【専門分野の知識・技能】を実現するため、以下のような到達目標を設定する。
・近代日本のメディアとその制度の歴史的展開を深く理解し、メディアを読み解くためのリテラシーを身に付ける。
・現代日本のメディアの背景を多角的に捉え、自らの興味関心に基づいて、主体的に学修を継続できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第２回	メディアと制度の捉え方	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第３回	大衆の誕生	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第４回	流通・交通が生み出した文化	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第５回	出版物をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第６回	出版物をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第７回	活動写真・映画をめぐる制度①	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第８回	活動写真・映画をめぐる制度②	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第９回	蓄音機・電話・ラジオをめぐる制度	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１０回	検閲のもつ拘束性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１１回	戦争とメディア	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１２回	計算機の登場	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１３回	受け手のもつ創造性	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120
第１４回	講義のまとめとレポートの作法	【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。	120

〔授業の方法〕
配布した資料および、スライドを用いて講義を行う。補足的に CoursePower を利用する。

〔成績評価の方法〕

授業への意欲　50%
授業後に回収するコメントシートをもって評価する。
期末レポート　50%
レポートの評価基準については授業内で提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
履修に際して、条件は設定しない。

〔テキスト〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔参考書〕
テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	マス・コミュニケーション論						
教員名	本橋　春紀						
科目№	125434350	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
マス・コミュニケーションとは、マス（大衆）を対象に多様な情報や内容を届けるコミュニケーションのあり方です。テレビや新聞をはじめとするマス・メディアは、その送り手であり媒介者でもあります。マス・メディアは、報道を通じて民主主義的な政治過程に関与し、さまざまな作品によって全国的流行を生み、広告を通じて大量生産・大量消費の経済構造を維持するなど、大きな役割を果たしてきました。民間放送にかかわっている実務経験を生かして、21 世紀のデジタル・メディア社会においてマス・メディアはどうあるべきなのか、その現状と将来を考えます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
・マス・コミュニケーションの実態と構造を学び、現代社会において果たしている機能について説明できるようになる。
・マス・コミュニケーションを批判的に読み解くことで、メディアを通じたコミュニケーション全般についての思考を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	マス・コミュニケーションとは何か ～群衆、公衆、市民、大衆、マス	媒体としての新聞やテレビの自分とのかかわり、新聞やテレビが提供するコンテンツとの間接的なかかわりなどについて、振り返っておく。	60 分
第２回	マス・メディアの現在 ～新聞、雑誌、ラジオ、テレビ、ネット	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第３回	日本のメディアの生態系とその歴史 ～その誕生から 20 世紀末まで	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第４回	マス・コミュニケーション研究の流れ ～複製環境、強力効果研究、二段階の流れ論	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第５回	マス・メディアの影響力とは ～ネット時代の情報空間の中で	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第６回	メディア・イベントとは ～オリンピックなどを例に	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第７回	マス・メディアと表現の自由１ ～人々の自由とマス・メディアの自由	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第８回	マス・メディアと表現の自由２ ～名誉毀損の法理などを例に	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第９回	ジャーナリズムとマス・メディア ～権力監視の必要性	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１０回	マス・コミュニケーションと倫理 ～信頼性を支える基準と仕組み	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１１回	放送というマス・メディア ～電波と放送法	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１２回	情報空間における公共放送の役割とは ～受信料制度は必要か	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１３回	デジタル・メディア社会 ～デジタル化がもたらしたもの	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分
第１４回	全体の振り返り	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60 分

〔授業の方法〕
配付資料にもとづく講義形式で進めます。必要に応じて視聴覚素材も使います。授業の進行に即して小アンケート等を行ったり、特定テーマについてコメントを求めたりします。なお、学生の理解を促進するため、マス・コミュニケーションにかかわる時々のトピックスを取り上げて、授業計画を組み替えることがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（コメントシート、小テスト等、40%）、期末試験もしくはレポート（60%）を基本として総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。マス・メディアと自分の日常的なかかわりについて意識しておいてください。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
『マスメディアとは何か』、稲増一憲、中公新書、880 円（税別）、ISBN978-4-12-102706-1（購入の必要なし）
『２１世紀メディア論 （改訂版）』水越伸、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-14027-3（購入の必要なし）
『マス・コミュニケーションの世界』、仲川秀樹、ミネルヴァ書房、2500 円（税別）、ISBN978-4-623-08541-5（購入の必要なし）
『入門 メディア・コミュニケーション』、山越修三編著、慶應義塾大学出版会、2500 円（税別）、ISBN978-4-7664-2444-7（購入の必要なし）
のほか、授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディア・リテラシー論						
教員名	見城　武秀						
科目№	125434400	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
皆さんは「メディア・リテラシー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「メディアと主体的・批判的につき合う能力」といった説明がされることの多いこの言葉ですが、実はメディアという存在をどのように捉えるかによって、そこから導かれるメディア・リテラシー観も大きく違ってきます。
この授業ではまず、メディア・リテラシーを理解するための前提となる基礎概念（＝メディアの文法性、／メディアの文脈依存性／メディアに対する批判性）について、映像を中心とした実際のメディア作品を題材として解説します。次に、メディアの役割を「現実の反映」と見る立場から導かれる「反映主義的メディア・リテラシー観」と、メディアの役割を「現実の構成」と見る立場から導かれる「構成主義的メディア・リテラシー観」とを対比させることで、両者にとって「メディア批判」がもつ意味がまったく異なることを明らかにします。このような作業を通じて最終的にメディア・リテラシーについて論ずる上での「落とし穴」の存在に気づいてもらうことが、この講義の目的です。

〔到達目標〕
DP１-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している。）、DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる）を達成するため、次の２点を到達目標とします。
（１）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解すること。
（２）（１）の理解に基づき、現実におこなわれている「メディア批判」における「批判」の意味を反省的に捉え直す視点を身につけること。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第２回	メディア・リテラシーとは何か	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第３回	メディアの文法性-登場人物の「心の声」はどう表現される？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第４回	メディアの文脈依存性-なぜ変身アイテムはくり返し壊れるのか？	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第５回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（１）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第６回	２つのメディア像―「反映」するメディアと「構成」するメディア（２）	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第７回	メディアに対する批判性とは何か（１）―ナマ信仰／リアル信仰の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第８回	メディアに対する批判性とは何か（２）―反映主義的メディア批判と構成主義的メディア批判	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第９回	ドキュメンタリーは嘘をつく	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１０回	メッセージを意味づけるフレームの多層性	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１１回	なぜ「やらせ」は繰り返されるのか？―「事実主義」および「中立・公正・客観主義」の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１２回	フェイクニュースとファクトチェックをめぐる議論の問題点	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１３回	1964 年東京／2012 ロンドン／2016 リオ・デジャネイロ―３つのオリンピックにおける映像メディアの役割を比較することで見えてくること	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60
第１４回	まとめ	配布資料に沿って復習し、課題を仕上げて提出する。	60

〔授業の方法〕
講義形式。毎回、授業内容に関連する課題を出します。

〔成績評価の方法〕
毎回の提出課題に基づく平常点 100%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。
（1）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解しているか。
（2）反映主義的メディア観に基づくメディア批判と構成主義的メディア観に基づくメディア批判が混在していることから生ずるメディア・リテラシー論の落とし穴を理解できたか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
関連科目として、メディア・リテラシー演習Ａ、メディア・リテラシー演習Ｂ。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
授業中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ジャーナリズム論						
教員名	石堂　彰彦						
科目№	125434450	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
今日、世界の多くの国や地域において、人びとは分断と対立、格差、憎悪、そして権力の専横にさらされている。それは日本も例外ではない。このような状況において、人びとに事実を伝えるジャーナリズムの重要性は日ごとに増大している。しかしジャーナリズムは同時に、さまざまな批判にもさらされている。ジャーナリズムはその役割を十全に果たしているといえるのか。本講義では、現代社会においてジャーナリズムが直面する問題と、ジャーナリズムが果たしてきた役割について、実際の報道事例を参照しつつ検討していく。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を説明できる。
②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を説明できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション ・授業の全体像や進め方などについて説明する。ジャーナリズムにかんするアンケートも実施する予定。	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握する。	30
第２回	ジャーナリズムの歴史と役割 ・ジャーナリズムはなぜ必要とされるのか、その歴史を振り返りつつ考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第３回	ニュースとは何か ・ジャーナリズムが報じる「ニュース」について、その実態と問題点を考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第４回	ネット時代のニュース環境 ・スマートフォンの普及によって劇的に変化しつつあるニュース接触環境について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第５回	新聞ジャーナリズムの基本 ・新聞ジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第６回	新聞ジャーナリズムの実際 ・新聞ジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第７回	テレビジャーナリズムの基本 ・テレビジャーナリズムのビジネスモデルと現状について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第８回	テレビジャーナリズムの実際 ・テレビジャーナリズムの存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第９回	ジャーナリズムと情報公開 ・ジャーナリズムにおける公文書などの「情報」の重要性について考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１０回	雑誌ジャーナリズムの基本と実際 ・雑誌ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１１回	オルタナティブ・ジャーナリズムの基本と実際 ・既存ジャーナリズムとは異なるオルタナティブ・ジャーナリズムの現状と存在意義について、具体的な報道事例に即して考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	90
第１２回	ジャーナリズム・リテラシー ・ここまでの議論を整理しつつ、われわれはジャーナリズムとどのように付き合っていけばよいのかを考える。	【復習】配付資料等により論点を再確認する。	60
第１３回	到達度確認テスト ・授業の到達目標に達しているかどうかを確認する。	【予習】授業全体を振り返り、到達度確認テストに備える。	120
第１４回	テストの講評とまとめ	【復習】到達度確認テストを振り返り、自らの到達度を確認する。	60

〔授業の方法〕
・配付資料を中心に講義形式で進行する。毎回実施するコメント（リアクションペーパー）によって、受講生の理解を確認しつつ進める。ただし、情勢の変化や授業の進捗状況等に応じて内容を変更することがある。
・到達度確認テストでは、授業の到達目標に達しているかどうかを確認する。
・コメントは、授業内容にかんする質問や意見、感想等を記述する。
・なお、授業中も質問できるようにするため、スマートフォンや PC から匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用いる。これにより、授業中に生じた疑問や要望を、リアルタイムで教員に伝えて回答を得ることが可能になる。

〔成績評価の方法〕

到達度確認テスト 50%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）50%により総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①ジャーナリズムに求められる役割と、それが重要とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。
②ジャーナリズムが直面する問題と、それが問題とされる理由や背景を、具体的な事例に即してわかりやすく説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
・予備知識は不要だが、日頃接するニュースについて、その背景や意味を考えるようにすることで、ジャーナリズムの役割や問題をより身近なこととして理解できるようになるだろう。
・関連科目は、メディアやジャーナリズムに関する科目全般。

〔テキスト〕
特になし。講義レジュメを毎回配付する。

〔参考書〕
原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書（新赤版 1170）、2009 年、ISBN 9784004311706（購入の必要なし）
その他の参考書は初回授業時に提示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
・授業終了後に教室で受け付ける。
・CoursePower でも随時受け付ける。
・なお、「授業の方法」にも記したとおり、授業中も質問できるようにするため、匿名で質問を投稿できるツール（パパパコメント）を用いる。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	出版メディア論						
教員名	今田　絵里香						
科目№	125435100	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本講義の目的は、日本の出版の歴史をたどりながら、本、雑誌などという文字にかんするメディアが作り出してきたものについて考察することである。それは、たんに一つの本・雑誌が生み出され、忘れられていったことを追うのではない。それだけでなく、一つの本・雑誌が生み出された社会のありようを明らかにし、また、一つの本・雑誌が作り出した社会のありようを明らかにすることでもある。ひいては、人が文字にかんする文化、文字が紡ぎだす世界をどのようにとらえてきたかを明らかにすることでもあるのである。本講義では、一つひとつの本・雑誌の誕生と忘却とともに、それらをめぐる社会のありようを考察し、そのような問いに取り組んでいくことにしたい。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次のような到達目標を設定する。
出版の歴史を把握するとともに、出版が社会のなかで果たしてきた役割について把握することができる。
文字にかんする文化、文字が作り出す世界について考えることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	出版文化をどのようにとらえたらよいのか	【復習】配布プリントと参考文献を読む	90
第２回	総合雑誌（１） ――学歴貴族と教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第３回	総合雑誌（２） ――学歴貴族と教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第４回	総合雑誌（３） ――学歴貴族と教養主義（３） 婦人雑誌（１） ――「主婦」と新しい家族（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第５回	婦人雑誌（２） ――「主婦」と新しい家族（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第６回	婦人雑誌（３） ――「主婦」と新しい家族（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第７回	婦人雑誌（４） ――「主婦」と新しい家族（４） 大衆雑誌（１） ――反教養主義（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第８回	大衆雑誌（２） ――反教養主義（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第９回	大衆雑誌（３） ――反教養主義（３） 「少年文学」叢書と愛子叢書（１） ――近代の子ども（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１０回	「少年文学」叢書と愛子叢書（２） ――近代の子ども（２） 少年少女雑誌（１） ――都市新中間層の子どものジェンダー（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１１回	少年少女雑誌（２） ――都市新中間層の子どものジェンダー（２）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１２回	少年少女雑誌（３） ――都市新中間層の子どものジェンダー（３）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１３回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） ――童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１）	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90
第１４回	『赤い鳥』『少年戦旗』（１） ――童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学（１） 戦後の少年少女雑誌 ――戦後の異性愛文化と雑誌 ――少年少女雑誌	【予習】参考書の該当箇所を読む 【復習】配布プリントと参考書を読む	90

〔授業の方法〕

講義形式。

〔成績評価の方法〕
授業内レポート・授業内ミニレポート（60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
とくになし。

〔テキスト〕
とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

〔参考書〕
今田絵里香『新装版「少女」の社会史』勁草書房、2022 年。
今田絵里香『「少年」「少女」の誕生』ミネルヴァ書房、2019 年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	映像メディア論						
教員名	西　兼志						
科目№	125435150	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
メディアは、映し出されたり語られたりする対象（オリジナル）を複製（コピー）します。このオリジナルとコピーの関係は、これまで「アウラの喪失」「疑似イベント」「シミュラークル」「不気味なもの」などといったかたちで論じられてきました。この講義では、この関係を類似性（「○○っぽさ」）という観点から捉え直すことで、メディア（論）の展開を再考してみたいと考えています。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：類似性という観点から、メディア（論）の展開について学修することを通じて、各自が、身近なメディアを捉え返せるようになることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	言語学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	認知科学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	精神分析学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	脳科学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	行動経済学の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	複製技術論の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	文化産業論の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	消費社会論の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	ネオ TV 化の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	リアル TV 化の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	人工知能の観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	ポスト・トゥルースの観点から	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
また、単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、講義内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの内容＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・メディア（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りのメディア現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：「メディア論入門」「情報社会論」

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	広告論						
教員名	片山　淳						
科目№	125435200	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
広告とは、時代や人間のさまざまな側面を反映しながら社会に浸透した、コミュニケーション形態のひとつ。人間心理や世の中の普遍性を描き出す一方で、技術の進化や産業の変化にも敏感に呼応する、いわば「社会の鏡」ともいえる存在です。本講義では、講師の実務経験を活かして広告という事象を読み解き、学術と実践の両者を視野に入れながら理解を深めていきます。
※各テーマの内容や順番は、進捗および社会状況を考慮して変更する場合があります

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）2-1（広い視野での思考・判断）を実現するため、次の 3 点を到達目標とします。
①広告活動全般における用語や概念を正しく理解できる。
②広告施策における背景や構造を多面的に読み解くことができる。
③現代社会学の一環として、他分野にも通じる普遍的な視座を身につける。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「広告論」のガイダンス ・講義の意味と目的について考えるとともに、内容と進め方、評価方法などについて説明します。	【予習】シラバスを読み、講義のテーマと内容について考えておく。 【復習】資料を読み返し、疑問点および講義に臨んでの自身の目標を整理・確認しておく。	90 分
第２回	広告の歴史 ・広告の発祥から現在までを概観しつつ、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第３回	広告の定義 ・広告の定義とその背景にあるさまざまな視座について、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 次回のグループワーク用課題に回答する。	90 分
第４回	広告の「つくられ方」 ・前回の課題に基づきグループワークを行います。 ・広告の企画・制作における基本的なプロセスとその目的について学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第５回	広告におけるマーケティングの視点 ・広告の企画・制作におけるマーケティングの基礎を、文献等を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第６回	広告におけるコピーの仕事（講義） ・企画から制作を通じて広告の「軸」となるコピーについて、事例を参照しながら学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 次回のグループワーク用課題に回答する。	90 分
第７回	広告におけるコピーの仕事（グループワーク） ・課題として書いたコピーの分析・検討を通じて、広告への視点を広げていきます。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第８回	「広告賞」というメッセージ ・内外の広告賞事例を中心に、その役割や意味合いを考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第９回	「公共広告」というコミュニケーション ・公共広告の目的や意味合いについて、事例を参照しながら考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第１０回	広告における「デジタル」 ・デジタル技術が広告にもたらした影響や変化について、複数の切り口から考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 次回のグループワーク用課題に回答する。	90 分
第１１回	広告とグローバリズム ・前回の課題に基づきグループワークを行います。 ・グローバル視点からの広告ミュニケーションについて、事例を参照しながら考察・学修します。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第１２回	広告の「現場」から（ゲスト講義） ・実務に関わるゲストスピーカーの登壇を予定しています（調整中）	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分
第１３回	期末レポート―「企画書」を書く ・広告の設計図としての「企画書」について学修します。 ・講義中に企画書を書き、期末レポートとします。	【予習】これまでの講義資料やメモを参照して内容を確認しておく。	90 分
第１４回	「広告論」の総括 ・期末レポートからの知見や学びを共有しつつ、講義全体を振り返ります。	【復習／予習】資料やメモを参照して内容を確認しておく。 講義についての小レポートに回答する。	90 分

〔授業の方法〕
・各回ごとのテーマに沿って講義形式で進めます。適時、映像等の資料を参照します。
・随時発言や議論の機会を設けます。積極的な参加を希望します。

〔成績評価の方法〕

・平常点（授業への参加状況や小レポートの提出状況）50%
・グループワーク用課題（提出状況および内容）30%
・期末レポート（提出状況および内容）20%
※ただし期末レポートの提出は必須。諸事情で欠席の場合は相談・検討のうえ考慮します

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠し、主に下記の点を考慮して評価を行います。
・広告という事象についての基本的な知識を修得し、社会との関係性の中での理解ができているか
・レポートや発言等を通じて講義における知の共有に寄与できているか

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありませんが、日々の生活で接する広告メッセージの意図や背景について意識的であることを望みます。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
講義中および終了後に教室で受け付けます。またメールでの質問・相談も可能な限り対応します。
（メールアドレスは講義時に通達します）

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	デジタル・メディア論						
教員名	伊藤　昌亮						
科目№	125435250	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
デジタルメディアのあり方を、特にそこから形成される集合行動という観点から論じます。理論面では、デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる社会理論として、集合行動論、社会運動論、大衆社会論、集合知論などを取り上げます。現象面では、デジタルメディアをめぐる新しい社会現象として、フラッシュモブ、デモ、ネット右派、炎上などを取り上げます。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。
②デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて把握し、検討できるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第２回	デジタルメディアとは何か	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第３回	インフォデミック	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第４回	フラッシュモブ	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第５回	デモ	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第６回	ネット右派	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第７回	炎上	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第８回	授業内レポート①	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第９回	集合知	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１０回	誹謗中傷	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１１回	ヘイトスピーチ	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１２回	フェイクニュース	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１３回	出会い	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第１４回	授業内レポート②	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

〔授業の方法〕
配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの提出状況）：50%、レポート等：50%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
伊藤昌亮『フラッシュモブズ―儀礼と運動の交わるところ』（NTT 出版）
伊藤昌亮『デモのメディア論―社会運動社会のゆくえ』（筑摩書房）
伊藤昌亮『ネット右派の歴史社会学―アンダーグラウンド平成史 1990-2010 年代』（青弓社）
伊藤昌亮『炎上社会を考える―自粛警察からキャンセルカルチャーまで』（中央公論新社）
購入の必要なし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	情報デザイン論						
教員名	高橋　裕行						
科目№	125435300	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
「自分が他の人とどう違うのか知りたい」「就職後にも役に立つスキルを身につけたい」
そんな風に思っているひとのための講義です。
情報が人間の尺度を超えて膨大に増え続けている現在、
必要なときに必要な情報を手に入れ、編集し、そこから新たなアイデアを生み出し、
オリジナルな価値をもったものとして発信する「情報デザイン」が強く求められています。
この授業では、情報デザインの諸手法（収集/編集/発信）を紹介します。
演習やグループワークを通じて、実践的なスキルが身につくようにします。

〔到達目標〕
DP1（専門分野の知識・技能）を実現するため、
1. 情報デザインの概略を理解する。
2. 情報の収集（インプット）、編集（プロセス）、発信（アウトプット）に関わる諸手法の基本概念と特徴を理解する。
3. 上記の諸手法を実践するための知識とスキルを身につける。

なお、授業は以下の「21 世紀スキル」の 10 のスキルの習得を念頭において構成されている。
1. 創造性、イノベーション
2. 批判的思考、意思決定、問題解決
3. 学び方の学習、メタ認知
4. コミュニケーション
5. コラボレーション
6. 情報リテラシー
7. ICT リテラシー
8. 市民性
9. 人生とキャリア
10. 個人的、社会的責任

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	インプット手法 1（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第２回	インプット手法 2（情報の収集） 課題：「吉祥寺の隠れた魅力」（グループワーク） 手法：文献調査、フィールドワーク、インタビュー	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第３回	プロセス手法 1（情報の整理と発想） 課題：「ピーチ君を有名にする方法」など（グループワーク） 手法：ブレインストーミング、KJ 法、収束技法	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第４回	プロセス手法 2（情報の整理と発想） 課題：「豊かな休日の過ごし方」（グループワーク） 手法：CPS ライティング、パターン・ランゲージ	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第５回	アウトプット手法 1（情報の表現） 課題：「世界でたった一つの私のお店」（個人） 手法：偏愛マップ	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第６回	アウトプット手法 2（情報の表現） 課題：「世界でたった一つの私のお店」（個人） 手法：偏愛マップ	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第７回	ゲストトーク 先輩のお話：成蹊大学卒業生サイバーエージェント酒井様（予定）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第８回	ワークショップデザイン 1（概論：ワークショップとはなにか）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第９回	ワークショップデザイン 2（問いのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１０回	ワークショップデザイン 3（遊びのデザイン）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１１回	ワークショップデザイン 4（問いと遊びの接合）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１２回	ワークショップデザイン 5（設計）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分

第１３回	ワークショップデザイン 6（実施） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分
第１４回	ワークショップデザイン 7（実施） 課題：「ワークショップをつくろう」（グループワーク）	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにし、リアクションペーパーで自分が学んだことを振り返る。	６０分

〔授業の方法〕
・スライドを使った講義と、学生による発表を交互に行います。
・グループワークを行います。
・授業資料は、成蹊ポータル等で配布します。

〔成績評価の方法〕
・リアクションシートへの記入 50%、課題発表 50%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室もしくはメールで受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディアの理論						
教員名	西　兼志						
科目№	125435350	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
メディアは、「人間」を「社会」へとまとめ上げていく「技術＝モノ」と定義することができますが、この授業では、特に、人間論的な観点から、メディア（理論）をあらためて基礎づけることを目指します。そのなかで、メディアがどのようにわたしたちに働きかけてくるのか、どのように集団性を形成し変容させるのかを考えてみたいと思います。

〔到達目標〕
DP1-1（現代社会学科の専門分野に関する知識・技能を修得している）、DP1-4（メディア研究の理論及び実証的研究法を、「メディア研究基礎」・「メディア研究発展」の科目群を通じて体系的に学ぶことで、現代社会を理解するための基本的枠組みを修得している）を実現するため、次のような到達目標を設定します：メディア理論を学修することを通じて、各自が、身近なメディアを捉え返せるようになることを目指します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第２回	メディアとは何か（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第３回	メディアとは何か（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第４回	メディアとは何か（3）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第５回	メディアと集団性（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第６回	メディアと集団性（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第７回	メディアと集団性（3）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第８回	メディアとアテンション（1）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第９回	メディアとアテンション（2）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１０回	メディアとアテンション（3）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１１回	アテンションを超えて（１）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１２回	アテンションを超えて（２）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１３回	アテンションを超えて（３）	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第１４回	まとめ	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

〔授業の方法〕
講義形式で進めていきます。
単位取得にあたっては、講義資料のアクセスが必須です（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。
（なお、講義内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

〔成績評価の方法〕
平常点で評価します（授業への参加度［≠出席回数］＝50%、リアクション・ペーパーの内容＝50%）。
なお、講義を聞かずにリアクション・ペーパーのみを投稿するなどの不正に対しては、厳正に対処します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
次の点に着目し、その達成度により評価します。
・メディア（論）の展開を理解できているか。
・その上で、各自の身の回りのメディア現象を明らかにできるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
先修科目：「メディア論入門」

〔テキスト〕
CoursePower を通じて配布します。
単位取得にあたっては、講義資料へのアクセスが必須となります（未アクセスの場合、出席にカウントしません）。

〔参考書〕
西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.
『アイドル/メディア論講義』東京大学出版会、2017.
その他、随時、指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	サブカルチャー論						
教員名	飯塚　邦彦						
科目№	125435400	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本講義では、「おたく文化」（アニメ、マンガ、ゲームを軸とした文化）を題材に、70 年代後半以降の日本のサブカルチャーが、どのように成長・変化したかをみていく。
「おたく文化」は、現在では日本を代表する文化の一つであり、文化輸出の面でも重要視されている「メインストリームカルチャー」である。しかし 70 年代半ばの成立期には、限られた若者だけが楽しむ「サブカルチャー」であった。また 80 年代末から 90 年代半ば、バブル文化が急成長した時期には、激しいバッシングの対象になった。
かつてはサブカルチャーであったおたく文化は、なぜ、どのような経緯でメインストリームカルチャーになっていったのか。本講義ではこの経緯をみていき、変化の背後にあった経済、社会、文化の変化を考えていく。また現在のおたく文化のあり方と抱える問題点について、チャットなどを使って意見交換していく。そして最終的に、こうした変化や現状から見えてくる、現在の日本の文化や社会のあり方を考えていく。

〔到達目標〕
DP１（専門分野の知識・技能）、DP２（教養の修得）を実現するため、次の２点を到達目標とする。
①文化の歴史的流れをつかみ、それを理解するための主な理論を説明できるようになる。
②文化の歴史的流れと政治・経済の関わりを知り、そこから現在の文化・社会のあり方を考えられるようになる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクションと定義 ・本講義の目的 ・成績評価について ・言葉の定義と文化を研究する理論枠組みを紹介	「サブカルチャー」とはなにかを、辞典などで調べておく 過去、現在の「サブカルチャー」には何があるかを調べておく	60
第２回	全共闘運動とマンガ文化の勃興（1965～74） ・文化運動としての全共闘運動 ・マンガ、音楽、映画、演劇、SF などが若者文化として成長 ・マンガが若者の表現手段となる	（全体の予習）Teams に提示する動画を見て、分かったことや疑問点をメモしておく。その上で授業に臨む（以下同様）。 （全体の復習）理解できた点、質問したい点をまとめ、リアクションフォームに記入する。質問もフォームに記入する（以下同様）。 （この回の予習）「全共闘運動」について調べる。「左翼」「新左翼」との違いを調べておく。	60
第３回	コミックマーケットの発足と成長（1975～78） ・コミックマーケット発足に至る流れ ・映画「宇宙戦艦ヤマト」公開前後、アニメに注目する若者が現れ、アニメ雑誌が成立	（予習）ビデオに示された作家の作品を、図書館などで借りて読んでみる。また「マンガ同人誌　通販」で検索し、マンガ同人誌を買えるサイト、業者がどれぐらいあるか確認する（アダルト情報もあるので注意）。	60
第４回	「機動戦士ガンダム」の衝撃（1979～85） ・若者向けのアニメが増加し、アニメブームが起こる。アニメが急速に大きな市場になる。 ・アニメを題材にした同人誌が急増し、同人誌市場が形成される。 ・1983 年、中森明夫によって「おたく」という言葉が作られる。	（予習）この時期どのようなアニメが放送されているか、調べてみる。可能なら配信などで「機動戦士ガンダム」「超時空要塞マクロス」第１話を見てみる。	60
第５回	「キャプテン翼」ブーム（1985～89） ・同人誌では「キャプテン翼」ブームが起き、女性を中心に同人誌関連産業が爆発的に成長する。 ・次第に「おたく」という言葉がネガティブな意味で広まっていく ・バブル経済が始まる	（予習）「キャプテン翼」を調べ、この作品が世界においてどのように受け取られているかを調べる。	60
第６回	バブル文化とオタクバッシング、「サブカル」の成立（1989～95） ・バブル文化がメインストリームカルチャーとなる ・東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件により、激しいオタクバッシングが起こる ・バブル文化に対抗する形で、「サブカル」と呼ばれる文化グループが成立していく	（予習）「バブル文化」がどのようなものであったか、書籍などで調べる。またそれが現在の文化にどのように継承されているか、考えてみる。	60
第７回	「エヴァ」放送開始とネット文化の萌芽（1995～2000） ・「新世紀エヴァンゲリオン」の放送が始まり、社会現象になる ・Windows95 が発売され、パソコンが急速に広まる。98 年頃からインターネットも広まり、ネット上にコミュニティが作られ始める。	（予習）可能なら配信などで、テレビ放送版「エヴァンゲリオン」を何話か見てみる。	60
第８回	ネットの成長と「公式」化されるおたく文化（2001～2010） ・「2 ちゃんねる」が急成長、「匿名性を背景としたコミュニティ」ができる ・「ニコニコ動画」がユーザー製作のコンテンツの発表の場となる ・2004 年のヴェネツィア・ビエンナーレ建築展でおたく文化が本格的にヨーロッパに紹介される	（予習）VOCALOID の曲で、好きな曲はないか探してみる。	60
第９回	スマホ時代のおたく文化、グローバル化したおたく文化（2010～現在） ・スマホの急速な普及により、テレビは地位を低下させる。YouTube、SNS、配信がメディアの主役へ。 ・スマホの普及により、おたく文化のグローバル化は加速する	（予習）現在自分が使っている SNS を確認し、どのように使っているかを考える。また購読している YouTube チャンネルがいくつあるか、どのようなチャンネルを購読しているかを書き出してみる。	60

第１０回	文化理論からみたおたく文化 ・カルチュラル・スタディーズ、ファンカルチャー論、メディア論、政治学などから考える	（予習）「ソフト・パワー」について調べておく。また、現在の日本の「ソフト・パワー」には何があるか、調べてみる。	60
第１１回	討論１　ジェンダーをめぐって ・おたく文化の中で表象されるキャラクターや物語は、日本におけるどのようなジェンダー観を反映しているのか。またそれがどのような問題をはらんでいるか、討論する。	（予習）これまで学んだジェンダーに関することで、おたく文化に関係するものを探してみる。	60
第１２回	討論２　政治をめぐって ・おたく文化は「政治と距離がある」と考えられてきたが、今やおたく文化の利害を代表する政治家が現れている。 ・おたく文化は政治とどう関わっていくべきか、また政治をどのように表現するのか、討論する。	（予習）好きなミュージシャンやアーティストが政治的な発言をした例を探し、それがどんな反響をもたらしたかを調べる。アニメ、マンガ、ゲームにおける政治的表現の例も調べてみる。	60
第１３回	討論３　ソフト・パワーとポリコレをめぐって ・おたく文化は日本の国際的地位を高める「ソフト・パワー」として認識されているが、それはおたく文化の表現に影響するのではないか。また国際的に流通させることが前提となるため、ポリティカル・コレクトネスが求められるが、それもまた文化の表現に影響するのではないか。世界進出における文化の変化を討論する。	（予習）海外において、日本のアニメ、マンガ、ゲームはどのように受け入れられているかを調べる。またおたく文化系のイベントがどれぐらいあるかを調べる。	60
第１４回	まとめ ・おたく文化は、未だにサブカルチャーだった頃の表現方法を強く引きずっており、メインストリームになりきれない部分を持っている。そこから見える「日本社会・日本文化の姿」を考える。	（予習）これまでの授業・動画でわかったことをまとめ、「おたく文化はなぜ変化してきたのか」「その変化は私たちの社会の変化とどう関係するのか」について、考えをまとめておく。	60

〔授業の方法〕
講義形式で行なう。あらかじめ授業に関する動画（30 分程度）を用意しておくので、それを見て、分かったこと、疑問点をまとめた上で、授業に臨む。授業の終わりには質問に答える時間を設ける。第 11 回から 3 回は、チャットを使って匿名で討論していく。授業中 Discord で自由にチャットできるようにしておくので、授業を聴きながらネット上で話し合ってもよい。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況、毎回のリアクションフォームの提出状況など）　30%
期末レポート　70%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
文化社会学

〔テキスト〕
特になし　購入の必要なし

〔参考書〕
『おたくの起源』、吉本たいまつ、NTT 出版、978-4757142091　絶版のため、無理に購入する必要はない。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業の最後、授業終了後に教室で受け付ける。フォーム、Teams でも受け付ける。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング（反転授業）

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	メディアとアート						
教員名	小川　希						
科目№	125435450	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
現代アートとはいったい何か？　そこで用いられるメディアに着目することで、現代アートがこれまで投げかけてきた様々な問いについて学ぶ。

〔到達目標〕
現代アートで展開される表現を、メディアごとに分類・分析することで、それぞれの表現を理解するための基本的な知識や態度を獲得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 教員紹介及び本講義の説明 現代美術についてイメージする	特になし	0
第２回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 前編	前回の講義の復習	60
第３回	コンセプチュアルアートとは? 現代アートを学ぶ基本姿勢 後編	前回の講義の復習	60
第４回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第５回	現代アートにおける絵画表現とは? 絵画というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第６回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第７回	現代アートにおける彫刻表現とは? 彫刻というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第８回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第９回	現代アートにおける映像表現とは? 映像というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１０回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１１回	現代アートにおけるパフォーマンス表現とは? 身体というメディア 後編	前回の講義の復習	60
第１２回	ゲストアーティストによる講義 現在進行形で活動する作家の話を聞く	前回の講義の復習	60
第１３回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 前編	前回の講義の復習	60
第１４回	現代アートにおけるソーシャリー・エンゲージド・アートとは? 社会関与というメディア 後編	前回の講義の復習	60

〔授業の方法〕
スライドを用いての講義形式の授業

〔成績評価の方法〕
授業の参加態度：60%
授業への感想及びコメント：40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
特になし

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	現代社会研究Ｂ						
教員名	教員　未定						
科目№	125437150	単位数	2	配当年次	２年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕

〔到達目標〕

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回			
第２回			
第３回			
第４回			
第５回			
第６回			
第７回			
第８回			
第９回			
第１０回			
第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			

〔授業の方法〕

〔成績評価の方法〕

〔成績評価の基準〕

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕

〔参考書〕

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	トピック・セミナーB						
教員名	禹　丞美						
科目№	125511250	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この授業では韓国文学を中心に映画やドラマなどを扱います。日本で翻訳された韓国文学を一緒に読みつつ、「ソウル」「IMF」「フェミニズム」などいくつかのキーワードを中心に韓国社会の変遷について説明します。社会で取りこぼされてしまった貧困層、外国人、女性などの「社会的弱者」を文学がどのように描いてきたかを確認し、現代社会における様々な問題についても考えます。各キーワードに関連する未邦訳の作品も紹介する予定です。

〔到達目標〕
韓国文学と韓国映画を通じて韓国社会への理解を深めることができる。また、様々な社会的背景を知り、自分なりの解釈を試みることで考察を広げることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第２回	朝鮮戦争	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第３回	分断	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第４回	ソウル１	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第５回	ソウル２	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第６回	民主化運動１	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第７回	民主化運動２	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第８回	IMF	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第９回	多文化社会	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１０回	フェミニズム１	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１１回	フェミニズム２	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１２回	食	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１３回	科学と文明	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60
第１４回	まとめ	配布プリントに目を通しておくこと。詳しくはガイダンスで説明する。	60

〔授業の方法〕
授業はパワーポイントを利用した講義形式で行います。理解を深めるために教員が資料を用意し、提示します。
受講生は、毎回講義内容に関するリアクションペーパーを提出してください。

〔成績評価の方法〕
毎授業のリアクションペーパー（50%）、レポート（50%）により総合評価します。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
ガイダンスでプリントを配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	ラテン語						
教員名	井上　秀太郎						
科目№	125512100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
ラテン語はキリスト教やローマ法と共にヨーロッパ文明の基底をなすものである。ラテン語に関する知識があるか否かは、ヨーロッパの文化・芸術を理解するうえで今でも重要な要素となっており、その点にこそラテン語を学ぶ意義があると言える。この授業では初級文法を半年かけて学び、辞書を使って独力で簡単なラテン語文を読むことが出来るようになることを目指す。

〔到達目標〕
DP2【教養の修得】を実現するため、次の 3 点を到達目標とする
（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	文字と発音（母音の長短・アクセントの位置）	【予習】教科書の序章を熟読 【復習】教科書序章の単語を声に出して音読	90 分
第２回	動詞の活用（第 1～4 活用）	【予習】教科書第 1・2 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第３回	名詞と形容詞（第 1・2 変化の名詞と形容詞）	【予習】教科書第 3 課を熟読 【復習】名詞・形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第４回	動詞（未完了過去と未来）	【予習】教科書第 4・5 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第５回	前置詞と名詞（前置詞の格支配と名詞の第 3 変化）	【予習】教科書第 6・7 課を熟読 【復習】名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第６回	動詞（完了形）	【予習】教科書第 8 課を熟読 【復習】動詞の活用表と例文を音読	90 分
第７回	形容詞と名詞（第 3 変化形容詞と奪格の用法）	【予習】教科書第 9・10 課を熟読 【復習】形容詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第８回	不定詞（対格＋不定詞の構文）	【予習】教科書第 11 課を熟読 【復習】例文を繰り返し音読	90 分
第９回	比較の表現（形容詞の比較級と最上級）	【予習】教科書第 12 課を熟読 【復習】比較級・最上級の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１０回	代名詞（指示代名詞と関係代名詞）	【予習】教科書第 13 課を熟読 【復習】関係代名詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１１回	受け身の表現と特殊な動詞（受動態の現在形と能動形欠如動詞）	【予習】教科書第 14・15 課を熟読 【復習】受動態および能動形欠如動詞の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１２回	受け身の表現と分詞の用法（受動態の完了形、現在分詞と絶対的奪格）	【予習】教科書第 16・17 課を熟読 【復習】現在分詞の活用表と絶対的奪格の例文を繰り返し音読	90 分
第１３回	接続法（接続法の活用と用法、動形容詞）	【予習】教科書第 18 課を熟読 【復習】接続法の活用表と例文を繰り返し音読	90 分
第１４回	接続法の用法（間接話法、間接疑問文、条件文）	【予習】教科書第 19・20 課を熟読 【復習】接続法の例文を繰り返し音読	90 分

〔授業の方法〕
授業は講義形式で文法事項および例文の解説を中心に進めていく。折に触れて練習問題も解説を交えつつ取り組んでいく。

〔成績評価の方法〕
授業への取り組み（予習や授業中の質疑応答）（50%）、授業内で実施するテスト（50%）

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する
（1）　ラテン語の基礎的な文法事項を理解する
（2）　単語の基本的な活用を独力で行うことが出来る
（3）　単語帳・辞書を使って簡単なラテン語文を読むことが出来る

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特に無し

〔テキスト〕
岩崎務（著）『ニューエクスプレス　ラテン語（CD 付）』白水社　2011 年　ISBN 978-4-560-08580-6

〔参考書〕
特に無し

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
メールアドレスは授業時に伝達する。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	古典ギリシア語						
教員名	水元　彬人						
科目№	125512150	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

本講義では、古典ギリシア語の文字、発音、初級文法を扱う。本講義で扱う初級文法は主に、名詞の格変化、時制などによる動詞変化である。名詞や形容詞が文中での働きに応じてどのような形になるのか、そして動詞が時制、法、相、人称や数によってどのように変化するのかを、具体的に理解し覚えていってもらいたい。予備知識は特に必要としない。

古典ギリシア語を学ぶことの目的や意義はもちろん人それぞれだろうが、西洋文化と関わりがある人全てにとってこの言語は学んでおきたいものかもしれない。たとえば、古典ギリシア語で書かれた作品は様々な分野において重要な位置づけにあるため、それらの作品の原文を読めるようになりたいと思う人や、読めると便利かもしれないと考える人たちにとって、広く本講義は役立つだろう。古典ギリシア語で書かれた作品として、たとえば文学に興味がある人はギリシア悲劇や喜劇（またはそれらの中に色々な形で現れるギリシア神話）を思い浮かべるかもしれない。また、哲学に興味がある人はプラトンの対話篇やアリストテレスの著作を思い浮かべるかもしれないし、歴史に興味がある人はヘロドトスやトゥキュディデスによる歴史書、弁論作家による法廷弁論などを思い浮かべるかもしれない。これらの作品は、ジャンルは多岐にわたるものの、いずれも原文で読むためには古典ギリシア語の初級文法を最低限理解していなくてはならない。

また、言語全般に興味を持っている人にとっても、古典ギリシア語の学習は大いに役立つだろう。様々な言語の文字や発音、文法に興味があるという人や、現代ギリシア語をより深く理解したいという人、文法や語を通じて西洋文化の源に触れたいという人にとって、本講義で扱う各事項は具体例として参考になるはずである。

〔到達目標〕

DP2（教養の修得）を実現するため、
①古典ギリシア語の文字や発音を身につける
②古典ギリシア語の格変化や動詞の変化に慣れる
③古典ギリシア語の学習を通じて、西洋文化についての理解を深める

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	・ガイダンス（授業の内容や進め方、予習復習の仕方について） ・ギリシア語文字、発音、アクセントについて学ぶ	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第２回	・ギリシア語文字、発音、アクセントの再確認	予習：教科書 I-II 章 復習：教科書 I-II 章	90 分
第３回	・動詞の現在直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 III 章 復習：教科書 III 章	90 分
第４回	・第一変化名詞の変化を学ぶ（1） ・第一変化名詞の変化を学ぶ（2）	予習：教科書 IV-V 章 復習：教科書 IV-V 章	90 分
第５回	・小テスト（一回目） ・動詞の未来直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 VI 章 復習：教科書 VI 章	90 分
第６回	・第一変化の名詞を学ぶ（3） ・第一変化の男性名詞を学ぶ	予習：教科書 VII-VIII 章 復習：教科書 VII-VIII 章	90 分
第７回	・動詞の未完了過去直説法能動相を学ぶ ・第二変化名詞の変化を学ぶ	予習：教科書 IX-X 章 復習：教科書 IX-X 章	90 分
第８回	・第一第二変化の形容詞を学ぶ	予習：教科書 XI 章 復習：教科書 XI 章	90 分
第９回	・小テスト（二回目） ・前置詞を学ぶ	予習：教科書 XII 章 復習：教科書 XII 章	90 分
第１０回	・動詞のアオリスト直説法能動相を学ぶ ・動詞の現在完了、過去完了直説法能動相を学ぶ	予習：教科書 XIII-XIV 章 復習：教科書 XIII-XIV 章	90 分
第１１回	・指示代名詞、強意代名詞を学ぶ ・直説法能動相本時称、副時称の人称語尾を学ぶ	予習：教科書 XV-XVII 章 復習：教科書 XV-XVII 章	90 分
第１２回	・μι 動詞の直説法現在を学ぶ ・疑問代名詞、不定代名詞を学ぶ	予習：教科書 XVIII-XIX 章 復習：教科書 XVIII-XIX 章	90 分
第１３回	・小テスト（三回目） ・動詞の直説法中動相・受動相を学ぶ	予習：教科書 XX 章・XXV 章 復習：教科書 XX 章・XXV 章	90 分
第１４回	・接続法・希求法について学ぶ ・授業のまとめ	予習：教科書 XXXIV・XLIII 章 復習：教科書 XXXIV・XLIII 章	90 分

〔授業の方法〕
授業では、まずは講師が前の週のコメントシートの内容に触れ、全体で共有すべき感想や疑問は講師の回答も含めて共有する。その後、参加者はその日扱われる文法事項について講義を聞き、さらに練習問題（演習）を通じてその事項に慣れ、最後にコメントシートに感想や疑問を記入し提出する。取り扱われる文法事項の順番は基本的にはテキストに沿う。古典語は難しそうだと感じている人もついていけるよう、英文法等がこまめに比較対象に出されつつ、講義や練習問題の解説は進む。
自分の理解や暗記がうまく進んでいるかを参加者が把握できるように、授業 4 回につき一度ほどのペースで、基礎的な問題を用いた小テスト（15 分程度）が実施される。小テストの出題範囲は、一回目：第 1 回～第 4 回、二回目：第 5 回～第 8 回、三回目：第 9 回～第 12 回となる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業・演習への参加状況：60%、授業内小テスト 3 回分：40%）による総合評価。
学期末試験は実施しない。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①古典ギリシア語の文字の読み書きができる。
②各文法事項を理解する。
③各語形変化を習得する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日本語と英語/特になし/ラテン語, 西洋史, 欧米各国文学

〔テキスト〕
田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』（岩波 2012 年）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問は基本的には授業終了後に教室で受け付けるが、コメントシートで質問することもでき、Course Power に掲載するメールアドレスに質問を送ってもよい。

〔特記事項〕

24/2/9 18時 41分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	展示から探る歴史・文化（１００周年記念展）						
教員名	牧野　元紀						
科目№	125512200	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024後期

〔テーマ・概要〕
【テーマ】知れば知るほどに面白くなる東洋学ワールド。その一大拠点である東洋文庫の本の森を探索しよう！
【概要】日本が世界に誇るアジア研究の殿堂、東洋文庫。毎回の授業は所属研究員によるユニークな研究、貴重な図書資料の活用と保存、研究活動における最新の取り組み、ミュージアムの展示による一般への普及・学習支援等を中心に詳しく論じる講義と現場での見学会から構成される。

〔到達目標〕
DP2【教養の修得】（広い視野での思考・判断）およびDP3【課題の発見と解決】（情報の調査収集＋分析・解釈＋論理的思考）を実現するため、下記の点を到達目標とする。
・日本を代表するアジア研究の拠点である東洋文庫の活動を総合的に理解する。
・履修者各自が大学における今後の自発的学修、研究において東洋文庫を積極的に利活用できるようにする。
・多様性に富むアジアの社会を理解すべく歴史資料からアプローチすることを体得する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	「東洋とは？東洋文庫とは？」 【講師】牧野元紀（研究員） 【内容】東洋文庫は日本国内では最大最古、世界でも5指に数えらえる東洋学の研究図書館である。創立以来の歩みと今日の主な活動を紹介する。	【予習】東洋文庫のホームページ（http://www.toyo-bunko.or.jp/）に各自でアクセスし、概要を把握しておく。	60
第２回	「研究図書館における研究活動」 【講師】會谷佳光（研究員） 【内容】東洋学の研究図書館である東洋文庫の研究活動について概説する。とくに、研究者を取り巻く環境の変化や、研究活動を継承し発展させていく上での現状と課題について紹介する。	【予習】東洋文庫の研究活動の全体像を理解するため、東洋文庫ホームページの「研究活動」ページを確認しておく。	60
第３回	「研究データベースの構築と公開」 【講師】相原佳之（研究員） 【内容】東洋文庫が構築するデータベースについて概説する。研究活動を継承し発展させていく上で、公開媒体としてのデータベースやデジタルアーカイブをどのように組み上げていくのか、近年のオープンサイエンスの動向にも触れながら、その構築理念と将来展望などについて紹介する。	【予習】東洋文庫のデータベースを理解するため、東洋文庫リポジトリERNEST（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）、Toyo Bunko Media Repository（https://app.toyobunko-lab.jp/）を確認しておく。	60
第４回	「東洋文庫における東洋学研究の動向―文理融合型研究への挑戦」 【講師】徐小潔（研究員） 【内容】電子端末でも資料や本が読める時代にあって、東洋文庫は「モノ」としての書物に研究価値を見出している。自然科学の先端技術を駆使した新しい歴史研究の手法を紹介し、書物に記された文字情報からは見えてこない「本」の秘密に迫る。	【予習】東洋文庫のオンライン・ジャーナル『Modern Asian Studies Review／新たなアジア研究に向けて』Vol.8（http://www.toyo-bunko.or.jp/research/MASR.html）に掲載している関係論文、および東洋文庫リポジトリ（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）掲載の徐小潔「『永楽大典』紙質の初歩的分析－非破壊調査の試み」（『東洋文庫書報』第53号、2022年3月）を確認しておく。	60
第５回	「東洋文庫の研究成果の英文による発信」 【講師】片倉鎮郎（研究員） 【内容】東洋文庫は研究活動の成果を学術論文や学術書の出版（紙・電子）という形で広く一般に公開しているが、その記述言語は日本語にかぎらない。外国語による出版、特に英文雑誌および書籍の刊行は、東洋文庫創立以来、日本の東洋学・アジア研究の成果を国際的に発信する手段として重視されてきた。講義では、これらの英文媒体とその歩みを紹介するとともに、英語で書くことの意義と難しさについて考える。	【予習】東洋文庫リポジトリ ERNEST（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）で公開されている英文媒体のラインナップを確認しておく。受講者各自の関心に応じて、実際に掲載論文等を読んでみるとなおよい。	60
第６回	「博物館のなかの東洋文庫ミュージアム」 【講師】篠木由喜（研究員） 【内容】博物館の歴史を概観し、その中での東洋文庫ミュージアムの位置づけをみていく。	【予習】博物館概論の関連書籍に目を通しておくこと。	60
第７回	「ミュージアム自由見学」 【講師】岡崎礼奈（研究員） 【内容】ミュージアム自由見学日に充当、各自で10月～11月中の都合の良い日時で訪問する。 ミュージアムを見学し、展示の内容、資料の見せ方など全般に対する所感をレポートにまとめて提出すること。	【予習】事前にミュージアムのホームページを見て、展覧会の概要など基本情報を調べておくのが望ましい。	60
第８回	「展示における図書資料、歴史資料の活用－東洋文庫の展覧会を例に」 【講師】岡崎礼奈（研究員） 【内容】東洋文庫ミュージアムで開催中の展覧会を一例に、歴史・文化をテーマとした図書資料中心の展示をいかに一般に向けて魅力的なものにするのか、その工夫について考える。	【予習】展示を見学した際に何が印象的だったか（展示資料、解説、展示手法など）を整理しておくこと。また、東洋文庫ミュージアムのホームページで過去の展覧会についても内容を確認しておくことが望ましい。	60
第９回	「東洋文庫の蔵書と資料の収集」 【講師】清水信子（研究員） 【内容】東洋文庫の蔵書の概要と資料の収集と公開について概説する。東洋文庫は東洋学の専門図書館として様々な言語、形	【予習】東洋文庫の全体像を理解するため、東洋文庫のリサーチページ（http://www.toyo-bunko.or.jp/research/）、ライブラリページ（http://www.toyo-bunko.or.jp/library3/）、「蔵書・資料検索」	60

	態の資料を所蔵しており、中でも本講義では、東洋文庫の設立者・岩崎久彌が蒐集した岩崎文庫の和漢（和書、漢籍）の古典籍を中心に紹介する。また資料収集方法の現状と公開にあたってのデータベースの作成や閲覧サービスについても紹介する。	（http://124.33.215.236/db_select.html）、またその中から「Ⅲ. 全頁画像」の「東アジア」の画像について一覧しておく。	
第１０回	「アジア学専門図書館における資料の分類と目録構築」 【講師】篠崎陽子（研究員）・原山隆広（研究員） 【内容】日本語・中国語・欧米語を初め、多様なアジア諸語資料を所蔵するアジア学の専門図書館として、その蔵書資料をどのように分類して、目録を構築してきたかを概観する。更に、成蹊大学図書館をはじめとする各図書館の蔵書検索（OPAC）において、自分が必要とする資料をどのように探したら良いのを見ていくとともに、それらを通じて、分類とはなんであるかや目録の目指すべき形について考察する。	【予習】自分が日常的に利用する図書館の目録にはどのような種類があるのか？ 分類は何を基準にしているのか？、という点に注目して調べてみましょう。	60
第１１回	「図書館資料の保存―方法と実践―」 【講師】水口友紀（研究員） 【内容】貴重な資料群を、今の研究に生かしつつ、将来に伝え遺していくための、資料保存の理念や活動の実際を、東洋文庫の取組みを事例に考える。保存修復作業の実技映像を教材として使用する。	【予習】東洋文庫リポジトリ ERNEST（https://toyo-bunko.repo.nii.ac.jp/）にて、『東洋文庫書報』掲載の下記の論考を探し、東洋文庫における保存修復作業の内容と方法を把握しておくこと。 第 48 号 田村彩子「一枚もの資料の保存処置事例」、第 49 号 水口友紀・西薗一男「東洋文庫における保存修復作業の紹介～製本室での作業の記憶を交えて～」、第 52 号 田村彩子「デジタル化に伴う保存処置事例」	60
第１２回	「研究図書館における専門性の高い資料とその公開について―梅原考古資料を通して―」 【講師】山村義照（研究員） 【内容】東洋文庫の蔵書には、さまざまな内容の資料が存在している。ここでは、考古学分野の梅原考古資料を通して、研究図書館における専門性の高い資料とその公開について紹介、検討していく。	【予習】東洋文庫のホームページ（http://www.toyo-bunko.or.jp）「蔵書・資料検索」ページの各項目をよく確認しておくこと。	60
第１３回	「特別講演」 【講師】未定（研究員） 【内容】未定	【予習】講師が確定し次第、参考図書を指定するので予め読んで臨むこと。	60
第１４回	総合講評 【講師】牧野元紀（研究員）	【予習】、これまでの学修内容を確認する。	120

〔授業の方法〕
講義形式。毎回異なる専門をもつ東洋文庫所属の研究員が担当する。東洋文庫の見学等も含む。授業の関連資料は SEIKEI PORTAL にアップロードするので適宜ダウンロードすること。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況、リアクションペーパーの回答内容）60%、試験（あるいはレポートの提出）40%の総合で成績評価をつける。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
関連の資料を SEIKEI PORTAL 経由で配布する。

〔参考書〕
・斯波義信監修・牧野元紀編『時空をこえる本の旅 50 選』（東洋文庫、2010 年）
・東洋文庫編『記録された記憶―東洋文庫の書物からひもとく世界の歴史』（山川出版社、2015 年）
・東洋文庫編『アジア学の宝庫、東洋文庫　東洋学の史料と研究』（勉誠出版、2015 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業開始前と授業終了後に受け付けるほか、SEIKEI PORTAL あるいはメールで受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化政策学						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541100	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本科目では「文化政策の入門」をテーマに、海外の文化政策を視野に入れつつ、日本国内の文化政策の歴史を概観します。そして、世界各国の文化政策を比較することにより、それぞれの国の歴史や社会、文化と密接に関与し、それを反映しながら発展する文化政策の動的な性質に着目します。 また、授業では文化政策の対象とその意義を理解するとともに、日本の文化政策の歴史を主体別に分けつつ考察します。 各国がどのような理念のもと文化政策を行い、どのような施策・事業を実施しているのか、その政策目的や手段の違い、あるいは共通点を比較検討することにより、文化政策の多様なあり方についての理解も深めます。

〔到達目標〕
日本の文化政策のみならず、海外の文化政策を知り、相対的、客観的な視点から、文化政策を考察できるようになるために、以下の視座を獲得することを目指します。
①日本の文化政策の歴史と主体別の特徴を理解し、自分自身もその主体であることを自覚する。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴が分かる。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2 および DP3 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、本授業で扱う「文化政策」の概念等について説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	諸外国の文化政策（１） 【内容】 フランスの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、フランスの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	諸外国の文化政策（２） 【内容】 イギリスの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、イギリスの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	諸外国の文化政策（３） 【内容】 ドイツの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、ドイツの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	諸外国の文化政策（４） 【内容】 アメリカの文化政策	【予習】教科書や資料を読み、アメリカの文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	諸外国の文化政策（５） 【内容】 韓国の文化政策	【予習】教科書や資料を読み、韓国の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	諸外国の文化政策（６） 【内容】 グループワーク：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策についてグループで調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第８回	諸外国の文化政策（７） 【内容】 グループワーク：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策についてグループで調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第９回	諸外国の文化政策（８） 【内容】 グループワーク：世界各国の文化政策	【事前準備】講義でとりあげた国以外の、諸外国の文化政策についてグループで調べ、発表資料を準備しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第１０回	日本の文化政策（１） 【内容】 国家による関与の時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	日本の文化政策（２） 【内容】 地方自治体が独自性をめざした時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	日本の文化政策（３） 【内容】 NPO の可能性が模索された時代	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	日本の文化政策（４） 【内容】 文化政策の現在	【予習】教科書や資料を読み、日本の文化政策の特徴を考察しておく。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60

24/2/9 18 時 41 分

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

第１４回	これからの文化政策 【内容】 理想の文化政策について考える	【予習】全授業を振り返り、疑問点を整理しておく。 【復習】本授業を通して学んだ諸外国、そして日本の文化政策の全体像を復習しつつ、自身がその主体であることを自覚する。	60

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
グループワークを通して調査研究や比較研究の実践を経験する。
毎授業の最後には小テストを実施し、知識の定着度を確認する。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、アカウントの不正使用、テストにおける不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%
グループワーク：20%
小テスト：10%
期末レポート：20%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_to

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①日本の文化政策の歴史と主体別の特徴を理解し、説明できるか。
②各国の文化政策の目的やその変遷、具体的な政策手段の特徴を理解し、説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
『みんなの文化政策講義―文化的コモンズをつくるために』、藤野一夫、本体¥2,700＋税、9784880655192
文化庁「諸外国の文化政策に関する調査研究」、https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kaigai_seisaku.html
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	アート・アドミニストレーション						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本科目では、日本におけるアート・アドミニストレーション（以下、アートマネジメント）の歴史や、その諸領域、存在意義、適用範囲について概説します。また、芸術文化組織を取り巻く環境とその組織特性に着目し、行政や企業、実演団体、中間支援組織、アート NPO などの実例を紹介しながら、日本のアートマネジメントの現状と課題について考察を深め、アートマネジメントの基礎的知識を学びます。

〔到達目標〕
アートマネジメントの基礎知識を身につけ、以下の視座を獲得することを目指します。
①芸術文化にかかわる組織とそれらを取り巻くさまざまな関係性や制度を理解できる。
②その運営に必要となる基礎知識を得る。
③自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP3、および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方について説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	アートマネジメントとは（１） 【内容】 アートマネジメントの具体的な展開と今日的な意義について概観する。	【予習】アートマネジメントとは何か、自分なりにイメージしてみる。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	アートマネジメントとは（２） 【内容】 芸術・人間・社会の関係性について、歴史的に概観する。	【予習】身の回りの「アートマネジメント」を探してみる。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	芸術文化と市場経済 【内容】 経済活動としての芸術文化について概観する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	芸術文化と組織経営 【内容】 アートマネジメントと非営利組織の関係性について概観する。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	推進・支援組織とアートマネジメント（１）：行政と文化財団 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな非営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	推進・支援組織とアートマネジメント（２）：中間支援組織 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな非営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	推進・支援組織とアートマネジメント（３）：アート NPO 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな非営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	推進・支援組織とアートマネジメント（４）：企業 【内容】 アートマネジメントを取り巻くさまざまな営利組織の特性について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	アートマネジメントの実践事例（１）：ミュージアム（博物館・美術館等） 【内容】 ミュージアムの概要と推進・支援組織について概観し、その実践事例について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	アートマネジメントの実践事例（２）：公立文化施設 【内容】 公立文化施設の概要と推進・支援組織について概観し、その実践事例について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	アートマネジメントの実践事例（３）：アートプロジェクトや芸術祭 【内容】 アートプロジェクトや芸術祭の概要と推進・支援組織について概観し、その実践事例について学ぶ。	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	到達度確認テスト 【内容】 授業で扱った内容に関するテストを実施する。	【予習】授業で扱った内容について復習してテストに備える。 【復習】テストで解答できなかった問題について、該当授業資料や講義内容のメモ等で復習する。	120

第１４回	到達度確認テストの振り返り・解説 【内容】 テストの解答について振り返りと解説をおこなう。	【予習】テストで解答できなかった問題について、該当授業資料や講義内容のメモ等で再確認する。 【復習】興味関心をもった推進・支援組織について調査し、レポート執筆をおこなう。	120

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
授業内で到達度確認テストを実施し、知識の定着度を確認する。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、アカウントの不正使用、テストにおける不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%
平常点（到達度確認テスト）：20%
期末レポート：30%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①芸術文化にかかわる組織とそれらを取り巻くさまざまな関係性や制度を理解できているか。
②その運営に必要となる基礎知識を得ているか。
③自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
身の回りの芸術文化を取り巻く組織や制度などに目を向け、アートマネジメントの実例を探してみる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	地方自治体の文化行政						
教員名	槇原　彩						
科目№	125541120	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
本科目では、地方自治体の文化行政をテーマに、日本において各地方自治体がどのような文化行政をおこなっているのかを歴史的に振り返り、その基礎的知識や理解を深めます。また、各地方自治体の芸術文化振興条例や計画、それに基づく取り組みなどを概観し、なぜ芸術文化を振興するのか、「公」と芸術文化の関係性を紐解きます。

〔到達目標〕
地方自治体の文化行政が対象とする領域を理解し、芸術文化活動と地方自治体の関係性について考察を深め、以下の視座を獲得することを目指します。
①行政による取り組みを知る。
②文化行政の内容を理解する。
③行政と市民、そして芸術文化のより良い関係性の構築について考察する。
これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP5 を実現します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、「地方自治体文化行政」の概要等を説明する。	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60
第２回	地方自治体の基礎 【内容】 行政とは、地方自治とは	【予習】地方自治体の文化行政について考える。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	地方自治体の文化行政（１） 【内容】 国による文化政策との関係	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	地方自治体の文化行政（２） 【内容】 社会教育と芸術文化、教育委員会と首長部局	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	地方自治体の文化行政（３） 【内容】 地方の時代・文化の時代、行政の文化化	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	地方自治体の文化行政（４） 【内容】 社会の基盤としての文化	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第７回	地方自治体文化行政の現在（１） 【内容】 地方自治体と外郭団体	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第８回	地方自治体文化行政の現在（２） 【内容】 地方自治体と文化施設（博物館、美術館、劇場等）、指定管理者制度	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	地方自治体文化行政の現在（３） 【内容】 地方自治体と芸術祭（アートプロジェクト）	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	地方自治体文化行政の現在（４） 【内容】 地方自治体と文化振興条例・計画	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを振り返り、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	ディスカッション 【内容】 「地方自治体（公）と芸術文化の関係性」に関連するテーマについてグループでディスカッションする。	【予習】今までの講義内容のメモを振り返り、ディスカッションで自身の考えを述べられるよう知見を深めておく。 【復習】ディスカッションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１２回	グループワーク（１） 【内容】 地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションでグループと自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１３回	グループワーク（２） 【内容】 地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションでグループと自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120
第１４回	グループワーク（３） 【内容】 地方自治体の文化振興条例や計画を調査し、どのような取り組	【予習】プレゼンテーションの準備をする。 【復習】プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	120

	みがなされているかをまとめ、プレゼンテーションでグループと自身の見解を論理的に説明する。ディスカッションに参加する。		

〔授業の方法〕
授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。
また、グループワークを通して、調査研究の実践を経験し、プレゼンテーションのノウハウを獲得、知識の定着を図る。
最終的に期末レポートを執筆し、自身の考察を論理的に整理する。
※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。
※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。
※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、アカウントの不正使用における不正が発覚した場合は、成蹊大学の規定に準じた対応をとる。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：40%
グループワーク：30%
期末レポート：30%
※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの 「注意事項」を要参照のこと。
※ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学における ChatGPT 等の生成 AI 利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_topics/2023/

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①行政による取り組みを理解できているか。
②文化行政の内容を理解できているか。
③行政と市民、そして芸術文化のより良い関係性の構築について考察し、自らの考えを言語化できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
生まれた地域や、育った地域などの自治体について改めて振り返ってみる。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
『アーツ・マネジメント概論』、小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、本体 3,000 円＋税、9784880652191
『自治体文化行政レッスン５５』、小林真理 監修・編、美学出版、本体 2,200 円＋税、9784902078701
『分権時代の自治体文化政策―ハコモノづくりから総合政策評価に向けて』、中川幾郎、勁草書房、本体 2,400 円＋税、9784326301416
『基礎自治体の文化政策―まちにアートが必要なわけ』、藤野一夫/文化・芸術を活かしたまちづくり研究会 編著、水曜社、本体 2,700 円＋税、9784880654782
『芸術祭と地域づくり―“祭り”の受容から自発・協働による固有資源化へ』、吉田隆之、水曜社、本体 2,700 円＋税、9784880654720
『芸術祭の危機管理―表現の自由を守るマネジメント』、吉田隆之、水曜社、本体 2,500 円＋税、9784880654874
※購入の必要なし
※その他、授業内で使用する文献や資料は、必要に応じて紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	文化政策と法						
教員名	小林　真理						
科目№	125541130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
近年（2017 年、2018 年）、文化政策に関する重要な法律に関して改正が立て続けに行われた。文化芸術基本法、そして文化財保護法の一部改正は、文化そのものの振興、指定文化財の保存だけでなく、福祉や教育、観光、外交といった幅広い分野との連携が期待されている。この改正は、これまでの法律とどのような点が異なり、どのような点が変わらず維持されていることなのか。文化に関わる個別法は、戦後文化財保護法を筆頭として、それぞれの領域の課題を解決するために制定され、改正されてきた。文化政策は、国および地域（あるいは人類）の文化を振興（そのために保護）することを通じて国民を豊かにすることを目的とするものであり、文化の創造・振興（普及）・保護を対象とする政策領域である。これらを実現していくために、様々な関連の法律が存在している。法律は、単なる規範ではなく、よりよい文化社会の実現に資するものでなくてはならない。法律を十分に使いこなしていく、あるいは、実態とかけ離れていることがあれば改正をしていく必要もある。先にあげた今回の法律改正を契機に、改めて文化政策に関連する法律が、これまでどのような意味を持ち（どのような問題を孕み）、これからどのような方向性が目指されていくのかということを体系的に明らかにするのが本講義の目的である。

〔到達目標〕
公共政策における文化政策がどのような法律や、そこに含まれる原則や価値によって動いているのかを理解する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	本講義の受け方と知っておかなければならない基本的な知識（法律の構造と、法律の読み方）、憲法と国際条約の枠組みを知る。	法律に使われる用語等について、基本的な知識を復習する。	120
第２回	文化政策の基礎となる法 1−（1）文化芸術基本法（1）	文化芸術基本法が制定される経緯について、学び復習する。	60
第３回	文化政策の基礎となる法 1−（2）文化芸術基本法（2）	文化芸術基本法の内容について、理解を深める。	60
第４回	文化政策の基礎となる法 2−（1）著作権法（1）	著作権法の法律の全体像を理解する。	60
第５回	文化政策の基礎となる法 2−（2）著作権法（2）	著作権法の現代的課題について理解する。	60
第６回	文化政策の基礎となる法 3−（1）文化財保護法（1）	文化財保護法が制定される経緯について理解した上で、法の全体像を理解する。	60
第７回	文化政策の基礎となる法 3−（2）文化財保護法（2）	文化財保護法の展開について、現代的課題を理解する。	60
第８回	文化政策の場・組織を支える法 1 文化政策における法人論	文化政策を担う法人がどのおような法律によって規定されるかを理解する。	60
第９回	文化政策の場・組織を支える法 2 公立文化施設に関する法ー PFI、指定管理者制度、コンセッション等	公立文化施設に関する法についての多様な法律を理解する。	60
第１０回	文化政策の場・組織を支える法 3 社会教育関連法ー公民館、図書館に関する法律	公民館、図書館に関する法律について理解をする。	60
第１１回	文化政策の場・組織を支える法 4 博物館に関する法律	博物館法、その他関連法について理解する。	60
第１２回	文化政策の場・組織を支える法 5 興行場法、劇場法	舞台芸術関係を扱う施設に関する法律を理解する。	60
第１３回	社会の多様性と向き合うための法 1 障害者文化芸術活動推進法、日本語教育推進法	障害者文化芸術活動推進法・日本語教育推進法成立の経緯と運用について理解する。	60
第１４回	社会の多様性と向き合うための法 2 アイヌ施策推進法	アイヌ施策推進法が制定される経緯と運用について理解する。	60

〔授業の方法〕
講義形式で、理解度を測るためのコメントシートの提出、小テストや小レポートを課します。なお、法律の条文を参照することが必要になるので、それらを参照するための準備は必要になります。インターネットにアクセスできる状態か、あるいは事前に次回扱う法律名を伝えますので法律の条文が参照できるように準備をしてほしいと思います。なお、授業の進捗によっては、扱う法律が前後する場合があります。

〔成績評価の方法〕

コメントシート等、平常での課題の提出状況 50%。最終的な試験を 50%で評価をします。履修人数が少ない場合は、最終試験をレポートに変更することがあります。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
一般教養として、法学の授業を受けたことがあることが望ましい。

〔テキスト〕
小林真理、小島立他『法から学ぶ文化政策』（有斐閣）
定価 2,640 円（本体 2,400 円）
ISBN 978-4-641-12630-5

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	舞踊論						
教員名	外山　紀久子						
科目№	125541140	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
舞踊は「諸芸術の母」と言われながら、現在の私たちにとっては芸術というより、むしろ芸能、娯楽、教育、セラピーといった様々な領域にまたがるハイブリッドな営みと見なされています。この授業では、舞踊／ダンスとは何だろう？　果たして人はいつ「踊っている」と言える状態に入るのだろう？　という素朴な問いを巡って、舞踊とその隣接領域との関係を参照しながら、踊ることの意味や効能について考えていきます。

〔到達目標〕
舞踊についての基本的な概念を検討し、芸術および社会全般の中での舞踊の位置についての理解を深めます。舞踊と非舞踊の境界で実験を繰り返した 1960 年代のポストモダンダンスや関連分野の事例を中心に、同時代のアートとの関係を含め、現代芸術の多様なあり方に関する知識と見方を獲得します。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロがクション（概要紹介）　～ダンスとは何か？　：○○から○○まで　～「今こそ歌舞音曲」	事前にシラバスに目を通しておくこと。授業後には授業内容を振り返り、疑問点をまとめておく。	６０分
第２回	「芸術」の二つの機能　～テクネーとムーシケー　～２０世紀後半以降の芸術／芸術家像の変化	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第３回	境界例としての「ポストモダンダンス」　～舞踊史上のコンテキスト：バレエ／モダンダンス　～同時代アートとの関連：イヴォンヌ・レイナー	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。授業時に紹介した動画を視聴する。	８０分
第４回	芸術としてのダンス（dance for art）から生きるためのダンス（dance for life）へ　～アナ・ハルプリンの転換	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。授業時に紹介した動画を視聴する。	６０分
第５回	舞踊／西洋の外部に由来する身心変容技法の取り込み　～トリシャ・ブラウン、デボラ・ヘイ、スティーヴ・パクストン他	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第６回	歩行とダンス　～パクストン、レイナー、デヴィッド・ゴードン他	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。適宜授業時に紹介した動画を視聴する。	８０分
第７回	歩行とアート　～リチャード・ロング、ハミッシュ・フルトン、ポーリン・オリヴェロス他	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。講義前半を通しての質問を用意する。	６０分
第８回	歩行と実験演劇　～グロトフスキ、エウジェニオ・バルバと能	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第９回	「ダンス状態」と動物身体　～シモーン・フォルテイ	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。授業時に紹介した動画を視聴する。	６０分
第１０回	「気」の身体　～エネルギー・アートとしてのダンス	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第１１回	芸能の起源神話が示すもの　～鎮魂（タマフリ＆タマシズメ）	授業時に配布するプリント資料を読み、授業の内容を確認し、疑問点を明らかにする。	６０分
第１２回	場の転換、エネルギー状態の変化　～ピナ・バウシュ、田中泯、マース・カニンガム他	授業時に紹介した動画を視聴し、適宜感想や疑問点をノートする。	６０分
第１３回	劇場芸術の「現前」問題と他界通信　～大野一雄、大野慶人、ハルプリン他	授業の内容を振り返り、疑問点を明らかにする。授業時に紹介した動画を視聴し、適宜感想や疑問点をノートする。	６０分
第１４回	まとめと補い	講義全体について振り返り、授業時に質問する準備をする。授業後は課題レポートに着手する。	１２０分

〔授業の方法〕
講義形式。適宜小グループでのディスカッションを行います。課題レポートは授業に関連する範囲で自由にテーマを設定して論述する方式となります。発想、論理展開、構成、書誌情報の記載などが評価されます。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業時に随時行うアンケートへの回答など、授業への参加状況）（４０%）、期末レポート（６０%）

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
購入の必要なし（随時プリント資料を配布します)。

〔参考書〕
購入の必要なし（授業時に紹介します）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	上演芸術論						
教員名	李　知映						
科目№	125541160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
本科目では、近代から現代にかけての日本演劇をテーマに、授業では明治維新以降から現代に至る日本の舞台芸術作品を講義と映像を通して概観します。多様な日本の演劇作品を参照しながら、現代の舞台芸術について理解を深めます。

〔到達目標〕
DP2 及び DP 6 を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解を深める。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解を深める。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	オリエンテーション ・授業の全体像、進め方、学習・復習の仕方等を説明する。 ・舞台芸術の魅力とは？	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	30
第２回	開国、明治時代：「西洋演劇」の輸入	【予習】文化芸術に係る法律について調べる 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第３回	新劇の誕生	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第４回	宝塚	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第５回	1960 年代　寺山修司	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第６回	1960 年代　暗黒舞踏	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120
第７回	小テスト① 現代演劇と伝統芸能	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。1 回～6 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	120
第８回	1970 年代　高度経済成長：つかブームほか	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第９回	1980 年代　バルブ経済の時代：野田秀樹の登場	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１０回	1990 年代　バブル崩壊：静かな演劇？	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１１回	2000 年代　ロスト・ジェネレーション世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１２回	2010 年代　１０（テン）世代の演劇	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第１３回	上演芸術の未来	【予習】次週テーマに関する情報を収集及び読解する。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。	120
第１４回	小テスト② まとめ及びフィードバック	【予習】7 回～13 回までの授業内容を十分に復習し、小テストに備える。 【復習】授業全体の内容を振り返る。	90

〔授業の方法〕
授業は講義式を中心に進めるが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。また、2 回の小テストと 1 回の課題の実施を通じて、知識の定着を図る。
＊外部からの実演家を招聘することも検討している。

〔成績評価の方法〕

成績は平常点によるもの。具体的には小テスト（2 回：30%）や課題（20%）、授業への参加度・積極性等（50%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
①現代の日本演劇の多様な形式を研究することで舞台芸術についての理解しているか。
②多様な舞台芸術作品の事例を分析、研究し、作品が作られた時代背景、社会状況などについての理解しているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にないが、上演芸術に興味を持っていること。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
必要に応じて授業中に紹介する。さらに、授業のなかで関連資料を配る乃至コースパーワに上げておく。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	写真論						
教員名	調　文明						
科目№	125541190	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
インターネットや SNS の普及により、写真はコミュニケーションツールのひとつとして私たちの日常生活に欠かせない「お手軽」なメディアとなっています。しかし、その一方で、写真誕生から 200 年弱の比較的短い歴史ながら、写真が担い果たしてきた役割や機能はきわめて「重厚」でもあります。そこで、本講義では写真の歴史に沿いつつ、写真（論）の基本的な要素（光化学/機械/複製/身体/私など）について各回テーマを設定し、具体的な写真映像を様々に挙げながら詳しく検討していきます。

〔到達目標〕
DP2（教養の修得）を達成するために、19 世紀前半から始まる写真の歴史についての基礎知識を習得しつつ、写真（論）の基本的な要素について具体的な写真映像の分析・考察も交えながら学ぶことで、写真映像一般についての教養と実践的な力を身につけることを目標とします。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	イントロダクション 授業キーワード：初回授業はなし	【予習】シラバスを通覧したうえで、関心を抱いたテーマや内容について図書館やインターネットを利用して事前に調査しておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	60 分
第２回	新しい象り方：手から光へ 授業キーワード：ネガティブ・ハンド/聖骸布・聖顔布/『博物誌』	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第３回	光の装置：カメラ・オブスクラとマジック・ランタン 授業キーワード：小穴投影/一眼レフカメラ/ファンタスマゴリア	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第４回	写真の一多性：ダゲレオタイプとカロタイプ 授業キーワード：ハロゲン化銀/ダゲールとタルボット/ネガポジ法	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第５回	記録としての写真：国益の視点から当事者の視点まで 授業キーワード：ロジャー・フェントンとクリミア戦争/ルイス・ハインと児童労働/SNS の現場写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第６回	表現としての写真：画家の目と機械の眼 授業キーワード：シャルル・ボードレール「1859 年のサロン」/写真は光の造形である/フォト・アウゲ（写真眼）	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第７回	写真論小史Ⅰ 授業キーワード：アウラの消失/コードなきメッセージ/中間芸術	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第８回	写真と複製：現代アートと複製技術の交叉 授業キーワード：マルセル・デュシャンの《泉》/アンディ・ウォーホルとシルクスクリーン/シミュレーショニズム	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第９回	写真と複製：御真影とうつし 授業キーワード：寿像と遺像/六大巡幸/エドアルド・キヨッソーネ	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１０回	写真と身体：ファッション誌における女性表象 授業キーワード：『Harper's BAZAAR』と『VOGUE』/ストリートファッション・スナップ/SNS のセルフィ―	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１１回	写真と身体：肖像と生＝性 授業キーワード：ケネス・クラークの nude と naked/身体とLGBTQ/《イントラ・ヴィーナス》とセルフヌード	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１２回	写真と私：私写真とはなにか 授業キーワード：私小説と私写真/深瀬昌久と荒木経惟/洋子と陽子	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１３回	写真と私：なりきること 授業キーワード：オリジナルとコピー/ジャン・ボードリヤール『シミュラークルとシミュレーション』/ヴァナキュラー写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいてください。	90 分
第１４回	写真論小史Ⅱ 授業キーワード：プンクトゥムと個別学/アラン・セクーラ「身体とアーカイブ」/デジタル写真	【予習】授業キーワードを調べておき、授業前に事前配布したレジュメにしっかりと目をとおしておいてください。 【復習】配布した資料・レジュメやノートを見直しておいて	90 分

		ください。	

〔授業の方法〕
対面による講義形式を中心に、WebClass もしくは Discord といったソーシャルネットワークツールを用いて授業内の質疑応答も交えながら授業を行う予定です。各回ごとに事前に授業資料を配布し、授業の最後にはリアクションペーパーを提出してもらいます。

〔成績評価の方法〕
平常点（リアクションペーパー、授業内の質疑応答）：30%
期末レポート：70%
上記を基準に総合的に評価します。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
写真論の基本的な要素を理解したうえで、様々な時代、国、領域などに登場する写真映像を分析する際に、そうした要素を的確に召喚し考察の手立てとすることができるのか、その理解度・達成度を軸に評価します。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。
授業資料を配布します。

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育概論						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551110	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
「日本語教員養成コース」への入り口の一つとして、日本語教育科目全体を俯瞰（ふかん）する。　コミュニケーション能力・対人スキルを高め、学習における自主性、自律性を促すために、グループ活動を多用する。授業への出席は義務であるため、公欠に該当しない理由で欠席しないように自己管理に努めること。

〔到達目標〕
DP4-1（自分の意見や考えを、外に向けて的確かつ味わい深く発信できる豊かな表現力を身に付けている。）DP5-1（多様な人々と協働して課題解決に取り組んだ経験を通じて、多様な価値観を受容し、協調性やコミュニケーション力を身に付け、チームの中で自分の役割を的確に果たすことができる。）
・日本語教育の現状、日本語教育が目指すもの、日本語学習者について簡単な説明ができる。
・外国語としての日本語の特徴について簡単な説明できる。
・教室で指された時、発表する時は、聞き手の顔を見て、教室にいる者全員に届く声で話す「先生モード」に切り換える。
・日本語教員養成コースを修了するまでの心構えを構築できる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；日本語教員に求められる資質；国内の日本語教育；外国人の受入れ	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第２回	海外の日本語教育；言語政策の現在・過去・未来	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第３回	日本語教育の教材；日本語試験；市販教材の著作権	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第４回	移民先進国の取り組み；グローバル・コミュニケーション計画	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第５回	異文化間コミュニケーション論（１）マイクロアグレッション・差別・偏見	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第６回	異文化間コミュニケーション論（２）U 字曲線；文化のカテゴリー化	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第７回	自分の外国語に見る言語知識・技能の獲得；学習者の日本語	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第８回	日本語の音声（１）声帯振動・子音の調音点・子音の調音法	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第９回	日本語の音声（２）アクセント・イントネーション・プロミネンス	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１０回	日本語の文字・表記：50 音と拡大 50 音	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１１回	日本語の形態論：語内部の構造	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１２回	日本語の統語論：句内・文内の構造	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60
第１３回	日本語の意味体系	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60

第１４回	日本語の語用論	１．事前学習（該当する週のみ） ２．復習 ２．グループ活動の分担作業（該当する週のみ） ３．翌週のクイズの準備	60

〔授業の方法〕
グループワークを中心とした参加型の授業です。受講者が主体的に学び、講師はその手助けをします。

〔成績評価の方法〕
平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第 5 版（2021）ヒューマンアカデミー ¥3,520
ISBN-10 ： 4798167193
（本テキストは、「日本語教授法」の使用テキストを兼ねている。）

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
Course Power で周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育方法論						
教員名	小田切　由香子						
科目№	125551120	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
テーマ：日本語教育に必須の理論を実践を通じて理解する
毎回授業の 45 分間、オンラインで初級外国人学習者に 1 対 1 または 1 対 2 で日本語会話指導を行う。
授業の残りの時間は指導に関わる知識、理論、技術を必要に応じて学び、同時に教師の成長に必須の
「省察力」を養うために「ふりかえり」を書く。この「ふりかえり」には第三者である担当講師が
コメントなどによりプロの実践家として関わり,学生の「教師としての成長」を支援する。
＊オンライン会話指導はクラスを 14 名のグループに分け、14 名がペアとなり 7 名の学習者に 2 対 1 で指導。
１つのグループは３回連続して指導する。ただし、協力してくれる外国人学習者の数により変更することが
ある。

〔到達目標〕
DP1-1（専門分野の知識・技能）、DP4-1（表現力、発信力）、DP-5（多様な人々との協働、コミュニケーション＋協調性＋チームワーク）
上記を目的として、以下のことができるようになる。
・コミュニケーションを通じて日本語コミュニケー宝もの本を教えるという日本語教育の特性を理解できる
・日本語教育の実践に関わる諸事情（授業の組み立て、教材分析と作成など）を理解し日本語教師養成段階に必要な資質・技術・態度を身につけることができる。＊必要な資質、技術、態度の詳細については「日本語教師養成・研修のある方　改訂版」を参照のこと。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション 日本語教員い期待される役割等について	予習：文化庁資料「養成・研修のあり方」の養成に必要な資質、技能、態度を読んでおく	60 分
第２回	G1 によるオンライン会話指導１ グループでふり帰り 学習者が理解できる文法、語彙を知る	予習：学習者が学ぶ教科書『みんなの日本語初級』で、学習者が勉強した課までに出ている語彙、文法を自分でチェックする。	60 分
第３回	オンライン会話指導 2(自分の指導を録画して、３分間の会話を切り取り文字に起こす) ・アクションリサーチと会話分析につてい	予習：アクションリサーチについて調べておく	60 分
第４回	オンライン指導 3 ・日本語参照枠について	予習：日本語参照枠について調べておく	60 分
第５回	G２によるオンライン指導１ ・異文化トレランスについて	予習：異文化トレランスについて調べておく	60 分
第６回	オンライン会話指導 2(自分の指導を録画して、３分間の会話を切り取り文字に起こす) ・技能別言語運用能力と指導について	予習：技能別言語指導について調べておく	60 分
第７回	オンライン指導 3 ・訂正とフィードバックについて	予習：学習者の間違いの訂正の方法について調べておく	60 分
第８回	G３によるオンライン会話指導１ 学習者が理解できる文法、語彙を知る	予習：学習者が学ぶ教科書『みんなの日本語初級』で、学習者が勉強した課までに出ている語彙、文法を自分でチェックする。	60 分
第９回	オンライン会話指導 2(自分の指導を録画して、３分間の会話を切り取り文字に起こす) ・ARCS モデルについて	予習：ARCS モデルについて調べておく	60 分
第１０回	オンライン会話指導３ ・外国語教授法と実践への応用	予習：外国語教授法について調べておく	60 分
第１１回	自作教案と教材によるオンライン会話指 G1 ・シラバスについて	予習：シラバスについて調べておく	60 分
第１２回	自作教案と教材によるオンライン会話指 G2 ・評価について	予習：評価について調べておく	60 分
第１３回	自作教案と教材によるオンライン会話指 G3	予習：評価について調べておく	60 分
第１４回	第１回から実践したこと、学んだことをワークシートでふりかえりながら整理する。	予習：これまで自分が書いてきた「ふりかえり」を読み直す。授業のノートを読み直す。	60 分

〔授業の方法〕

zoom によるオンライン会話指導をしますから、指導担当者は必ず PC を準備してください。
指導見学者はスマホでも構いません。
理論学習はグループワークも含みます。
指導担当者は指導後「ふりかえり」を書きます。見学者も見学シートを書きます。
テストはありません。

〔成績評価の方法〕
ふりかえり　50%, 宿題 20%, ワークシート 10%, 平常点 20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。時間がある人は日本語の教科書『みんなの日本語初級』I と II、英語文法解説を読んでおいてください。

〔テキスト〕
必要に応じてプリントを配布

〔参考書〕
ヒューマンアカデミー著「日本語教育能力検定試験　完全攻略ガイド　第５版」SHOEISHA、文化庁資料、法務省資料

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。
メールも受け付けます

〔特記事項〕
zoom によるオンライン指導の方法を学ぶ、現場に合ったやさしい日本語運用方法を学ぶ

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教育事情						
教員名	小田切　由香子						
科目№	125551140	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
毎回授業の 45 分間、オンラインで初級外国人学習者に 1 対 1 または 1 対 2 で日本語会話指導を行う。
授業の残りの時間は指導に関わる知識、理論、技術を必要に応じて学び、同時に教師の成長に必須の
「省察力」を養うために「ふりかえり」を書く。この「ふりかえり」には第三者である担当講師が
コメントなどによりプロの実践家として関わり学生の「教師としての成長」を支援する。
＊オンライン会話指導はクラスを 14 名のグループに分け、14 名がペアとなり 7 名の学習者に 2 対 1 で指導。1 つのグループは 3 回連続して指導する。＊協力してくれる外国人学習者の数により授業を変更することがあります。
毎回の授業に PC を持ってきてください。

〔到達目標〕
DP1-1(専門分野の知識・技能) DP4-1（表現力・発信力）DP-5（多様な人々との協働　コミュニケーション+協調性＋チームワーク）
上記を目的とし、以下のことができるようになります。日本語教育の実践に関わる諸事情（コースの準備、授業の組み立て、授業の展開、評価）を理解し養成段階に必要な資質・技術・態度を身につける。
・コミュニケーションを通じてコミュニケーションを教える技術を習得する。
・日本語および学習者の言語・文化に対する知識を得て、それを教材作成に反映させ文化を双方向的に学ぶ技術を習得する。
・内省的実践家としての教師がどのようなものか理解する

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション： 日本語教員に期待される役割、共に学ぶ姿勢について 授業実施サイクル、構成、目標設定、 教案と教材について	予習：日本語教員の役割について調べる。教案について調べる、zoom について調べる	60 分
第２回	オンライン会話指導 1（G1） 『みんなの日本語初級』を分析して学習者の既習項目について把握する。	予習:『みんなの日本語初級』を読んで、学習者が学んだ文法、語彙を把握する	60 分
第３回	オンライン会話指導 2（G1)指導担当者は自分の指導を録画し、その中の３分間文字起こしし、指導者としての日本語が正しいか分析する 会話分析について	予習：会話分析について調べる	60 分
第４回	オンライン会話指導 3（G1） 「初級・中級・上級」について 日本語参照枠	予習：日本語参照枠について調べる	60 分
第５回	オンライン会話指導 1（G2） 技能実習生への日本語教育について	予習：技能実習生について調べる	60 分
第６回	オンライン会話指導 2（G2)指導担当者は自分の指導を録画し、その中の３分間文字起こしし、指導者としての日本語が正しいか分析する web 教材について	予習：文化庁の日本語教材コンテンツを読む	60 分
第７回	オンライン会話指導 3（G2） 地域日本語教育について	予習：地域日本語教育について調べる	60 分
第８回	オンライン会話指導 1（G3） 会話教材について	予習：会話教材について調べる	60 分
第９回	オンライン会話指導 2（G3)指導担当者は自分の指導を録画し、その中の３分間文字起こしし、指導者としての日本語が正しいか分析する 日本事情を扱う教材について	予習：日本事情について調べる	60 分
第１０回	オンライン会話指導 3（G3） ワークショップ「外国語教授法と実践への応用」	予習：外国語教授法について調べる	60 分
第１１回	自作教案と教材によるオンライン会話指導（G1） 学習者のニーズとシラバスについて	予習：ニーズとシラバスについて調べる	60 分
第１２回	自作教案と教材によるオンライン会話指導（G2） 日本語教育で使われるテストについて	予習：日本語能力試験について調べる	60 分
第１３回	自作教案と教材によるオンライン会話指導（G3） コミュニケーション能力評価について	予習：文化庁報告書で「技能実習生に教える日本語教員に必要な知識・技能 態度」の表を読む	60 分
第１４回	第 1 回から 13 回までのまとめと整理をワークシートを使ってやる	予習：日本語教育能力検定について調べる	60 分

〔授業の方法〕
zoom を使ったオンライン日本語会話指導を毎回します。指導担当者は指導後「ふりかえり」を書きます。
指導見学者もこちらの指示が出た時に見学シートを書きます。
テストはありませんが、第１１回授業より自分で授業計画をたて、教材も準備して指導にあたります。
どこまで丁寧に指導に取り組めるかが評価の大きな観点となります。
テストはありません。

〔成績評価の方法〕
ふりかえり 50%、宿題 20%、ワークシート 10%、平常点 20%（どこまで指導に丁寧に取り組んだか、授業での気づきを実践しているか等）10%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません

〔テキスト〕
必要に応じてプリント配布

〔参考書〕
必要に応じて紹介します

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
実践的、zoom を通じたオンライン会話指導、やさしい日本語創出力、チームワーク

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	言語学講義（言語と社会）						
教員名	八木橋　宏勇						
科目№	125551150	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕

本講義で主として扱う「認知言語学」(cognitive linguistics)「社会言語学」(sociolinguistics)「語用論」(pragmatics) は、言語に関わる諸問題を認知や社会との関係で追求する言語学の分野である。音声学・音韻論・統語論・意味論など、言語の諸側面を個別に切り出し、長らく分業制を敷いて行われてきた言語学において、認知言語学・社会言語学・語用論は比較的新しい研究の枠組みであり、扱う事象は統合的かつ広範にわたる。 これらは、言語を閉じた記号体系とは考えないことから、「開放系言語学」ということができる。

授業では、「ことばと社会」の関係性に関する理解をディスカッション（ないしはそれに類する）形式で深化させていく。この授業を通して、開放系言語学の基本概念をしっかりと身につけ、身の回りにある様々な言語現象を分析的に捉える視点を涵養してもらいたい。

なお、授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔到達目標〕

DP1-1（専門分野の知識・技能）、DP1-2（教養の修得）、DP-3（課題の発見と解決）、DP1-4（表現力、発信力）、DP1-6（自発性、積極性）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

① 開放系言語学の主要なトピックを学び、身の回りの言語現象を学問的に捉えられるようにする。
② 言語の社会性を理解し、語学を教える教員として必要な「言語現象を分析的に見る眼」を養成する。
③ 授業内のディスカッションを通して、相互に具体例を見つけ出し、分析し合い、的確に表現する経験を蓄積させることで、絶え間なく変容していく「ことばと社会」について自ら考え続ける素地を涵養する。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・予復習の仕方等を説明する。 ・「言語学の歴史と対照研究の動向」を把握する。	【予習】「はじめに」を熟読。	90
第２回	形式と意味 ・カテゴリー化と言語の関係を理解する。	【予習】第1章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第３回	言語と文化の相同性 ・言語と文化の関係を理解する。	【予習】第2章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第４回	言語とコンテクスト ・コンテクストの機能を理解する。	【予習】第3章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第５回	言語と身体性 ・身体性と言語の関係を理解する。	【予習】第4章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第６回	言語とアフォーダンス ・言語に見られるアフォーダンスの諸相を理解する。	【予習】第5章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第７回	ナラティブ考 ・コミュニケーション行為としての語りを理解する。	【予習】第6章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第８回	助言のディスコース ・談話の目的とパターンの関係を理解する。	【予習】第7章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第９回	サイバースペースコミュニケーション ・SNSを介したコミュニケーションについて理解を深める。	【予習】第8章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１０回	スモールトーク ・スモールトークと言語の交感的機能について理解を深める。	【予習】第9章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１１回	ポライトネス ・faceという概念を知り、positive / negative faceの観点から分析できる言語現象について理解を深める。	【予習】第3、11章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語での具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１２回	スポーツ・コメンタリー ・言語相対論の概略を把握し、言語現象を対照的に捉える手法を理解する。	【予習】第11章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語を含む具体例をできるだけ多く見つけ分析する。	90
第１３回	教室のディスコース ・談話の目的とパターンの関係について理解を深める。	【予習】第12章を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、バイリンガル教育の成否のポイントについてまとめる。	90
第１４回	ふりかえり－開放系言語学の今と、日本語教育の明日－ ・開放系言語学の全体像を再度確認し、その論点を日本語教育に活かす工夫を学修する。	【予習】「はじめに」を熟読。 【復習】授業で取り上げた重要概念を説明できるようにし、日本語教育に活かすポイントをまとめておく。	90

〔授業の方法〕

・主に講義形式で行われるが、毎回ディスカッション（グループワーク）や質疑応答を行う双方向のやり取りも実施する。したがって、予復習に加え、積極的な参加が求められる。
・各回のテーマや基本概念の知識・分析方法に関する理解を深めるため、予復習については、授業内で詳細に指示する。
・平常点として成績に組み込まれるレポートに関しては、認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックと日本語教育の接点に関する理解を測るテーマにする予定である。
・授業の進捗・履修者の理解や関心に応じて、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕
・学期末試験は実施しない。
・平常点（授業・ディスカッションへの参加状況等 50%、宿題レポート等の提出 50%）による総合評価を基本としつつ、講義中の発言や質問など授業への積極的な貢献をプラスに評価する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
次の点に着目し、その達成度により評価する。
① 認知言語学・社会言語学・語用論の主要なトピックおよび基本概念を正しく理解し、身の回りの言語現象を分析的に捉えられているか。
② 言語と社会の関係性を客観的に分析し、論理的に説明できるか。
③ ディスカッションに積極的に参加するとともに、他者の意見を踏まえ、自らの考えを適切に導くことができているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
予備知識は特に求めないが、学問を敬う心と、ことばに対する知的好奇心を持って取り組むことが重要である。

〔テキスト〕
『開放系言語学への招待―文化・認知・コミュニケーション―』、唐須教光編、慶應義塾大学出版会、2,640 円、ISBN：
978-4-7664-1549-0
※絶版の可能性あり。詳細は初回の授業で指示する。

〔参考書〕
『実例で学ぶ英語学入門』、多々良直弘・松井真人・八木橋宏勇、朝倉書店、2,900 円（ISBN：978-4254510720）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
・アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語の学習と習得						
教員名	川橋　葉子						
科目№	125551160	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
日本語教育に関して、教師として必要な習得、言語に関する知識を扱います。また、日本国内の日本語教育事情だけでなく、海外の日本語教育についても触れます。

〔到達目標〕
1．学習や第二言語習得に関する知識を得ることができる
2．実際の日本語教育現場における問題点に関する知識を得ることができる
3．グループワークを通し、仲間とのコミュニケーション技術、協働作業の方略を得ることができる
4．自分がこれまでに得た経験や知識を日本語教育に活かす技術が身に付く

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	ガイダンス 日本語教育について	事前にシラバス、課題を確認し、準備を行う	60 分
第２回	言語習得と発達（１）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第３回	言語習得と発達（１）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第４回	言語習得と発達（２）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第５回	日本語の構造（１）　日本語分析	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第６回	日本語の構造（２）　音声・音韻	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第７回	日本語の構造（２）　音声・音韻	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第８回	日本語の構造（３）　文字・表記	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第９回	日本語の構造（３）　文字・表記	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第１０回	日本語の構造（４）　語彙	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第１１回	日本語の構造（４）　語彙	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第１２回	海外の日本語教育（１）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第１３回	海外の日本語教育（２）	事前課題を読み、自分の意見をまとめる 宿題：課題提出	60 分
第１４回	まとめ	事前課題を読み、自分の意見をまとめる	60 分

〔授業の方法〕
グループワークを行います。
毎回課題があります。

〔成績評価の方法〕
平常点（授業への参加姿勢）　50%
課題提出　30%
小テスト　20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
プリントを配布します。

〔参考書〕
授業中に紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	言語の構造						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551170	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
この科目では、科学的な理論にもとづいたヒトの「コトバ」の仕組みについて学べます。授業形態は、学習における自主性、自律性を促すために、グループ活動を多用する。授業への出席は義務であるため、公欠に該当しない理由で欠席しないように自己管理に努めること。なお授業内容には、本年度前期開講の「対照言語学」と共通した項目があるが、本授業ではより高度の内容を取り上げる。

〔到達目標〕
DP1-1 【専門分野の知識・技能の修得】(各学科、各専攻の) 専門分野に関する知識・技能を修得している。
具体的には・・・・
・記述言語学の主要分野のいくつかを知ることができる。
・日本語教員に求められる言語一般に関する洞察力を身に付けることができる。÷
・日本語が多言語と共有する普遍性と多言語と一線を画す特質について簡単な説明ができる。
・学習者の母語についての観察力、洞察力を高めることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；アイスブレーキング（私のストラテジー）	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第２回	社会言語学（１）言語、方言、クレオール、ピジン	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第３回	社会言語学（２）ダイグロシア；待遇表現；非言語活動	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第４回	音声学（１）国際音声記号の産出と認識	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第５回	音声学（２）声帯振動；調音点；聴音法	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第６回	音声学（３）50 音と日本語音声学	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第７回	音韻論（１）音素と異音；音韻規則；弁別素性	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第８回	音韻論（２）音韻規則による般化の練習	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第９回	音韻論（３）音節とモーラ；弁別素性；音節構造に関する標準理論	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１０回	音韻論（４）弁別素性理論・標準音節理論に対するエレメント理論と厳密 CV 理論	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１１回	形態論（１）形態素；樹形図	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１２回	形態論（２）３言語への応用	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１３回	統語論（１）構成素；句構造規則；樹形図	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	60
第１４回	統語論（２）３言語の樹形図	Quiz の準備の他、講師が指示する予習・復習を行う。	30

〔授業の方法〕
理論を理解するために、実践的演習としてのグループ活動を多く行う。

〔成績評価の方法〕

平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/ A letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第５版（2021）ヒューマンアカデミー
（本参考書は、「日本語教育概論」と「日本語教授法」の使用テキスト、「対照言語学」の参考書として指定されている。）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
授業終了後に受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブ・ラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	対照言語学（日本語の特質と普遍性）						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551180	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 前期

〔テーマ・概要〕
文法体系、音韻体系が著しく異なる日本語（語族不明）、英語（印欧語族ゲルマン語派）、アラビア語（アフロ・アジア語族セム語派）を比較・対照する。授業形態は、学習における自主性、自律性を促すために、グループ活動を多用する。授業への出席は義務であるため、公欠に該当しない理由で欠席しないように自己管理に努めること。なお授業内容には、本年度後期開講の「言語の構造」と共通した項目があるが、本授業では日本語への応用を重視し、紹介する理論は安易なものに留めている。

〔到達目標〕
DP1-3 言語学の基礎的な概念及び理論を修得し、言語学の方法論を用いて英語や比較としての他言語の仕組みを分析し理解することができる。
DP2-2 日本語及び日本文学に関し、学科教育の基盤をなす諸学問分野の視点を組み合わせ、必要に応じさらに幅広い分野の知見を加えて、学際的かつ総合的に理解する力を備えている。
・記述言語学の主要分野のいくつかを知ることができる。
・日本語教員に求められる言語一般に関する洞察力を身に付けることができる。÷
・日本語が多言語と共有する普遍性と多言語と一線を画す特質について簡単な説明ができる。
・学習者の母語についての観察力を高めることができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；対照言語学とは；アイスブレーキング（私のストラテジー）	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第２回	音声学入門（国際音声記号・声帯振動・調音位置・調音法）	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第３回	歴史言語学（比較言語学）（１）インドヨーロッパ語族の発見；英語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第４回	歴史言語学（比較言語学）（２）アフロ・アジア語族セム語派；アラビア語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第５回	歴史言語学（比較言語学）（３）ジャポニカ語起源の諸説：日本語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第６回	音声学（１）英語；アラビア語	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第７回	音声学（２）日本語の 50 音と拡大 50 音	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第８回	社会言語学（１）言語、方言、クレオール、ピジン	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第９回	社会言語学（２）ダイグロシア；待遇表現；非言語活動	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１０回	音韻論（１）音素と異音	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１１回	音韻論（２）音韻規則	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１２回	形態論（１）形態素；樹形図	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１３回	統語論（１）構成素；句構造規則；樹形図	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60
第１４回	統語論（２）３言語の樹形図	Quiz の準備、及び講師が指示する予習・復習を行　うこと。	60

〔授業の方法〕
原則として講義形式で行うが、グループ活動もふんだんに行う。

〔成績評価の方法〕

平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第５版（2021）ヒューマンアカデミー
（本参考書は、「日本語教育概論」と「日本語教授法」の使用テキストとして指定されている。）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー)〕
ポータルサイトで周知する。
授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
アクティブラーニング

24/2/9 18 時 41 分
※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

科目名	日本語教授法						
教員名	吉田　昌平						
科目№	125551200	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2024 後期

〔テーマ・概要〕
日本語教授法の知識を得ることを目的としています。同時に日本語教員の役割も理解する。
実際に日本語教員が関わるショートビジットの留学生への対応などを課題として、
より実践的に日本語教育能力県的試験に出題される知識を学ぶように活動が組み立ててある。
また、知識を得ると同時に日本語教員に重要なコミュニケーション力を身につけられるように参加型の授業になっている。

〔到達目標〕
PD1-1(専門分野の知識・技能)、PD4-1（表現力・発信力)、PD5-1（多用な人々との協働　ミュニケーション＋協調性＋チームワーク）を実現するために、以下の項目を到達目標とする
1. 教授法に関する重要な用語を理解し覚えている。
2. 教授法について自分の意見が言える。
3. 学習者の目的に合わせて、適格な教授法、教材、学習環境を使った授業を計画することができる。
4. グループ活動で他人にまかせず、自分から積極的に動くことができる。

〔授業の計画と準備学修〕

回数	授業の計画・内容	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）
第１回	コース・オリエンテーション；直説法と媒介語の使用	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第２回	言語形式の理解；語用論；談話	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第３回	外国語教授法の歴史	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	120 分
第４回	日本語教育に採用された諸理論	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第５回	日本語教員の役割；インストラクション・デザイン；日本語の試験	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第６回	日本語の音声教授法	次回授業で取り上げるトピックやグループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第７回	日本語の文字と語彙の教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第８回	日本語の文法の教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第９回	日本語を聞き理解するための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１０回	日本語を話すための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１１回	日本語を読むための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１２回	日本語を書くための教授法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１３回	学習者の評価方法	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分
第１４回	教師の自己改善；教材開発	次回授業で取り上げるトピック、翌週のクイズ、グループ活動の準備や発表の準備など、インストラクターが指示する事項。	60 分

〔授業の方法〕
グループワークが中心の参加型授業です。意見を交換たり、課題に取り組むことで日本語教員に必要なコミュニケーション力と協働技術を学びます。
教授法は日本語教員の資格試験である日本語教育能力検定試験にも出題される項目なので、言葉の説明だけでなく実際に体験しながら理解した上で覚るようにします。
日本語教員は、産業としての日本語教育の中でも最も重要な商品です。学習者以上に、何があっても時間通りにクラスに現れることが要求され、何があっても明るく教育・学習活動をクリエイトし、クライアントである学習者が満足するように努めることが要求されます。授業は、この精神にもとづいて実施します。

〔成績評価の方法〕
平常点　　２０％
小テスト　　６０％
ピア評価　　１０％
グループ評価　１０％

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
特に以下の点に注目して評価します。
1. クラスでの課題が円滑にいくように宿題や予習をしているか。
2. ペアまたはグループ活動で沈黙せず、積極的かつ的確に自分の意見を伝えているか。
3. 教授法の特徴や関連重要用語を理解し覚えているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特にありません。

〔テキスト〕
日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド 第 5 版（2021）ヒューマンアカデミー
（本テキストは、「日本語教育概論」の使用テキストを兼ねている。）

〔参考書〕
必要に応じてお知らせします。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付けます。Course Power で周知します。

〔特記事項〕
アクティブラーニング